H2398 翠(すい・有田ありた)　？－　？　江後期歌人、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[若水を汲みし小がめにさしてみん垣根に咲ける梅の初花](大江戸倭歌;春29/初春梅)
L2314 炊(すい・木村きむら)　？－　？　江後期歌人、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[山里に宿かるころは夏ながら身にしむ風のよただ吹くなり]、
(大江戸倭歌;雑1832/山旅宿、夜直よただ;夜通し)
水(すい;一字名)　→　*道晃親王*(どうこうしんのう、天台修験門跡/歌・連歌)Ｅ３１０６
水(すい;一字名)　→　*通村*(みちむら・中院/源、廷臣/歌人)　４１２１
水(すい;一字名)　→　*通茂*(みちしげ/みちもち・中院なかのいん/源、廷臣/歌学)４１０６
水(すい;一字名)　→　*好仁親王*(よしひとしんのう・高松宮、連歌)　Ｇ４７４７
翠(すい・遠山;変名)　→　*竜雄*(たつお・雲井、藩士/詩人)　Ｇ２６１７
綏(すい・桂)　→　*周水*(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者)　Ｈ２１７６
綏(すい・志賀)　→　*綏*(やすし・志賀しが、藩士/国学者)　Ｂ４５６２
2319 瑞(ずい・小島こじま)　？－　？　江中期医者:内藤泉庵門、
師没後;泉庵遺著「玉函類纂」刊行、1761「医説辨」著、1819「傷寒雑病論類編」注、「非約言」著、
[瑞(;名)の字/通称]字;伯玉/瑞伯、通称;盛庵
瑞(ずい・小泉)　→　*友賢*(ともかた・小泉こいずみ、医者/地誌)　Ｐ３１２９
随(ずい・田村/照井)　→　*長柄*(ながら・照井てるい、医/神職/国学)　Ｇ３２６０
随(ずい・古川)　→　*氏清*(うじきよ・古川、幕臣/和算家)　Ｂ１２８３
随(ずい・福井/山本)　→　*達所*(たっしょ・山本/福井、典薬寮医者)Ｒ２６６２
随(ずい・渡辺)　→　*随*(したごう・渡辺/源、坊官/記録)　Ｕ２１２４
水蛙(すいあ・望月)　→　*長孝*(ながよし・望月、歌人)　３２２２
随阿(ずいあ・服部)　→　*保行*(やすゆき・服部はっとり、菓子商/歌人)Ｇ４５４３
2300 粋庵(すいあん・長沢ながさわ、名;貞義、惣左衛門貞勝男)1661-1737*77*　出雲意宇郡熊野村の儒者;
1680京の伊藤仁斎門、帰郷後松江藩主松平綱近に経書を講ず/1690江戸で開塾、
老中下総佐倉藩主戸田忠昌の抜擢で佐倉藩儒;将軍綱吉にも進講/禄2百石、
1686「古文真宝後集旧解拾遺」編、東海・楽浪の父、
[粋庵(;号)の字/通称/法号]字;無己、通称;純平、法号;自明院一夢粋庵居士
E2301 睡闇(すいあん;号)　？－　？　三河岡崎の俳人:1695「やはぎ堤」編(巴丈の序)
2323 遂庵(すいあん・市河いちかわ、横井百翁2男)1804-85*82*　加賀大聖寺藩士の家の生/市河米庵の養子、
妻は米庵の長女、書家・詩人;米庵門、「八体集字」著/1849「米菴先生百律」編、
[遂庵(;号)の名/字/通称/別号]名;三治/三氣さんち/氣おさむ?、字;士成、通称;三治郎、
別号;三居士/靖所、法号;友竹院
2320 翠庵(すいあん・桃井ももい/桃もも/本姓;坂根、名;世文)1806-75*70*　儒者;松江藩出仕;藩校明教館教授、
「詩経自読」「翠庵詩文集」「大円公(松平治郷はるさと)年譜」「月潭公(松平斉典なりつね)年譜」著、
「翠庵(;号)の字/通称/別号]字;君平、通称;文之助/大蔵/題蔵、別号;北湖/珠顆園/成蹊
水安(すいあん・羽生)　→　*良容*(よしまさ・羽生はにゅう、藩医)　Ｈ４７１０
水安(8世すいあん・羽生)　→　*良熙*(よしひろ・羽生、良容の養子/藩医)Ｇ４７７０
水庵(推庵/睡庵すいあん・渡辺)→　*吉光*(よしみつ・渡辺わたなべ、武将)　Ｈ４７５１
水庵(すいあん・原田)　→　*一定*(いってい・原田、医者/俳人)　Ｄ１１００
水庵(すいあん・前田)　→　*東渓*(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒)　Ｄ３１０４
萃庵(すいあん・平田)　→　*職忠*(もとただ・平田/出納/中原、故実/歌)Ｃ４４９２
萃庵(すいあん・鈴藤)　→　*致孝*(むねたか・鈴藤すずふじ/鈴木/藤枝、幕臣/造船)Ｂ４２５１
翠庵(すいあん・小出)　→　*松斎*(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者)Ｊ２２０２
翠庵(すいあん・羽栗)　→　*春望*(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学)Ｋ３６５７

綏安(すいあん→よしやす・山岡)→　*綏忠*(よしただ・山岡やまおか、和算家)　Ｅ４７３０
酔庵(すいあん)　→　*其成*(きせい、菊舎きくや太兵衛、田中保教、書肆/俳人)Ｂ１６３７
酔庵(すいあん・陶山)　→　*南濤*(なんとう・陶山すやま、医/漢学)　Ｊ３２３４
睡庵(すいあん;号)　→　*玄光*(げんこう;法諱・独庵、曹洞僧)　Ｂ１８７７
睡庵(すいあん;号)　→　*道契*(どうかい;法諱、曹洞僧)　Ｃ３１０５
睡庵(すいあん・浦上)　→　*春琴*(春琴しゅんきん・浦上/紀、絵師/詩)Ｊ２１４１
睡庵(すいあん・西島)　→　*城山*(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者)Ｊ２２３７
遂庵(すいあん・児玉)　→　*北溟*(ほくめい・児玉、医/詩人/商家)　Ｄ３９９９

2324　**随庵**(瑞庵ずいあん、空性法親王くうしょうほっしんのう、陽光院[誠仁親王]男)1573-1650*78* 真言大覚寺門跡、
母;新上東門院晴子(勧修寺晴右女)、後陽成天皇弟/智仁親王兄、/1598四天王寺別当/二品、
のち還俗/詩歌、「桂光院追悼和歌並詩」、「汚塵集」跋、
[随庵(;号)の法諱/別号]法諱;空性/性舜しょうしゅん/義性、別号(還俗後);英侃えいかん//虔真
法号;後四天王寺

E2302　**随庵**(ずいあん;号・永井ながい)?-　?　江前期遠江浜松藩士/1680浜名湖周辺を巡歴:
古文書を採録/古老談を聞書、藩の子弟教育、1680「随庵見聞録」著、「浜松御在城記」著?

H2397　**瑞庵**(ずいあん・古田)　?-　?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さえわたる光りを見れば冬の夜の月や氷をむすぶなるらん]、
(大江戸倭歌;冬1176/寒月照氷)

E2303　**随庵**(ずいあん・今井いまい、名;良恭)1814-38早世*25* *江*後期紀伊和歌山藩医、儒学;山本楽所門、
古義学;仁井田南陽門、「口中治験秘伝」「周尺後考」「皇国書目」著/「本草綱目啓蒙拾遺」校、
[随庵(;号)の字/別号]字;子譲、別号;夏雲

翠漪(翠猗すいい・山宮)　→　*雪楼*(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者)　Ｅ２４７１
随庵(ずいあん・里村)　→　*玄心*(げんしん・里村:北家、幕府連歌師)Ｃ１８３６
随庵(ずいあん・辺/渡辺)　→　*溱水*(溱水しんすい・渡辺わたなべ/辺、絵師)Ｏ２２９７
随斎(ずいあん・夏目)　→　*成美*(せいび・夏目なつめ、札差/俳人)　２４１２
随庵(ずいあん・舟橋)　→　*愨信*(かくしん・舟橋ふなはし、藩士/農兵論)Ｄ１５９３
随菴(ずいあん・柴田)　→　*風山*(ふうざん・柴田しばた、儒者/書)　３８６８
瑞庵(ずいあん・高田、医者)→*三蔵*(さんぞう・難波、浄瑠璃・歌舞伎作者)Ｇ２０００
瑞庵(瑞安ずいあん・宮崎)→　*雲台*(うんだい・宮崎みやざき、医者/儒者)　Ｄ１２９２
瑞庵(ずいあん・新村)　→　*美英*(よしひで・新村にいむら、医者/歌人)　Ｏ４７３１
随安居士(ずいあんこじ)　→　*崋山*(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学)　１５８３
誰庵禅曲(すいあんぜんきょく)→　*安照*(あんしょう・金春/6世大夫、能楽)　Ｃ１０１３
垂位(すいい)　→　*光清*(こうせい;法諱、社僧)　Ｒ１９７９
酔逸(すいいつ・小原おはら)　→　*鉄心*(てっしん・小原、藩士/儒詩/兵学)　Ｃ３０４８
水一方(すいいっぽう)　→　*一方*(いっぽう・岡本おかもと、儒者)　Ｈ１１９４

2325　**翠陰**(すいいん・太田おおた、名;重厚/成章、信州上田藩士太田重成男)1676-1754*79* 儒者;
1694(元禄7)江戸の林鳳岡門、荻生徂徠と交流、1703出羽秋田藩に招聘;歴代藩主に出仕、
1739用人格、1752藩の重臣となる、「群玉宝鑑」「画松記」「太田成章上書」「翠陰詩文集」著、
[翠陰(;号)の字/通称/法号]字;士達、通称;彦八郎/正五郎/治太夫/丹下、法号;本覚院

2326　**椎陰**(すいいん・山口やまぐち/山本)?-1874　駿河の俳人;対山門/雪門派、江戸住、
1844「歳旦歳暮」編、50「梅の句合歳旦帖」、「旦暮帖」著、
[椎陰(;号)の通称/別号]通称;啓之助、別号;雪中庵6世/空破居士

翠陰(翠隠すいいん・吉村/東里)→*翠山*(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者)２３６２

2327　**翠筠軒**(すいいんけん)　?-　?　詩;石川丈山門、
1691丈山「北山紀聞」共編:伯琳・正岑らと

睡隠子(すいいんし)　→　*松軒*(しょうけん・木村きむら、医者/儒者)　Ｉ２２４４
水韻亭(すいいんてい)　→　*友山*(ゆうざん・中島なかしま、俳人)　Ｂ４６９８
翠陰亭(すいいんてい)　→　*晨正*(ときまさ・竹田/武田たけだ、商家/歌)Ｖ３１６９
翠陰亭(すいいんてい)　→　*輝珍*(てるよし・橋野はしの、商家/国学)　Ｆ３０１９
水飲百姓軒(すいいんひゃくしょうけん)→*溟北*(めいほく・円山/小池、藩士/儒者)４３３７

E2304 **翠羽**(すいう・三輪みわ/加賀谷、名;ひさ、那波なば[升屋]祐従女)1767-1846*80* 羽後秋田の生、
1780(14歳)秋田藩士の父に死別;叔父吉川五明(俳人)に養育;俳人、豪商加賀谷紫石の妻、
離別/のち三輪良弼(塾主)と結婚;自らも女子教育の寺子屋を併設、子女教育に専念、
秋田の千代女・権少納言と称される、1796「春の袖垣」97「早苗唄」1832「小夜時雨」著、
「旅の記」「道の記」「市女笠」著、
[翠羽(;号)の別号]　揚鏡/ひさめ

E2305 **翠塢**(すいう・小田島おだじま/初姓;安孫子あびこ、名;惺/言足)1783-1853*71* 小田島松翁の養子、
松翁の長女幸子の婿、越後水原の書肆;家督嗣、店を拡大発展、和漢学者;詩に長ず、
書画を嗜む、家塾;新新堂を開き子弟教育、巻菱湖・高久靄厓らと交流、「翠塢遺稿」
[翠塢(;号)の通称/別号]通称;儀兵衛、別号;吹竿/石枕、

2328 **翠雨**(すいう・山田やまだ、名;信義/信、医者山田慶純男)1815-75*61* 摂津中村の儒者・1833後藤松陰門、
上京し摩島松南門/詩;梁川星巌門、京で開塾;門弟多数、
慶応1865-68頃美濃郡上藩主青山幸宜に招聘;藩校講堂の賓師、3年ご帰京、
1857「丹生樵歌」62「翠雨軒詩話」著、「済美堂紀聞」編、
[翠雨(;号)の字/通称/別号]字;義卿、通称;修敬、別号;鷯巣りょうそう、　法号;正教院

E2306 **翠雨**(すいう・小寺こでら、名;弘、宇平男)1825-60*36*　美濃大垣藩士;1840(16歳)出仕、
執政小原鉄心に嘱望される/1852藩命で江戸留学;坪井芳洲門;蘭学修学、
さらに兵学・砲術;大村益次郎・高島秋帆・山鹿素水・佐久間象山門、創設の藩武学校教官、
西洋歩操法を講ず、詩・画を嗜む、「泰西兵話」訳(没後1862刊)、
[翠雨(;号)の字/通称/別号]字;士毅、通称;常之助、別号孤竹

翠塢(すいう・藤/斎藤)　→　*柳之*(りゅうし・斎藤/藤とう、絵師/能書)　Ｅ４９４５
酔雨(すいう・吉原)　→　*東海*(はるみ・吉原よしわら、俳人/書家)　Ｋ３６９６
瑞烏園(ずいうえん)　→　*規清*(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家)Ｅ３５４４
睡雨軒(すいうけん)　→　*汀柳*(ていりゅう・赤名、俳人)　Ｂ３０８１
水雲(すいうん)　→　*水雲子*(すいうんし、俳人)　２３３０
水雲(すいうん)　→　*竹丸*(たけまる・青蓮舎、詩歌・俳)　Ｏ２６７７
水雲(すいうん・法名)　→　*安知*(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌)Ｅ４５８１
水雲(すいうん・福原)　→　*映山*(えいざん・福原ふくはら、医者/詩)　Ｃ１３８１
水雲(すいうん・宮本)　→　*茶村*(ちゃそん・宮本、儒者/庄屋/詩人)　Ｆ２８５８
翠雲(すいうん・古屋)　→　*太郎兵衛*(たろべえ・古屋、商家/読書家)Ｔ２６７５

E2307 **瑞雲**(ずいうん;道号・紹宥じょうゆう;法諱)?-?1618存　京の臨済宗相国寺僧:1597足利義昭葬儀の葬主、
1611首座を鳳林承章に譲渡、詩人/聯句;1589近衛信輔邸の和漢聯句会参加/1610和漢聯句

E2308 **瑞雲**(ずいうん;道号・悟芳;法諱/初法諱;悟明、俗姓;御厨)1798-1869*72* 肥前佐賀の黄檗僧:
肥前佐嘉郡三満村大興寺の恵亮達雲門;1825嗣法、佐賀普明寺・仙台大年寺を歴住、
1857(安政4)宇治万福寺34世、「黄檗瑞雲老師脩竹栖鳳稿」著

瑞雲(ずいうん・識名)　→　*盛命*(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官)Ｄ２４００
瑞運庵(ずいうんあん)　→　*宗室*(宗叱そうしつ・島井、豪商/日記)　Ｈ２５６６
瑞雲院(ずいうんいん)　→　*宗良*(むねよし・田村/坂上/伊達、藩主)　Ｃ４２８６
瑞雲院贈左大臣(ずいうんいんぞうさだいじん)→　*忠業*(ただなり・日野)　Ｆ２６４７
瑞雲院贈左大臣(ずいうんいんぞうさだいじん)→　*兼綱*(勘解由小路・広橋)Ｃ１５８６
水雲閑人(すいうんかんじん)　→　*公長*(こうちょう・上田、紀伊国屋/絵師)　Ｋ１９６５
水雲軒(すいうんけん)　→　*文晁*(ぶんちょう・谷たに、絵師)　Ｇ３８２４
垂雲軒(酔雲軒すいうんけん)→　*澄月*(ちょうげつ;号、西山、浄土僧/歌人)２８２１
垂雲軒(2世すいうんけん)　→　*夢宅*(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌学)　４２８６
垂雲軒(3世/翠雲軒すいうんけん)→*斧木*(ふぼく、諏訪/飯田、澄月門/歌僧)Ｄ３８７６

E2309 **随雲軒**(ずいうんけん)　?-　?　江末期羽前山形の俳人・稲垣塊翁(鳳朗門人)門、
1866「老の友」編、
[随雲軒(;号)の通称/別号]通称;八百屋伊兵衛、別号;道柳

2330 **水雲子**(すいうんし;号、水雲、名;安都やすいちor安朝やすとも)?-?　阿波鳴門or丹波の俳人;北村季吟門、
晩年は京に住?、1668「誹諧鳥合」判、

1677「大長刀」;季吟「花千句」批判の三楽「肩入奉公」への返答書(反駁)、
1677「俳諧長刀」編、1691「元禄百人一句」入、
[年の暮おなじ歩あゆみや米車こめぐるま](百人一句;81水雲名/暮でもいつもと同じ速度;重い)
水雲舎(すいうんしゃ) → *石外*(せきがい・紀/中野、俳人) Ｄ２４３８
E2310 **翠雲舎松夢**(すいうんしゃしょうむ)?- ? 1828存 江後期の人;若年より書札蒐集、「翠雲雑札」著
翠雲堂(すいうんどう) → *台谷*(だいこく・翠雲堂、文筆家) Ｊ２６９８
翠雲堂(すいうんどう) → *列山*(れつざん・関根せきね、俳人) ５１０７
翠雲堂(すいうんどう) → *嵩雪*(すうせつ・佐脇さわき、絵師) Ｆ２３３０
水雲堂(すいうんどう) → *徳右衛門*(とくえもん・小嶋、書肆) Ｋ３１４７
瑞雲道人(ずいうんどうじん) → *浄厳*(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧) Ｓ２２２２
E2311 **随慧**(ずいえ;法諱・号;香酔/印山/開轍院、俗姓;天川)1722-82*61* 播磨佐土の真宗大谷派僧;
福乗寺住職・慧然門/1755安居の副講など10数回講席を勤める、自坊で所化を集め教授、
1766嗣講、1798講師を追贈される、1756「選択集綱要」77「往生礼讃聞記」81「玄義分録要」、
「淡路紀行」「往生礼讃鑽仰記」「観経疏散善義鑽仰記」著、「明和年中越後法論記」編、外著多
垂穎(すいえい・立石) → *垂穎*(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) Ｔ２６０３
垂穎(すいえい→しでかい・原田)→*槐雲*(かいうん・原田はらだ、神職/国学) Ｖ１５４４
随影(ずいえい・村上) → *影面*(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者) Ｂ１５９７
瑞英(ずいえい・池田) → *京水*(きょうすい・池田いけだ、医者) Ｏ１６１３
随影斎(ずいえいさい) → *実常*(さねつね・広瀬、兵学者/藩中老) Ｌ２０００
翠栄堂(すいえいどう) → *半山*(はんざん・松川、絵師) Ｈ３６８２
E2312 **瑞益**(ずいえき・甲把がっぱ、名;長恒)1737-1803*67* 土佐高岡郡窪川村の医者;高知で修学、
上京し吉益東洞門;門人の七雄の1、帰郷後:幡多郡下田・中村で医開業、郷土史研究、
「金台要方」「陳氏秘要方」「仁井田郷談」「仁井田社鎮座伝記」著、
[瑞益(;号)の別号] 瑞繹ずいえき/南巣なんそう/恕行斎
2331 **推易堂**(すいえきどう) ? - ? 江戸期国学、「続万葉集序旧詞考」(古今集)
水右衛門(すいえもん・中邨/寒川)→*辰清*(とききよ・寒川さむかわ/かんがわ、藩儒) Ｊ３１１０
2332 **水猿**(すいえん・広瀬ひろせ、別号;遊雲堂)?-? 江前期播磨姫路の俳人;言水系か?、
1681言水「東日記」「稲筵」入/1692才麿「椎の葉」5句入、
[清水かげしがらみもなし心魂こころだま](椎の葉;110/心魂は精神)
E2313 **水円**(すいえん) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[氷こほられて見様みさまおかしや水馴棹みなれざほ](都曲;292/日頃水に馴れた棹が凍る寒さ)
水園(すいえん・倉谷) → *友于*(ともゆき・倉谷くらたに/藤原、医者/歌) Ｑ３１８６
林園(すいえん・橋村) → *正衛*(まさえ・橋村/度会、神職/書) Ｂ４０３５
翠園(すいえん・鈴木) → *重嶺*(しげね・鈴木/穂積/小幡、幕臣/歌) Ｃ２１６５
翠園(すいえん・森田) → *良郷*(よしさと・森田/山川、藩士/文筆) Ｄ４７４２
翠園(すいえん・黒沢) → *敬信*(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) Ｗ２６８２
翠園(すいえん・松村) → *貞世*(さだよ・松村まつむら、国学者) Ｐ２０４５
翠園(すいえん・錦小路) → *頼徳*(よりのり・錦小路にしきのこうじ/丹波/唐橋、廷臣/尊攘) Ｏ４７３９
翠園(すいえん・福田) → *和夫*(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) Ｈ３３３３
椎園(すいえん) → *聴水*(ちょうすい、俳人) Ｊ２８１０
椎園(すいえん) → *茂橘*(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆) ４４６２
睡園(すいえん) → *元紹*(もとつぐ・古川ふるかわ、医者) Ｉ４４５５
随縁(ずいえん;天台僧の法諱)→ *智真*(ちしん;法諱、一遍、時宗祖) ２８１２
随園(ずいえん) → *正久*(まさひさ・竹尾、神職/国学/歌) Ｇ４０６４
水篤庵(すいえんあん) → *尺竜*(せきりゅう・吉沢、俳人) Ｄ２４９６
随演院(ずいえんいん) → *日答*(にっとう;法諱・広演院、日蓮僧) Ｆ３３４２
水篤家(すいえんか) → *葛古*(かっこ・小林こばやし、俳人) Ｃ１５４３
酔烟居士(すいえんこじ) → *大麓*(だいろく・松浦、医者/詩人) Ｃ２６４２
随縁居士(ずいえんこじ) → *実澄*(さねずみ・小倉おぐら/源、武将/歌人) Ｄ２０１０
随縁居士(ずいえんこじ) → *竹田*(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人) Ｄ２８５４

酔烟斎(酔煙斎すいえんさい)→　*大麓*(だいろく・松浦、医者/詩人)　　Ｃ２６４２
随縁道人(ずいえんどうじん)　→　*敬首*(きょうじゅ;法諱・祖海;字、浄土僧)Ｇ１６７８
椎垣内(すいえんない)　　→　*猛彦*(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌)　Ｅ２６４９

2333　**水翁**(すいおう・小嶋こじま)　？－　？　　肥後熊本の俳人:
1689言水「誹諧前後園」入/90言水「新撰都曲みやこぶり」4句(301-304)入/93長水「白川集」入、
[住吉や蝉の種蒔く村小松](都曲;302/住吉浜の一面背の低い松原)

E2349　**酔桜**(すいおう)　？－　？　　江前期俳人;1693不角「二息」入
[まゝごとも親仁おやぢの酒のねばい真似](二息/親を見習う;粘っこく管を巻く酒癖も)

E2314　**水鷗**(すいおう)　？－　？　　俳人;1698「続猿蓑」4句入、
[梅さくら中をたるます桃の花](続猿蓑;巻下/桃花は緊張感をゆるめる)

E2315　**睡翁**(すいおう;道号・白竜はくりゅう;法諱)?-1725　曹洞僧:備中の西来寺2世徳翁良高門、
「徳翁高和尚年譜」編

E2316　**酔翁**(すいおう・野田のだ、名;久忠、忠継3男)1652-1731　幕臣;1674勘定方に出仕/96蔵奉行、
1700不始末のため改易/1709赦免;江戸本所石原住、剛斎の父、茶道:松浦鎮信門、
播磨姫路酒井家の茶頭役、1713「石州流表具之書」編、堀丹波・渡辺立庵の師、
[酔翁(;号)の通称/法号]通称;五郎兵衛/弥惣右衛門/弥惣左衛門、法号;即生院

E2321　**水鷗**(すいおう・田村たむら)　？－　？　　江戸前中期天和-享保1681-1736頃京の絵師:
菱川風の美人画・武者絵に長ず、「婦女舟遊図」画、
[水鷗(;号)の通称/別号]通称;元吉、別号;卯観子/千山

E2317　**睡鷗**(すいおう・宮崎みやざき/初姓;野田、名;重職しげもと)1696-1765*70*　宮崎岡右衛門重勝の養嗣子、
尾張名古屋藩士;1720家督継嗣/志水甲斐守同心、武芸;猪谷和充門;制剛流柔術修得、
さらに静流薙刀術を修得、野田憲勝門;上泉流抜刀術修得、自ら心照流を称す;門弟多数、
1740加増;禄2百石、1750致仕、詩文;松平君山門、歌も嗜む、「両庵詩集」著、岡田新川と交流、
[睡鷗(;致仕後の通称)の字/通称/号]字;子由、別通称;只右衛門、号;両庵、
法号;円海睡鷗、　息子;岡右衛門重貞・伝左衛門重孝

E2318　**遂翁**(すいおう;道号・元盧げんろ;法諱)1717-89*73*　下野の臨済僧、駿河沼津松蔭寺の白隠慧鶴門;
20年間参随;法嗣、白隠四天王の1、駿河松蔭寺住持;
山梨維亮と禅問中に5歳の維亮男稲川が参加し感嘆、飲酒・書画・囲碁を好む風狂の人、
「浮島ふとう老師熊野夜話」「白隠和尚行状」「宝蔵万蔵塒」著、
[遂翁元盧の別号]初道号法諱;酔翁慧牧、号;浮島、諡号;宏恵妙顕禅師

E2319　**水翁**(すいおう、雅輔;前号)？－　？　　播州福原の俳人;1772几董「其雪影そのゆきげ」入、
[かやり火の燃えてかくるゝ二人哉](其雪影;巻尾278/急に明るくなり慌てる二人)

E2320　**水翁**(すいおう・小堀こぼり、名;闊芳、闊看男)1803-76*74*　肥後熊本藩士、
小堀流泳術;能勢熊之允政良門、熊本藩遊泳師範:他藩からの入門者も多く門弟1万余、
能書家;藩校時習館で習書師助勤、
1857「小堀流遊泳術之伝」、「習水伝」「踏水伝」「忘水伝」「腰水伝」「水学道」著、
[水翁(;号)の通称/別号]通称;清左衛門、別号;光雲閣

H2399　**翠翁**(すいおう・中島)　？－　？　　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[なかなかに風ぞうれしき遠方とおかたの梅の匂ひをさそひきつれば](大江戸倭歌;春124)

I2308　**睡鷗**(すいおう・三井みつい)　？－　？　　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[吹く風に浦わの浪やたかからし湊入江に千鳥しば鳴く]()

水翁(すいおう・本多)　　→　*忠籌*(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革)　Ｐ２６３０
水翁(すいおう・翠川)　　→　*好文*(よしふみ・翠川みどりかわ、駅吏/国学)　Ｐ４７３４
遂翁(すいおう・真田)　　→　*幸貫*(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌)　４６２１
燧翁(すいおう・大岡)　　→　*篤雄*(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌)　Ｈ１０２１
衰翁(すいおう)　　→　*朋水*(ほうすい・香田こうだ、俳人)　Ｂ３９８６
睡翁(すいおう)　　→　*綱根*(つなね・宇都宮、神職/歌人)　Ｂ２９１７
睡翁(すいおう・岩室)　　→　*楽々*(らくらく・岩室、醸造家/俳人)　Ｄ４８３７

睡翁（すいおう・関本）　→　*如髪*（じょはつ・関本せきもと、俳人）　Ｍ２２７７
睡翁（すいおう・蔵田）　→　*茂穂*（しげほ・蔵田くらた/藤原/小宮山、役人/歌人）Ｏ２１３０
睡鷗（すいおう・加藤/黒田）→　*一成*（かずなり・黒田、武将/藩士）　Ｍ１５３４
睡鷗（すいおう・桜井）　→　*信影*（のぶかげ・桜井さくらい、神職/国学者）Ｉ３５６５
睡鷗（すいおう・前田）　→　*純孝*（すみたか・前田まえだ、藩家老/記録）Ｄ２３９０
睡鷗（すいおう・滝川）　→　*俊章*（としあき・滝川、藩士/砲術）　Ｌ３１９４
睡鷗（すいおう・池袋）　→　*清芳*（きよよし・池袋いけぶくろ、国学/歌人）Ｔ１６４５
翠翁（すいおう・久松）　→　*祐之*（すけゆき・久松ひさまつ、幕臣/歌人）Ｄ２３２２
翠翁（すいおう・竹垣）　→　*直道*（なおみち・竹垣たけがき、幕臣/代官）Ｃ３２６２
酔鶯（すいおう・白江）　→　*白云*（はくうん・白江しろえ、医者/俳人）Ｉ３６９１
酔翁（すいおう・清水）　→　*南山*（なんざん・清水しみず、詩人）　Ｊ３２１２
酔翁（すいおう・秋山）　→　*景山*（けいざん・秋山あきやま、藩士/儒者）Ｅ１８７１
酔翁（すいおう・山田）　→　*明遠*（あきとお・山田やまだ、家老/詩歌）Ｉ１０６８

E2322 **瑞翁**（ずいおう；号・青木あおき、名；元敬/通称；藤兵衛）?-1716? 京の生/常陸水戸藩士；1688右筆、早くより古銭蒐集；多くの奇品を得、1715「歴代珍泉目録」著

E2323 **随翁**（ずいおう・杉山すぎやま、名；懿）?-?　江後期江戸の儒者、浅草・下谷に住、儒者；折衷学派、1839「胡蝶のゆめ」著、［随翁（；号）の字/通称/別号］字；文人、通称；海助、別号；随斎/読書庵

E2324 **随応**（ずいおう；法諱）　？－ 1868　江後期紀伊日高郡楠井の浄土宗西山派僧；仏典に通ず、漢籍に精通、有田郡藤並村の禅長寺25世、「選択集諳誦抄」1861「浄土宗初学暗誦抄」著、野田梅僊の師

瑞翁（ずいおう・小林）　→　*迎祥*（げいしょう・小林こばやし、俳人/書家）Ｇ１８１２
瑞翁（ずいおう・山本）　→　*若麟*（じゃくりん・山本/河村、絵師）　Ｇ２１４１
瑞翁（ずいおう・岡崎）　→　*瑞枝*（みずえ・岡崎おかざき、神職/歌人）Ｉ４１５１
随鷗（ずいおう・海上うながみ）→　*三伯*（さんぱく・稲村/海上/松井、医/蘭学）Ｅ２０６３
随鷗（ずいおう・牧野）　→　*伸*（しん・牧野まきの、幕臣/漢学/詩歌）Ｖ２２２２
随鷗（ずいおう・山本）　→　*正雄*（まさお・山本やまもと、藩士/国学者）Ｔ４０５６
随翁（ずいおう・風雲庵）　→　*忠永*（ただなが・本多、藩主/兵学/俳人）Ｑ２６３３
随翁（ずいおう・保岡）　→　*嶺南*（れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官）５１６０
随翁（ずいおう・村山）　→　*長教*（ながのり・村山むらやま、藩士/国学/歌）Ｐ３２０４
随翁（ずいおう・高橋）　→　*正賢*（まさかた・高橋たかはし/橋、歌人）　Ｐ４０４５
随翁（ずいおう・田村）　→　*都*（いち・田村たむら、国学者）　Ｋ１１３７
随応（ずいおう・志水）　→　*重供*（しげとも・志水しみず、国学者/歌人）Ｏ２１６８
随応（ずいおう・畠山）　→　*光政*（みつまさ・畠山はたけやま、藩医）　Ｋ４１０７
随応（ずいおう；号）　→　*亮衍*（りょうえん；法諱・歙浦きゅうほ、修験）Ｍ４９４５
瑞応院（ずいおういん）　→　*忠恕*（ただひろ・松平まつだいら、藩主）　Ｑ２６７０
瑞応院（ずいおういん）　→　*黙慧*（もくえ；法諱、真宗大谷派僧）　４４６９
睡鷗閑人（すいおうかんじん）→　*野松*（やしょう・工藤くどう、藩士/俳人）　４５７０
酔翁軒（すいおうけん）　→　*泥足*（でいそく・和田、俳人）　Ｂ３０４１
酔桜軒（すいおうけん・葛飾）→　*為斎*（いさい・葛飾かつしか/清水、絵師）　Ｄ１１３７
睡鷗斎宗印（すいおうさいそういん）→　*一成*（かずなり・黒田、武将/藩士）　Ｍ１５３４
端翁宗室（ずいおうそうしつ）　→　*宗室*（宗叱そうしつ・島井しまい、商家/茶/博多復興）Ｈ２５６６
酔桜楼（すいおうろう・葛飾）→　*為斎*（いさい・葛飾かつしか/清水、絵師）　Ｄ１１３７
水屋（すいおく・久米）　→　*幹文*（もとぶみ・久米/石河、藩士/国学）Ｅ４４２３
翠屋（すいおく・羽栗）　→　*春望*（はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学）Ｋ３６５７

2334 **水音**（すいおん・無蔵庵；号）？－　？　越前三国新保浦の僧/俳人；1703（元禄16）「よの柳」編（北枝・支考・浪化らを迎え歌仙）

水音亭（すいおんてい）　→　*志席*（しせき、江戸俳人）　Ｅ２１３０
水音堂（すいおんどう）　→　*竜山*（りゅうざん、雑俳点者）　Ｅ４９１３
翠窩（すいか・大久保）　→　*来*（きたる・大久保おおくぼ、藩士/歌人）　Ｔ１６７４

翠霞(すいか・鈴木)　→　*典暁*(のりあき・鈴木すずき、神職)　Ｉ３５７６
酔霞(すいか・広瀬)　→　*譲*(ゆずる・広瀬ひろせ、国学・歌人)　Ｈ４６１７
酔雅(すいが・鳥飼)　→　*市兵衛*(いちべえ・3代吉文字屋、書肆)　Ｄ１１６２
酔雅(すいが・柳河)　→　*春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１
瑞華(ずいか・高野)　→　*長英*(ちょうえい・高野、蘭医)　Ｈ２８３９
瑞華(ずいか:号)　→　*大瀛*(だいえい:法諱、真宗本願寺派僧)　Ｊ２６１８
瑞伽(ずいか;法諱)　→　*伽陵*(かりょう;字、禅僧/国学者)　Ｕ１５０９
綏介(すいかい→やすすけ・小宮山)→　*南梁*(なんりょう・小宮山、藩儒/史学)Ｊ３２６７

J2327 **翠崖**(すいがい:号・松田まつだ、名;信義)1804?-6259? 備前岡山の生/備中窪屋郡生阪いくさか藩士、絵師;浦上春琴門/山水・花鳥画が得意、鳥越烟村と共に春琴門下の二駿足と称される、寺院の天井画などが残る、1862(文久2)没
翠崖(すいがい・福原)　→　*元倜*(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌)Ｃ４４８８
翠崖(すいがい・松村)　→　*元綱*(もとつな・松村まつむら、通詞/地理)　Ｄ４４１３
翠崖(すいがい・新宮)　→　*涼哲*(りょうてつ・新宮しんぐう、蘭医)　Ｊ４９０４
翠涯(すいがい・松田)　→　*直温*(なおはる・松田まつだ、国学者)　Ｏ３２８５
瑞霞園(ずいかえん)　→　*三中*(さんちゅう・色川、商家/国学者)　Ｇ２００３
垂葭館(すいかかん)　→　*崧岳*(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人)　２３９６
翠嶽(すいがく・畔田)　→　*伴存*(ともあり・畔田くろだ、国学/本草)　Ｐ３１１７
瑞岳(ずいがく・社)　→　*貞丸*(さだまる・社やしろ、神職/国学)　Ｐ２０６４
酔花軒主人(すいかけんしゅじん)→*充仲*(みつなか・井上いのうえ、神職/詩歌人)Ｌ４１１５
酔臥亭(すいがてい)　→　*仲利*(なかとし・北きた貞卿、詩人)　Ｅ３２７５
睡花堂(すいかどう・俳号)　→　*蝶夢*(ちょうむ・五升庵、浄土僧/俳人)　２８２６
酔霞堂(すいかどう)　→　*月樵*(げっしょう・張ちょう、絵師)　Ｈ１８１０
水火の屋(すいかのや)　→　*土麿*(ひじまろ・三神みかみ、医者)　Ｃ３７３５
垂加霊社(すいかれいしゃ)　→　*闇斎*(あんさい・山崎やまざき、垂加流神道)　１０３７
睟川舎猿猴(すいかわしゃえんこう→すいせんしゃえんこう)→　*定雅*(ていが、西村、俳、狂歌)３０４１
吹竿(すいかん・小田島)　→　*翠鳩*(すいう・小田島/安孫子、書肆/詩)Ｅ２３０５
水貫(すいかん・深川)　→　*水貫*(みつら・深川ふかがわ、国学/詩歌)　Ｋ４１３０
翠関(すいかん・吉村/東里)→　*翠山*(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者)２３６２

E2325 **翠巌**(すいがん・山口やまぐち、名;重勝/重晴、糟谷勘左衛門重清3男)1643-172886 若狭小浜藩士の家、若狭小浜藩士山口荘右衛門重政の養嗣子/1663頃家督嗣;普請奉行/1703高浜町奉行、1705鶴賀町奉行、11隠居、「仰高録」(息子春水と共編)、[翠巌(;号)の通称/別号]通称;治兵衛、別号;風詠軒

2337 **翠巌**(すいがん;道号・承堅しょうけん;法諱)1701-6969 臨済宗天竜寺三秀院僧;瑞源等禎門、詩文・茶人、1751-63(12年間)天竜寺住寺、書画;文徴明門、1747雨森芳洲「橘窓茶話」序、「達磨図」画、[翠巌承堅の号]洪崖/芝林/微笑/寓庸

E2326 **翠岩**(すいがん;法諱)　?-　?　江中期黄檗僧;1736-64頃武州那珂郡安光寺住職;衰退していた児玉郡松久村安光寺の寺号を譲受し黄檗宗の寺として開山、1751「武蔵国那珂郡古郡村日光山安光寺記」著
翠岸(すいがん・奈良)　→　*松荘*(しょうそう・奈良なら、詩歌人)　Ｋ２２５６
翠巌(すいがん・松田)　→　*豊幹*(とよもと・松田まつだ、国学者)　Ｗ３１４９

J2346 **瑞竿**(ずいかん;号・早川はやかわ、)?-　?　江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、同集入の早川友作と同族?
[住の江やかたぶく月の影さえて松に音なき雪のあけぼの](麓の塵;冬352)

E2327 **瑞巌**(ずいがん;道号・韶麟しょうりん;法諱、俗姓;神保)1342-?1424存 能登の曹洞僧:峨山韶碩門;得度、のち瑩山紹瑾・明峰素哲門/さらに加賀祥園寺の無瑞祖環門;嗣法、総持寺13世、祥園寺・能登永光寺住持/宗円寺を開山、総持寺再住、1424「瑞巌和尚語録」著、門弟;青山性秀・雲沢韶興・日東韶春・玉麟韶天など

E2328 **瑞巌**(ずいがん;道号・竜惺りゅうせい;法諱、山名支族因幡守南樵居士の男)1384-146077 和泉石津の人、臨済僧:1394(11歳)京建仁寺の天祥一麟門;嗣法、1446建仁寺181世、

建仁寺霊泉院内に霊源院創設;同所に没、「蝉闇外藁」「瑞巌和尚語録」著、
[瑞巌竜惺の初法諱/号]初道号;仲建・初法諱;竜章、号;蝉闇[蝉菴]/稲庵/泉南
E2329 **瑞巌**(ずいがん;道号・唯諾ゆいだく;法諱)1720-97*78* 美濃本巣郡穂積村の真宗大谷派入得寺の生、
1734美濃横越の臨済宗建良寺の鉄山崑の室に入/清泰寺竜頷門;出家、空印円虚門、
のち江戸東輝庵月船禅慧の印可を受、1762清泰寺住持;73退隠、「仮息詩集」著
E2330 **瑞巌**(ずいがん;道号・宗頊そうぎょく;法諱、号;惺々子)1731-95*65* 近江竜華の臨済僧:大岫だいしゅう宗般門、
大岫の嗣法、1778(安永7)京の大徳寺396世/紫野碧玉庵住、
「大岫和尚語録」「湘南和尚語録」編
E2331 **瑞巌**(ずいがん;号・携誉けいよ;法諱)?-1767 江中期武州足立郡鴻巣の浄土宗勝願寺中興27世、
1764「勝願寺御紋御寄附状記録」著
髄巌(ずいがん・岡本) → *貞永*(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学) Ｏ２０２０
瑞巌寺(ずいがんじ;号) → *政宗*(まさむね・伊達だて、藩主/詩歌/連歌)Ｈ４０７７
水巻亭(すいかんてい) → *楚雀*(そじゃく;号、商家/俳人) Ｊ２５７９
酔宜(すいぎ・宍道) → *貞*(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌)Ｘ２６６２
随宜(ずいぎ・木瀬きせ) → *三之*(さんし・木瀬きせ、国学;歌学革新) Ｅ２０３４
随喜院(すいきいん) → *覚音*(かくおん;法諱、真宗本願寺派僧) Ｊ１５６２
酔亀翁(すいきおう) → *天広丸*(あめのひろまる、磯田広吉、狂歌) Ｆ１０１２
垂菊洞(すいきくどう) → *八水*(はっすい・梨守庵、俳人) Ｆ３６２５
随宜軒(ずいぎけん・羽生) → *良熙*(よしひろ・羽生はにゅう、藩医者) Ｇ４７７０
2338 **酔妓先生**(すいぎせんせい・本名不詳)?-? 洒落本、1751?「本朝色鑑しょっかん」
D2336 **睡牛**(すいぎゅう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(448)
[身ひとつの心に惚れつ惚れられつ](二葉之松;448/自己陶酔)
水牛院(すいぎゅういん) → *句仏*(くぶつ・三谷、俳人) Ｄ１７３９
睡居(すいきょ) → *麦里*(ばくり・石垣いしがき、俳人) Ｅ３６０５
翠渠(すいきょ・大道寺) → *忠*(ただし・大道寺だいどうじ、庄屋/歌人) Ｐ２６５４
水魚庵(すいぎょあん) → *句仏*(くぶつ・三谷、俳人) Ｄ１７３９
E2332 **酔経**(すいきょう・里見さとみ、名;昭)?-? 江末期江戸の儒者/嘉永1848-54頃仙台住、
諸名家と交流;1854「仙城風雅集」編、
[酔経(;号)の字/別号]字;子潜、別号;墨斎/蠖堂
酔狂(すいきょう・平賀) → *忠因*(ただより・平賀、神道家) Ｒ２６４１
2339 **酔狂庵**(すいきょうあん・花洛)? - ? 京の浮世草子作者、
1696「好色小柴垣」著;源三郎画
瑞興庵(ずいきょうあん) → *冬映*(初世とうえい・牧、俳人) Ｂ３１２９
水鏡山房(すいきょうさんぼう)→ *清春*(きよはる・菱川、絵師) Ｑ１６１７
酔狂子(すいきょうし) → *南岳*(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) Ｊ３２９６
酔郷大守(すいきょうたいしゅ)→ *鵜洲*(ていしゅう・内田うちだ、儒者/文筆家)Ｂ３００９
醒狂道人(すいきょうどうじん)→ *学川*(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻)Ｅ１５８８
E2333 **炊玉**(すいぎょく) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」2句入、
[茅原かやはらの中を出でかぬる胡蝶こてふかな](あら野;巻二仲春/抜け出せない蝶)
2340 **水旭**(すいぎょく・楓川亭/恵中堂)?-? 1847存 俳人;碓嶺(小蓑庵2世)門、
1847「俳諧詞林抄」(作法書)著
吹旭(すいぎょく) → *菊貫*(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) １６９８
水玉洞(すいぎょくどう) → *敬元*(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) Ｖ２６９４
水玉老人(すいぎょくろうじん)→ *季茲*(すえしげ・久保くぼ/源、幕医/国典) Ｂ２３１９
水魚洞(すいぎょどう・柴田)→ *弘器*(ひろき・竜廼屋・柴田、藩医/狂歌/雑俳)Ｆ３７７５
随宜楽院(ずいぎらくいん;号)→ *公遵法親王*(こうじゅんほっしんのう・天台僧/詩人)Ｊ１９６７
水琴(すいきん・島田) → *幸雄*(ゆきお・島田しまだ、藩士/国学者) Ｇ４６９３
水琴(すいきん・福井) → *末経*(すえつね・福井ふくい/度会、神職/国学)Ｊ２３１０
翠芍(すいきん・藤生) → *浮素*(ふそ・藤生ふじお、国学者) Ｉ３８６８
2342 **水吟**(すいぎん・山井やまのい) ? - ? 岩城平の風虎系俳人、1669百五十番発句合左方参

2341　**睡闇**(すいぎん;号)　？－　？　元禄1688-1704頃三河岡崎の僧/俳人、
1695「やはき堤」編(巴丈序/井筒屋庄兵衛板/矢矧堤に柳を植え橋上風致の記念集)、
1695如行「後の旅」/97鶴声「誹諧柱暦」/99雪丸・桃先編「茶のさうし」入
瑞訢(ずいきん;法諱)　→　*笑雲*(しょううん;道号・瑞訢、入明臨済僧)Ｇ２２９８
E2335　**酔吟居主人**(すいぎんきょしゅじん・姓名不詳)?-?　江後期江戸の農政家、1828「穂立手引草」著
水禽舎(すいきんしゃ)　→　*可有*(あるべし・呉陵軒、川柳作者)　１０３６
水空(すいくう;号)　→　*洗懐*(せんかい;法諱、浄土宗西山派僧)　Ｌ２４８７
翠隅亭(すいぐうてい)　→　*古棠*(こどう・高橋/山口、旅館業/俳人)Ｎ１９１８
2343　**水渓**(すいけい・宮地みやじ、名;**仲枝**なかえ、春樹長男/静軒の孫)1768-1841*74*　土佐藩士/儒者(家学)、
儒:幼時より谷眞潮門/服部栗斎門、のち国学;保己一門;群書類従の編纂に参加、
帰藩後;山奉行、文禄1818-30頃罪を得て禄剥奪;高知城北の久万村に蟄居/のち赦免、
武技・歌を嗜む、1812「旧藩編年記」編、14「彝寛公遺事」著、「水渓小録」「観田楽記」著、
「源心公渓遺事」「田地御改正」「建依別長歌集」著/「宇津御紀行」編、鹿持雅澄の師、
[水渓(;号)の通称/別号]通称;荘蔵/文五郎/助次、別号;水谷/荘茂
2344　**翠兄**(すいけい・杉野すぎの)1754-　1813*60歳*　常陸竜ケ崎の俳人:蓼太門、成美・道彦・一茶と交流、
筑波庵連を指導、1781「筑波紀行」編/90「三節」「名家揃」91「筑波菴集」、「七部集解」著、
[翠兄(;号)の通称/別号]　通称;次右衛門/治兵衛、別号;玄峰/銀雨亭/筑波庵/以貞/道隣
E2336　**水谿**(すいけい・行方なめかた)　？－　？　江後期江戸の本草家/動植鉱物の考証、
1856「採珍堂日摘」著/58「品物類聚」編/65「桜草百品図」著、「歌仙紅葉譜」「穂草類説」著、
「本艸啓蒙集」「天智物産図鏡説」編、
[水谿(;号)の別号]　清渓/水谷/採珍堂
2345　**翠渓**(すいけい・小松原こまつばら、名;貞、恭斎男)1781-1834*54*　若狭絵師:江戸日本橋住、人物画に長ず、
1821「元画録」著/31「水之面集」画/32「唐詩選画本」編、
[翠渓(;号)の字/通称/別号]字;廓大、通称;貞四郎、別号;希唐菴、法号;幽嶽翠渓信士
2346　**翠渓**(すいけい・松井まつい)　？－　？　江戸期:墳墓録作者、「墳塋録ふんえいろく」編(2冊)
E2337　**翠渓**(すいけい;号・村井むらい、通称;同雲、藩医村井井炳[玄斎]男)1817-62*46*　肥後熊本の医者:
藩校再春館句読師/吟味役、「翠渓随筆」「本論脈談」「読名数解」「傷寒論講録外伝」著
翠渓(すいけい・田辺)　→　*晋斎*(しんさい・田辺/上毛野、藩儒/記録)Ｅ２２１６
垂卿(すいけい・大野)　→　*恥堂*(ちどう・大野、儒者)　Ｆ２８００
酔卿(すいけい・山内やまのうち)→　*豊信*(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌)Ｒ３１１８
瑞渓(瑞谿ずいけい;道号)→　*周鳳*(しゅうほう;法諱・瑞渓;道号、臨済僧)２１４９
瑞卿(ずいけい・大槻)　→　*西磐*(西盤せいばん・大槻、儒者/西洋史)Ｊ２４４５
随景(ずいけい・小林)　→　*随景*(ゆきかげ・小林こばやし、儒者/暦占)　Ｅ４６３８
水器子すいけいし)　→　*福富*(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌)Ｂ３８６３
水茎主人(すいけいしゅじん)　→　*眞古*(まふる・岡本、郷土史家)　Ｋ４０１０
水茎廬(すいけいろ)　→　*葛人*(かつじん・小島、俳人)　Ｃ１５４６
E2338　**水月**(すいげつ;道号)　？－1655　福建福州府の黄檗僧;1639渡来:怡山超然門、
崇福寺住、1695刊「怡山然禅師願文注」著
2347　**水月**(すいげつ)　？－　？　江前期上方の俳人、1692遠舟「八重一重」独吟入
2348　**酔月**(すいげつ・青峰斎、紅梅堂)?-？　江前中期元禄宝永1688-1711頃江戸の俳人、
雑俳点者;不角系、江戸;1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」「もみぢ笠」点入、
1703大坂「うき世笠」点入、1705「花見車」編(1704-05上州富岡に滞在中近在人々と興行)
E2339　**水月**(すいげつ;号)　？－　？　江中期宝永1704-11頃岩代白川の浄光寺僧、
「願海紀行」著
E2340　**翠月**(すいげつ・門脇かどわき)1746-　？　1806存　江中後期因幡河原山の俳人、1806「花の杖」編、
[翠月(:号)の別号]　瓦山亭/不老子/加波羅山樵夫
E2341　**水月**(すいげつ・法性寺)　？－　？　江後期摂津河辺郡の僧/伊丹中村法性寺住職、
歌人;香川景樹門、大阪の天王寺夕陽丘藤原家隆塚の側に住、1850「福草考」著、
[水月(:号)の別号]　感応/夕陽庵/金竜叟
酔月(すいげつ、梅笑)　→　*梅笑*(ばいしょう、戯作者)　Ｂ３６５９

酔月(すいげつ・山本)　→　*雲根*(うんこん・山本やまもと、医者)　Ｄ１２７０
酔月(すいげつ・武田)　→　*行忠*(ぎょうちゅう;法諱、真宗僧/詩歌)　Ｏ１６３１
酔月(すいげつ・中村)　→　*敲石*(こうせき・中村なかむら、里正/俳人)　Ｋ１９０７
酔月(すいげつ・小山)　→　*川蔭*(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人)Ｓ１５８４
酔月(すいげつ・生駒)　→　*秀一*(ひでかず・生駒いこま、医者/歌人)　Ｌ３７１０
水月(すいげつ)　→　*宗規*(そうき・月堂;道号、臨済僧)　２５９４
水月(すいげつ;号)　→　*天嶺*(てんれい;道号・性空;法諱、臨済僧)Ｅ３０６０
水月(すいげつ・箕田)　→　*中庸*(なかつね・服部/箕田、医/国学者)　Ｅ３２４８
水月(すいげつ・駒井)　→　*晩翠*(ばんすい・駒井、儒者)　Ｉ３６１９
水月(すいげつ;号)　→　*朗湛*(朗堪ろうたん;法諱、融通念仏僧)　５２３７
水月(すいげつ・堀田)　→　*正敦*(まさあつ・堀田/紀/伊達、藩主/歌)Ｂ４０１５
水月(すいげつ・浄勝寺)　→　*順藝*(じゅんげい;法諱、真宗大谷派僧/歌)Ｊ２１４６
水月(すいげつ/水月道人)→　*沢瀉*((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王)　Ｅ２６２２
水月(すいげつ・無々庵)　→　*戒定*(かいじょう・伊藤いとう、浄土僧/歌人)Ｔ１５５４
水月庵(すいげつあん)　→　*的門*(てきもん;法諱、浄土僧)　Ｃ３００８
水月庵(すいげつあん)　→　*蟻洞*(ぎどう・前田/島田、僧/俳人)　Ｂ１６５９
酔月庵(すいげつあん)　→　*通明*(みちあき・林はやし、藩士/歌人)　Ｂ４１０８
酔月庵(すいげつあん)　→　*逸人*(いつじん・加藤かとう、商家/俳人)　Ｂ１１５１
随月庵(すいげつあん)　→　*既酔*(きすい;号・寛海;法諱、茂蘭2世/真言僧/俳人)Ｂ１６３１
酔月園(すいげつえん)　→　*嘉基*(よしもと・森もり、藩士/国学者/歌)　Ｈ４７６８
酔月翁(すいげつおう・根岸)→　*鶴亭*(かくてい・根岸ねぎし、藩士/儒者)　Ｋ１５２４
酔月館(すいげつかん)　→　*清邦*(きよくに・松野まつの、藩士/詩)　Ｐ１６３０
水月居(すいげつきょ)　→　*万齢*(ばんれい・玉置たまき、造酢業/文筆)　Ｉ３６７１
酔月軒(すいげつけん)　→　*近悳*(ちかのり・保科ほしな/西郷、藩家老/神職)Ｂ２８６５
酔月堂(すいげつどう)　→　*季顕*(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集)Ｆ２３３４
水月堂(すいげつどう)　→　*乗全*(のりやす/-たけ・松平、老中/詩歌)　Ｇ３５０７
水月堂(すいげつどう)　→　*武氏*(たけうじ・安部井、和学、歌人)　Ｏ２６２６
水月堂(すいげつどう)　→　*春燈斎*(しゅんとうさい・岡田おかだ、銅板画)　Ｌ２１６５
水月堂(すいげつどう)　→　*義水*(ぎすい・田川たがわ、曹洞僧)　Ｕ１６５７
水月道場(すいげつどうじょう)→　*慈本*(じほん;法諱・泰初;字、天台僧/詩)Ｖ２１７７
水月道人(すいげつどうじん)　→　*沢瀉*((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王)　Ｅ２６２２
酔月楼(すいげつろう)　→　*継成*(つぐしげ・甘粕あまかす、藩士/史家)　２９７１
酔月老人(すいげつろうじん)　→　*養拙*(ようせつ・高岡、商家/儒者)　Ｂ４７３１

2349　**水軒**(すいけん)　?-　?　江前期出羽庄内の俳人・調和門、
1683調和「俳諧題林一句」16句/漢句入

2301　**翠軒**(すいけん・立原たちはら、名;万、蘭軒男)1744-1823*80*　常陸水戸藩士;父は水戸彰考館文庫役、
儒者;谷田部東壑門/師と共に田中江南門、1736江戸彰考館の書写場傭、
江戸の大内熊耳・細井平洲・松平楽山門、1766水戸史館編集に転ず/1786彰考館総裁、
大日本史編纂に尽力;紀伝浄写本を完成;光圀の廟に献上、門人藤田幽谷と意見対立、
藩主治保の信任を失い1803致仕、書画・篆刻・七絃琴に長ず/能書家、杏所の父、
「千慮一得」「東里文集」「翠軒雑記」「此君堂文集」「此君堂集」「青山世譜」「海市山市考」、
「此君堂文集」、1786「西山遺聞」93「温泉行記」99「浅川乱民紀事」「楢林雑話」外著多数、
[翠軒(;号)の字/通称/別号]字;伯時、通称;甚五郎、別号;東里/此君堂、
法号;松翠軒月光居士

E2342　**翠軒**(すいけん・荒木あらき、名;孝繁)1812-87*76*　武蔵新戒の儒者/詩人、
「翠軒詩文集」、「若林先生墓碣銘」著、
[翠軒(;号)の字/通称]字;仲衍、通称;平左衛門

水軒(すいけん)　→　*来川*(らいせん・足立、俳人)　４８７５
翠軒(すいけん・倉沢)　→　*清也*(きよなり・倉沢くらさわ、庄屋/国学/神職)Ｕ１６２２
睡軒(すいけん・湯川)　→　*東軒*(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩)　Ｄ３１３３

睡軒(すいけん・唐坊)　→　*長秋*(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者)　Ｄ３２１５
J2347 **水原**(すいげん・号)　？－　？ 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、河瀬家の人か?
[行きかよふ心のほどもしら雲をいもせの山の中にへだてて](麓の塵;恋468)
E2343 **随軒**(ずいけん;号・高橋たかはし)?-　?　安桃江前期;慶長1596-1815頃の越後新発田藩士、
儒者/藩内の治水事業に功績、「越後余情」著、同藩の吉田斧太夫(軍学者)と親交
2350 **瑞軒**(瑞賢/瑞見/随軒ずいけん・河村/川村かわむら、政次男)1617-99*83* 伊勢度会農業/1629江戸で車力、
漬物商/材木商;1657江戸大火に木曾山林買占め蓄財/幕領米の江戸への東西回航路刷新、
地理土木:淀川治水/筑港、鉱山開発、「河渠志稿」「本朝河巧略記」「畿内治河記」著、
[瑞軒(;号)の名/通称/法号]名;義通/義道/政直/安治、
通称;七兵衛/十右衛門/平太夫(;束髪後)、法号;英正院
瑞見(4世ずいけん)　→　*丹洲*(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学)Ｉ２６８２
瑞見(6世ずいけん)　→　*匏庵*(ほうあん・栗本、医者/幕臣)　３９１１
瑞軒(ずいけん・加藤)　→　*清孝*(きよたか・加藤かとう、医者/歌人)　Ｔ１６８７
随賢(ずいけん・華岡)　→　*青洲*(せいしゅう・華岡はなおか、外科医)　Ｉ２４６２
E2344 **瑞玄**(ずいげん;法諱・通印ついん;号)?-?　江前期元禄1684-1704頃天台僧?、
1697刊「因明章疏目録」著、「成唯識論末章篇目録」編
E2345 **瑞源**(ずいげん;通称・杉本すぎもと、名;方秀)?-?　江中期武州川越藩の侍医、「川越城之記」著
随幻(ずいげん・本庄)　→　*重政*(しげまさ・本庄/本荘/泉、兵法/藩士)Ｓ２１５７
瑞源院(ずいげんいん)　→　*乗佑*(のりすけ・松平まつだいら、藩主/俳諧)　Ｅ３５７４
2351 **水狐**(すいこ)　？－　？　江前期肥後熊本の俳人、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入/順水「破暁集」入、
[春ながら月代さかやき剃らぬ女かな](都曲;上241/当然なことに改めて感慨)
E2346 **推己**(すいこ・浅原あさはら)1771-　1835*65*　江後期伊勢松坂の俳人:士朗門、
士朗の「婦久遍日記」成立に関与(1802刊行)、1833「月次発句集」編、
[推己(;号)の通称/別号]通称;半十郎、別号;五嶺舎復斎
水壺(すいこ・山本)　→　*季護*(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学)Ｊ２３３６
酔古(すいこ・木村)　→　*礼斎*(れいさい・木村きむら、医者/探検)　５１２９
睡虎(すいこ・佐久間)　→　*果園*(かえん・佐久間、藩士/歌人)　Ｂ１５１３
睡虎(すいこ;初号)　→　*是夢*(ぜむ・幽泉亭、天台僧/俳人)　Ｌ２４４４
水語(すいご、水国門期の俳号)→　*太祇*(たいぎ・炭たん/すみ、俳人)　２６０２
2352 **随古**(ずいこ・湯浅ゆあさ、別号;長松庵)1720-73*54*　江中期京島原の俳人;巴人門、
1769「平安二十歌仙」(太祇・嘯山らと三吟歌仙)編刊、蕪村と交流
1772几董「其雪影」、没後;維駒「五車反古」入、
[時雨たか今朝は緑の麦門冬ばくもんどう](其雪影;424/麦門冬は竜のひげ;根は薬用;常緑)
[宗斎(;名)の初名/通称/号]初名;清久、通称;昌与、号;随呼
随呼(ずいこ・金井)　→　*宗斎*(そうさい・金井かない、歌人/連歌)　Ｋ２５９３
E2347 **随五**(ずいご・松寿園)　？－　？　江中期尾張の俳人;芭蕉門、
「親鸞上人五百回忌追善集」編纂/「誹諧雪の光」著
E2348 **翠紅**(すいこう;号)　？－　？　江中期元文寛保1736-44頃駿河沼津の俳人、
青布と交流、1686仙化「蛙合かわずあわせ」入、「誹諧継琵琶」/1743「若竹笠」著、
[木のもとの氈(せん)に敷かるる蛙哉](蛙合;四番左7/花見の毛氈の下に敷かれた蛙)
綏光(すいこう・広橋)　→　*綏光*(やすみつ・広橋/藤原、廷臣/日記)　Ｄ４５１５
水光(すいこう)　→　*祇徳*(初世ぎとく・仲、札差/俳人)　Ｂ１６６０
水光(すいこう・岡田)　→　*水江*(みずえ・岡田おかだ、歌人)　Ｉ４１５７
水香(すいこう・大橋)　→　*知伸*(とものぶ・大橋、絵師/篆刻/俳)　Ｑ３１２３
水香(すいこう・矢彦)　→　*知充*(ともみつ・矢彦やひこ、国学/書/俳人)Ｗ３１７８
翠香(すいこう・水原)　→　*未瑳子*(みさこ・水原みずはら/山田、歌人)　Ｋ４１７０
酔香(すいこう・熊谷)　→　*直孝*(なおたか・熊谷くまがい、商人/勤王家)Ｂ３２５１
2353 **瑞杲**(ずいこう;法諱・旭岑ぎょくしん;道号、津野つの之高男)?-1528　土佐臨済僧;玉淵門/法嗣、
京相国寺で希世霊彦・横川景三門、相国寺寺主/1482帰郷、1520「日下一木集」

［瑞果の号］　西堂さいどう/待雨老人
E2350 瑞光（ずいこう；法諱・智瑞ちずい；字）?-? 1713存　真言宗醍醐寺僧；寛順門/1713伝法灌頂を受、
下野の金蓮院住、1687「八斎戒勧善要門」、「醍醐住山日記」著
E2351 瑞光（ずいこう；法諱）　？－　？　江中期紀伊那賀郡小倉の浄土宗光恩寺5世住職、
1756「紀小倉光恩寺開祖信誉上人伝」著
E2352 瑞岡（ずいこう；道号・珍牛/正牛；法諱、佐藤茂兵衛男）1743-1822*80* 肥後天草の曹洞僧；
1740（8歳）肥後東向寺の霊泉恵照門；出家/長崎で画を修学/1773長門妙音寺の海外亮天門、
海外の嗣法、長門妙音寺・肥後観音院・東向寺・信濃松本全久院・美濃竜泰寺などに住、
1817尾張万松寺住持、1820万松寺慶雲軒に退隠、1809「永平高祖行状記」著、
百回忌追善「瑞岡珍牛禅師」（関戸元峰編；1921）
瑞皐（ずいこう・高野）　→　*長英*（ちょうえい・高野、蘭医）　Ｈ２８３９
推敲庵（すいこうあん・鶴見）→　*園女*（そのめ/そのじょ・鶴見つるみ、俳人）　Ｋ２５３０
瑞光庵（ずいこうあん）　→　*亮通*（りょうつう・荒谷あらたに、僧/歌人）　Ｌ４９９８
瑞光院（ずいこういん）　→　*日行*（にちぎょう；法諱・恵了、日蓮僧）　Ｂ３３４１
瑞光院（ずいこういん）　→　*秀包*（ひでかね・毛利/小早川、武将/連歌）Ｃ３７９９
瑞光院（ずいこういん）　→　*光行*（みつゆき・戸田とだ/松平、藩主）　Ｆ４１０６
水交園魚麿（すいこうえんうおまろ）→　*棟隆*（むねたか・疋田、藩士/史家）　Ｂ４２５２
翠光軒（すいこうけん）　→　*松洲*（しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士）　Ｓ２２９３
蘂香軒（ずいこうけん）　→　*昨非*（さくひ・乾、商家/俳人）　Ｂ２０４７
酔郷祭酒（すいごうさいしゅ）→　*長斎*（ちょうさい・七五三しめ、俳人）　Ｉ２８３８
酔郷大守（すいごうさいしゅ）→　*鵜洲*（ていしゅう・内田、儒者/詩人）　Ｂ３００９
瑞香舎（ずいこうしゃ）　→　*文堂*（ぶんどう・七条/藤原、医者/歌）　Ｇ３８３０
推敲亭（すいこうてい）　→　*其成*（きせい、菊舎太兵衛、田中保教）　Ｂ１６３７
水光亭（すいこうてい）　→　*鵜江*（うこう・正木、俳人）　Ｃ１２２１
蘂香亭（ずいこうてい）　→　*昨非*（さくひ・乾、商家/俳人）　Ｂ２０４７
水光洞（すいこうどう）　→　*祇徳*（初世ぎとく・仲、札差/俳人）　Ｂ１６６０
垂虹堂（すいこうどう）　→　*風瀑*（ふうばく・松葉、俳人）　３８９９
瑞光坊（ずいこうぼう）　→　*尊順*（そんじゅん；法諱、天台僧）　Ｆ２５５３
穂向屋（すいこうや）　→　*茂正*（しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職）Ｚ２１３６
2354 水国（すいこく・雲津くもづ）1682-　1734*53*　江戸の商家/俳人；初め三世立志門/のち沾洲門、
「身の程の日記」「身のほど笠」著（没後1735刊）、太祇の師、
［水国（；号）の通称/別号］通称；伊勢屋佐次兵衛、別号；鶴林/晴星/立舞
2355 水国（すいこく）　？－　？　狂歌作者；1787南畝「狂歌才蔵集」入；552
俳人雲津水国と同一か?
［引きもゑぬあしまの菖蒲あやめねぶとくて心のいたくうみわたるかな］（才蔵集；十三552）、
（股にねぶとと言う腫物ができ悩む時の詠/葦間と足間を掛る）
E2353 水谷（すいこく・杉辺すぎべ、名；忠貞、忠順男）1805-? 1880存 武蔵川越藩士/書家/儒；有松原甫、
書家：青蓮院流書法、藩主の上野厩橋転封に際し比企郡松山の移住、「女今川姫鑑」書、
［水谷（；号）の通称/別号］通称；八七郎、別号；清吟堂
水谷（すいこく・宮地）　→　*水渓*（すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学）２３４３
水谷（すいこく・行方）　→　*水谿*（すいけい・行方なめかた、本草家）　Ｅ２３３６
穂国（すいこく・沢田）　→　*穂国*（ほくに・沢田さわだ/千葉、藩士/神職/歌）Ｇ３９２４
E2354 瑞谷（ずいこく；道号・穆応ぼくおう；法諱）?-1857　志摩の曹洞僧：志摩常安寺の雲欞うんれいう泰禅の侍者、
雲欞の法嗣、志摩玉泉寺8世、志摩剣光寺2世/信濃大聖寺20世歴住、
志摩南泉寺・同海岸寺の開山、1838「雲欞禅師行実」著
水谷山人（すいこくさんじん）→　*枳園*（きえん・森もり立之、医者/国学）　Ｆ１６０３
水国庵（すいこくあん）　→　*万子*（まんし・生駒いこま、藩士/俳人）　Ｋ４０６０
水国亭（すいこくてい）　→　*万子*（まんし・生駒いこま、藩士/俳人）　Ｋ４０６０
2356 水国老漁（すいこくろうりょう、本名不詳）?-?　1727樗山「田舎荘子」（談義本）跋
随古斎（ずいこさい）　→　*雪亭*（せってい・片岡、狂歌作者）　Ｌ２４２３

2357 **推古天皇**(すいこてんのう、名:額田部ぬかたべ皇女、欽明天皇皇女)554-628*75* 母;蘇我稲目女の堅塩きたし媛、
異母兄敏達天皇の皇后/崇峻天皇暗殺後に大和豊浦宮に即位;のち小墾田おはりだ宮に遷都、
聖徳太子に万機を摂政させる;冠位十二階・十七条憲法制定、国史編纂、飛鳥時代の中心、
[推古天皇の諡号] 諡号;豊御食炊屋姫とよみけかしきやひめ天皇

酔古堂(すいこどう・入江) → *樵風*(しょうふう・入江、製塩業/俳人) Ｂ２２３７
酔古堂(すいこどう) → *庫山*(こざん・村田むらた、儒者/書) Ｇ１９６１
酔古堂(すいこどう) → *蘭阪*(らんばん・三浦みうら/松田、医/本草)Ｄ４８１３
酔古堂(すいこどう) → *礼斎*(れいさい・木村きむら、医者/探検) ５１２９
随古堂(ずいこどう) → *素鏡*(そきょう・上田、書家/藩主右筆) Ｊ２５４２
瑞厳(ずいごん;法諱) → *宥快*(ゆうかい;法諱、真言僧/南山流大成)４６９６

2358 **水哉**(すいさい;号・渡辺わたなべ、名;黙容/通称;鈍蔵、道遠長男)1798-1875*78* 越後新発田藩士家の生、
儒;藩儒七里恭斎門/1816(19歳)藩校道学堂都講;中小姓兼任/江戸赴任中に学識を積む、
帰国後藩校教授、勤王論主唱、戊辰戦活躍、1849「新発田先輩遺事」、「交易論」「金札論」著
如水・余斎の兄

酔斎(すいさい) → *一九*(初世いっく・十返舎、戯作滑稽本) １１２０
水際(すいさい・草香江) → *国臣*(くにおみ・平野/大中臣、勤王/歌) １７０６
水哉(すいさい・左右田) → *易重*(やすしげ・左右田そうだ、兵法家) Ｂ４５６７
水哉(すいさい・窪田) → *善之*(よしゆき・窪田くぼた、藩士/暦算家) Ｈ４７９６
水哉(すいさい・田中) → *月江*(げっこう・田中、町役/俳人) Ｈ１８０４
水斎(すいさい・伊庭) → *秀賢*(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学)Ｃ３７９７
翠斎(すいさい・星野) → *久樹*(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌人)Ｉ３７７６
翠斎(すいさい・長沢) → *元緒*(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌)Ｋ４４８６

2359 **随斎**(ずいさい・塩田しおだ、名;重華/華、重起男)1797-1845*49* 代々伊勢津藩士、江戸藩邸生、
儒詩・古賀精里門、津城勤務;侍読/1829江戸藩邸講官、猪飼敬所・頼山陽・斎藤拙堂と交流、
大窪詩仏・屋代弘賢とも交流、「随斎文鈔」「随斎詩鈔」「随斎諸抄」、「東門詩草」「伊賀史抄」、
「史籍摘抄」「女教淵源学略説」「長耳紀譚」「晩甘園詩藁」「不知為不知録」「四海兄弟録」、
[随斎(;号)の字/通称/別号]字;士蕚/士萼/士鄂、通称;又之丞、別号;巨瓢子/沢雷酔士

随斎(ずいさい) → *成美*(せいび・夏目、俳人) ２４１２
随斎(ずいさい・杉山) → *随翁*(ずいおう・杉山すぎやま、儒者) Ｅ２３２３
瑞斎(ずいさい・梶原) → *昭豊*(あきとよ・梶原かじわら/松田、国学) Ｈ１０３５

2360 **酔斎子**(すいさいし、本名不詳)?- ? 江後期絵師、洒落本/挿画、
1820「襍土ざっと一覧」著(;定雅序)/跋文に[日本の不放宝シハンボウ。酔斎のをぢ]

水哉亭(すいさいてい) → *簡窩*(かんか・田代たしろ、家老/儒者) Ｑ１５０２
水哉堂(すいさいどう) → *希賢*(まれかた・由美ゆみ/稲富、儒者/詩) Ｋ４０２３
水哉堂(すいさいどう) → *多一郎*(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) Ｋ２６６５
水哉堂(すいさいどう) → *方亭*(ほうてい・富山とみやま、医者/詩人) Ｃ３９３５
翠蓑翁(すいさおう) → *一蝶*(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師) Ｃ１１０８

E2355 **瑞策**(ずいさく・半井なからい/本姓;和気、名;光成、明親[春蘭軒]男)1501-77*77* 医者;半井流医術継承、
宮内大輔/修理大夫、織田信長・豊臣秀吉の厚遇/正親町天皇より通仙院の称号を受、
「医心法」30巻を下賜、門弟多数、晩年は堺住、「十二巻秘抄」著、
[瑞策(;法名)の号/法号]号;驢庵/通仙軒/通仙院、法号;通仙院

2361 **水颯**(すいさつ・久芳くば、通称;忠左衛門、別号;水札)?-1724 筑前黒崎の船問屋・造酒業、
俳人;芭蕉門、同門関屋沙明(町茶屋富田屋主人)と黒崎浄蓮寺に芭蕉塚(翁塚)建立、
1715黒崎岡田宮に狛犬奉納、
[山焼くや舟の片帆の片あかり]

睡蚕(すいさん・水野) → *正信*(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) Ｆ４０８２

E2356 **翠山**(すいざん;道号・浄秀じょうしゅう;法諱)1687-1760*74* 尾張知多郡大野の黄檗僧;
1692(6歳)知多郡榎戸村竜雲寺の鉄舟道英門;出家/1713嗣法、
1721尾張愛知郡猪子石村の長福寺住/28清水寺住/31竜雲寺6世住寺、「白摘艸」著

E2357 **酔山**(すいざん・宮崎みやざき)1777-1860*84* 上州吾妻郡四万の絵師;柿沼山岳門、和漢学に通ず、

1859「山水画便」画
2362 **翠山**(すいざん・東里とうり、白河藩老吉村よしむら宣温男)1787-1867*81* 磐城白河藩士;早く父死別、
藩命で儒者;江戸の昌平黌入学;柴野栗山・尾藤二洲・古賀精里門、
帰藩後;執政(家老)、1818頃隠退;東里に改姓、23藩主松平家転封により伊勢桑名に移住、
詩歌・書札を能くす、「懐士録」「翠関雑記」、
[翠山(;号)の名/字/通称/別号]名;宣猷/宣浚/宣濬、字;君択、通称;将監、
別号;南湖/任斎/翠関/翠陰/翠隠/翠廼舎/常足軒
翠山(すいざん・畔田くろだ) → *伴存*(ともあり・畔田くろだ、国学/本草) Ｐ３１１７
翠山(すいざん・近衛) → *忠熙*(ただひろ・近衛、関白/歌人) Ｆ２６７４
翠山(すいざん・高見) → *祖厚*(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書)Ｌ２５０４
水山(すいざん・蟄居号) → *豊辰*(とよとき・吉田よしだ/新居、藩家老/神職)Ｗ３１９４
吹山(すいざん・柳川;変名)→ *瑞山*(ずいざん・武市たけち、剣術/勤王派) Ｅ２３５９
酔山(すいざん・樋口) → *淳美*(じゅんび・樋口ひぐち、産科医) Ｌ２１７９
垂山(すいざん・屈/堀) → *景山*(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医)１８５７
瑞三(ずいさん・赤塚) → *正賢*(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌)Ｎ４００６
E2358 **瑞山**(ずいざん;法諱・竜空りゅうくう;字)1626-1707*82* 京浄土宗西山派僧;積峯慶善門;西山派宗乗修学、
京の安養寺・三河山中法蔵寺を歴住/京の誓願寺59世、のち洛南深草の真宗院に退隠、
1681(天和元)「蓮門課誦」著、「竜空遺書並真宗院規範」
E2359 **瑞山**(ずいざん・武市たけち、名;**小楯**こたて、正恒男)1829-65自刃*37* 土佐吹井村の郷士、剣術家、
剣術;1841一刀流千頭伝四郎門/50高知の小野派一刀流麻田直養門/54高知に剣術道場開、
1856江戸の鏡心明智流桃井春蔵の士学館入門/皆伝を受け塾頭/58藩の剣術指南、
1861江戸の尊譲派と交流/土佐勤皇党を結成;盟主、1862吉田東洋暗殺/勤王党が藩政主導、
政変で藩主山口容堂により投獄;切腹、獄中の詩集「泣血録」(七言絶句)、
辞世の歌[ひたたびと返らぬ歳をはかなくも今は惜しまぬ身となりにけり]、
[瑞山(;号)の幼名/通称/別号/変名]幼名;鹿衞、通称;半平太はんぺいた、別号;茗**澗**めいかん、
変名;柳川左門(号;吹山)、妻;島村源次郎女の富子
翠山人(すいざんじん;号) → *幽真*(ゆうしん;法諱、真言僧/詩歌) Ｃ４６７７
酔讃堂(すいさんどう) → *正信*(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) Ｆ４０８２
瑞三甫(ずいさんぽ) → *国珍*(こくちん・伊東いとう、医者/詩) Ｍ１９１８
翠山楼(すいざんろう・石作)→ *駒石*(くせき・石作いしづくり、漢学/詩人) １７５１
2335 **綏子**(すいし/やすこ・藤原、麗景殿尚侍、兼家女)974-1004*31* 母;国章女、987尚侍:
居貞親王(三条院)東宮時に入内、源頼定と密通;退出(栄花物語・大鏡(兼家伝)入)
2363 **推之**(すいし) ? - ? 俳人、1689露川「花虚木はなのうつぼぎ」入
水子(すいし、号) → *古道*(こどう・村井道静、医/俳/地誌) Ｄ１９４１
水枝(すいし・中山) → *篤則*(あつのり・中山なかやま、藩士/歌人) Ｉ１０１５
垂枝(すいし・田原) → *相常*(すけつね・田原たわら、書肆) Ｇ２３５２
E2360 **随思**(ずいし) ? - ? 丹波綾部の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
瑞子(ずいし・井伊/戸沢)→ *瑞子*(みずこ・戸沢とざわ/井伊、歌人) ４１９３
瑞枝(ずいし)すべて → *瑞枝*(みずえ)
随子(ずいし・蜂須賀) → *随子*(よりこ・蜂須賀はちすか/徳川、歌人) Ｏ４７５３
随時庵(ずいじあん) → *李郭*(りかく・松村まつむら、商家/俳人) ４９４５
随自意院(ずいじいいん) → *公遵法親王*(こうじゅんほっしんのう・天台僧/詩) Ｊ１９６７
随之軒(ずいしけん) → *梨風*(りふう・土田つちだ、俳人) Ｃ４９４４
随時子(ずいじし;号) → *卍山*(まんざん;道号・道白;法諱、曹洞僧)Ｋ４０５８
雖失(すいしっ・栗山) → *大膳*(だいぜん・栗山、藩家老/黒田騒動) Ｋ２６５０
酔室(すいしっ) → *其成*(きせい・菊舎太兵衛、書肆、俳) Ｂ１６３７
E2361 **翠実**(すいじっ;号) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃丹波大山の俳人;月居門、
同郷の俳人武陵と親交、1798「山水行」編
酔死道人(すいしどうじん) → *雲濤*(うんとう・竹内たけうち、詩人) Ｂ１２５７
E2362 **酔車**(すいしゃ・鳥海とりうみ、名;総芳ふさよし)1800-55*56* 下総望陀郡木更津長須賀の里正/郷土史家、

俳諧:寥松門、「上総志」編/1847「南総郡郷考」50「房陽郡郷考」55「吉利比登波」、
[酔車の通称/別号]通称;敬二/健左衛門、別号;潤葉井/湛斎
2364 **随者**(ずいしゃ) ? - ? 俳人、1734「鏡の裏」編:蓮之の句など
E2363 **水尺**(すいしゃく・兼松かねまつ、兼松嘯風男)?-? 江前期美濃深田の俳人;父門、母も俳人、
丈草と交流、母と共に1704魯久編「幻の庵」(丈草追善集)入集、1714(正徳4)「国曲集」編
水守(すいしゅ・菊川) → *水守*(みずもり・菊川きくかわ、国学者/歌) Ｉ４１８６
E2364 **水樹**(すいじゅ・福島ふくしま、名;政太郎/政五郎)1712-89*78* 武蔵埼玉郡騎西常泉村の代官家の生、
多芸に通ず/俳人:祇徳門/のち涼袋(建部綾足)門、1775「ともみどり」著、素外と交流、
[水樹(;号)の幼名/通称/別号]幼名;左門、通称;久兵衛、別号;風月庵/健忘舎、
法号;玉窓水樹居士
E2365 **翠樹**(すいじゅ;号) ? - ? 豊岡の俳人;
1774蝶夢「芭蕉翁発句集」の版下筆、1773几董「明烏あけがらす」1句入、
[烏帽子着た人の影あり夜の梅](明烏;189/梅の香を楽しむ貴人)
蘂珠(ずいしゅ) → *是村*(これむら・町口/坂上、廷臣/明法家)Ｏ１９９０
E2366 **瑞寿**(ずいじゅ・半井なからい/本姓;和気、名;成道/成近、利親[瑞玄]男)?-1639 母;藤堂高虎女、
京の医者;典薬頭/出羽守、1624徳川家光に出仕、家光・稲葉正勝・東福門院和子を診察、
連歌;「天正三年(1575)七月十日紹巴瑞寿等何船百韻」、
[瑞寿(;法名)のの幼名/号/法号]幼名;勝麿、号;驢庵、法号;法雲院
E2367 **瑞秀**(ずいしゅう;法諱・雪岫せっしゅう;道号)?-? 室町期臨済僧;大徳寺玉浦宗珉門;法嗣、大徳寺75世、
「雪岫和尚語録」著(1778刊)
瑞秋(ずいしゅう・吉岡) → *勇平*(ゆうへい・吉岡よしおか/鈴木、幕臣) Ｄ４６７０
翠袖堂(すいしゅうどう) → *利民*(としもと・前田、藩士/画/花道) Ｎ３１９５
翠樹園(すいじゅえん) → *好友*(よしとも・北野きたの、名主/国学) Ｍ４７４８
水宿庵(すいしゅくあん) → *宗瓦*(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人)Ｇ２５４３
翠樹屏風舎(すいじゅびょうぶしゃ)→*義観*(ぎかん・園村そのむら、僧/国学者) Ｕ１６５６
水順(すいじゅん・広瀬) → *厳男*(いずお/よしお・広瀬、商家/国学者) Ｆ１１７１
随順院(ずいじゅんいん) → *留楚*(るそ・武藤むとう/毛利重就側室) ５００３
酔春亭(すいしゅんてい) → *孝昌*(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) Ｄ２６７３
翠所(すいしょ・松村) → *宗悦*(そうえつ・松村まつむら、茶人/歌人) Ｇ２５２８
睡処(すいしょ・河津) → *直入*(なおいり・河津がかわづ、藩士/歌人) Ｌ３２７６
E2368 **随所**(ずいしょ・遠藤えんどう、名;寛謙)1823-89*67* 篆刻家/経史;大槻磐渓門/不易流砲術;川勝家門、
篆刻の名手、維新後;陸軍歩兵大尉、「不易流印可状」著、
[随所(;号)の字/通称]字;子得、通称;謙蔵/謙哉
随処(ずいしょ・井上) → *桐斎*(とうさい・井上、里正/儒者/詩歌) Ｅ３１２９
随処(ずいしょ・大道寺) → *忠*(ただし・大道寺だいどうじ、庄屋/歌人) Ｐ２６５４
随処(ずいしょ・松波) → *資之*(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人) Ｄ２３２３
2365 **水晶**(すいしょう・首藤すどう/修姓;藤・滕)1740-72*33* 美濃の儒者;南宮大湫門、師に随い江戸住、
のち伊勢桑名住、江戸・桑名で子弟教育、1771「日本名家詩選」編、「続日本名家詩選」編、
「歳華紀麗広集」「唐詩小説」「四十六士論再評」著、
[水晶(;号)の名/字/通称/別号]名;元昺、字;仲虎、通称;文三郎/文二、別号;水晶山人
酔樵(すいしょう・松田) → *三千雄*(みちお・松田、酒造業/俳/詩) Ｂ４１２７
酔樵(すいしょう・浅野) → *保武*(やすたけ・浅野あさの、歌人/華/茶人)Ｆ４５１４
翠松(すいしょう・四方) → *春翠*(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師)Ｌ２１２１
2367 **翠城**(すいじょう・河原かわはら、名;寛、村上天谷3男)1827-62自刃*36* 河原君瑞の養子、播磨赤穂の儒者、
儒;実父天谷門/1845広島藩儒坂井虎山門/伊勢の斎藤拙堂・土井聱牙門、拙堂に随い江戸、
塩谷宕隠門、帰郷;赤穂藩校博文館教授、1862尊攘の謀議中に父天谷が暗殺/翠城も連座、
12月18日自刃、1859「忠芬義芳詩巻」編、
[翠城(;号)の字/通称/別号]字;士栗、通称;駱之助/駱之輔、別号;亦夢、法号;困学院
翠丈(すいじょう) → *眉山*(2世びざん・邨田/村田、俳人) Ｃ３７２６
衰杖(すいじょう・「通天橋」発句入)→*杉風*(さんぷう・杉山すぎやま、商家/俳人)２０５６

2368 瑞承(ずいしょう;法諱・有自ゆうじ;道号)?-1526　臨済僧;春育門;法嗣、1525(大永5)京建仁寺270世、「有自録」著

2369 瑞笑(ずいしょう・4世八文字屋)?-　?　書肆:1762一蝶「歌舞妓事始」校合

瑞笑(ずいしょう・八文字屋)→ *自笑*(2世じしょう・八文字、書肆/浮世/俳) ２１２２

瑞祥(ずいしょう) → *元徳*(玄徳げんとく・人見ひとみ/野、医者) Ｍ１８０１

瑞昌(ずいしょう・竹田) → *楚竹*(そちく・竹田たけだ、医者/狂歌) Ｅ２５００

随勝(ずいしょう・早川) → *随勝*(よりかつ・早川はやかわ、藩士/記録) Ｉ４７５２

雖小庵(すいしょうあん) → *無著*(むじゃく;法諱・黄泉、曹洞僧) ４２６３

吹松庵(すいしょうあん) → *雲堂*(うんどう・川勝、俳人) Ｂ１２５９

瑞祥院(ずいしょういん) → *元徳*(玄徳げんとく・人見ひとみ/野、医者) Ｍ１８０１

瑞祥院(ずいしょういん) → *栲子*(まくこ・工藤くどう、歌人/比丘尼) Ｗ２６８５

吹松園(すいしょうえん) → *政辰*(まさとき・浅井、藩士/俳人) Ｅ４０３７

翠松園(すいしょうえん) → *陸夫*(みちお・林はやし、国学/歌人/軍人) Ｋ４１１４

吹簫軒(すいしょうけん) → *雲鼓*(うんこ・堀内、俳人) Ｂ１２１３

吹簫軒(2世すいしょうけん) → *雲鈴*(うんれい・吉井、俳人) Ｂ１２２４

翠松軒(すいしょうけん) → *蒼軒*(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) Ｈ２５０８

瑞笑軒(ずいしょうけん) → *貞藤*(さだふじ・伊勢/平、藩士/故実家) Ｊ２０６２

水晶山人(すいしょうさんじん)→ *水晶*(すいしょう・首藤すどう/藤・滕、儒者) ２３６５

2370 随松子(ずいしょうし、姓名不詳)?-　?　洒落本、1780「風俗砂払伝」著

翠松斎(すいしょうさい) → *蘆水*(ろすい・鶴岡つるおか、絵師) Ｂ５２９６

翠松亭(すいしょうてい) → *鳳棲*(ほうせい・稲田いなだ、藩士/俳人) Ｃ３９００

酔松亭(すいしょうてい) → *星岡住*(ほしのおかずみ・伊勢屋、狂歌) Ｅ３９２０

水上亭(すいじょうてい) → *桃鏡*(とうきょう・松村、俳人) Ｃ３１７８

瑞松堂(ずいしょうどう) → *日潮*(にっちょう;法諱・六牙院、日蓮僧) Ｆ３３２０

水書屋(すいしょおく) → *甕江*(おうこう・川田かわだ、儒者) Ｂ１４６５

2371 水色(すいしょく・柳陰子) ?-　?　俳人、1700東潮「えの木」跋

翠色子(すいしょくし) → *軌定*(のりさだ・竹内たけのうち、藩士/史家) Ｅ３５５３

遂初道人(すいしょどうじん) → *秋台*(しゅうだい・浅野屋、畳業/書家) Ｘ２１９８

随処楼(ずいしょろう) → *雲櫨*(うんれい;道号・泰禅;法諱、曹洞僧) １２９４

2366 水塵(すいじん) ?-　?　京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[涼み床気違らしや僧独り](都曲;下342)

酔人(すいじん・上戸庵) → *百亀*(ひゃっき・小松、咄本/狂歌) Ｅ３７９４

2372 随心(ずいしん;号・山本やまもと、別号;因幡入道)?-?　室町中期連歌作者/研究者、
1519(永正16)垣屋続成(山名氏の家臣)のために連歌書「世俗」を著、
のち「世俗追加」(国語研究書)を加え徳丸成長に遣わす

E2371 瑞信(ずいしん、別号;甫庵)? -　?　江前期山城の俳人:西武門、北岩倉の僧?、
1676(延宝4)「連誹合掌」著

H2333 随心(ずいしん・小野おの) ? -　?　江前期大阪の俳人、1678西鶴「物種集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[清少納言枕もたげよほとゝぎす](難波色紙;63/白氏文集;遺愛寺鐘欹枕聴)

2373 随真(ずいしん;法諱) ? -　?　江中期宝永享保1704-36頃天台叡山僧、
北谷教王院の住僧、「念仏回向法則」/1720「常憲院殿十三回御忌読誦法華開白法則」著

随心(ずいしん・里村) → *正氏*(政氏まさうじ・里村さとむら、武道家) Ｂ４０３２

I2388 随真院(ずいしんいん・島津しまづ、名;随姫よりひめ、薩摩藩主島津斉宣女)1801-1876*76*　江戸の生、
母;享姫(丹羽長貴女)、1816(16歳)日向佐土原藩9代藩主島津忠徹ただゆきの後室;
３男６女の母、夫が参勤交代途中草津本陣で病いで急逝;薙髪し随心院と称す、歌人、
息子忠寛が藩主を嗣、幕末参勤交代緩和で家族の藩地帰国が許可;
1863(63歳)での帰国の旅日記;「江戸下り島津随真院道中日記」著(歌72首入);
(:日向の三大おんな旅日記の1/他は内藤充眞院・日髙蔦子)
[あつさをもしばしわすれて坂の名の水落みずちときくにうるほひにけり](帰国後の詠)、

帰国後佐土原で夫の大法要を催/戊辰戦争では父方・母方が対戦;痛哭の願文が残る、
佐土原の慈母と敬慕される
随信院(ずいしんいん)　→　*日舒*(にちじょ;法諱・寿円、日蓮僧)　Ｃ３３３１
随心院(ずいしんいん)　→　*玄亨*(げんこう・中山、医者/日記)　Ｉ１８８１
随心院大僧正(ずいしんいんのだいそうじょう)→　*親厳*(しんごん;法諱、真言僧)Ｅ２２１３
酔晋斎(すいしんさい)　→　*天寿*(てんじゅ・韓かん、書家、篆刻)　Ｄ３０７２
随心自在院(ずいしんじざいいん)→　*冬信*(ふゆのぶ・大炊御門おおいみど、廷臣/歌)Ｅ３８３５
水心子正秀(すいしんしまさひで)→　*正秀*(まさひで・川部/鈴木、刀工/鍛錬術)Ｇ４０７２
水心法印(すいしんほういん)　→　*泉恵*(せんえ;法諱・北林房、天台学僧)　Ｌ２４６８
随神屋(ずいじんや)　→　*正澄*(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学)　Ｄ４０１０
随神霊神(ずいしんれいしん)　→　*兼治*(かねはる・吉田/卜部、神職)　Ｏ１５８６
水穂(すいすい・前田)　→　*水穂*(みずほ・前田まえだ/夏目、国学/歌)　Ｋ４１５０
水穂(すいすい・賀茂)　→　*水穂*(みずほ・賀茂かも、勤皇/軍人/神職)Ｉ４１６７
垂水(すいすい・樋口)　→　*垂水*(たるみ・樋口ひぐち、国学者)　Ｚ２６１９
垂穂(すいすい)すべて　→　*垂穂*(たりほ・orたるほ)
穂垂(すいすい・宮下)　→　*穂垂*(ほたり・宮下みやした、国学者/歌人)　Ｇ３９４１
I2360 **瑞々**(ずいずい・柴田しばた、)1803-1874*72*　越前敦賀の国学者、
[瑞々(;名)の通称/号]通称;善兵衛、号;古稀一翁
瑞穂院(ずいすいいん)　→　*卯三郎*(うさぶろう・清水、洋学者)　Ｃ１２２５
水穂舎(すいすいしゃ/みずほのや)→　*豊平*(とよひら・真鍋/藤原、神職/歌/一弦琴)Ｒ３１５２
推数堂(すいすうどう)　→　*高広*(たかひろ・国分こくぶん、和算家)　Ｎ２６１０
水青(すいせい・広瀬)　→　*厳男*(いずお/よしお・広瀬、商家/国学者)　Ｆ１１７１
遂成(すいせい・木梨)　→　*恒徳*(つねのり・木梨きなし、藩士)　Ｄ２９１０
酔醒(すいせい・池田)　→　*京水*(きょうすい・池田いけだ、医者)　Ｏ１６１３
瑞成(ずいせい・和気わけ・半井)→　*瑞成*(よしなり・半井なからい、医者/歌人)Ｏ４７２７
随正(ずいせい・菅原)　→　*清根*(すがね・菅原/山本、社僧/国学)　Ｆ２３８６
随世(ずいせい・畠山)　→　*桂花*(けいか・畠山はたけやま、医/歌/鑑定)　Ｆ１８３４
随世軒(ずいせいけん)　→　*如幻*(じょげん・菊岡、商家/郷土史家)　Ｍ２２３０
酔醒斎(すいせいさい)　→　*北嵩*(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師)　Ｄ３９５１
水声亭(すいせいてい)　→　*義保*(よしやす・千村ちむら、文筆家)　Ｈ４７７６
粋精堂(すいせいどう)　→　*僊潭*(せんたん・藤咲ふじさき、儒者/藩士)　Ｍ２４９２
2374 **水尺**(すいせき・兼松かねまつ、嘯風しょうふう[1654-1706]男)?-?　美濃深田の俳人、
1706嘯風編「ふくろ角づの」(俳諧撰集)刊行(:魯九の助力/後半に嘯風追悼集を添える)
2375 **酔石**(すいせき・野沢のざわ、名;恒)1781-1842*62*　江後期幕臣;江戸の昌平坂学問所勤番、
学問所関係幕臣らと詩社結成;野村篁園・植木玉厓・友野霞舟・鈴木白藤・勝田半斎ら参加、
勝田半斎中心に詩会10回:1823詩集「声応集」(半斎・中村為一と共編/酔石の詩74首入)、
[酔石(;号)の字/通称]字;寧恒、通称;彦六
E2373 **水石**(すいせき・佐藤さとう、名;魚大/益之/蓋之)?-?　江後期文政1818-30頃大阪の絵師;月渓門、
山水・人物画に長ず、1814・20「水石画譜」画、
[水石(;号)の字]　広年/士朗、息子:守大・保大も絵師
2376 **水石**(すいせき・壬生みぶ、名;正文/璞/弘文、壬生彦右衛門正寿男)1790-1871*82* 高知藩与力、篆刻家、
儒;中村西里・岡来蔵・日根野鏡水門/さらに篠崎小竹・菊池五山門、武術・兵学・故実修学、
高知藩家老配下柴田家の与力/印刻;高田春塘・島崎呉江門/1835上京し三雲仙嘯門、
篆刻の奥義を究む、書画骨董・風流諸芸に通ず、「水石詩文集」「水石印譜」著、
[水石(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;銀三郎、字;無名/子文、
通称;八十郎/志摩介/詩磨介/司馬介、別号;白髪山樵/三癖老人/石坡道人/霞樵
E2374 **水石**(すいせき・大塚おおつか、名;敬業)1819-74*56*　越中富山藩士/儒;大野介堂門、江戸昌平黌に修学、
帰郷後;藩主侍読/藩校教授、1840「登立山記」/65「避暑巵言ひしょしげん」著、
[水石(;号)の字/通称/別号]字;士業、通称;新左衛門、別号;通川
水石(すいせき・藤波)　→　*教忠*(のりただ・藤波/大中臣、神職)　Ｅ３５９９

水石(すいせき・遠藤)　→　*香村*(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩)Ｋ１９４１
水石(すいせき・小野)　→　*述信*(のぶざね・小野おの、藩士/心学)　Ｈ３５６０
E2370 **随石**(ずいせき;号)　？－　？　江中期京の俳人;鞭石門、1729隆志「俳諧草結」入(254)
[冬至より高し独活うどの香京の風](俳諧草結;254)
(隆志立机の冬至からこの京風俳諧が独り高く拡大するという自負)
E2375 **瑞石**(ずいせき;号、別号;鏡湖庵)?-?　江中期武州の俳人、葛飾北斎と交流、安房に移住、
1787「竹の友」編/89「鳥の遊」著、2世白兎園宗瑞門か?
E2376 **酔石翁**(すいせきおう)　？－　？　江中期 京の壬生の戯作者、
1770(明和7)「当世曾古佐賀志」著
水石居(すいせききょ)　→　*之淳*(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人)　Ｅ４６２４
翠石斎(すいせきさい)　→　*基徳*(もとのり・田近たぢか、絵師/国学)　Ｋ４４２６
水石亭(すいせきてい)　→　*春耕*(しゅんこう、俳人)　Ｊ２１６５
E2377 **酔雪**(すいせつ・多賀谷たがや、名;驥、安貞2男)1775-1839*65* 兄向陵の養子;江戸四谷住、
幕臣;先手与力/火付盗賊改吟味方、山水画に長じ一家を成す、多病、「睡余謾録」著、
[酔雪(;号)の字/通称/別号]字;仲徳、通称;丈七、別号;一窓、法号;酔翁院
酔雪(すいせつ・田中/沓掛)→　*夢嶽*(むがく・沓掛くつかけ/田中、藩医)　４２３４
水拙(すいせつ;号)　→　*祖渓*(そけい;道号・徳濬;法諱、臨済僧)Ｊ２５５６
E2378 **瑞雪**(ずいせつ・斎藤さいとう、名;朝旭、久太夫男)1764-1853*90*　羽前庄内の庄屋;1779納方手代、
元締職下役・預地勘定役/庄内各地の大庄屋、学問;鈴木東皐門/歌:池田玄斎門、
「歓話集」「蓮社筆譚」著、
[瑞雪(;号)の字/通称]字;子光、通称;七太夫
水拙(すいせつ・祖渓徳濬)→　*祖渓*(そけい・徳濬とくしゅん、臨済僧)　Ｊ２５５６
E2379 **水仙**(すいせん;号)　？－　？　京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
E2369 **水仙**(すいせん;組連)　？－　？　四日市(武蔵入間郡?)の雑俳の組連/
取次;1748「筑丈評万句合」入;
取次例;[鰻屋が投はふると骨は舞ってゆく](48万句合)、
(前句;はやい事かなはやい事かな/鮮やかな庖丁捌き)
F2378 **水せん**(すいせん;組連)　？－　？　江戸芝二本松榎の雑俳;川柳の組連、
取次;1760-「川柳評万句合」;句多数入、
取次例;[いてふの葉入れて置かれぬ娘の子](1760万句合/前句;こまりこそすれ々々)、
(銀杏の葉は紙魚しみを防ぐ書物防虫剤/娘可愛い親心)、
2303 **翠川**(すいせん・世古/瀬古せこ)?-　？　伊勢松坂久米村の俳人、
1825「後おくの細道」編、1828「杖のひゝき」著、
[翠川(;号)の通称/別号]通称;喜左衛門、別号;花鳥亭
E2380 **酔僊**(すいせん;号・生口いくち、名;拡)1834-1909*76*　備後福山の医者;京で修学/帰郷後;鞆で開業、
1869箱館に軍医として出征/のち鞆戸長を務める、1861「近世詩林」編
翠川(睟川すいせん)　→　*定雅*(ていが・西村、俳人、狂歌)　３０４１
翠仙(すいせん・村瀬)　→　*太乙*(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者)Ｂ２６０３
睡仙(すいせん・宮脇)　→　*政成*(まさなり・宮脇みやわき、郡代/詩歌人)Ｔ４００４
酔仙(すいせん・中村)　→　*栗園*(りつえん・中村/片山、藩儒/執政)Ｂ４９５９
醒仙(すいせん・大橋)　→　*知伸*(とものぶ・大橋、絵師/篆刻/俳)　Ｑ３１２３
E2381 **瑞泉**(ずいせん;号)　？－　？　京の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入
[雪よりもどこやら寒きみぞれ哉](新撰都曲)
瑞仙(ずいせん;法諱)　→　*桃源*(とうげん;道号・瑞仙、臨済僧/詩)Ｄ３１３８
瑞仙(ずいせん・池田)　→　*錦橋*(きんきょう・池田いけだ、医者)　Ｑ１６７９
瑞仙(ずいせん・池田)　→　*霧渓*(むけい・池田/村岡、錦橋の養嗣/医者)４２４７
瑞泉(ずいせん・伊沢)　→　*世徳*(つぐのり・伊沢いざわ、医者/詩歌人)Ｆ２９１９
随川(ずいせん・狩野)　→　*岑信*(みねのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師)　Ｆ４１５２
2377 **瑞禅**(ずいぜん;法諱・俗姓;紀、紀之泰男?)?-? 1441存　比叡山天台僧(法師)/法印、
歌人:1435「赤松満政母三十三回忌詠法華経序品和歌」41「石清水社法楽百首続歌」参加、

新続古今集965、
[わけわびし野面のもせの草の枕より跡よりむすぶ袖の露かな](新続古;羈旅965)
瑞仙院(ずいせんいん) → *丹洲*(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学) Ｉ２６８２
粋川子(すいせんし、酔-、戯作名) → *定雅*(ていが・西村、戯作/俳人) ３０４１
水仙子(すいせんし) → *玄魚*(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌) Ｂ１８５４
瑞泉寺殿(ずいせんじどの) → *基氏*(もとうじ・足利/源、武将/歌人) Ｃ４４１５
水善舎(すいぜんしゃ) → *信之*(のぶゆき・吉岡、藩士/国学/歌) Ｄ３５７４
睟川舎猿猴(すいせんしゃえんこう)→ *定雅*(ていが・西村、戯作/俳人) ３０４１
随泉舎(ずいせんしゃ) → *春吟*(しゅんぎん・随泉舎、狂歌作者) Ｚ２１６９
翠千条(すいせんじょう) → *一葉*(いちよう・千菊園、伊藤、狂歌作者) Ｇ１１５５
水仙堂(すいせんどう) → *蘭風*(らんぷう・藤井ふじい、俳人) Ｄ４８１５
水薦野舎(すいせんのや) → *尚豊*(ひさとよ・後藤ごとう、庄屋/地誌) Ｉ３７０９
2378 **端泉坊**(ずいせんぼう) ？－ ？ 室町戦国期僧/歌人、
1474道灌「武州江戸歌合」参加
翠叟(すいそう・高橋) → *武之*(たけゆき・高橋たかはし/紀、医者/歌) Ｙ２６０４
酔叟(すいそう・小島) → *蕉園*(しょうえん・小島こじま、医者) Ｆ２２５２
酔叟(すいそう・豊岡) → *荔墩*(れいとん・豊岡/坂東、庄屋/儒) ５１５６
穂蔵(すいぞう・田所) → *顕秀*(あきひで・田所たどころ、神職/国学) Ｈ１０８１
随巣(ずいそう・吉岡) → *羽人*(うじん・吉岡よしおか、俳人) Ｃ１２８７
随宗(ずいそう・赤松) → *瑞龍軒*(2代ずいりゅうけん、赤松、講釈師) ２３９４
瑞草(ずいそう・宇喜多) → *可為*(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) Ｌ４７７１
2379 **睡足**(すいそく) ？－ ？ 俳人、1716風葉(宗瑞)「江戸筏」天巻第十独吟歌仙入、
[室住へやずみの手を嗅がせたる霜夜しもよ哉](江戸筏;第十歌仙発句/寒く手に息をかける姿)
睡足(すいそく;号) → *仁如*(にんじょ;道号・集尭;法諱、臨済僧/詩文) Ｇ３３９７
穂足(すいそく・原) → *穂足*(ほたり・原はら、庄屋/国学/歌人) Ｇ３９３３
穂足(すいそく・江碕) → *穂足*(ほたり・江碕えざき、神職/歌人) Ｇ３９１６
睡足園(すいそくえん) → *花隠*(かいん・広瀬ひろせ、絵師) Ｊ１５１９
水足軒(すいそくけん) → *大立*(たいりゅう・竜田/飛騨、俳人) Ｃ２６３１
翠台(すいだい・鳥、趙) → *北枝*(ほくし・立花、俳人) ３９６５
翠台(すいだい) → *眉山*(初世びざん・中山なかやま、俳人) Ｃ３７２５
翠台(2世すいだい) → *眉山*(2世びざん・邨田/村田、俳人) Ｃ３７２６
翠台(5世すいだい、趙) → *年風*(としかぜ・梅田、絵師/俳人) Ｍ３１１５
翠台(すいだい) → *北亟*(北茎ほっけい・小寺こでら、俳人) Ｅ３９５９
翠台(すいだい) → *江波*(ごうは・梅田、年風男/絵師/俳人) Ｋ１９９３
睡台(すいだい・小林) → *依兮*(いけい・小林こばやし、商人/俳人) Ｃ１１２０
水苔園(すいたいえん) → *広澂*(ひろずみ・宮川みやがわ、神職/国学) Ｌ３７４０
E2382 **瑞潭**(ずいたん;法諱・菊隠きくいん;道号、俗姓;荒木) 1447-1524*78* 室町戦国期但馬城崎郡上杉村の生、
父と越後に移住/曹洞僧;1462(16歳)越後雲門寺の鼎山門;出家/京大徳寺の日峯宗舜門、
甲斐広厳院の一華文英門;嗣法/のち広厳院住寺、1512丹波永沢寺に転住/広厳院再住;没、
「菊隠和尚下語」「菊隠録」「菊潭集」著
随如(ずいにょ) → *尭庸*(ぎょうよう;法諱、真宗僧) Ｏ１６６０
E2383 **水竹**(すいちく・福谷) 1787 － 1850 三河吉田の俳人;卓池門、
1821卓池を吉田に迎え句集「折桂」編?、1836卓池と上州桐生を行脚、1837「竹春集」編、
「水竹評発句」評、
[水竹(;号)の通称/別号]通称;藤右衛門、別号;冷石庵/赤守
2380 **水竹**(すいちく・尾藤びとう、二洲じしゅう3男) 1795-1854*60* 江戸の儒者;家学修得/幕府儒官、歌人、
幕臣;小普請組/1850浦賀奉行支配組頭/52林奉行、「水竹文集」「水竹先生詩文稿」著、
[水竹(;号)の名/字/通称/別号]名;**積高**かずたか、字;希大、通称;高蔵、別号;絃庵/弦庵
E2384 **翠竹**(すいちく・矢野やの、名;晋、八堂男) 1798-1859*62* 伊予西条の医者(家業)/医より文学を好む、
儒詩;上京し頼山陽門/帰国後伊予西条藩儒、1816「丙子乱稿」著、

[翠竹(;号)の通称/法号]通称;佐太郎、法号;翠竹院
E2385 水竹(すいちく・中村なかむら、名;霽/元祥)1807-72*66* 京の西洞院中立売北の篆刻家;三雲仙嘯門、
書画も能くす、近衛家諸大夫、1856勅を奉じ御府之印を刻す;以後天皇・国璽など印刻、
1868印司に就任;69致仕、「官藩公印譜」「水竹老人書斎快事印譜」著、
[水竹(;号)の字/通称/別号]字;夢竜/爾祥、通称;主馬/播磨介/九翁、
別号;酔茗軒/蘭竹草堂
2381 水竹(すいちく・新居にい、名;謙、春洋長男)1813-70自刃*58* 阿波徳島藩士;
料理(家学);父(藩料理方)門、儒;柴野碧海・那波鶴峰門、詩書に長ず、
1838家督継嗣;藩料理方、1850藩主に随い江戸へ、公務の間に古賀茶渓門/1860侍読、
1861藩儒/維新後;藩校長久館学頭、1870事に座し政府より罰;徳島藩芝白金藩邸で自刃、
「百漁詩稿」「水竹居詩鈔」「水竹居日記」著、
[水竹(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;百太郎、字;受益、通称;与一助、別号;成園
水竹(すいちく・生田) → *精*(くわし・生田いくた、藩士/国学) Ｄ１７５７
水竹(すいちくい・高島) → *千春*(ちはる・高島/高嶋たかしま、絵師) Ｆ２８１９
翠竹(すいちく・北村) → *安雅*(やすまさ・北村きたむら、国学者) Ｆ４５８４
酔竹(すいちく・中田) → *粲堂*(さんどう・中田/滕、与力/儒者) Ｍ２０６６
酔竹(すいちく・曲直瀬) → *是盛*(よしもり・曲直瀬まなせ/和気/六人部、医/勤王)Ｈ４７７１
瑞竹(ずいちく・竹田) → *定珪*(じょうけい・竹田/藤原、医者) Ｉ２２２７
翠竹庵(すいちくあん) → *竹翁*(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師)Ｃ２８６７
酔竹園(すいちくえん) → *橘洲*(きっしゅう・唐衣、小島源之助、狂歌)１６２２
翠竹園(すいちくえん) → *星皐*(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) Ｂ２４４５
水竹居(すいちくきょ) → *枕山*(ちんざん・大沼、詩人) Ｋ２８７６
水竹居(すいちくきょ) → *順蔵*(じゅんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) Ｌ２１３０
水竹居(すいちくきょ) → *午寂*(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) Ｃ１９８０
水竹居主人(すいちくきょしゅじん)→ *伯斎*(伯済はくさい・千村、藩士/儒) Ｄ３６０７
翠竹軒(すいちくけん) → *信順*(のぶより・山高やまたか、藩士/兵法) Ｅ３５０９
翠竹軒(すいちくけん) → *氏英*(うじひで・村田、藩士/記録) Ｃ１２６７
瑞竹軒(ずいちくけん) → *竹翁*(ちくおう・西村、俳人) Ｃ２８６９
翠竹斎(雖知苦斎すいちくさい)→ *一渓*(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) Ｇ１１９４
水竹主人(すいちくしゅじん) → *季忠*(すえただ・藤波ふじなみ/大中臣、神職)Ｂ２３８１
水竹生(すいちくせい、水竹人)→ *豊信*(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌)Ｒ３１１８
水筑大可(すいちくたいか) → *橘門*(きつもん・秋月、儒者) Ｉ１６６６
水竹亭(すいちくてい) → *雄平*(ゆうへい・中山なかやま、本草家) Ｄ４６６９
隋竹堂(ずいちくどう) → *良弼*(よしすけ・船越ふなこし/北条、剣術/歌)Ｏ４７９２
瑞竹道人(ずいちくどうじん) → *南嶺*(なんれい:道号・元勲げんくん、黄檗僧)Ｊ３２７３
酔竹連の三傑(すいちくれんのさんけつ);名古屋酔竹連に属した優れた三人の狂歌師
→ *篠野玉湧*(しののたまわく、書肆)?-1798 Ｆ２１４２
→ *豊年雪丸*(ほうねんのゆきまろ、尾張藩士)?-1821 Ｃ３９４４
→ *田鶴丸*(たづまる・蘆辺あしべの、藍染屋)1759-1835 ２６３９
翠竹陰(すいちくいん) → *是盛*(よしもり・曲直瀬まなせ/和気/六人部、医/勤王)Ｈ４７７１
翠竹楼(すいちくろう) → *南洲*(なんしゅう・青葉、儒者) Ｊ３２１７
E2334 酔茶(すいちゃ・似実軒にじっけん)?- ? 川柳作者;浅草二十軒茶屋からの洒落の号、
1776「誹風 末摘花」編;川柳評万句合から末番句(猥褻句)のみ集めた川柳集、
花屋久治郎説・雨譚説などある
酔中(すいちゅう・小谷/久野)→ *鳳湫*(ほうしゅう・久野/;藤原/滕、儒者)Ｂ３９３８
綏忠(すいちゅう・山岡) → *綏忠*(よしただ・山岡やまおか、和算家) Ｅ４７３０
翠中軒知新(すいちゅうけんちしん;号)→ *知新*(ちしん・翠中軒、与力/茶人)Ｅ２８４６
瑞直(ずいちょく・半井) → *瑞直*(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人)Ｊ４１９９
推枕(すいちん;号) → *宗播*(そうは:法諱・叔英:道号、臨済/五山文学)Ｃ２５７６
水通(すいつう・石川) → *水通*(みみち・石川朝臣、廷臣/歌人) Ｆ４１８６

E2386 **酔亭**(すいてい・中井なかい/初姓;安藤、名;典信/利安)1751-93*43*　京の人;幼時中井家を継嗣、
心学者;手島堵庵門;石田梅岩の学を修得、修正学舎都講/1785学舎焼失により大阪移住、
大阪の静安舎舎主、1785「河間邑要吉伝」86「大門邑孝子伝」91「江州高宮孝女起野伝」、
[酔亭(:号)の幼名/字/通称]幼名;彦太郎、字;士閑、
通称;市左衛門/市郎右衛門/斧屋市郎右衛門

2382 **穂亭**(すいてい)　?-　?　1852「西洋学家訳述書目」著
勝村穂亭と同一?　→　*粋白*(すいはく・勝村/勝邨かつむら、書肆)Ｅ２３９２
穂亭(すいてい・勝村)→　*粋白*(すいはく・勝村/勝邨かつむら、書肆)　Ｅ２３９２
椎亭(すいてい・倉田)　→　*烏翠*(うすい・倉田くらた、俳人)　Ｃ１２８８
翠亭(すいてい・高根)　→　*敬節*(けいせつ・高根たかね、藩士/儒者)　Ｇ１８２２
翠亭(すいてい・藤岡)　→　*近方*(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学)　Ｎ２８４０
酔亭(すいてい・林)　→　*鶴梁*(かくりょう・林、儒者・詩人)　Ｅ１５８０
酔亭(すいてい・西村)　→　*清臣*(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人)　Ｕ１６０５
綏定(すいてい・野井)　→　*安定*(綏定やすさだ・野井のい、醸造/国学)Ｂ４５４６
随亭(ずいてい・泉)　→　*円*(まどし・泉/和泉いずみ、歌人)　Ｊ４０９１
水徹(すいてつ;法名)　→　*重治*(しげはる・竹中半兵衛/源、武将/軍略)Ｓ２１２３
酔顛(すいてん・江村)　→　*厚*(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首)　Ｂ１０３０

E2387 **随天**(ずいてん;法諱、別法諱;知蔵)?-?1777前没　江中期江戸芝の浄土宗増上寺の学僧、
1766(明和3)頃牛込光照寺住、1745「一枚起請文輔宗録」48「縁山三大蔵目録」著、
「大経曼荼羅開壇記」著(没後1780刊)/「縁山三大蔵経縁起」著
垂天社(すいてんしゃ)　→　*深励*(じんれい・子勗しきょく;字、大谷派学僧)Ｑ２２１７
酔奴(すいど・柳河)　→　*春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１

2383 **翠桃**(すいとう)　?-　?　俳人・蕉門、1688嵐雪「若水」・渭北「安達太郎根」入
翠桐(すいとう・本多)　→　*忠寛*(ただひろ・本多ほんだ、藩主)　Ｑ２６７２
翠濤(すいとう・溝口)　→　*直諒*(なおあき・溝口、藩主/文筆)　３２５９
翠濤(すいとう・毛利)　→　*斉広*(なりとお・毛利、藩主/文筆)　Ｈ３２７１
睡峒(すいとう・関)　→　*重嶷*(しげたか・関せき、藩家老/地歴)　Ｒ２１２０
酔堂(すいどう・市野)　→　*迷庵*(めいあん・市野いちの、質商/儒者)　４３００
萃堂(すいどう・八木)　→　*雕*(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌)　Ｉ１０５７
懐徳舎人(かいとくしゃじいん)→　*赤水*(せきすい、井上/修姓;井、儒者)　Ｋ２４２３
睡堂(すいどう・川路)　→　*宜麦*(ぎばく・川路かわじ、幕臣/俳人)　１６２５
酔堂(すいどう)　→　*其成*(きせい、菊舎きくや太兵衛、田中保教、書肆/俳人)Ｂ１６３７

E2388 **随道**(ずいどう;法諱)　?-　?　江前期江戸浅草の天台宗清水寺僧、
「秘密雑記」著
酔桃館(すいとうかん)　→　*蔵澤*(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師)　Ｌ２５１４
酔桃子(すいとうし)　→　*桃野*(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者)　Ｈ３１５１
翠堂主人(すいどうしゅじん)　→　*赤水*(せきすい、井上/修姓;井、儒者)　Ｋ２４２３

I2361 **瑞藤尼**(ずいとうに;法諱、号;秀山、鷹司信房女)1640-1730長寿*91*　母白川雅陳王女、歌人、
山城の通玄寺慈受院住
水得主人(すいとくしゅじん)　→　*季忠*(すえただ・藤波ふじなみ/大中臣、神職)Ｂ２３８１
水南(すいなん・櫛田)　→　*琴山*(きんざん・櫛田くしだ、儒者)　Ｈ１６８９

D2361 **瑞南**(ずいなん:道号・名;卜兆)?-　?　江前期1624-44頃臨済僧:大阪寒山寺開祖、歌、
1666「古今夷曲集」入
水南潜夫(すいなんせんぷ)　→　*君山*(くんざん・大沢おおさわ、儒者/詩文)　Ｄ１７６４
随入軒(ずいにゅうけん)　→　*友貞*(ともさだ・井上、俳・歌人)　Ｐ３１４８
髄如(ずいにょ:号)　→　*尭庸*(ぎょうよう:法諱・髄如、真宗僧)　Ｏ１６６０
随念(ずいねん;法諱)　→　*眞導*(しんどう;法諱、真宗仏光寺派僧)　Ｐ２２４７
翠廼舎(すいのや)　→　*翠山*(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者)　２３６２
翠廼舎(すいのや)　→　*元緒*(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌)Ｋ４４８６

G2382 **水巴**(すいは)　?-　?　江戸前期俳人、1694不角「へらず口」入、

[妻の手をもぎりはなせば母の文ふみ](へらずロ)、
(妻が隠す手紙をもぎとると里の母からの手紙;自分の嫉妬心の恥ずかしさ)

E2389 **水巴**(すいは;号・別号;井蛙坊せいあぼう/七十叟)1708-? 1777存　江中期江戸の武士/俳人;馬光門、
1777「四つの花びら」著

E2390 **穂波**(すいは・常泉つねいずみ/石塚いしづか)1807-68*62*　上総長生郡関村の儒者/三畏塾主、
「三畏正義録」「易学正解」「靖献遺言釈義」「論天機秘」著

穂波(すいは・田内)　→　*穂波*(ほなみ・田内たのうち、藩士/随筆)　Ｇ３９２５

E2391 **翠馬**(すいば・松宮まつみや)　? -　?　俳人、1757律中「耳勝手」入

随波(ずいは・瀬尾)　→　*荘三*(そうぞう・瀬尾せお、藩士/書家/歌)　Ｉ２５３３

瑞馬(ずいば・山口/生々)→　*常庸*(じょうよう・山口、俳人/戯作者)　Ｂ２２８９

酔梅(すいばい)　→　*輝雄*(てるお・正木、兵学/国学/俳人)　Ｃ３０７１

瑞梅館(ずいばいかん)　→　*雲洞*(うんどう・前田まえだ、藩士/儒者)　Ｅ１２０２

H2334 **酔白**(すいはく・白石しらいし)　? -　?　江前期俳人、
1673西鶴「生玉万句」第四灌仏百韻の脇句/吉書第三句等入、1678西鶴「物種集」入、
[茂る柳も同じ髪たれ](生玉万句;灌仏千句脇/発句;遠舟;生れ名よ仏も元は助四郎、
髪垂れ;嬰児生後6日目に産毛を剃る;7日目に命名;発句生れ名に付る)

E2392 **粋白**(すいはく・勝村/勝邨かつむら、改姓;勝・竕しょう)?-? 1884存　京の書肆、1860(万延元)「翁略年譜」著、
「粋白叢書」「穂亭雑記」「蕉門系譜二百六十八人」「蕉門略系譜草藁直弟の部」著、
[粋白(;号)の通称/別号]通称;治右衛門、別号;穂亭すいてい

瑞伯(ずいはく・竹中)　→　*通庵*(つうあん・竹中たけなか、医者)　２９１８

瑞伯(ずいはく・小島)　→　*瑞*(ずい・小島こじま、医者)　２３１９

E2393 **瑞範**(ずいはん;法諱)　? -　?　鎌倉の天台宗宝戒寺僧、「爾前一心三観辨」著

E2394 **随範**(ずいはん;法諱)　? -　?　江中期天台僧:観中明脱門、
「四念処備忘記」「浄土教観要門講記」著、
下総滑河の慈観と同一?　→　*慈観*(じかん;法諱、天台僧)　Ｐ２１９３

随範(ずいはん;法諱)　→　*慈観*(じかん;法諱、天台僧)　Ｐ２１９３

推鼻(すいび・小篠/二宮)→　*献*(けん・二宮にのみや、医者)　Ｈ１８４６

随筆園(ずいひつえん)　→　*玉晃*(ぎょくちょう・小寺、随筆家/絵師)　Ｈ１６３１

睡猫子(すいびょうし)　→　*朝伍*(朝五ちょうご・熊代/姫路屋、俳人)Ｉ２８１９

水孚(すいふ:号)　→　*雪村*(せっそん:道号・周継:法諱、絵師/禅僧)Ｅ２４５３

粋夫(すいふ・朝倉)　→　*東軒*(とうけん・朝倉あさくら、藩士/詩人)　Ｄ３１３２

瑞楓(ずいふう・白尾)　→　*国柱*(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学)　Ｄ１７０９

随風(ずいふう;;法諱)　→　*天海*(てんかい;法諱、天台僧/幕政参画)Ｄ３０２２

随風堂(ずいふうどう)　→　*元蕃*(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主/歌)Ｅ４４４０

睡仏斎(すいぶつさい)　→　*泰仲*(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩)　Ｋ２６６２

2384 **翠釜亭**(すいふてい)　? -　?　江中期大阪の絵師:円山派か? 、
1782(天明2)「翠釜亭戯画譜」画(:上方役者絵)、
[翠釜亭(;号)の名/字]名;邦高、字;子登

随文(ずいぶん・隅田)　→　*定佑*(定休さだやす・隅田、国学者/歌)　Ｋ２００８

随分斎(ずいぶんさい・津田)→　*養*(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人)４７５３

E2395 **翠屏**(すいへい・吉田よしだ、名;栄秀、甚兵衛男)?-?1811前没　上州渋川の農業/儒者:平沢旭山門、
兄芝屏と原野を開拓;芝中新田を開く、博学、1800「諸疾章之義」、「養蚕児訓」「論語訳注」著、
[翠屏(;号)の通称]　太左衛門

翠屏舎(すいへいしゃ)　→　*通重*(みちしげ・河野こうの/越智、庄屋/歌)Ｊ４１０９

酔碧(すいへき・平井)　→　*直純*(なおずみ・平井ひらい、醸造/歌人)　Ｏ３２５２

2385 **水甫**(すいほ;号/別号;曇梅園)?- ?　江前期伊勢の俳人;支考門、伊勢派;川崎連中、
1698乙由「伊勢新百韻」入、享保1716-36頃「曇梅園俳輯」著

水甫(すいほ・西村)　→　*壺岳*(こがく・西村にしむら、文筆家)　Ｌ１９９０

水保(すいほ・市川)　→　*彬斎*(ひんさい・市川いちかわ、儒者/日記)　３７３５

水蒲(すいほ・青木)　→　*宗鳳*(初世そうほう・青木あおき、茶人)　Ｉ２５８８

垂穂(すいほ・石井)　→　*垂穂*(たるほ・石井、也有文献蒐集編纂)Ｔ２６０４
垂穂(すいほ・前田)　→　*夏蔭*(なつかげ・前田、国学者)　Ｇ３２６６
瑞保(ずいほ;法諱)　→　*有節*(ゆうせつ;道号・瑞保/周保;法諱、臨済僧/詩人)Ｄ４６０５
水母(すいぼ・坂)　→　*徴*(ちょう・坂、国学)　Ｈ２８０７

E2397 **翠峰**(すいほう;道号・明覚みょうかく;法諱、藤原辰成男)1616-76*61* 黄檗僧;
1666肥前神崎郡朝日村の安国寺住持/1671即非如一門;嗣法、「鉄笛艸」「名僧録」著

E2396 **翠峰**(すいほう;道号・浄春じょうしゅん;法諱)?-?　江前期黄檗僧;竜岩元真門/1708嗣法、
「翠峰禅師語録」著

E2398 **翠峰**(すいほう・久子くす、名;永豊/豊)1791-1847*57*　江戸の儒者;亀田鵬斎門、幕府に出仕;致仕、
陸奥仙台に遊学;勝村蠖斎と交流、気仙五葉山に結庵;各地で講説/詩・剣技を嗜む、
「山居三十律」「山江居六十律」著、
[翠峰(;号)の字/通称/別号]字;景叔、通称;小五郎、別号;安斎/五葉山人

E2399 **穂峰**(すいほう・四屋よつや、名;恒之)1831-1906*76*　日向延岡藩儒;藩校に修学/1850江戸昌平黌入学、
林壮軒・塩谷宕陰門/のち森田節斎門、1859江戸藩邸学問所崇徳館の教授、
世子内藤政挙の侍読・近習頭、政挙襲封に従い延岡に帰る、
維新の際は幕府方に加担した藩主のため薩摩に赴き事を収める、修史館編修官など歴任、
文章家、1861「叢録」著、
[穂峰(;号)の字/通称]字;子固、通称;万三郎/行蔵

F2300 **瑞峰**(ずいほう;道号・太奇たいき;法諱)?-1737　曹洞僧:卍山まんざん道白門/法嗣、
羽前法祥寺住持、1714能登伝法庵に輪住、「道元大師講式」著

2386 **瑞方**(瑞芳ずいほう;法諱・面山めんざん;道号、今村入道玄珍男)1683-1769*87* 肥後山本郡三島の曹洞僧、
1698(16歳)熊本流長院の遼雲古峯門;出家/陸前仙台泰心院の損翁宗益門;嗣法、
1718肥後禅定寺住持/41若狭の空印寺転住;永福庵を建立し退院、諸所で講義;著述多数、
懇切な学風で[婆婆面山]と称される/京建仁寺西来庵に没(87歳)、「道元伝」補填、
「肥後興禅録」「海東紀行」「西海紀行」「勢和紀行」「傘松日記」「正法眼蔵聞解」「僧那法」、
1711「永平実録」22「豊山行紀」52「吉祥草」65「建康普説」/69「黙照銘拈古」「信施論」、
「面山詩集」「面山和尚禅定寺語録」「面山仏事秉炬集」「永福面山和尚広録」外著多数、

F2301 **瑞宝**(ずいほう;法諱・幽篁ゆうこう;号、木村庄右衛門富長男)1695-1768*74* 讃岐高松の真言僧;本浄門、
本浄の許で出家、大護寺の義天門、1712四度加行/21河内妙恩寺住、24江戸霊雲寺に修学、
1732大護寺2世/34河内地蔵寺兼務、1751幽篁軒に隠居、「安流伝授紀要」著、
[瑞宝の字]　本光

F2302 **瑞鳳**(ずいほう;法諱・意伝;号)?-　?　江中期三河の真言僧/悉曇学者、
1773「悉曇摩多体文」74「悉曇字記註玄義」、「悉曇灌頂弁疑」著

瑞芳(ずいほう;法諱)　→　*杼山*(ちょざん;道号・瑞芳ずいほう、曹洞僧)Ｋ２８３９
瑞峰(ずいほう;号)　→　*道雲*(どううん;法諱・瑞峰、真言僧)　Ｂ３１２６
瑞鳳庵(ずいほうあん)　→　*惣吉*(そうきち・本屋ほんや、茶道具鑑定)　Ｇ２５７６
酔放逸人(すいほういつじん)　→　*春亭*(初世しゅんてい・勝川かつかわ、絵師)　Ｋ２１３０
帥法印(すいほういん→そちのほういん)→　*源意*(げんい、天台僧/歌人)　Ｂ１８２２
酔墨山人(すいぼくさんじん)　→　*墨僊*(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師)　Ｄ３９６１
酔墨山人(すいぼくさんじん)　→　*高陽*(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師)　Ｃ１９００

2387 **酔墨子**(すいぼくし・浪華なにわ)　?-　?　漢学者、
18ct初「続二酉洞ぞくにゆうどう」編(;1699備中松山藩儒一色時棟「二酉洞」〔漢籍書目〕の補訂)

酔墨主人(すいぼくしゅじん)　→　*雪渓*(せっけい・井狩いかり、儒者)　Ｅ２４１７
酔墨老人(すいぼくろうじん)　→　*海若*(かいじゃく・寺本、書家)　Ｉ１５６８
水母子(すいぼし)　→　*保己一*(ほきいち・塙、検校/国学)　３９６０
翠馬(すいま・松宮)　→　*翠馬*(すいば・松宮、俳人)　Ｅ２３９１
瑞馬(ずいま/ずいば・山口)　→　*常庸*(じょうよう・山口、俳人/戯作者)　Ｂ２２８９
吹万亭(すいまんてい)　→　*胡故*(ここ、吹万亭、俳人)　Ｃ１９４８
吹万堂(すいまんどう)　→　*大蕪*(たいぶ・鼠屋、俳人)　Ｃ２６１３
酔眠(すいみん・東園)　→　*基賢*(もとかた・東園ひがしぞの/藤原/園、大納言/歌)Ｃ４４３２

雖無(すいむ・是枝)　→　*貞至*(さだのり・是枝これえだ、商人/勤王)　Ｊ２０３０
酔夢(すいむ・阿波加)　→　*脩造*(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者)Ｘ２１８８
酔夢庵(すいむあん)　→　*澄月*(ちょうげつ、歌人、僧)　２８２１
瑞夢子(ずいむあん)　→　*普斎*(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人)　Ｂ３８９９
酔夢翁(すいむおう)　→　*蘭薫亭薫*(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌)Ｂ４８７８
酔夢閣(すいむかく)　→　*三馬*(さんば・式亭、戯作者)　２０５５
酔夢軒(すいむけん)　→　*澄月*(ちょうげつ;号、西山、浄土僧/歌人)２８２１
雖無堂(すいむどう)　→　*宮門*(みやと・海賀かいが、武術/勤王家)　Ｇ４１００

F2303 **酔茗**(すいめい・海保かいぼ、名;交/阮交)1788-1856*69*　江戸篆刻家/上京;銅鋳を修得、文具・花瓶制作、冤罪により入獄、のち深川に隠棲、瓢隠居福瓶居士と自称、
「印章字例考」「日本印章字例考」「印章字例考続」「摹印篆叢」著、
[酔茗(;号)の字/通称/別号]字;孚嘉、通称;隆平/瓢隠居福瓶居士(;自称)、別号;芥川かいせん

酔茗(すいめい・田能村)　→　*直入*(ちょくにゅう・田能村たのむら、絵師)　Ｋ２８３２
水明(すいめい;号)　→　*吐月*(とげつ;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｌ３１６５

I2362 **瑞明**(ずいめい;法諱、俗姓;松浦)1784-1857*74* 安藝厳島の僧/備中小田郡笠岡の真言宗遍照寺31世、1851(弘化3)遍照寺戒壇で教蔵院俊惠に傳法潅頂を授く、国学者,
[瑞明の通称/号]通称;庄七、号;観牛庵/七遷庵

酔茗軒(すいめいけん)　→　*水竹*(すいちく・中村なかむら、篆刻家)　Ｅ２３８５
水明楼(すいめいろう)　→　*青岡*(せいこう・志賀しが、藩士/詩人)　Ｉ２４１１
吹毛(すいもう・滝川/多々良)→　*一吹*(いっすい・多々良、軍記作者)　Ｃ１１８５

F2304 **瑞門**(ずいもん;法諱・実山じつざん;道号)?-?　備後の曹洞僧:御調郡向島の西提寺住職、諸国を行脚修業、特に筑前永泉寺を屢々訪問;寺記を著述、
1706「護法塵露篇」/07「筑前太平山永泉寺観世音記」著

水也(すいや・土居)　→　*水也*(みずや・土居どい、神職/記録)　４１９５

F2305 **水友**(すいゆう)　?-?　江戸住の俳人;1686仙化「蛙合かわずあわせ」入、
[飛ぶかはづ猫や追ひ行く小野の奥](蛙合;九番右18/洛北小野の里)

F2306 **睡友**(すいゆう;号)　?-?　元禄1688-1704頃京?の俳人;雑俳点者、
1694頃官柳軒の興行の点業を行う、「11月廿五日切」評

水雄(すいゆう・赤井)　→　*水雄*(みずお・赤井あかい、神職/国学者)　４１９２
水雄(すいゆう・青木)　→　*水雄*(みずお・青木あおき、神職)　Ｈ４１９８
綏猷(すいゆう・田中)　→　*綏猷*(やすみち・田中/小森、儒者/勤王)　Ｅ４５６６
遂幽(すいゆう・上甲)　→　*振洋*(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育)　Ｑ２２０１

F2307 **随友**(ずいゆう)　?-?　京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

2390 **随友**(ずいゆう・杉村すぎむら)　?-?　伊予松山古川の俳人;信徳門、1689「あら野」入、
1690言水「新撰都曲」4句入、91重徳「花見弁慶」/9不角「二葉之松」6句入/98「続猿蓑」入、
[唐崎やとまりあはせて初しぐれ](あら野;巻七名所)

随有(ずいゆう)　→　*馬貞*(ばてい・長野、医者/俳人)　Ｆ３６３４
随有(ずいゆう)　→　*如水*(恕水じょすい、滝川、儒者/俳人)　Ｃ２２６３
随有軒(ずいゆうけん)　→　*浄恵*(じょうけい、歌人)　Ｍ２１２１
随有軒(ずいゆうけん)　→　*宗恵*(そうけい・内海うつみ、商家/俳・歌人)Ｂ２５１８
水酉舎(すいゆうしゃ)　→　*呂風*(ろふう、俳人)　Ｃ５２３６
垂裕堂(すいゆうどう)　→　*梅所*(ばいしょ・唐金からかね/倉野、商家/詩文)Ｂ３６５３

F2308 **瑞璵**(ずいよ;法諱・玉崗ぎょくこう;道号、九華[老人];号)1500-78*79* 大隅伊集院一族/1537上洛、臨済僧;彭叔守仙門/足利住、1550足利学校復興:7世庠主(ようしゅ=校長)、仏儒に精通、詩文;「分韻双璧」、「足利学校易伝授書」著

随誉(ずいよ;法号)　→　*演智*(えんち;法諱・随誉、浄土僧/曼荼羅研究)Ｆ１３１７

2389 **吹葉**(すいよう)　?-?　俳人、1699荷兮「青葛葉」入

F2309 **水容**(すいよう・通称;野間屋忠右衛門)　?-?　江中期安藝広島の俳人:風律門/野坡門流、1767「こしかけ」編(風律跋)、[水引はたばねて売れや芹なづな](「こしかけ」)

遂庸(すいよう・阿部)　→　*遂庸*(やすつね・阿部あべ、幕臣/歌)　Ｅ４５７９

吹颺(すいよう・山本)　→　*楽所*(らくしょ・山本やまもと、藩儒)　Ｂ４８２２
F2310 **随庸**(ずいよう;名・伊藤いとう、通称;久兵衛)?-?　江中期享保1716-36頃尾張の船奉行所の手代?、
病気保養に古蹟山水を探訪、1722「尾張名勝志」、「海印名勝志」著
F2311 **随庸**(ずいよう・尾形おがた)　？－　？　江後期国学者;
「年中古事記」;片岡寛光ひろみつ[1778-1838]と共著
随庸(ずいよう;字)　→　*尭導*(ぎょうどう;法諱・随庸、真宗僧)　Ｏ１６３６
瑞要(ずいよう:法諱)　→　*竺関*(じくかん:道号・瑞要、臨済僧)　Ｑ２１３７
穂葉軒(すいようけん)　→　*倫里*(りんり・足立あだち、俳人/父追善集)Ｋ４９８３
垂葉堂(すいようどう)　→　*游刀*(ゆうとう、俳人)　Ｄ４６５０
酔雷坊(すいらいぼう)　→　*暁斎*(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師)　Ｎ１６８５
随楽(ずいらく;法名)　→　*輔熙*(すけひろ・鷹司/藤原、関白/攘夷論)Ｃ２３６１
酔楽斎(すいらくさい・移嶋散人、「天明水滸伝」)→　*正英*(まさひで・三島)Ｇ４０７１
翠嵐(すいらん・印南)　→　*博文*(ひろふみ・印南いんなみ、神職/教育)　Ｉ３７５６
翠藍(すいらん・桂川)　→　*国寧*(くにやす・桂川/6世、蘭方医)　Ｄ１７３１
酔蘭(すいらん・藤井)　→　*方亭*(芳亭ほうてい・藤井ふじい、蘭方医)　Ｃ３９３４
吹蘭閣主人(すいらんかくしゅじん)→*春嶽*(しゅんがく・松平慶永、藩主/詩歌)Ｊ２１３３
水巒舎(すいらんしゃ)　→　*片石*(へんせき・上野うえの、藩士/俳人)　Ｂ２７３２
翠蘭亭(すいらんてい)　→　*蔵澤*(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師)　Ｌ２５１４
水鯉亭侶業(すいりていりょぎょう)→　*侶業*(りょぎょう・水鯉亭、狂歌作者)　Ｊ４９７１
F2312 **水流**(すいりゅう・吉井よしい)　？－　？　京の俳人;1690言水「新撰都曲」4句/「遠眼鏡」入、
[臾かほ白し桜に夜汐よしほ汲む女](都曲みやこぶり;上129/夜桜に白く女の顔が浮かぶ)
(謡曲・松風;月に心は須磨の浦　夜潮を運ぶ海人乙女)
F2313 **翠柳**(すいりゅう・山中やまなか、別号;花木亭)1693-?　京の俳人;雑俳点者;知木門、1752「飛登梨言」編
2392 **翠流**(すいりゅう)　？－　？　狂歌、徳和歌後万載;1首(810;旋頭歌)、
[うちつけにおもてゞ人の物もうといふ　われそこにきかで居たるは何の耳ぞも]、
(訪問者の呼ぶ声に従者が気づかないので詠む;われは従者に向かって言う;汝)、
(本歌;うちわたす遠方をちかた人に物申す　我そのそこに白く咲けるはなにの花ぞも;
古今集十九旋頭歌1007よみ人しらず/古今では物申す我[;お尋ねする私]と解する)
翠柳(すいりゅう)　→　*礒の子*(いそのこ・岩下、歌人/絵師)　Ｆ１１８８
翠柳(すいりゅう・松平)　→　*容保*(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政)　Ｖ１５７７
水竜(すいりゅう・高橋)　→　*玉蕉*(ぎょくしょう・高橋たかはし、儒者/詩)　Ｐ１６０９
水竜(すいりゅう・江竜)　→　*清雄*(すがお・江竜えたつ/八木、歌人)　Ｉ２３１３
F2314 **随流**(ずいりゅう・ずいる;法諱・一法;字)1558-1636*79*　山城山科の浄土僧・鎌倉光明寺31世、
下総生実の大巌寺・常陸結城の弘経寺・鎌倉光明寺の檀林を歴住、松平忠直の帰依を受;
越前運正寺開山、増上寺了学の要請で再度大巌寺住寺;寺院復興と大巌寺版出版に尽力、
「本願直談鈔」「選択集直談鈔」「阿弥陀経秘直談鈔」「十八通私記」「秘直談」著、
1606(慶長11)「頌義序私聞書抄」著、
[随流の法名]　肇蓮社ちょうれんしゃ源誉/源誉
2304 **随流**(ずいりゅう;号・中嶋なかじま、名;勝直)1629-1708*80*　江前期京河原町通三条上ル町の俳人;
貞門山本西武門、撰集の編纂に尽力、高政ら談林俳人との俳諧論戦に参加、
晩年は雑俳の点業も行う、1661「水車集」73「鶯笛」編/79「誹諧破邪顕正」80「誹諧猿黐」著、
1692「貞徳永代記」著、「紙屋川水車千句」「百千鳥」著、
1676西鶴「俳諧師手鑑」入/82如扶「三ケ津さんかのつ」入/91江水「元禄百人一句」入、
[起きもせず寝もせで夜や冷こたつ](手鑑/伊勢物語;
起きもせず寝もせで夜を明かしては春のものとて眺め暮しつ)
[ゆがみ木の鏑矢の末や老の春](元禄百人一句)
[随流(;号)の通称/別号]通称;源左衛門、別号;松月庵/一源子
F2315 **随竜**(ずいりゅう・平沢ひらさわ、名;広之)1781-1833*53*　平沢随貞の孫、江戸西久保広小路の卜占家、
1812「卜筮枢要」15「卜筮捷径射覆卜淵」31「増訂医道便益」、「射覆柳葉」「射覆活要」、
「周易特解」「射覆初問筮」「奠辰堂一家言」「奠辰堂百人一筮」「和漢易疏」「行余筮言」著、

[随竜(;号)の字/通称/別号]字;士弘/博甫/篤夫、通称;左仲、別号;奠辰
随流(ずいりゅう・北川)　→　*正種*(まさたね・北川きたがわ、藩士/歌人)　Ｌ４０６２
瑞龍(ずいりゅう・赤松)　→　*瑞龍軒*(2代ずいりゅうけん、赤松、講釈師)　２３９４
翠柳庵文台(すいりゅうあんぶんだい)→　*餅花庵寸柳*(もちばなあんすんりゅう、狂歌)Ｂ４４５５
瑞竜院(ずいりゅういん;法号)→　*利長*(としなが・前田まえだ/菅原)　Ｎ３１１７
瑞竜院(ずいりゅういん;法号)→　*信明*(のぶあきら・松平、藩主/老中/詩)　３５８７
瑞竜院(ずいりゅういん;法号)→　*光友*(みつとも・徳川、尾張藩主/書画)　Ｅ４１０５
水流雲在主人(すいりゅううんざいしゅじん)→*棕隠*(そういん・中島なかじま、漢学/詩人)２５０４
翠柳軒(すいりゅうけん)　→　*十知*(十雉じゅうち・深沢、商家/俳人)　Ｙ２１０２
翠柳軒(すいりゅうけん・文台)→　*餅花庵寸柳*(もちばなあんすんりゅう、狂歌)　Ｂ４４５５
翠柳軒(すいりゅうけん・栗飯)→　*栗飯*(りっぱん、大阪狂歌作者)　Ｃ４９１５
翠柳軒(すいりゅうけん・蛙遊)→　*秀麿*(ひでまろ・鈴鹿わすずか/平佐、神職/歌)Ｊ３７９３

2393　**瑞龍軒**(初代ずいりゅうけん、滋野しげの、名;茂雅)1687-1784長寿*98*　江戸麻布の講釈師、読本作者/狂歌、
1744「たかし草」47「寿草」48「幸草」48「おかし草」49「虚実雑談集」著、
1756「駿話本別集」編/「慰草」「四いろ草」著、「武徳拾穂鈔」編、1783「万載狂歌集」入、
[初代瑞龍軒(;号)の通称/別号]通称;喜内、別号;恕翁じょおう、法号;瑞龍禅定門

2394　**瑞龍軒**(2代ずいりゅうけん、赤松あかまつ、別号;瑞龍/随宗)?-?　講釈師、1816逮捕、
「本読素人講釈」に評あり
随流軒(ずいりゅうけん)　→　*浄恵*(じょけい、歌人)　Ｍ２１２１
随流軒(ずいりゅうけん)　→　*吉豊*(よしとよ・種田たねだ、軍記作者)　Ｆ４７０８
随柳軒(ずいりゅうけん)　→　*徳恒*(とくこう・高橋、書肆/俳人)　Ｋ３１６９
睡竜斎(すいりゅうさい)　→　*允信*(さねのぶ・遠藤えんどう、藩士/宮司)　Ｌ２０２１
随流斎(ずいりゅうさい)　→　*宗左*(宗佐・2世そうさ・千せん、久田、茶人)Ｈ２５３４
瑞立斎(ずいりゅうさい)　→　*月尋*(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子)Ｂ１８０８
翠柳亭(すいりゅうてい)　→　*梅鶩*(ばいが、茶番芸)　３６８１
翠柳亭(すいりゅうてい)　→　*春雄*(はるお・唐木からき、商家/国学/歌)　Ｊ３６９７

F2316　**遂良**(すいりょう・鈴木すずき、名;重任/重陸、重時男)1699-1745*47*　伊予松山藩士/兵学者、
風山流兵法学:脇坂正興門、1720兵法指南免許・21必勝の奥義を受領、武芸百般に通ず、
諸家の書を渉猟書写;蔵書多数、河原貞頼と交流、帰藩後子弟に講授、
「風山先生伝並伝籍誌」「兵法和漢辨」著、
[遂良(;字)の通称/号]通称;市大夫/惣右衛門、号;似水/之幹/估畢堂

2395　**遂良**(すいりょう・松)　?-　?　詩人:宮瀬竜門門、1753「竜門先生文集」初篇編
遂良(すいりょう・熊野)　→　*遂良*(かつよし・熊野くまの、藩士/連歌衆)　Ｕ１５５４
遂良(すいりょう・鈴木)　→　*重矩*(しげのり・鈴木すずき、国学/歌人)　Ｚ２１１７
遂良(すいりょう・阿部)　→　*遂良*(やすよし・阿部あべ、幕臣/歌人)　Ｅ４５８０

F2317　**瑞麟**(ずいりん:道号・元聖げんしょう:法諱)1660-1738*79*　上州の黄檗僧;潮音道海門/1688(元禄元)嗣法、
1692普門寺住持/1728江戸の瑞聖寺13世;先代に炎上した諸伽藍の再建に尽力、
「瑞麟和尚詩偈」著
随流(ずいる;法諱)　→　*随流*(ずいりゅう・ずいる;法諱・一法、浄土僧)Ｆ２３１４
睡嶺(すいれい・菊池)　→　*宗雨*(そうう・菊池きくち、俳人)　Ｇ２５０４
翠嶺(すいれい・楢崎)　→　*誠美*(のぶよし・楢崎ならさき/磯部、歌人)　Ｊ３５４４
翠嶺(すいれい・原)　→　*信好*(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏)Ｊ３５６９
翠齢(すいれい・塚越/越)　→　*惣太郎*(荘太郎そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘)Ｉ２５４０
翠嶺軒(すいれいけん)　→　*伴存*(ともあり・畔田くろだ、国学/本草)　Ｐ３１１７

F2318　**水簾**(すいれん;号、別号;大虫/老大虫)?-?　1803存　武蔵の俳人、曲直庵亀文と交流、
1718「芭蕉発句選」「曲直庵発句集」編
瑞蓮社順誉(ずいれんしゃじゅんよ;法名)→*徹定*(てつじょう;法諱、浄土僧)　Ｃ３０４４
粋蘆(すいろ・坂井)　→　*居平*(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌)Ｆ４５９３
翠麓(すいろく・成島)　→　*東岳*(とうがく・成島、幕臣/儒者/歌)　Ｃ３１２０
酔露軒(すいろけん、酔露堂)→　*菅雄*(すがお・河瀬かわせ、医者/歌学者)　Ｂ２３６０

水廬朝(すいろちょう)　→　*廬朝*(ろちょう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人)Ｃ５２１３
F2319 **随和**(ずいわ・大友おおとも)　？－　？　江後期寛政文政1789-1830頃常陸平潟の俳人;
勿来関の東南に住、1820「多賀の浦集」著/文政1818-30頃「俳諧吹寄・続編」著、
[随和(;号)の通称/別号]通称;有尚、別号;敬五亭
翠隈亭(すいわいてい)　→　*古棠*(こどう・高橋/山口、旅館業/俳人)Ｎ１９１８
翠湾(すいわん・瀬見)　→　*善水*(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人)　Ｈ４７２８
嵩(すう・吉永)　→　*直雄*(なおたけ・吉永、歌人)　Ｂ３２５３
嵩(すう・萱生)　→　*由章*(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌)Ｊ４７７２
嵩(すう・森)　→　*退堂*(たいどう・森もり、藩儒/詩文)　Ｋ２６７７
嵩(すう・たかし?・吉永)　→　*秀俊*(ひでとし・吉永よしなが/松崎、神職/歌)Ｍ３７３５
崧(すう・草鹿砥)　→　*宣隆*(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学)　Ｂ３５７４
崧(すう・越智おち/越えつ)　→　*高崧*(こうすう・越智/修姓;越、眼科医)　Ｊ１９９８
崧(すう・辻元)　→　*崧庵*(すうあん・辻元つじもと、幕府医官)　Ｆ２３２０
崇(すう/たかし・塚村)　→　*嘉伝太*(かでんた・塚村つかむら、里正/歌)　Ｏ１５１３
崇(すう/たかし・小室)　→　*虚斎*(きょさい・小室こむろ、儒者/詩人)　Ｐ１６５１
崇(すう・三品)　→　*崇*(たかし・三品みしな/高橋、儒者/文教)　Ｗ２６９１
雛(すう・羽生)　→　*凌雲*(りょううん・羽生はにゅう、医者)　Ｇ４９３９
F2320 **崧庵**(すうあん・辻元つじもと、名;崧、藩医辻元昌徳男)1777-1857*81*　早く父死別、
医者;多紀元徳・元簡門、儒;山本北山門、江戸下谷長者坊に医開業;名声を得、
1837幕府医学館講師、47幕府医官、将軍家侍医/法眼/54法印、
「脚気集要論」「淡飲質疑録」「歳寒堂遺稿」著、
[崧庵(;通称)の字/号]字;山松、号;冬嶺/為春院、法号;為春院
蒭庵(すうあん・半井)　→　*瑞成*(よしなり・半井なからい、医者/歌人)　Ｏ４７２７
崇永(すうえい・雪江)　→　*氏頼*(うじより・佐々木/源、歌/連歌)　１２５９
崇永(すうえい・並河)　→　*誠所*(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者)　Ｉ２４７４
崇易叟(すうえきそう)　→　*贅庵*(ぜいあん・桜田さくらだ、儒者)　Ｈ２４３３
崇演(すうえん;法名)　→　*貞時*(さだとき・北条/平、執権/歌人)　Ｃ２００８
F2321 **枢翁**(すうおう;道号・妙環みょうかん;法諱、諡号;仏寿禅師)1273-1354*82*　下野の臨済僧;那須雲巌寺入、
高峰顕日門;嗣法、雲巌寺6世/建長寺219世/円覚寺21世、建長寺内雲外庵・武蔵松蔭寺開山、
武蔵越生の正法寺・相模の南光寺を開山、「仏国国師語録」編
数翁(すうおう・阿部)　→　*知翁*(ちおう・阿部あべ、藩士/和算家)　２８５０
菘翁(すうおう)　→　*海屋*(かいおく・貫名、書画)　１５９１
雛翁(すうおう・松岡)　→　*政之助*(まさのすけ・周布すふ、藩政改革)　Ｆ４０４８
雛屋(すうおく)　→　*立志*(6世りゅうし・関、俳人)　Ｅ４９４６
F2322 **嵩鶴**(すうかく・桜井さくらい、名;素絢)?-?　江後期天保1830-44頃江戸根津裏門住の絵師、
1833-35「嵩鶴画談」、「清筠日抄」著、
[嵩鶴(;号)の字/別号]字;礼卿、別号;清筠舎せいいんしゃ
雛鶴(すうかく・柏原)　→　*正康*(まさやす・柏原かしわばら、国学者)　Ｏ４０８４
崇廓(すうかく;法諱)　→　*崇廓*(そうかく;法諱、真宗本願寺派学僧)Ｇ２５５９
2396 **崧岳**(雛岳すうがく・鳥山とりやま、名;宗成)1705-74*70*　越前府中の医学;上京し香川修庵門、
儒者;古義堂・伊藤東涯門/経史を修学/詩人、1756大阪住;混沌社の社友、詩を業とす、
「浪華撃壌集」「浪華名流花月吟」「崧岳文集」「笑明詩選」「名流春遊編批評」「邀翠館集」著、
1764「名流春遊編」編/64「韓詩外伝引詩篇目」73「垂葭詩稿」著、
[崧岳(;号)の字/通称/別号]字;世章、通称;宇内/右門、別号;雛岳/碧翁/垂葭館
2397 **嵩嶽**(すうがく・萩原はぎわら、名;善韶、大麓の長男)1790-1829*40*　江戸両国薬研堀儒者(家学):講説業、
「嵩岳詩話」「嵩岳文話」「楽亭詩文集」「楽亭小録」「学庸私説」「国語説」「坐右随筆」、
「列子考」「論語私説」「左伝解閉」「詩経集解」著/1820「修省録」24「孟子私説」著、
[嵩嶽(;号)の字/通称/別号]字;文華、通称;駒太郎/英助/英輔、別号;楽亭、法号;嵩嶽院
崇岳(すうがく・松平)　→　*信明*(のぶあきら・松平、藩主/老中/詩歌)３５８７
数学院(すうがくいん;法号)→　*安明*(やすあき・会田あいだ、和算家)　４５８０

L2310 **季和**(すえかず・北村きたむら/本姓;源)?-?　　江後期:歌人、
雄山閣編「御府内備考」正編の浄書の1人(島田筑波編/内山毘也・山本思明らと浄書)、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[海原や波のはてなる雲の峰こや夕月の入るかたの山](大江戸倭歌;雑1654/海上雲)

D2360 **鄒可潭**(すうかたん、本名不祥)?-　?　　狂詩、1821棕隠「太平三曲」に「大風雨中偶作」入
中島棕隠説あり　→　*棕隠*(そういん・中島、儒/詩人)　　２５０４

J2358 **崇寛**(すうかん;法諱・道号;剛室/号;**聴雪**)1627-1697*71*　江前中期;金地院の臨済僧;最嶽元良門、
1673(延宝元)南禅寺僧司/80(寛文8)南禅寺281世住寺、91(元禄4)特賜;仏慈普済禅師、
1697(元禄10)退任;翌日没、詩人;1690重信催[南部家桜田邸詩歌会]参加、
[乃すなはち是れ仙家の避暑台　雨晴れたる庭際ていさい月奇なる哉、
祇ただ炫炫げんげんたる草頭の露を将もつて　広寒くわうかん宮戸きうこに移し得え来たる]、
(桜田邸詩歌会/聴雪名;対する歌は南部行信[重信男])
[剛室崇寛の別法諱]元寛

数館(すうかん・桜田)　→　*古秀*(こしゅう・八田はった、絵師)　　Ｍ１９７５
崇義(すうぎ・海江田/日下部)→　*訥斎*(とっさい・日下部、儒者)　　Ｏ３１５１
数久(すうきゅう・西川)　→　*可昌*(かしょう・大文字屋、俳人)　　Ｌ１５９１
崇暁(すうぎょう;法名)　→　*貞時*(さだとき・北条/平、執権/歌人)　　Ｃ２００８
崇業院(すうぎょういん)　→　*崇広*(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港)　　Ｎ２６１１
芻蕘子(すうぎょうし)　→　*八郎*(はちろう・清河/清川/齋藤、教育/尊攘)Ｆ３６０１
数奇老人(すうきろうじん)　→　*定保*(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学)Ｑ２０９２
崇金(すうきん)　→　*崇金*(すうこん・すうきん・しょうきん、僧/歌人)　　Ｆ２３２５
枢蹊(枢璟すうけい;字)　→　*日然*(にちねん;法諱・事妙院、日蓮僧)　　Ｄ３３１２
枢卿(すうけい・館)　→　*柳湾*(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人)Ｆ４９９３
嵩卿(すうけい・英)　→　*一珪*(いっけい・英はなぶさ、絵師)　　Ｈ１１０１
崧渓(すうけい・菊池)　→　*黄山*(こうざん・菊池きくち/増田、儒者)　　Ｊ１９２１
枢憲(すうけん)　→　*日蒼*(にっそう、後藤竜斎、日蓮僧/還俗仏教)Ｅ３３９３

I2363 **崇源**(すうげん;法諱・号;禅柱)?-1820　　陸奥盛岡の臨済宗東禅寺17世、歌人;日野家入門
崇元(すうげん;法名)　→　*公賢*(きんかた・洞院とういん、太政大臣/歌)１６５９
崇賢門院(すうけんもんいん)　→　*崇賢門院*(すけんもんいん、仲子、後円融天皇母/歌)２３９８
崇五(すうご;法諱)　→　*竺隠*(じくいん;道号・崇五;法諱、臨済僧)Ｑ２１３４
崇広(すうこう・吉川)　→　*崇広*(たかひろ・吉川よしかわ、医者/俳人)　　Ｎ２６０６
崇広(すうこう・松前)　→　*崇広*(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港)　　Ｎ２６１１
崇広(すうこう・毛利)　→　*斉広*(なりとお・毛利、藩主/文筆)　　Ｈ３２７１
崇広(すうこう・阿部)　→　*崇広*(たかひろ・阿部あべ、儒/歌)　　Ｖ２６０1
崇広(すうこう・本島)　→　*崇広*(たかひろ・本島もとじま、国学者)　　Ｚ２６９６
崇光天皇(すうこうてんのう)　→　*崇光天皇*(すこうてんのう、光厳天皇皇子)　Ｄ２３２９

F2324 **崇高堂**(すうこうどう)　?-　?1799存　　尾張の文筆家、1800「大相撲綽号出所記」著
崇広堂(すうこうどう)　→　*澄元*(澄玄ちょうげん・太田/岩、本草家)　Ｉ２８１２

2399 **嵩谷**(すうこく・高こう)　1730 - 1804*75*　　絵師;英一蝶(2世)門、勝川春章/英一珪の師
崇古道人(すうこどうじん)　→　*粼斎*(りんさい・幡鎌はたかま、儒者)　　Ｋ４９２９

F2325 **崇金**(すうこん・すうきん・しょうきん;法名)?-?　　僧;法師/歌人:1384成立「新後拾遺集」入;749、
[忘れずよ旅を重ねて塩木つむ阿漕が浦になれし月影](新後拾;雑秋749)
崇言(すうごん;法諱)　→　*崇言*(そうごん;法諱、真宗大谷派僧)　　Ｈ２５３２
崇巌院(すうごんいん)　→　*義行*(よしゆき・松平/徳川、藩主/和漢学)Ｈ４７８８
数斎(すうさい・佐藤)　→　*解記*(げき・佐藤、縮布商/和算家)　　Ｇ１８８６
数斎(すうさい・毛利/武田)→　*謙蔵*(けんぞう・武田/毛利、歴算家)　　Ｋ１８７４

F2326 **嵩山**(すうざん:道号・居中ごちゅう/きょちゅう;法諱、大本禅師、俗姓源)1277-1345*69*　遠州吉良の臨済僧;
高峰門、1318-23入元、帰国;1332南禅寺12世/建仁寺25世/円覚寺20世/44建長寺27世、
「嵩山和尚語録」「少林一曲」、「嵩山集」著

B2300 **嵩山**(すうざん・波多/波田はた/本姓;秦、名;兼虎)1735-1785*51*　長門阿武郡須佐儒者:萩明倫館廩生、

山根華陽門、北固ほくこの弟、明和1764-72頃萩藩国老益田家に出仕;儒臣;子弟に教授、
徂徠学を信奉/詩文・和書・兵書に精通、「嵩山稿」著、
[嵩山(;号)の字/通称]字;士熊/子熊、通称;熊介/熊助

F2327 **嵩山**(すうざん・浅野あさの、名;文驥、文竜男)1764-1830*67* 福井藩医;1784父の跡を継承;侍医/司薬、
1788奥医師;藩主に近侍/藩の医学所済世館創設に尽力/1828致仕、「灃陽斎随筆」、
[嵩山(;号)の字/通称/諡号]字;士徳、通称;道有、諡号;維嶽先生、文彝の父

崇山(すうざん・滝川) → *有乂*(ありはる・滝川、和算) Ｆ１０６４
崇山(すうざん・山口) → *志道*(しどう・山口、国学者/神代学) Ｖ２１２
嵩山(すうざん;号) → *道振*(どうしん;法諱・嵩山、真宗僧) Ｆ３１６３
嵩山(すうざん・池田) → *嵩山*(こうざん・すうざん・池田、藩士/医者) Ｊ１９１４
嵩山杜多(すうざんとた;号)→ *万智*(ばんち;道号・要門;法諱、曹洞僧) Ｉ３６４０

F2328 **崇芝**(すうし/そうし;道号・性岱しょうたい;法諱)1414-96*53* 三河の曹洞僧:初め遠州大洞院喜山性讃門、
備中洞松寺の茂林芝繁門/1449嗣法、のち洞松寺住持、1455遠州高尾山に石雲院開山、
1491傑老斎に退隠、1482「茂林芝繁和尚行録」編

崇実(すうじつ:法名) → *実夏*(さねなつ・洞院とういん、内大臣/歌人)Ｄ２０４０
雛獅豊国(すうしほうこく) → *国貞*(初世くにさだ・歌川、3世豊国、絵師)１７２９
陬寂(すうじゃく:法名) → *保光*(やすみつ・土御門/藤原/柳原、廷臣)Ｄ４５１４
崇寿(すうじゅ;法名) → *満高*(みつたか・六角/佐々木/源、武将/守護)Ｄ４１７１
宗順(すうじゅん;法諱) → *逆翁*(げきおう;道号・宗順そうじゅん、曹洞僧)Ｇ１８８８
数女(すうじょ) → *数女*(かずじょ、歌人) Ｔ１５２８
雛助(すうじょ、俳名) → *小六*(初世ころく・嵐、歌舞伎役者) Ｅ１９６２
雛助(すうじょ) → *雛助*(初世ひなすけ・嵐、初世小六男) Ｅ３７２８
崇松(すうしょう;法諱) → *衡嶺*(こうれい;道号・崇松、曹洞僧) Ｂ１９８１
嵩松(すうしょう、画号) → *木網*(もくあみ・元もとの、狂歌) ４４０２
嵩松(すうしょう、画号) → *元木網*(もとのもくあみ・渡辺/、狂歌師) Ｄ４４７５
崇信(すうしん/そうしん;法諱)→ *月筌*(げっせん;字・崇信、真宗僧/宗典)Ｈ１８１４
嵩振(すうしん・牧) → *嵩振*(たかふる・牧まき、藩士/歌人) Ｎ２６１６

F2329 **崇世**(すうせい) ? - ? 僧;法師/連歌作者、1356成立「菟玖波集」1句入、
[身を捨て人にもとの名もなし](菟玖波;十五雑/前句;[門文や]あるかひもなく迷ふらん)

F2330 **嵩雪**(すうせつ・佐脇さわき、名;貫多、嵩之男)1736-1804*69* 江戸駒込の絵師;父門、「中岳斎画譜」著、
[嵩雪(;号)の通称/別号]通称;倉治、別号;中岳斎/仰止楼/翠雲堂

崇全(すうぜん/しゅうぜん) → *崇金*(すうこん・すうきん;法名僧、歌人) Ｆ２３２５
菘叟(すうそう) → *海屋*(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) １５９１
数蔵(すうぞう・小森) → *義貞*(よしさだ・小森こもり、和算家) Ｋ４７３７

F2331 **嵩台**(すうだい・巌渓/岩渓いわたに、修姓;巌/岩/嵒いわ、名;恭)?-? 江中期京の儒者/医者、
医;吉益東洞[1709-73]、1763東洞「建殊録」編(見聞した師の治験54例収集;万病一毒論)、
1763「鶴台先生問東洞先生書」編(鶴台は儒者の滝鶴台[1702-73])、
1768詩集「海籌集」、「明祝寿詩集」著、
[嵩台(;号)の字/通称]字;敬甫、通称;帯刀

2305 **崇伝**(すうでん;法諱・以心いしん;道号、一色秀勝男)1569-1633*65* 父は足利義輝の家臣、
足利滅亡後;臨済宗南禅寺の玄圃霊三門;出家/金地院の靖叔徳林門/嗣法、臨済学僧、
1605鎌倉建長寺住寺/南禅寺住持;復興に尽力/金地院住、西笑承兌の推挙で徳川家康の臣、
幕府僧録司となり;外交・寺社行政・文教政策に参画/諸法度・キリスタン禁令制定に関与、
1610駿府に金地院を開く;家康没後1618江戸芝に金地院を開く、1626国師号を勅賜、
江戸金地院に没、「桂亭記」「異国日記」「一渓道三記」「金尿」著、1512「異国近年御書草案」編、
1626「寛永行幸記」29「桂光院輓詩並序」、「平鮮策」編、「本光国師日記」「本光国師語録」著、
聯句;1609慶長十四年三月十五日清正昌琢等漢和聯句/1613漢和聯句・29漢和聯句参加、
[以心崇伝の通称/号]通称;金地院の宰相/黒衣の宰相/伝長老、号;円照本光国師

嵩濤(すうとう・高こうすうとう/奥田)→*額輔*(初世がくすけ・絵馬屋えまや、絵師/狂歌)Ｅ１５７４
崇道尽敬皇帝(すうどうじんけいこうてい:追号)→ *舎人親王*(とねりしんのう) ３１５４

崇忍(すうにん;法諱・東山)→ *東山*(とうざん:道号・崇忍、臨済僧)　Ｂ３１０９
嵩年(すうねん・毛利)　→　*梅園*(ばいえん・毛利/野里、本草学/画)　３６６６
嵩年(すうねん・久野)　→　*二栗*(じりつ・久野くの、篆刻家)　Ｍ２２９７
崇孚(すうふ→そうふ)　→　*太原*(たいげん・崇孚そうふ;法諱、臨済僧)　Ｊ２６８７
崇父(すうふ・岡田)　→　*秀厚*(ひであつ・岡田おかだ/田熊、国学/神職)Ｉ３７９３
嵩夫(すうふ・荒木)　→　*東水*(とうすい・荒木あらき、書家)　Ｆ３１７４
ズーフ　→　*ドゥーフ*（H. Doeff、蘭日辞典)　Ｈ３１０１
崇文軒(すうぶんけん)　→　*庄太郎*(しょうたろう・毛利田/森田、書肆)Ｕ２２１１
崇文公(すうぶんこう)　→　*斉広*(なりとお・毛利、藩主/文筆)　Ｈ３２７１
崇文堂(すうぶんどう)　→　*六左衛門*(ろくざえもん・前川、書物問屋)　５２８３
崇保(すうほ→みつやす・賀茂)→　*保遠*(やすとお・賀茂/岡本、廷臣/神職)Ｃ４５１９

B2303 **崇峰**(すうほう・香山かやま、名;大常/太常)?-?　江中期播磨赤穂の儒者:京の三宅家に修学、
郷里で開塾、のち伊勢の某(長島?)藩に出仕、「播磨名山志」「赤穂義人始末紀事」著、
「播磨風土記補欠」著、「崇峯遺稿」、日本詩選に1首入、
[崇峰(;号)の字]　国典/玉典
崇珉(すうみん/そうみん・塚越/越)→*惣太郎*(荘太郎そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘)Ｉ２５４０

B2305 **崇明門院**(すうめいもんいん・名;禖子、後宇多天皇皇女)?-? 1338存　母;宗尊親王女の掄子りんし女王、
邦良親王(後二条天皇皇子;1300-26)妃/26親王没で出家/1331准三宮;院号宣下、
1333隠岐から帰還の後醍醐天皇により院号停止/1338光明天皇勅により院号を復す、
歌;新千載1409、[藤葉とうよう集]入、
[うき人のいそぐ別になさじとやわれさへ鳥のねにかこつらん](新千載;十三恋1409)
[うつろふを花のつらさになさじとてさそふ嵐やなさけなるらん](藤葉;春77)

F2332 **数也**(すうや・平尾ひらお、名;吉章、原明男)1769-1833*65*　祖は渡来人の曹数也、
有楽流茶道;山本道伝門、1789尾張名古屋藩茶頭並/数寄屋坊主組頭並/数寄屋頭並,
1806数寄屋本役/22徒格以上/33御目見以上、名古屋藩茶道方(のちの数寄屋方)平尾家6世、
陶芸にも長ず、「茶道枝折」著、粕谷常斎・中島円弥の師、
[数也(;通称)の別通称/号]別通称;吉次郎/兼弥、号;心空庵/始流軒/及々斎/及叟/哉翁、
法号;心空院
嵩雄(すうゆう・檀)　→　*嵩雄*(たかお・檀だん、歌人)　Ｌ２６６２
数遊堂(すうゆうどう)　→　*謙蔵*(けんぞう・武田/毛利、歴算家)　Ｋ１８７４

B2304 **嵩陽**(すうよう・小国おぐに、名;武英、玉淵男)1824-65*42* 長門須佐村の儒者;昌平黌入学/安井息軒門、
1851帰郷;萩藩須佐領主益田親施に出仕/郷校育英館の学頭、吉田松陰と交流、
文久元治1861-65頃主君親施に随い上洛;国事に奔走、「柴廼夕烟」著、
[嵩陽(;号)の字/通称/別号]字;武彝、通称;剛蔵/融蔵、別号;豊所、
数理堂(すうりどう)　→　*謙蔵*(けんぞう・武田/毛利、歴算家)　Ｋ１８７４
崇陵(すうりょう・本多)　→　*忠寛*(ただひろ・本多ほんだ、藩主)　Ｑ２６７２

B2306 **菘廬**(すうろ・松田まつだ、名;順之、英棟男)1783-1852*70*　叔父松田勝章の養子/高崎藩士、儒者、
朱子学;古賀精里門、高崎藩右筆/世子侍読、1839「迂仙詩文稿」51「芸林蒙求初編」、
「高城紀行壬辰」著、「菘廬遺稿」、
[菘廬(;号)の通称/別号]通称;多助/多甫、別号;迂仙/迂仙舎/蓼蔵舎

B2307 **季顕**(すえあき・四辻よつじ/室町/本姓;藤原、実郷男)1353-? 1395存　母;内大臣三条公秀女、廷臣;
1372従三位/73左兵衛督/75参議/81正三位;権中納言/87正二位/辞任・還任を繰り返す、
1394(応永元)権大納言、95出家、歌;新続古今1802(歳暮の心を詠む)、
[なにかせんありてうき身の年の暮惜しむは人のならひなれども](新続古;雑1802)、
[季顕(;名)の初名/法名]初名;公全、法名;祐元/祐雅

F2333 **末昭**(すえあき・吉野よしの)　?-　?　江中期壱岐壱岐郡箱崎社の大宮司、
1740「天満宮利生記」、「神道籤祓」著

I2336 **季明**(すえあき・木村きむら、旧姓;佐々木)1716-97*82* 讃岐高松の国学者、守山藩・高松藩に出仕、
高松藩重臣;家老、平賀源内に磁針器(方位磁石)の作製を依頼(1755作製)、
長キセルを持つ源内の顔絵を描く、

[季明(;名)の通称] 亘
J2313 **末晨**(すえあき・福島ふくしま/本姓;度会、旧姓;亀田)1727-60*34* 伊勢度会郡の外宮権禰宜、和学者、
[末晨(;名)の通称/号]通称;大二郎/頼母、号;物令
F2334 **季顕**(すえあき・真崎まさき、長右衛門男)1841-1917*77* 羽後秋田藩士;戊辰戦争に参加、文筆家、
維新後;佐竹家の家従、古記録を収集筆写、蘭画・茶道にも精通、
「錦綉録」「秋田の落葉」「秋田文苑」「酔月堂叢書」「酔月堂漫録」著、
[季顕(;名)の通称/号]通称;勇助、号;海鷗/酔月堂/石翁/石癖頑夫
季明(すえあき・大高坂) → *芝山*(しざん、大高坂おおたかさか、藩儒/南学)Ｄ２１７１
季明(すえあき・大田) → *愚渓*(ぐけい・大田おおた、儒者) Ｃ１７３５
季明(すえあき・細川) → *宗春*(そうしゅん・細川、医者/随筆) Ｈ２５８７
季彬(すえあき・伊地知) → *季安*(すえやす・伊地知いぢち、藩士/記録) Ｆ２３７２
末晨(すえあき・亀田/高田)→ *武泰*(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職)Ｎ２６５５
末彰(すえあき・榎倉/福井)→ *端隠*(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻)Ｔ２６１５
I2317 **季顕**(すえあきら・小野おの、旧姓;原田)1776-99早世*24* 備中倉敷の庄屋、国学/歌;井上夏鼎ひろさだ門、
妻;讃岐豊田郡の平田屋重やえ(正子まさこ/結婚後夫と同門の歌人)、
[季顕(;名)の字/通称/号]字;世甄せいけん、通称;孫太夫、号;等公/籬霞
L2317 **季有**(すえあり・安倍あべ/姓;山井、季任2男)1732-83*52* 母;安倍季福女、京の楽人(安倍家本流)、
従五下左兵衛大尉/59従五上/63周防守/67正五下/75従四下/79肥後守,季文・晴礼の父、
[季有(;名)の通称]肥後守
J2357 **季氏**(すえうじ・藤原ふじわら、有季男)?-? 鎌倉南北期廷臣;能登守/左近大夫・将監(尉)、
正五下、出家;法名実阿、季兼・定氏・季高の兄弟、季連(季村男/能登守・左衛門尉)の養父、
歌人:1336住吉法楽和歌参加(5首)、
[こよひこそ秋の二夜のなごりとて月も心と名はをしむらむ](住吉法楽;25/9月13夜)
[きぬたたき夜さむの露のたまくらにうたぬ衣も月ぞかさなる](同;27)
L2316 **末枝**(すええだ・ほつえ・源みなもと)?- ? 江中後期;歌人、幕臣?
本居大平撰「八十浦の玉」下巻下入、
[天の海はや月の船榜ぎ出でなかくさふ雲の浪たたぬ間に](八十浦;890)
末枝(すええだ→ほつえ・糟谷)→*武文*(たけふみ・糟谷かすや/加須屋、藩士/国学)Ｗ２６４６
B2308 **季雄**(すえお・小倉おぐら/本姓;藤原、実教男)1289-1336*48* 鎌倉期廷臣;1308(延慶元)従三位/左中将、
1310正三位/11参議/12左兵衛督/右衛門督/従二位/13権中納言/16正二位/17辞任、
歌人;1315為兼[詠法華経和歌]参加/1321-26(元亨正中)頃「亀山殿歌会」「内裏歌会」参加、
「小倉季雄詠草」「七夕御会」編、1330北野宝前和歌参加/1345?・藤葉集(父の編纂/6首入)、
続現葉集・臨永集入、勅撰9首;続千載(233/420)続後拾(223)風雅(638)・
新千(409/502/1478)新拾(1300)新後拾(1041)、季孝・公脩きんなが・公熙・実教女(4人)の兄弟、
[我にこそつれなしとても時鳥かたぶく月にねをばをしまじ](続千載 : 夏233)
[昨日までまたれしものを山桜花に日数をまたをしむかな](藤葉;春54)
J2305 **季夫**(すえお・平尾ひらお、)1824- 1902*79* 大坂の国学者/歌人;香川景樹門
J2306 **季雄**(すえお・平山ひらやま/本姓:藤原)1836-1900*65* 薩摩鹿児島藩士/絵師;長谷川玉峰門、
さらに塩川文麟・甲斐東溪・松山隆阿弥門、国学者;1857平田銕胤門、59精忠組に参加、
1862島津久光の中小姓;上京/63薩英戦争の西瓜売隊/68鳥羽伏見戦参加/69種子島地頭、
1872美々津県典事/77西南戦争西郷軍の専使/79鹿児島県御用掛庶務課記録掛、
1884宮内省御用掛侍医局出仕/東京住、
[季雄(;名)の初名/通称/号]初名;季実、通称;三次/竜雪/竜助、号;千穂せんすい/**東岳**
季雄(すえお・堀) → *季雄*(ときかつ・堀、方言研究) Ｊ３１０５
季雄(すえお・桑原) → *女媒*(じょばい・桑原くわばら、医/俳人) Ｃ２２８９
F2336 **末起**(すえおき・福井ふくい/本姓;度会わたらい、末祐男)1636-89*54* 伊勢下之久保神職;外宮神官、正四下、
1686「伊勢外宮御師福井土佐由緒」著、
[末起(;名)の通称] 壱岐/与左衛門/土佐
I2331 **季興**(すえおき・河村かわむら、)1821-1864刑死*44* 京の三条西季知家諸大夫、歌人、尊攘活動家、
1863(文久3)季知ら七卿落に随従し長門へ/主命で京に潜入を試み捕縛;

1864(元治元)7月六角獄で斬殺、
[季興(;名)の通称]石見守/筑前守/左兵衛大尉/能登守
B2309 **季景**(すえかげ・源みなもと;文徳流、季国男)?-? 平安末鎌倉期廷臣;六位/安徳天皇春宮坊帯刀;
歩射木鳥/1195正六上;右衛門少尉;父を継嗣、後鳥羽院初度北面、
歌人:1201和歌所影供歌合参加、新古今1779、
[同じくはあれないにしへ思ひ出いでのなければとてもしのばずもなし]、
(新古今;雑1779/思ひ出では喜ばしい思い出)
F2337 **末景**(すえかげ・宇多うだ) ? - ? 戦国江前期肥後熊本の砲術家:
1543種子島流砲術;梶原景末門、宇多長門流を創始、「宇多流鉄炮伝受書」著、永嶺直定の師、
[末景(;初名)の別名/通称]別名;忠政、通称;長門守
季和(すえかず・賀来) → *飛霞*(ひか・賀来かく、医者/本草家) ３７４０
末一(すえかず・吉野) → *秀政*(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) Ｄ３７８１
末員(すえかず・亀田/春木)→ *房光*(ふさみつ・春木/度会、神職/国学) Ｃ３８２７
B2310 **季方**(すえかた・姓不詳、藤原菅根男か?)?-? 平安前期廷臣;
菅根すがね[856-908]男とすると;従四上右馬頭(元方・醍醐天皇更衣淑姫の兄弟)、
歌;913(延喜13)宇多院「亭子院歌合」入、
[いそのかみ布留ふるの山辺やまべの桜ばな去年こぞみし花の色や残れる](亭子院歌合;春左7)
(廿巻本は是則の作/夫木抄は伊勢の作とする)
B2311 **季賢**(すえかた・源みなもと;醍醐流)?- ? 南北期廷臣;五位丹後守(一説に丹波守)、
歌人、新拾遺813、連歌;菟玖波集3句入、
[行き暮れぬこやに一夜の宿とひて難波の蘆のかりねをやせん](新拾遺;九羈旅813)
F2338 **末質**(すえかた・福井ふくい/本姓;度会、末雅男)1693-1763*71* 伊勢下之久保の神職;外宮神官/正四下、
1748「中臣祓合類鈔」51「神社抜萃録」58「異同説録」著、
[末質(;名)の通称] 友之丞/左門/匠作/将作
I2314 **末方**(すえかた・烏帽子えぼし、通称;権之助)?-1807 伊勢度会郡の神職;内宮日祈宮内人、
国学;本居宣長門
F2339 **季賢**(すえかた・太郎館たろうだち/本姓;荒木田、太郎館季寿男)1819-95*77* 伊勢神宮神官;
内宮清酒作内人、国学:平田篤胤・八羽光穂門/歌学に通ず、伊勢浦田に住、「詠史集」編、
1838「天保九年賀正参府記」/49「嘉永二年尾州名古屋勤記」著、
[季賢(;名)の通称/号]通称;源三郎/右京/豊前/石見/山城、太郎季賢、号;浜荻園
季方(すえかた・百野/青木)→ *興勝*(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) Ｃ１４８７
末勝(すえかつ・亀田) → *佳彦*(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) Ｇ４７１９
B2312 **季兼**(すえかね・藤原ふじわら、敦兼[1079-1138出家]男)?-1164 母;顕季女、平安後期廷臣;
正四下備後守、篳篥・管絃相伝の家/歌謡;後白河院(1127-1192)の師、
実家の弟/楊梅季行(1114-62)の兄、「郢曲相承次第」入
季吉(すえきち・豊福) → *寸雲*(すんうん・赤松/豊福、儒者/碁) Ｄ２３５２
C2306 **季清**(すえきよ) ? - ? 室町期神職、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、
[すまるゝ世にはこころありけり](熱田法楽;二表2/どんな生活にも風情はある、
前句;中峯;塩屋こそしばしはあまの家居いへゐなれ)
H2335 **末清**(すえきよ・生田いくた) ? - ? 江前期大坂生田社の社僧?/俳人;
1673西鶴「生玉万句」第六初穐千句第三句等入、
[腹中も読めぬ哥人月を見て](生玉万句初穐第三句/脇句;啼く虫の音は何とやら唯、
腹の虫にて前句に付る)
末清(すえきよ・福井) → *公清*(きみきよ・福井/粟野・足代、神職) Ｍ１６０２
F2340 **季国**(すえくに・千秋せんしゅう、法名;月栖、持季男/本姓;藤原)?-? 室町期神職;尾張熱田神宮神官;
1468-70大宮司政範の社務代/のち大宮司、連歌;1492熱田万句連歌参加、
1489延徳四年「何木百韻」「山何百韻」参加(;月栖名)
F2341 **季前**(すえさき・賀茂かも) ? - ? 江戸後期神職、季鷹[1754-1841/季種男]の兄か?、
「賀茂皇太神御本縁」著

B2313 **季貞**(すえさだ・平たいら)　？－　？　平安前期「聖徳太子伝暦」の原型?著説あり
B2315 **季定**(すえさだ・藤原、季信男or実父は祖父季兼[1164没]男?)?-? 管絃相伝の家、廷臣;兵衛権甫、
従五下、歌人;1170(嘉応2)住吉社/72広田社/91若宮社歌合参加、
[ひとりねのあはれひまなき旅ごろも時雨はれても袖はぬれけり](住吉歌合;八番右66)
B2314 **季貞**(すえさだ・源みなもと、通称;源大夫判官、季遠男)?-? 平安後期廷臣;武将:従五下検非違使、
右衛門尉、後白河院北面、平清盛・宗盛の側近、平氏方侍大将して活躍;1185壇ノ浦で捕虜、
鎌倉に護送、光遠の弟/光行の叔父、歌人;月詣集・玄玉集入、千載集687、
[人知れず思ひそめてし心こそいまは涙の色となりけれ](千載;恋687)
F2342 **季定**(すえさだ・中園なかぞの/本姓:藤原、権大納言高倉嗣良4男)1627-86*60* 江前期廷臣;中園家の祖、
高蔵嗣孝・小倉実起の弟、1663従三位/70正三位・参議/右兵衛督/77両官を辞す;従二位、
1681兄実起が勅命に反し佐渡配流になった罪に連座;蟄居、1680「御会聖廟御法楽」著、
[季定(;名)の幼名/法号]幼名;鍋鶴丸、法号;芳園院
末貞(すえさだ・亀田/春木)→ *房光*(ふさみつ・春木/度会、神職/国学)　Ｃ３８２７
末実(すえざね・藤原)　→ *幽仙*(ゆうせん;法諱、天台僧/歌人)　Ｄ４６１４
末三郎(すえさぶろう・坪井)→ *信良*(しんりょう・坪井/佐渡、医者)　Ｅ２２４３
B2316 **末茂**(すえしげ・紀き朝臣)　？－　?(*31歳没*)　藤原-奈良期廷臣、判事/従七下/正六上、
詩;懐風藻;1首25:五言律(臨水観魚;六朝詩の影響)
J2348 **季茂**(すえしげ・村山むらやま、)？－　？　江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]4首入、
[紅葉葉はきりまに見えしけさよりも入日の岡に色ぞ増れる]
B2317 **末茂**(すえしげ・福島ふくしま/本姓;度会わたらい、末保男)1675-1733*61* 伊勢一之木の神職;
伊勢外宮権禰宜/従四上/漢学;伊藤仁斎・東涯門、杜甫の研究、
「鶴渓文集」/1696「春雩しゅんう日抄」著、「分類詩選」著、1714「杜律評叢」編、末済すえなりの父、
[末茂(;名)の通称/号]通称;造酒みき/大助/新四郎/外記げき、号;鶴渓/竜駒、
B2318 **季誠**(すえしげ・岡田おかだ、仲実男)?-1747　江中期儒者;陽明学者/父仲実は中江藤樹の門人、
「藤樹先生全書」編
F2344 **季蕃**(すえしげ・安倍あべ/家名;東儀、初名;季美、安倍秀充男)1771-1845*75* 江戸在住の楽人、
1833美作守/43従四上、「皇帝破陣楽団乱旋篳篥譜」
B2319 **季茲**(すえしげ・久保くぼ/本姓;源、徳潤男)1830-86*57* 代々幕府医官、江戸本郷の医者;漢学も修学、
家学修得後;矢部泰安門、幕府医官/古事記伝に触発され国典研究;尊王の義を主唱、
維新後神祇官書記/大学大助教/宮内省御用掛;正七位/大神神社大宮司/皇典研究所教授、
1850「神庫梯立」56「古道集語」57「古道訓蒙頌」65「天能迦弊志矢」、「祝詞略解」「野芹」著、
「国意考辨妄贅言」「天津祝詞私考」「日本書紀講義筆記」「天照大御神御神徳大略考証」著、
[季茲(;名)の通称/号]通称;鎮吉/玄貞、号;琴書/杉乃舎(杉廼舎)/静園/杉庵居士、
玉甌道人/水玉老人/鹿住里人、　諡号;道隈豊開別大人
季茂(すえしげ・源)　→ *季茂*(すえもち・源みなもと、廷臣;武将/歌)　Ｂ２３５２
季重(すえしげ・北村)　→ *湖春*(こしゅん・季吟男、歌学/俳人)　１９３２
季重(すえしげ・中江)　→ *常省*(じょうせい・中江なかえ、漢学者)　Ｔ２２８３
季重(すえしげ・広沢)　→ *安任*(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜)　Ｃ４５２０
F2345 **季資**(すえすけ・安倍あべ、林広胖男)1813-68*56*　母;松波葆光女、安倍季良の養子/楽人;篳篥・琵琶、
従四上、「楽器歌集」「祖先伝記」「篳篥相承血脈」「琵琶名器之歌」著
末住(すえずみ・吉沢/橋村)→ *正竹*(まさたけ・橋村/度会、神職/古典)Ｄ４０３２
F2346 **季副**(すえそえ・西池にしいけ/本姓;賀茂、幼名;千介、季健3男)1599-1692長寿*94*　江前期神職;
京の上賀茂神社社司、刑部少輔/美作守/従五下、
「賀茂雑録」「代官衆年中行事并社例覚」著
B2320 **すえたか**(・在原ありわら)？－　？　平安前期廷臣/官人;保明親王[903-23]の帯刀、
歌人;904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」入、
[花すすき穂に出づるをのはしらくもの朝ゐるとのみ過あやまたれけり](帯刀合;薄/左15)
F2347 **季孝**(すえたか・藤原、常陸介藤原実宗男?)?-?　平安中期廷臣;実宗男なら皇后宮少進、
歌人、金葉解;橋本公夏本拾遺56、

[秋ごとに声もかはらず鳴く鹿はおなじ妻をや恋ひわたるらん](金葉解56)

I2330 **陶丘**(すえたか・川端かわばた、)1699-1772*74* 伊予松山藩士、1713(正徳3)藩主松平定英の側役、
江戸詰;奉行用人/徳川家献門方;5百石、1751(宝暦元)常府番頭の重職に就く、
俳諧;佐久門長水門、1769句集「矢立の露」/71-72「大名竹」著、伊予俳壇の中心、
[陶丘(;俳号)の名/通称/別号]名;氏房、通称;藤太夫、号;**五雲**ごうん/一笠庵/兀々翁こつこつおう

F2348 **季宝**(すえたか・賀茂かも/岡本おかもと、幼名;十、季仲7男)1702-74*73* 江中期山城愛宕郡の神職;
正四下/太田社祝、上賀茂神社禰宜、沢田社禰宜/安房守、
1747「三社紀行」、「賀茂県主勅撰類和謌」著、
[季宝(;名)の別名/通称]初名;十、通称;安房守

F2349 **季隆**(すえたか・本間ほんま) ? - ? 江後期和算家:至誠賛化流の古川氏一門、
1737師没後;氏一男氏朝が病気がちのため代わって門人に教授、
1849「雑題三十好」、「剰一術解」著/「諸約術」「綴術捷法解」編、
[季隆(;名)の字/通称/号]字;珺珋くんりゅう、通称;熊太郎/平兵衛、号;南畝

2306 **季鷹**(すえたか・賀茂かも/山本、初名;季一/季福、賀茂社家山本季種男)1754-1841*88* 京上賀茂神官、
伯父賀茂季栄の養嗣子、有栖川宮家の諸大夫;職仁・織仁親王に近侍;歌学修得/1772致仕、
江戸で歌・書を諸侯に教授/荷田御風門、橘千蔭・三島自寛と交流、
1781帰京;上賀茂神社社務、堂上地下の接点として京を代表する文人、狂歌も嗜む、
別荘雲錦亭・歌仙堂を造営、文庫に数千巻の書を蔵、家集「雲錦翁家集」「賀茂季鷹家集」、
1776「伊勢物語傍注」77「枕辞一言抄」82「鹿満紀行」90「富士日記」、1806「万葉集類句」編、
1836「みあれの百くさ」41「嵐山栽花帖」、「満月帖」「濯錦帖」編、狂歌;「徳和歌後万載」入、
[梓弓春立つけさの心もて年の一ひととせ過ぐしてしかな](みあれの百くさ)、
[季鷹(;名)の幼名/号]幼名;寅千代/寅之介、号;雲錦/生山、養嗣子;山本季護すえもり

B2380 **季隆**(すえたか・手島てしま、忠左衛門守孝2男)1814-97*84* 土佐藩士、儒;山口菅山門/1843藩に出仕;
1844免職、1854(41歳)長崎で砲術を修得/兵法;若山勿堂門、
1857(安政4)臨時の藩命で箱館探索、視察後「探箱録」著;藩主山内容堂に復命、
維新後;県官・神官・教育者、
[季隆(;名)の通称/号]通称;鐘弥太/八助/八郎/八子、号;約軒

J2331 **梢隆**(すえたか・森野もりの、)1842-1913*72* 飛騨高山の代々農業/さらに鉱業・酒造業に出資、
和漢学;富田節斎(礼彦いやひこ)門/国学者・歌人吉島斐之あやゆき門、
喜右衛門繁平しげひら(1847-1926/富田礼彦門国学者)の兄、
[梢隆(;名)の初名/通称/号]初名;梢親、通称;二右衛門/幸右衛門、
号;柴籬内・柴垣内しばのかきつ/長翁、屋号;糠塚屋

季隆(すえたか・藤原) → *隆長*(たかなが・藤原、歌人) Ｍ２６６０
季隆(すえたか・藤原) → *資隆*(すけたか・藤原、法名寂慧、歌人) Ｃ２３２９
周淮鷹(すえたか・賀茂) → *季鷹*(すえたか・賀茂、国学、歌人) ２３０６

D2346 **季武**(すえたけ・卜部うらべ)950 - 1022*73* 平安中期の武士;源頼光の四天王の1、
大江山の酒呑童子征伐の伝説など伝説的武士;絵巻・御伽草子・草双紙・浄瑠璃・歌舞伎化

B2381 **季忠**(すえただ・藤波ふじなみ/本姓;大中臣、冷泉宗家男)1739-1813*75* 母;清閑寺熙定女、
1751藤波和忠の養子/和忠女と結婚、1762神宮祭主/64神祇大副/67従三位、86辞職、
1798正二位、書画に長ず、茶;千宗室門、「山口祭参向之道日記」著、寛忠ひろただの父、
[季忠(;名)の号]号;水竹主人/水得主人

季尹(すえただ・月輪) → *季尹*(すえまさ・月輪つきのわ/藤原、歌・連歌)Ｂ２３４４
季縄(すえただ・藤原) → *季縄*(すえなわ/ーつな・藤原、廷臣/歌人) Ｂ２３３５

B2382 **季種**(すえたね・小倉おぐら/本姓;藤原、初名;季熙すえひろ、藤原持季2男/小倉実右さねすけ養)1447-1529*83*
室町戦国期廷臣;右近中将/1471(文明13)正四下;参議/74従三位/1488(33歳)季種に改名、
1490権中納言/91正三位/1501従二位/1506(51歳)権大納言/11正二位/12一時加賀に下向、
1521(66歳)権大納言辞退/29(74歳)出家(法名;空惠);没、
歌;1503(文亀3)後柏原院「三十六番歌合」参加;左方、
[いかゞせむ千里はれ行く月だにも影は木の間に短夜の空](三六番歌;十番左;樹蔭夏月)
末種(すえたね・姉小路/風早)→*実種*(さねたね・風早/藤原/姉小路、廷臣/茶・香道)Ｋ２０９４

B2383 **季眤**(すえちか・すえみ・きい・伊地知いじち)1784-807早世*24*　薩摩島津藩士;垂水の儒者、
詩;1813「垂邑詩集」編(7巻3冊)
B2384 **末嗣**(末継すえつぐ・小野) ? -　? 839存　平安前期廷臣;従五下筑前権守、
837(承和4)修理舶使次官、839安芸権守、詩人:経国集;1首入
B2321 **季継**(すえつぐ・小槻おづき/大宮、小槻公尚男)1192-1244*53*　鎌倉期廷臣;修理東大寺大仏長官、
算博士、正五上筑前守/丹波守/紀伊守、1223左大史、
1240「朔旦冬至次第」著、「左大史小槻季継記」(1225-41息子秀氏の記録)
B2322 **季継**(すえつぐ・阿野あの、公廉or実廉男/本姓藤原)?-1355(南朝補任)　廷臣;北朝では侍従、
南朝;1337従三位参議/正二位権大納言、廉子(新待賢門院)は姉妹or叔母
歌;新葉集入4首;73/197/934/1172、1345刊[藤葉集]入、
[咲きやらぬ花を真土まつちの山の端はに雲だにかかれまがへてもみん](新葉;春73)
[みるからになほかきくらす涙かな月にもつらき影やそふらん](藤葉;恋630)
B2385 **季継**(すえつぐ・四辻よつじ/本姓;藤原、公遠男)1581-1639*59*　兄季満の嗣子/廷臣;1612参議/24正二位、
1850権大納言、書;近衛流、連歌;昌琢らと四吟「朝何百韻」/1613「何船百韻」参加、
[季継(;名)の初名/法号]初名;教遠、法号;松月院
季継(すえづぐ、本間)　→　*季喜*(すえよし、本間ほんま、国学/歌/神職)Ｉ２３９２
B2323 **季綱**(すえつな・藤原ふじわら、文章博士藤原実範男)?-?1103前没　母;高階業敏女、平安中期廷臣;漢学、
1056文章生;「殿上詩合」参加/検非違使/少納言/備前守/越後守歴任/大学頭;従四上、
詩文;朝野群載・中右記部類紙背漢詩集・本朝無題詩・和漢兼作集・続本朝文粋に入、
歌;1091左近中将宗通卿家歌合参加、「季綱往来」「季綱切韻」「検非違使庁日記」(散佚)著、
「本朝続文粋」編の説は誤り、
[布さらすまきの里とも見ゆるかな卯の花咲けるかきねがきねは](宗通歌合;三番右6)
B2386 **季綱**(すえつな・藤原ふじわら) ? -　?　鎌倉期?の廷臣;官人/五位、
歌人;続後拾遺471、新拾遺179(流布本;季綱/書陵部蔵兼右本;季縄)、
[夏箕河さゆるあらしも更くる夜に山陰よりや先まづ氷るらむ](続後拾;六冬471)
参考　→　*季縄*(すえなわ/ーつな・藤原、平安期歌人)Ｂ２３３５
季縄(すえつな・藤原)　→　*季縄*(すえなわ・藤原、交野少将/歌)　Ｂ２３３５
季縄(すえつな・成宮)　→　*元準*(もとのり・成宮なるみや、歌人)　Ｋ４４８９
2307 **季経**(すえつね・藤原ふじわら、法名;蓮経、顕輔男)1131-1221長寿*91*　平安鎌倉期廷臣;山城守/中宮亮、
宮内卿/1189従三位/98正三位/非参議、清輔から人麿影と讃岐里海庄を相伝される、
1201(建仁元/71歳)出家;蓮経名、六条派歌学者とし活躍;御子左家に次第に圧倒される、、
1166中宮亮重家歌合/70住吉社歌合/72広田社歌合/93六百番歌合/1200正治初度百首参加、
1201千五百番歌合の判者、顕方・清輔・重家・顕昭の弟、家集;1190「季経集」(季経入道集)著、
「清少納言枕草子註」著、御室五十首・後葉・続詞花・言葉・月詣・秋風・雲葉集等入、
1191(建久2)兄清輔「袋草紙」上巻の跋文を執筆?、
勅撰21首;千(5首266/640/701/1157/1287)新古(651)続後撰(72)続古(1042)玉(5首)以下、
[夕まぐれ荻吹く風の音聞けば袂たもとよりこそ露はこぼるれ](千載集;秋266)
[思ひいるる心に道をまかすれば鳥のねきかぬ山の奥まで](正治百首988/羈旅)
B2324 **季経**(すえつね・四辻よつじ/本姓;藤原、季春男)1447-1524*78*　室町期廷臣;1475参議/左近中将、
1501正二位/右衛門督/06権大納言/23出家、「蹴鞠家伝書」著、
歌人、宮廷歌合;三六番歌合など参加、着到歌/法楽歌の作者、連歌;新菟玖波集2句入、
[家々の楽しむ道もくらからじ千世もと仰ぐ君が光に](三十六番歌合;祝言31番右)
[季経(;名)の初名/法名]初名;季熙、法名;宗空、　公音・鷲尾隆康の父
J2310 **末経**(すえつね・福井ふくい/本姓;度会、端隠たんいん[末彰]男)1837-1901*65*　伊勢度会郡外宮権禰宜、
国学/歌;御巫みかんなぎ清直門、茶道;父門、
[末経(;名)の字/通称/号]字;士朗、通称;若狭、号;水琴
B2387 **季連**(すえつら・小槻おづき/壬生、初名;重経、小槻忠利男)1655-1709*55*　兄重房の養子;廷臣;
1676左大史、主殿頭とのものかみ/1677修理大仏長官/81算博士/97正四下、
「小槻季連日次記」「季連宿禰要集」、1678-1705「季連宿禰雑用私録」著、
1705「壬生家四巻之日記」編、「続左丞抄」編、外編著多数

J2311 **季連**(すえつら・福崎ふくざき、通称;助七/号;朝風舎)1835-1911*77*　薩摩鹿児島藩士、国学者/歌人、
八田知紀門、最後の琉球在藩奉行/1876(明治9)鹿児島帰郷/77霧島神宮宮司、
1900(明治33)大和神社宮司/01白峰神社宮司;08退職、
薩摩藩士川上久良編「朝風舎福崎秀連大人歌集」編、門人樋脇盛苗編「朝風舎歌集」あり

F2348 **季任**(すえとう・北村きたむら/初姓;乙部)1684-1709早世*26*　母;北村季吟女、北村正立の養子、
江戸の儒者、1705幕臣;祖父季吟の遺跡の一部を継嗣;御近習番、「北村季任聞書」著
[季任(;名)の通称/法号]通称;並蔵/平蔵、法号;日対

B2389 **季任**(すえとう・安倍あべ、山井景村男)1704-58*55*　安部季福の養子、楽人、右近将監/1721飛騨守、
1755従四上、「篳篥仮名譜」「六調子仮名譜」、1748「風俗篳篥本譜」著

B2325 **季遠**(すえとお・源みなもと、源重時の養子)?-?　平安期若狭の武将/1112従五下木工允/安藝守、
内舎人左兵衛尉、後白河院武者所北面、平忠盛家の青侍か、
歌人;続詞花集入、詞花集15、金葉解入(;橋本公夏本拾遺9)、
[いかなれば氷こほりはとくる春風にむすぼゝるらむ青柳の糸]、
(詞花;春15/藤原長実家歌合/むすぼほるは芽が固まっている様/芽ぶくのは解く)、
[春風に霞の衣ほころびて絶え間に見ゆる青柳の糸](続詞花;春19)

B2326 **季遠**(すえとお・藤原?)　? -　?　戦国期;歌人、1542千首和歌太神宮法楽入、
四辻季遠と同一? →　*季遠*(すえとお・四辻よつじ/本姓;藤原)　Ｆ２３５０

F2350 **季遠**(すえとお・四辻よつじ/本姓;藤原、初名;季規、公音男)1513-75*63*　母;四辻実仲女、戦国期廷臣、
1537(天文6)参議;従四上/正四下/38左中将・土佐権守/39従三位/42正三位;日向下向、
1544権中納言/45従二位/49正二位/50権大納言、58甲斐・66伊勢下向/75権大納言辞職;没、
連歌;1555「一字露顕百韻」57「何路百韻」参加

L2339 **季遠**(すえとお・石川いしかわ、圧太夫の長男)1836-1902*67*　播磨明石の歌人;明石出身の古谷土子門、
のち東京に転住、巌氏の父

I2321 **末遠**(すえとお・大野おおの、典則つねのりの長男)?-1866　飛騨高山の国学者/歌人;山崎弘泰門

B2327 **季時**(すえとき・源みなもと;醍醐流、上野介源家時[詞花集歌人]男)?-?　平安後期三河権守/木工権頭、
時盛の父、歌人、1149(久安5)「右衛門督家成卿家歌合」左方参加、
[宿からかことにも月のさやけきはいづこもおなじ秋の夜なれど](家成歌合;十番左19)

I2344 **季敏**(すえとし・久津摩くづま、本姓;森脇、)1774-1817*44*　周防岩国藩士;御小姓役、国学者、
[季敏(;名)の別名/通称/号]別名;時政/環、通称:門蔵/才次郎、号;朝水ちょうすい

F2351 **季騙**(すえとし・安倍あべ、号;駿堂、季随すえゆき男)1819-53*35*　安倍季成の養子、楽人;左兵衛少尉、
1853正後下、1843「思月謾録」著

J2351 **季富**(すえとみ・藤原?)　? -　?　南北室町期;廷臣/歌人;菊葉集22首入、
[三笠山わきて光ぞさしそへむ藤さかへゆくやどの軒端に](菊葉:賀954)
季福(すえとみ・山本)　→　*季鷹*(すえたか・賀茂/山本、神織/歌人)　２３０６

B2328 **末偶**(末耦すえとも・荒木田あらきだ/家名;菊家・**菊屋**きくや/益谷、末辰男)1735-1801*67*　伊勢度会神職;
伊勢神宮内宮権弥宜、風日祈宮大内人、末寿すえほぎ父、歌人:本居宣長門、
家集「菊能家きくのや集」(;息末寿編序)、本居大平「八十浦の玉」中巻;11首入、
[宮人の忌言ならば言はねどもしかぞ聞きつる妻恋の声]、
(八十浦;370/1785[天明5]新嘗祭9月11日夜外宮の権禰宜集い神路山の紅葉の詠)
[末偶(;名)の通称]　兵部/右近

B2329 **季知**(すえとも・三条西さんじょうにし/西三条/本姓;藤原、実勲男)1811-80*70*　母;三条実起女、江後期廷臣、
1850参議/57権中納言/61正二位、尊攘派、1862議奏加勢;国事御用掛/63国事寄人;
朝政に積極的に参加、1863・8月18日の政変により失脚;七卿落の1/長州へ亡命、
1868維新後復位;権大納言/75神宮祭主、歌人;高松公祐門・孝明・明治天皇の和歌御用、
歌集「恵仁春之蔭」、1831「新嘗祭備忘」、「三条西季知筆記」著、
1861松平春嶽[古今百人一首]入、
[浪遠く晴れ渡る夜の月かけて松の数のみ天の橋立](古今百人一首;48)、
[季知(;名)の字/通称/号]字;子迪、通称;銓丸、号;蓬翁、変名;知/榎木藤一郎
季騙(すえとも・安倍)　→　*季騙*(すえとし・安倍)あべ、楽人)　Ｆ２３５１
季豊(すえとよ・三上)　→　*季寛*(すえひろ・三上みかみ/源、幕臣/記録)Ｆ２３６０

季豊(すえとよ・守田)　→　*旁通*(まさみち・守田もりた、国学者/歌人)　Ｔ４０２２
F2352 **季直**(すえなお・海老名えびな/本姓;源、通称;尾張六郎)?-? 1358存 室町期幕臣、足利直義の家臣?、
1344直義熊野詣供奉人の1、49御評定始の御荷用役、58御評定始の御陪膳人衆、
連歌:菟玖波集1句入、
[有明になる夜な夜なの月](菟玖;秋408/前句;幾つらそ雲間の鴈の声遠し)
B2330 **季仲**(すえなか・藤原ふじわら、経季男)1046-1119*74*　母;藤原邦恒女、平安後期廷臣;左中弁/近江介、
蔵人頭/備中介/1094参議/左大弁/勘解由長官/98権中納言/1102正二位大宰権帥兼任、
1105日吉社の強訴により罷免:周防に配流/常陸に移配;配所で15年間;帰京なく没、
才知あり文章に長ず、色黒く[黒帥]と綽名、1090「玄記」91「日吉行幸記」著、詩;続文粋入、
妻;伊予守高階泰仲女・賀茂神主成助女、
通家・季実・兼平・雅経・増覚の兄弟/懐季・実明・仲光・仲願(僧)・延覚(僧)・仲胤(僧)の父
B2331 **季仲**(すえなか・賀茂かも)　？－　？　平安後期神職/歌;1182賀茂重保「月詣和歌集」入
[恋ひわびぬ死なばやとのみ思へどもいくらはかなき世にしあるらん](月詣;四364)
B2333 **季長**(すえなが・竹崎たけざき)1246-　？　肥後の御家人、文永・弘安の2度の元寇に出陣、
戦功により肥後海東郷地頭職、1292戦闘記録を描かせ鎮守の甲佐明神に奉納;
1293頃成立「蒙古襲来絵詞(竹長季長絵詞)」(;季長の戦闘記録/作者不詳)、
[季長(;名)の通称]通称;五郎兵衛尉
J2355 **季長**(すえなが・菅原すがわら、五条、参議正二位長経[1242-1315]男)?-1313 母;阿野邊入道女、
鎌倉期廷臣;文章生/宮内少輔/1289大内記/92少納言/96修理大夫/98宮内卿、
1305(嘉元3)従三位;停止、1308(延慶元)再び従三位非参議(;家名;五条)、
1310(延慶3)正三位大蔵卿/;11卿を停止/12(正和元)従二位/1313(正和2)没(父より先)、
茂長・種長の兄/長冬・為視・景長・季栄・長済の父、
歌;1292藤原親範勧進[正応五年厳島社頭和歌]入(少納言名)、
[むめが香を山路のすゑに吹きおくる嵐や花のしるべなるらん](厳島社頭和歌;17)
B2332 **季脩**(すえなが;名/姓不詳)？－　？　南北期廷臣;南朝の権大納言、歌:新葉1首589、
[世世を経て流れたえせぬ石清水すめるも神のちかひなるらし](新葉;神祇589)
B2334 **季長**(すえなが・荒木田あらきだ、成定3男)?-?　伊勢の神職、歌人、南朝に参候?、
1381成立[新葉集]1051、
[我が袖に涙もいつか春の夜のかすむを月のならひともみん](新葉;雑1051)
F2353 **季長**(すえなが・安倍あべ、季種男)1358-1422*65歳*　南北・室町期楽人、左近将曹/飛騨守/従五下、
「新撰人長口伝抄」著
H2394 **末栄**(すえなが・一柳ひとつやなぎ、末昆すえひで長男)1725-99*75歳*　播磨小野藩5代藩主;1737父没;襲封、
1743従五下/左京亮/土佐守、破綻寸前の藩財政再建;倹約・経費節減など、
1779長男末英に家督譲渡;隠居;対馬守、
正妻;稲葉堇通女/継室;真田信弘女の八十(陽泉院/歌人)、
末英・座光寺為賢・石雄氏紹・一柳栄武・4人の娘の父、
[末栄(;名)の通称]通称;隼人
季長(すえなが・藤原)　→　*隆長*(たかなが・藤原、歌人)　Ｍ２６６０
季長(すえなが・十時)　→　*梅厓*(ばいがい・十時ととき、儒者/書画)　３６８２
I2384 **季成**(すえなり・田でん、通称;又左衛門)1625-74*50* 丹波柏原かいばらの田季繁すえしげの後妻の連れ子、
田季繁女のステと結婚;5男1女の父、妻と歌・俳諧を修学;北村季吟・湖春・宮川松堅門、
1674(延宝2)没、
妻　→　*捨女*(すてじょ・田でん、貞閑尼/俳人)　２３１６
H2336 **末也**(すえなり・高嶋たかしま)？－　？　江前期大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」;第五青山舛あをざんせう第三句入、
[誰か有時鳥鳴く夜は更けて](生玉万句;青山舛第三、
脇句;伊之;横手を打てば降る梅の雨/横手を打つは驚歎の様)
H2378 **末成**(すえなり・平野ひらの)　？－　？　江前期大阪の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[酒舟のしめ木に置ける石清水](物種集/酒舟;酒を搾る舟形の槽、
前句;此君が代やたらりへんたらりへん;緩慢に長く続く様子、金葉;賀306六条右大臣;

源顕房;万代はまかせたるべし石清水長き流れを君によそひて/郁芳門院根合)
F2354 **末済**(すえなり・福島ふくしま/本姓;度会わたらい、末茂長男)1712-70*59* 伊勢一之木の神職/外宮権禰宜、
従四下、漢学;伊藤蘭嵎門、1740「中臣祓祝詞憶断」48「桑韓鏘鏗録」59「上野多胡郡碑文」著、
「多胡郡碑文考証」編、紀隆のりたかの父、
[末済(;名)の字/通称/号]字;巨川、通称;市蔵/兵庫/隼人/兵部/若狭/肥後、号;南溟
末成(すえなり・柿本、金玉集署名) → *公任*(きんとう・藤原) １６６５
季成(すえなり・安富) → *季記*(すえのり・安富やすとみ、家老/歌人) Ｊ２３３２
B2335 **季縄**(すえなわ/すえつな/すえただ・藤原ふじわら;南家真作流、千乗男)?-919 平安前期廷臣;従五上右近衛少将、
源公忠と親交/鷹狩の名手、後撰集作者右近の父、歌人;913内裏菊合参加、秋風集入、
勅撰;新古今854/新拾179(書陵部蔵兼右本・大和物語;季縄/流布本;季綱)、大和物語入、
[くやしくぞのちに会はんと契りけるけふをかぎりといはましものを](新古;哀傷854)、
(辞世;大和101段/内裏で会った源公忠に後日会う約束し間もなく病で臨終になり贈る)
[季縄(;名)の通称] 交野少将/片野羽林、
末之丞(すえのじょう・中西)→ *常栄*(つねひで・中西/出口、国学者) Ｄ２９４４
末之丞(すえのじょう・谷) → *文啓*(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) Ｆ３８１０
季之進(すえのしん・柏村/波多野)→*眞臣*(さねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記)Ｅ２０８６
季允(すえのすけ・谷) → *文啓*(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) Ｆ３８１０
B2336 **末珠名娘子**(すえのたまなおとめ)?- ? 万葉歌中人物:上総周准すえの美女、虫麿集1738(長歌)-9
B2338 **季信**(すえのぶ・平たいら、直材[900-968]男)?-? 平安期廷臣;従五下出羽守、祖父;時望[877-938]、
出羽弁(上東門院女房/勅撰歌人)の父
B2337 **季信**(すえのぶ・藤原ふじわら) ? - ? 廷臣;五位、歌人、旧作者部類「風雅雑一」に入
I2342 **季才**(すえのぶ・北村きたむら、)1756-1809*54* 山城愛宕郡の賀茂若宮の祝、国学/歌人、
[季才(;名)の別名/通称]別名:世丸文、通称;安房介/安芸守/阿波権守/相模守
季信(すえのぶ・阿野) → *実藤*(さねふじ・阿野あの/藤原、季信/大納言)Ｎ２０６７
季信(すえのぶ・梅田) → *年風*(としかぜ/ねんぷう・梅田、絵師/俳人) Ｍ３１１５
I2382 **季詮**(すえのり・津軽つがる、本姓;村尾)1712-85*74* 江戸の医者/1759(宝暦9)西丸の奥医師/法眼、
国学;賀茂真淵門、
[季詮(;名)の通称] 玄寿/良策
J2332 **季記**(すえのり・安富やすとみ、季敦男)1772-1841*70* 信濃飯田藩士;安富家8代/国家老、
安富家は初代成次以来城主堀家に出仕;代々家老を務める、季方(9代)の父、
国学者/歌人;桜井知栄尼ちえいに(藩主堀親害ちかしげ夫人成子なりこの歌道師)・桃沢夢宅門、
藩主世嗣問題で親害の側妾若江を追放(若江は1年後豊浦と改名;江戸藩邸奥の実権)、
[季記(;名)の字/通称]字;季成すえなり、通称;勇馬/主計かずえ
参照 → *豊浦*(とようら;女房名) Ｖ３１８７
L2327 **季虔**(すえのり・伊地知いじち)1769-1841*73* 大隅垂水領主の家臣;島津貴典に出仕、
歌;飛鳥井家に入門、1838貴典の命で「桜島燃記」著(安永大噴火)
季憲(すえのり・芝山) → *重豊*(しげとよ・芝山/藤原、廷臣/歌) Ｃ２１５５
季規(すえのり・四辻) → *季遠*(すえとお・四辻/藤原、大納言/連歌)Ｆ２３５０
末矩(すえのり・橋村) → *正甫*(まさなみ・橋村はしむら/度会/村山、神職)Ｒ４０７１
B2339 **季春**(すえはる・四辻よつじ/本姓;藤原、法名;玄清、実父不詳/季保の養子)1424-83*60* 室町戦国期廷臣、
1441嘉吉乱に清涼殿の天皇を警備;褒賞を受/1453参議・左中将;正四下/54従三位、
1456参議辞任/58正三位/60権中納言/65従二位/66権中納言辞任/70右衛門督/73正二位、
1476(53歳)権大納言/79病で辞任/80出家、季経の父、箏曲;勝仁親王(後柏原天皇)に指導、
「綾解文」「詩歌作法」著、宮中の歌会;連歌会に参加;1446文安詩歌合/50仙洞歌合参加、
1473親長歌合/75親長催「公武歌合」参加、新菟玖波集2句入、
[暁の露もおきつの浜風に真砂まさごを寒み立つ千鳥かな]、
(仙洞歌会;二十八番右/置くと興津を掛る/興津の浜;和泉の歌枕)、
[さやかなる月に色そふ萩の戸や夜とはみえぬ錦なるらむ](公武歌合;十五番禁中月右)
I2312 **末晴**(すえはる・梅谷うめたに/本姓;荒木田/旧姓;岡田、通称;治部)1721-92*72* 伊勢度会郡の人、
国学者;本居宣長門

F2355 季晴(すえはる・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、実顕男)1733-8149 母;三条公充女、廷臣;
1750従三位/72従一位/79右大臣、1750-81「季晴公記」、1762「住吉浅沢沼歌集」、
「詩作記」「大嘗会参役之事」著、法号;後誠心院皆空随縁
F2356 季良(すえはる・安倍あべ/姓;山井、諡号;楽音樹、季康男)1775-18578 3 母;藤原義比女、
楽人;1801加賀守/189右近将監/32雅楽助/57正四上、雅楽曲復元に尽力、
1806「内侍所神楽作法」/17「笙譜万歳楽一具盤渉調の譜」30「山鳥秘要抄」「楽律鈔」、
1853「今様」、「季良記」外著多数
[季良(;名)の通称]伊勢権介/薩摩守/加賀守/雅楽助
L2324 季治(すえはる・荒木あらき、通称;同)1826-7651 肥後玉名郡の郷士(熊本藩)、
国学;林有通[1797-1870]門 ; 尊攘思想、敬神党に入り活動
末治(すえはる・横川) → 胤征(たねゆき・横川よこかわ、和算家) Ｓ２６１３
J2314 末彦(すえひこ・福島ふくしま/本姓;度会わたらい、旧姓;橋村)1799-1858 60 伊勢度会郡の外宮権禰宜、
国学者;本居春庭門、
[末彦(;名)の通称] 豊後
季彦(すえひこ・松田) → 竹里(ちくり・松田まつだ、藩医/詩文) Ｄ２８９２
B2340 季尚(すえひさ・安倍あべ/姓;山井、法号;安尚院、孝為男)1622-1708 87 母;吉田祐益女、楽人(雅楽)、
1648左兵衛大尉/51飛騨守/99正四上/1700伊勢守、1690雅楽辞典「楽家録」、「古語楽記」、
「続古語楽記」「楽家口伝実録」、「和琴秘録」「大日本琴秘録」「篳篥譜」「舞踏装束」編外著多
F2357 季尚(すえひさ・内藤ないとう) ? - ? 江後期歌人、
1842私撰集「うずら衣」編(長歌4・短歌14・探題18・文詞7:自序/岡部東平跋)
季久(すえひさ・前田) → 正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主) Ｅ４０４５
F2358 季栄(すえひで・賀茂かも/家名;山本、秀長4男)1730-9364 江中期神職;正四下/筑前守、
有栖川宮諸大夫、
「御影像谷祭礼縁起」「神道地祭略式次第」著、養嗣子;季鷹、
[季栄(;名)の幼名]亀千代/亀福
F2359 季英(すえひで・岸畑きしはた、字;芳洲)?1774以前生-? 大阪の詩人、「岸翁遺稿」
J2343 季平(すえひら・和田わだ、通称;勝左衛門)1763-? 備前の歌人;澄月(1714-98)門
I2375 季平(すえひら・武久たけひさ、藩医松岡道遠3男)1804-7370 長門長府の長州藩士、小田南畧(儒者)の弟、
国学者・歌人;小倉藩士長田美年よしとし門、防長豊前の歌を蒐集;[武久家蔵短冊群]あり、
[季平(;通称)の名/別通称/号]名;碩、別通称;大炊おおい、号;玩雲斎(俳号)
B2341 季広(すえひろ・源みなもと;醍醐流、初名;清季、季兼男)?-? 平安後期廷臣;正五下下野守、兼覚の兄、
長俊(刑部大輔)・兼資(伊予守)・覚範(法橋)の父、
歌人;1167-85頃、1167歌林苑歌合/70建春門院北面歌合/住吉社歌合/72広田社歌合参加、
1175兼実家歌合/78別雷社歌合参加、1185歌合主催、続詞花・今撰・月詣・万代・秋風集入、
勅撰12首:千載(1074)新古(1958)新勅(609/1069)続後撰(231)新後撰(1308)玉(2684)以下、
[深く思ふことし叶かなはば来こむ世にも花見る身とやならむとすらん](千載;雑1074)
F2360 季寛(すえひろ・三上みかみ、別名;季豊、季良男/本姓;源)1741-1806 66 幕臣;1773小納戸/1788;遺跡嗣、
1792従五下/因幡守、先弓頭/盗賊追捕役/1798作事奉行/1800宗門改め兼務、
1793「戸山御成記」/95「小金原御狩之記」「徳川家斉公小金原狩記並図」著、
[季寛(;名)の通称] 伊之吉/半兵衛
季弘(すえひろ→きこう;道号)→ 大俶(だいしゅく・季弘、臨済僧) Ｂ２６５６
季広(すえひろ・吉川) → 楽平(よしひら・吉川よしかわ、国学者) Ｋ４７２１
季熙(すえひろ・四辻) → 季経(すえつね・四辻/藤原、大納言/歌) Ｂ２３２４
季熙(すえひろ・小倉) → 季種(すえたね・小倉/藤原、大納言/歌) Ｂ２３８２
末博(すえひろ・亀田/高田)→ 武泰(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職)Ｎ２６５５
B2342 季房(すえふさ・源;村上流、雅兼男)?-1156? 母;周防守藤原公基女、平安後期廷臣;
正四下丹波守、雅綱・雅頼・定房・雅光の兄弟、
歌人、1118(元永元)10月11日内大臣藤原忠通家歌合参加
J2329 末房(すえふさ・村山むらやま、旧姓;坂)1831-6434 伊勢度会郡の神職;外宮禰宜、国学;足代弘訓門、
[末房(;名)の通称]数馬

季房(すえふさ・三条)　　→　*実治*(さねはる・三条/転法輪三条、左大臣)Ｌ２０２６
L2318 **季文**(すえふみ・安倍あべ、季有男)1772-1808*37*　母;牧甲斐守知女、京の楽人、安倍家本流、
1782正六位下周防介/98従五上/99右近衛将曹/1800病のため辞任/02越中守/06正五下、
養子;安倍季徳
I2390 **季文**(すえふみ・中田なかた、加藤務男)1829-79*51*　播磨揖保郡網干の蔵元の生/加藤高文の弟、
揖保郡の庄屋中田家の養子;家督嗣、国学・歌;大国隆正門(兄と同門)、「宇内国勢表」編、
[季文(;名)の通称/号]通称;左一郎、号;梨の舎
季文(すえふみ・高浜)　　→　*亀山*(きざん・高浜、藩士/儒者/詩)　　Ｋ１６５８
B2343 **末寿**(すえほぎ・益谷ますたに/本姓;荒木田、菊屋末偶すえとも男)1764-1828*65* 益谷末封の養子、伊勢神職、
1775内宮権禰宜、風日祈宮内人正六位、国学;本居宣長・春庭門/両宮論に関し師説に反駁、
平田篤胤門、神道国学・天文暦学・洋学等広く修学、内山真竜・高林方朗・坪井幸三と交流、
実父末偶著「菊の家集」編/序、「月の出しほ」「相殿別宮辨」「職原抄末寿抄」「浜出の記」、
「日祈内人考証」、1803「伊勢二宮割竹辨難」23「松の古枝」著、「冠辞考撮要」編外編著多数、
[末寿(;名)の通称/号]通称;玄蕃/大学、号;桜屋/楽斎
B2344 **季尹**(すえまさ・すえただ・月輪つきのわ/本姓;藤原、家尹男)?-? 1399存 南北期廷臣;左中将/1399参議;
従三位/同年出家、連歌;1385石山百韻参加(6句)、
歌;1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首和歌]3首入集、新続古今1854、
[砧の音は遠里もなし](石山百韻6/前句梵灯庵師綱;露ながら野や初霜になりぬらん)、
[のがれきて静かに聞けば松風もうき世にかはる山の奥かな](新続古;雑1854)、
[春ぞ又見し世にかへる難波江やふりにし寺の松の藤波](高田明神百首;19/古寺藤)
B2345 **季理**(すえまさ・藤原ふじわら) ? -　?　　室町戦国期;北畠家の家臣/連歌作者、
1470北畠教具(1423-71)催「北畠家二百五十番連歌合」参加(:兼良判/宗祇・宗怡ら参加)、
[盃を別れの節の名残にも
又あふ坂とちぎる言の葉](北畠連歌;恋百四十三番左、平千盛)
F2361 **季正**(すえまさ・安倍あべ、季雄男)1522-1585*64*　楽人;左近将監督、1575出家、「万秋楽篳篥譜」著
F2362 **季政**(すえまさ・安倍あべ/家名;東儀、東儀季通男)1744-1819*76*　楽人;1765出雲守/1819正四上、
「音楽口授録」編
I2391 **季政**(すえまさ・中塚べかなつか、通称;代々治左衛門、季富男)1765-1832*68*　備中玉島の製塩業、国学者、
治左衛門成功(庄屋)の父
F2363 **末眞**(すえまさ・車館くるまだて/初姓:和田)1787-1869*83*　伊勢の神職;内宮権禰宜/正六上、
内宮会合で年寄役としの重鎮、茶道;堀内宗元門/蹴鞠;飛鳥井家入門;各々奥義を究む、
「世中百首絵抄」著、
[末眞(;名)の通称/号]通称;上総/讃岐/豊前、号;堪忍庵/柏寿斎
季昌(すえまさ・佐藤)　　→　*月窓*(げっそう・佐藤さとう/金屋、医者/歌)Ｈ１８１７
季昌(季正すえまさ・不破/高瀬)→　*遊山*(ゆうざん・高瀬、藩士/歌)　Ｂ４６９５
季政(すえまさ・源)　　→　*西住*(さいじゅう;法諱、真言僧/歌人)　２０８１
季雅(すえまさ・小倉)　　→　*実起*(さねおき・小倉おぐら/藤原/藪、権大納言/配流)Ｏ２００４
末雅(すえまさ・亀田)　　→　*末雅*(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職/詩文)Ｆ２３３５
末正(すえまさ・吉野)　　→　*秀政*(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌)　Ｄ３７８１
F2364 **末益**(すえます・吉野よしの、通称;掃部助かもんのすけ)?-? 江前期壱岐壱岐郡聖母神社兼箱崎神社の大宮司、
大行事、神学;吉田兼通門、吉田秀政の祖父、1679「壱岐国式社考」著
末麿(季麿すえまろ・酒井/松平)→　*行快*(ぎょうかい、酒井/松平、社僧)Ｎ１６４３
季実(すえみ・平山)　　→　*季雄*(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/国学)Ｊ２３０６
季眤(すえみ・伊地知)　　→　*季眤*(すえちか・きい・伊地知いじち、藩士/詩)Ｂ２３８３
B2346 **季通**(季道すえみち・橘たちばな、則光男)?-? 1060存 母;橘行平女or清少納言?、平安後期廷臣;
式部大丞/蔵人/内蔵権助/従五上/駿河守、則長・光朝の兄弟、季綱の父、
今昔物語に豪勇譚、歌人;1035賀陽院水閣歌合参加、勅撰3首;後拾遺560/1041・金葉389、
[思ひ出づや思ひ出づるに悲しきは別れながらの別れなりけり](後拾遺;哀傷560)、
(兄則長が越中守として任地で客死;兄と交渉ある相模に贈った哀傷歌/別離と死別)
B2347 **季通**(すえみち・藤原ふじわら、宗通男)1097?-? 1158存 母;藤原顕季女、伯父;基俊、平安後期廷臣;

1112左兵衛佐兼備後守/16左兵衛佐辞/19備後守辞、1142正四下、管絃;琵琶・箏・笛に長ず、
漢学に精通/歌;家集「季通集」、1116鳥羽殿北面歌合・19内大臣忠通歌合・34顕輔歌合参加、
1150久安百首入/後葉・言葉・続詞花・秋風・雲葉集入集、金葉解説橋本公夏本24・39、
伊通・成通の兄弟、
勅撰17首;詞花(346)千載(15首40/80/106/142/201/223/258/304/351以下)新古(287)
[厭ひてもなほ惜しまるゝ我が身かな再び来くべきこの世ならねば](詞花;雑346、
新院崇徳院の久安百首歌(489)に/後葉集494;無常を詠む)、
[春はなほ花のにほひもさもあらばあれたゞ身にしむはあけぼのの空]、
(千載;40/崇徳院百首歌に詠)

F2365 **季通**(すえみち・賀茂かも/山本//岡本/西池、賀茂季好3男)1619-93*75* 外祖父賀茂孝之の養子/神職;
正四下/若宮社禰宜、国学者/歌人;水無瀬氏成門、九条前関白より和歌伝授を受ける、
1679「季通日記」81「賀茂季通東路旅行記」84「伊勢公卿勅使雑例」88「亀兆季通抄」著、
「日本紀神代秘抄」「臨時祭延引記」「臨時祭延引記」著/「賀茂注進雑記」編、
[季通(;名)の幼名/通称]幼名;辰千代、通称;木工権助もくごんのすけ、岡西惟中の国学の師

F2366 **季通**(すえみち・伊地知いじち、季安男)1818-1901*84* 薩摩藩郡奉行、「薩藩旧記雑録」;父を助け編纂、
「伊地知季安すえやす伝」編

季通(すえみち・久我/橘) → *敦通*(あつみち・久我こが、廷臣/連歌) Ｃ１０７２

B2348 **季光**(すえみつ・清原きよはら)1133 - 1180*48歳* 平安後期廷臣;検非違使;
「後清録記(日記)」:清獬眼抄入

B2349 **季光**(すえみつ・六条ろくじょう/本姓;源、別名;季忠、有房男)?-? 1339存 鎌倉南北期廷臣;左近衛少将、
右近衛中将/1329従三位、南朝の廷臣;右大弁、1339出家、歌;新葉集701、
[下もえの思ひの煙空に立たば月のためさへうき我が身かな](新葉;恋701)、
(延元三年1338九月十三夜内裏月三十首歌)

F2367 **季光**(すえみつ・藤原ふじわら、秀光?)?-? 連歌:1356成立[菟玖波集]入、
秀光なら?;従五下秀経(風雅集作者)男/母;伊賀守家康女)/左衛門尉/左兵衛尉、
[いまは身にのぞみのなきも涙にて](菟玖;雑1567/前句;うき世にやなほすみぞめの袖)

F2368 **末盈**(すえみつ・福井ふくい/本姓;度会わたらい、末均男)1717-49*33* 伊勢の神職;外宮神官/従四下、
「龍笛譜」編、[末盈(;名)の通称]太郎吉/雅楽うた/大学

J2339 **末盈**(すえみつ・吉澤よしざわ/本姓;度会わたらい、)1760-1818*59* 伊勢度会の国学者;本居宣長門、末慶の父、
[末盈(;名)の通称]主水/左兵衛

F2369 **末光**(すえみつ・高林たかばやし)? - ? 1823存 伊勢の故実/文筆家、1771「館家物忌令」編、
1801「享和元年公卿勅使記」編、「度会宮神社考略」「高林末光日次略」著

季光(すえみつ・藤原) → *定家*(さだいえ・藤原、歌学) ２０１６

B2350 **季宗**(すえむね・藤原ふじわら、弾正少弼成宗男)?-?1265前没 鎌倉期廷臣;従四下/左馬権頭、
尊卑分脈には①師尹流;信季-成宗-**季宗**(弾正少弼)-季光、
②式家宇合流;成光-成宗(従四上式部少輔)-**季宗**(正四下刑部少輔/甲斐守/出家)、
歌人:法印良守勧進「熊野山二十首」詠(続古今集651入)、万代集・現存六帖・秋風・雲葉集入、
勅撰4首:続後撰(1111)続古今(651)続拾遺(561)新後撰(912)、
[いつまでとかぶく月をしたふらんはるかにふくる身をば思はで](続後撰;雑1111)

B2351 **季宗**(すえむね・荒木田あらきだ/家名;船橋・中村・家田、氏成3男)?-1367 鎌倉・南北期伊勢宇治の神職、
正四上/1313伊勢神宮禰宜/60伊勢内宮一禰宜、親宗の父、歌人;続千載集1173、
[いかがせんあはでの浦による波のよるだに人をみる夢もがな](続千;恋1173)

F2370 **季村**(すえむら・橋本はしもと、実村男)1627-48早世*22* 母;左大臣花山院定熙女、江前期廷臣;左近中将、
1644右近中将/47従四上、「橋本季村雑書」著

B2352 **季茂**(すえもち・源みなもと;文徳流、後嵯峨院北面源季重男)?-? 鎌倉期廷臣;武将;亀山院北面、
左衛門尉、出家、右衛門尉源季忠の孫、季有(後宇多院北面)の父、
歌人、夫木抄入、新後撰集1285、
[風渡る芦のすゑ葉に置く露のたまらず見えて飛ぶ螢かな](新後撰;雑1285)

F2335 **末雅**(すえもと/すえまさ・亀田かめだ/本姓;藤原/度会、家名;福井/黒瀬、藤原重冬3男)1761-1823*63* 神職、
伊勢度会の生、1762(2歳)外宮権禰宜に補される、福井末栄の養嗣/のち黒瀬長弘の養嗣、

1789亀田末覧の養嗣、伊勢神宮の故実・律令に精通/詩人、晩年;従四上、足代弘訓の師、
「亀田末雅筆記」「亀田末雅雑著」、1798「倭姫命世記考」著/1801「公卿勅使類聚」編、
1816「度会氏略系譜」22「外宮禰宜補任次第続録」、「宮水詩集」「うらえつと」著、
「伊勢物語童子問修刪」著外著多数、「寄生園遺稿」あり、
[末雅(;名)の別名/字/通称/号]別名;卓重(初名)/末寿/康弘、字;敬文、
通称;吉之助/右仲/久太郎/左衛門/加賀/八左衛門/主馬、号;宮水/寄生園

I2341 **季元**(すえもと・北村きたむら、湖南男)1849-1904*56* 江戸の連歌師/歌学;父門;代々幕府歌学所出仕、
のち静岡住、
[季元(;名)の別名] 元

B2353 **末守**(すえもり・紀き、号;科手、眞人男/麻呂の玄孫)?-? 平安前期廷臣;蔵人/民部少輔、
825(天長2)従五下/831従五上、詩人・文華秀麗集;28(早春任地阿波に向かう友に贈る)、
[一朝命を銜ふくみて遠く離別す 上月じやうげつ春初しゅんしょ風尚ほ寒し
我が魂子きみに随ひて去ることを識らまく欲せば 羈亭きていの夜々夢中に看るべし](文華;28)

F2379 **末盛**(すえもり・亀田かめだ/本姓;度会、堤つつみ盛政2男)1589-1657*69* 伊勢度会の神職;亀田末孟の養嗣、
伊勢外宮の神職/連歌を嗜む、「寛延遷宮記要略」「外宮御造料請取同渡方」編、
[末盛(;名)の通称] 八左衛門/加賀/甚左衛門

J2336 **季護**(すえもり・山本やまもと、旧姓;高木)1808-62*55* 京の官人;寺社奉行所用掛、国学者/歌人、
賀茂季鷹(1754-1841)の養子、
[季護(;名)の初名/字/通称/号]初名;季雄/季城、字;子擁、
通称;眞吉/秦吉/縫殿介/志摩守、
号;鴨青外史/梧庵/愛葵/水壺/南梧星/鴨川志摩丸/香遠

末盛(すえもり・佐瀬) → *与次右衛門*(よじえもん・佐瀬させ、勧農家)Ｃ４７２７
須右衛門(すえもん・北村)→ *久備*(ひさとも・北村/源、藩士/国学者) Ｂ３７６０

2391 **季保**(すえやす・賀茂かも、重保男)?- ? 1250存 平安鎌倉期神職;四位/賀茂片岡社禰宜/太田祝県主、
歌人:1200正治二年第二度百首/1201鳥羽殿影供歌合参加、25秀歌奉納;若宮社禰宜、
1232石清水若宮歌合参加、「五波羅密歌」著、重政・重信・重房・実保の兄弟、季敏の父、
勅撰5(4)首;新古今(1773;穂久邇本は重保)新勅(1005)続古(591)続拾(1423)新続古(855)、
[同じ世になほありながら逢ふことの昔がたりになりにけるかな](新勅撰;恋1005)
母 → *季保母*(すえやすのはは・賀茂、歌人) Ｂ２３５４

2388 **季泰**(すえやす) ? - ? 室町期神職/連歌;
1423「応永三十年十一月十三日熱田社法楽連歌」参加(3句)、
[待つ春の花を御山みやまの月出でて](熱田法楽;賦山何第三句、
前句;はや冬木にも梅の八重垣/冬木の梅と待つ春が寄合)

B2355 **季康**(すえやす・安倍あべ、季任男)1731-1802*72* 母;安倍季尚すえひさ女、京の楽人;1754雅楽助、
1795加賀守/1802正四上、篳篥の名手;門弟5百余人、廃曲の復活に尽力、「篳篥曲譜」著

F2371 **居保**(すえやす・菅原すがわら、号;応時軒)?-? 江中期大坪流の末松流馬術家、仕官の身?、
1760(宝暦10)「世俗通用笑馬集」著

F2372 **季安**(すえやす・伊地知いぢち、初名;貞行/季彬すえあき、伊勢貞休男)1782-1867*86* 1801伊地知季伴の養子、
季彬の改名/薩摩藩士;1802御作事下目付/03横目付/1808近思録崩れに連座;喜界島配流、
近思録派の首謀秩父季保が伊地知家の本家筋に当ることが理由の連座、
1811赦免;鹿児島で謹慎中に著述活動;藩内の史料「旧記大苑」著、47禁を解除、
1852記録奉行;以後記録方に出仕、
1810「徴古録」34「一向宗禁制考」37「西藩田租考」40「薩州唐物来由考」41「襲山紀行」著、
1850「薩隅日古戦古跡集」、65「御質人交替紀略」編、「漢学紀源」「旧記題苑」「西藩儒林伝」、
「寛永軍徴」「薩摩旧記雑録」(息季通すえみちと共編)外編著多数、
[季安(;名)の字/通称/号]字;子静、通称;安之丞/小十郎/安袈裟、号;潜隠/克欽、
法号;高顕庵子静楽道居士

季保(すえやす・小倉) → *実名*(さねな・小倉/藤原、権大納言/歌)Ｄ２０３４
季保(すえやす・平生三里)→ *平生三里季保*(へいぜいのさんりすえやす、狂歌作者)２７５９
季靖(すえやす・伊地知) → *正治*(まさはる・伊地知いぢち、藩士/兵学) Ｇ４０４５

末恭(すえやす・亀田/高田)→ *武泰*(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職)Ｎ２６５５
B2354 **季保母**(すえやすのはは・賀茂かも、重保の妻)?-?　　平安期歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、
[いかでかく心なきさのうつせ貝身をうの花と思ひよりけん](月詣;釈教1073)、
(貝を拾い仏の様々の供花に作るとき卯の花に作った時の詠歌/虚貝うつせがいは空の貝殻)
B2356 **季行**(すえゆき・楊梅やまもも/本姓;藤原、藤原敦兼男)1114-62*49* 母;藤原顕季女、楊梅やまもも家の流祖、
廷臣;1159従三位/中宮亮、大宰大弐、1162出家、実家・季兼・季家の兄弟、
重季・定能(権大納言)・能季の父、歌人;1146顕輔歌合参加、千載865、続詞花集2首入、
[君にのみ下したの思ひは川島の水の心は浅からなくに](千載集;十四恋865)
(交かはしと川島を掛ける/女に誠意を疑われた時の弁明の歌)
[一院位におはしましける時 右大臣君右衛門督ときこえけるころ、
ものいふ女房侍りけるをうへめすなりとききてかの女の許へ人に替りて遣しける、
みかきもるゑじのけぶりの立ちのぼり雲ゐになるときくはまことか]
(続詞花;雑807)、
[季行(;名)の号]　讃岐三位、実家・季兼・季家の兄弟、重季しげすえ・定能・能季の父
F2373 **季随**(すえゆき・安倍あべ、季千男)1777-1854*78*　楽人、1821肥後守/正四上、季騙すえとしの父、
「十操玉註三畳拍手考訂」著
季行(すえゆき・源)　→　*聖覚*(しょうかく、源義行、和学者/歌人)　Ｆ２２８２
2318 **季能**(すえよし・藤原ふじわら、俊盛男)1153-1211*59*　母;中納言源雅兼女、平安鎌倉期廷臣;
後白河院近臣、院別当/越前・讃岐・周防国守歴任/右京大夫/1183従三位、
1193正三位兵部卿、1210出家、藤原定家室(清家の母)の父、
歌人;1179-82(治承3-寿永1)「内蔵頭季能歌合」主催、1191若宮社歌合参加、
1195民部卿藤原経房家歌合/1200石清水若宮歌合/1201千五百番歌合に参加、
1206卿相侍臣歌合参加、一品経和歌懐紙・言葉集・月詣集・玄玉集・万代集などに入集、
勅撰9首;千載(4首318/593/698/1240)新古今(3首97/648/1604)新続古今(122/1010)
[聞くまゝにかたしく袖のぬるゝかな鹿の声には露やそふらん](千載集;秋318)
B2357 **季好**(すえよし・千秋せんしゅう)?-　?　　尾張熱田神宮大宮司、俳人、
1636(寛永13)「熱田万句」巻頭発句
F2374 **季吉**(すえよし・滋野井しげのい/本姓;藤原、一字名;土、五辻之伸男)1586-1655*70* 滋野井公古の後嗣、
中絶していた滋野井家を再興/1627参議/従三位/42正二位/43権大納言;47辞職、
連歌作者;昌琢らと仙洞六吟百韻・七吟百韻・四吟百韻/1605何人百韻・15手何百韻等参加、
[季吉(;名)の別名/法号]初名;冬隆、法号;智光院
F2375 **季義**(すえよし・齋藤さいとう)1717-1803*87歳*　大阪堀江の商人、歌人:菅甘谷門、堂上家にも修学、
晩年は幸町住、茶;一灯宗室門、詠歌と茶事を専らとす、「独楽集」著、玄義の父/親賁の祖父、
[季義(;名)の字/通称/号]字;元宣、通称;佐右衛門、号;独楽庵
F2376 **末美**(すえよし・福井ふくい/本姓;度会わたらい、久志本、檜垣ひがき貞代2男)1751-1812 久志本常寿の養子、
不縁となりのち福井末陛の養子、伊勢の神職;外宮神官/正四下、
1809「宮中穢物争論略記」編、「延喜太神宮式講本艸稿」著、
[末美(;名)の別名/通称]初名;常徳、通称;帯刀/藤二郎/亀次郎/大進
J2317 **末良**(すえよし・藤井ふじい、通称;広人)?-1819　　備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者
I2302 **季美**(すえよし・寺田てらだ)　?-　?　　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ほととぎす今や鳴くらん橘の小島がさきの村雨の空](大江戸倭歌;夏476)
I2392 **季喜**(すえよし、本間ほんま、)1785-1845*61*　　佐渡新穂村北方の生、国史・国学者、能書家、
日吉神社祠官、歌人;小川布淑のぶよし門/佐渡の[三歌匠]の1(佐藤枝彦・中山松斎[千鶴]と)、
[春の夜のおぼろげならぬ梅の香はそら高くこそ月に匂へれ](月下の梅)、
守屋静満(国史・国学者・歌人)の祖父、
[季喜(;名)の別名]季継/守屋
J2340 **末慶**(すえよし・吉澤よしざわ/本姓;度会わたらい、末盈すえみつ男)1794-1842*49*　伊勢度会の国学者;父門、
国学;本居春庭門、
[末慶(;名)の通称]主水(父の称)

F2377 **季祥**(すえよし、賀茂かも/西池、恒季男)1810-? 1859存　母:賀茂保仲女、曼殊院門跡出仕の諸大夫、
廷臣;大和介/出羽守/遠江守/正四下、1852「類歴皇記」著
J2315 **末美**(すえよし・福島ふくしま、旧姓;谷田)1833-77*45* 伊勢度会郡の外宮権禰宜、国学;足代弘訓門、
[末美(;名)の通称]頼母/和泉/中務/大二郎
季良(すえよし・安倍)　→　*季良*(すえはる・安倍、季康男、雅楽)　Ｆ２３５６
季好(すえよし・野田)　→　*白石*(はくせき・野田、醸造業/詩/狂歌)　Ｄ３６４７
B2358 **周防**(すおう・永嘉門院)　? -　?　宗尊親王女の永嘉門院瑞子(1302院号)の女房歌人、
続千載集1232、
[よそにのみみわの神杉いかなれば祈るしるしのなき世なるらん](続千載1232)
I2316 **周防**(すおう・小串おぐし、)1798-　1868*71*　伊勢桑名多度神社宮司小串重穂(1788-1838)の妻、
国学/歌人;富樫広蔭門
周防(すおう・島津)　→　*久光*(ひさみつ・島津、領主/藩政実権)　Ｃ３７０１
周防(すおう・中条)　→　*備資*(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂)　Ｃ４０９４
周防(すおう・鈴木)　→　*眞重*(ましげ・鈴木/藤原、神職/国学)　Ｌ４０７８
周防(すおう・上田/源)　→　*未生斎*(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家)４１８８
周防(すおう・薗田)　→　*守胤*(もりたね・薗田/荒木田、神職/国学)Ｋ４４２１
周防(すおう・幡垣)　→　*正張*(まさはる・幡垣はたがき/平、神職/歌)　Ｒ４０７７
周防(すおう・岡)　→　*直廬*(なおり・岡おか、神職/国学/歌人)　Ｏ３２０８
図翁(ずおう・藤井)　→　*道印*(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量)Ｂ３１１０
周防守(すおうのかみ・毛利)→　*高慶*(たかやす・毛利/久留島、藩主/歌)　Ｎ２６５３
周防守(すおうのかみ・久志本)→　*常光*(つねみつ・久志本/度会、神職/医者)Ｄ２９９０
周防守(すおうのかみ・松平)→　*康定*(やすさだ・松平/前田、藩主/歌人)　４５２３
周防守(すおうのかみ・松平)→　*康圭*(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｂ４５１８
周防守(すおうのかみ・杉本)→　*左近*(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職)Ｈ２０４０
周防守(すおうのかみ・青山)→　*守胤*(盛胤もりたね・青山あおやま、神職)　Ｆ４４６７
周防守(すおうのかみ・高塩)→　*清風*(きよかぜ・高塩たかしお、神職/国学)　Ｕ１６６１
周防掌侍(すおうのしょうし)　→　*周防内侍*(すおうのないし)　Ｂ２３５９
周防大夫房(すおうのだいぶぼう)→　*実蔵*(じつぞう;法諱、南北期僧/歌人)Ｆ２１０７
周防中将(すおうのちゅうじょう)　→　*有房*(ありふさ・源、廷臣/歌人)　Ｂ１０９２
B2359 **周防内侍**(すおうのないし、姓;平たいら/名;仲子なかこ、周防守平棟仲女)1036?-? 1108存　平安後期歌人、
母;源正職まさもと女の小馬内侍(後朱雀天皇女房)、女官;25歳頃後冷泉天皇に出仕、
後三条・白河・堀河天皇に出仕/掌侍に至る、通算40年の女官生活;
通俊・匡房・忠家・顕季ら多数の男性と交渉、1093「郁芳門院根合」/1094「高陽院歌合」・
1102「堀河院内裏艶書合」などに参加、家集「周防内侍集」、「栄花物語続編」の著作説あり、
寂超「後葉集」3首入、
勅撰35首;後拾遺(562/765/888/979)金(322/435/591/603)詞(55/116/330)千載(81/964)、
新古(205/777/1728/1746/1888)新勅(3首)続後撰(335)続拾(3首)以下、菟玖1句入、
[春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなく立たむ名こそ惜しけれ](千載964;忠家へ贈歌)
(藤原忠家の返;契ありて春の夜深き手枕たまくらをいかゞかひなき夢になすべき)
周防命婦(すおうのみょうぶ)　→　*盛少将*(さかりのしょうしょう、三条院女房/歌人)Ｈ２０１４
J2324 **壽賀**(すが・万里小路、万里小路局までのこうじのつぼね、池尻暉房[1762-1852]女)1813-78*66* 父は権大納言、
1832(天保3)徳川家定の正室鷹司任子の世話役として江戸に出仕、
1836(天保7)家斉の将軍付小上臈:大奥に入/家慶将軍付上臈御年寄;万里小路局の称、
筆頭老女として活動;1858頃徳川家定没後大奥退出;桜田御用屋敷住、家茂の時大奥再入、
1864(元治元)大奥引退;請西藩江戸浜町藩邸住;68請西藩の上総国望陀郡請西村住、
請西藩長楽寺の真武根陣屋へ移住、1871重田嘉之三郎を養子とす、
大奥引退後に権中納言町尻量輔(1802-1874)の妻となった説あり、
1878(明治11)脳卒中で没;戒名は松寿院殿雙円成心大姉
I2348 **壽賀**(すが・小林こばやし、旧姓;小木曾、下平きさ[1790-1841]女)1817-33夭逝*17* 信濃伊那郡歌人、
片桐源栄(詩歌人)の孫、母も歌人

I2337 すが(・北川きたがわ、絵師狩野[三谷]永錫えいしゃく[?-1822]の女)1834-8047　筑後久留米の歌人
須賀(すが・国分)　→　*胤貞*(たねさだ・国分こくぶ、神職/国学)　Ｘ２６１１
須賀(すが・鈴木)　→　*清野*(すがの・鈴木すずき、老女職/歌人)　Ｉ２３６６
清廬(すがいお・大館)　→　*高門*(たかかど・大館おおだち、医/国学/歌)　Ｃ２６６４

B2360 菅雄(すがお・河瀬かわせ/本姓:源、号;酔露軒[堂]/的堂)1647-1725*79* 京の医者;父を継嗣、
のち歌学者・飛鳥井雅章門、地下歌人の実作指導、家集「酔露軒和歌集」、
1682「麓の塵」編/88「和歌拾題」編、90「政名草まさなぐさ」/1715「壽閑枕すがまくら」著、
「続ふもとの塵」「古今見聞集」「草木名所考」著、
「春風抄」「類葉抄」「百人一首さねかつら」「百人一首七首伝」著、外編著多数、
[吉野山桜が枝も白雲に俤見えて春やたつらん](麓の塵;春8/立春雲)

B2361 菅雄(須賀雄すがお・服部はっとり/初姓:富田)1775-1837*63*　遠江引佐郡都田村の国学者/歌人、
漢学;江戸の古屋慶陽門/国学;1798伊勢松阪の本居宣長門、駿河島田の豪家服部家の養子、
養家の没落;信濃・越後等諸国を放浪生活し国学歌道を講ず/貧窮の中出羽庄内酒田に没、
1801「餌袋の反古」13「きよきばぎさ」著/17「古歌集」編/18「古今和歌集野中清水」著、
1819「正木のかつら」21「あれのさき」「美濃紀行」/26「壺石文」36「万葉抄」、「紫の根ざし」、
「篠家文集」「篠家歌集」「篠屋集」「篠家文詞」「篠家日記」「篠家翁歌道漫筆」「玉貝集」著、
「冬枯日記」「千世園旅日記」「竹園」「なごやがした」「ふぢごろも」「源氏物語綾衣」外著多数、
[菅雄(;名)の通称/号]通称;求馬/仙左衛門/千左衛門/元泰/元康、
号;篠家/篠之屋/凌雲/愚鈍駄菅雄/千世園

B2362 菅緒(菅雄すがお・長谷川はせがわ)?-1848　和泉佐野浦の医者/京で医を開業、
国学・歌学;本居宣長・荒木田久老・藤井高尚門、1817(文化14)「奴弖能舎ぬでのや長歌集」編、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌4首入、
[菅緒(;名)の別名/字/通称/号]別名;菅麻呂/菅麿/菅雄、字;三折、通称;猪三郎/伊三郎、
号;橘舎たちばなのや/奴弖乃舎ぬでのや、法号;釈常心

F2380 清雄(すがお・笠因かさより、別名;清聴、直麿男)?-?　江後期文化文政1804-30頃伊勢松坂の神職、
松阪の雨竜神社の社司、国学/歌;富樫広蔭門/1825本居春庭門、妻;石見いわみも歌人、
1841刊「二百番歌合」(笠因諸親これちかと参加/香川景樹判?)、
[清雄(;名)の通称]　左織之助/出雲守/能登守

I2313 清雄(すがお・江竜えたつ/旧姓;八木、)1833-1904*72*　近江坂田郡の歌人;長野義言門/歌;鳰のうみ入、
[清雄(;名)の字/号]字;実房、号;水竜/観岳

F2381 須賀雄(すがお:通称・西川にしかわ、号;清園)1838-1906*69* 肥前小城郡岩松村の神道家、
国学;柴田花守門、1861小城祇園社神主/のち諸社宮司を歴任/花守の実行教に入信、
布教活動に尽力、1890帰郷、歌に長ず、1856「国之真柱」、「本朝初学」著、遺稿「清園歌集」

I2326 清雄(すがお・加納かのう、通称;五兵衛)?-?文政1854-60頃没　紀伊和歌山藩士、国学者/歌人

J2333 清雄(すがお・柳田やなぎだ、通称;栄之助/六郎)1844-79*36* 豊前宇佐郡江島村の里正、幼時に失明、
国学者;渡辺重春(重石丸いかりまろの兄)・物集高世門、
1877西南戦争に中津隊で蜂起の友人増田宋太郎に[新政党別軍]名の檄文を作成
菅生(すがお・黒瀬)　→　*正親*(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師)Ｐ４０５４

F2382 清臣(すがおみ・大沢おおさわ、通称;采女、正護4男)1833-92*60*　大和郡山郷士の家/漢学;定賢阿闍梨門、
儒;橋本雄平門、歌;御影頭成・伴林光平門、1857上京;壬生家雑掌、神道・国史;谷森善臣門、
神道家;善臣と山陵調査、維新後諸陵寮の充/1873竜田神社大宮司/広田社大宮司、
教務省権大録/宮内省御陵掛歴任/従七位、1862-64「大沢清臣翁雑記」著、
1867「園韓神社祭祀復興願書」、「皇朝紀事文栞」著

F2383 菅子(須賀子/須我子すがこ・小峯こみね、三田正章女)1784-1818*35歳* 武州橘樹郡の歌人:
立綱りゅうこう門、江戸芝の小峯家に嫁す、「たけ芝の露」著

F2384 菅子(すがこ・竹川たけがわ、荒木田久老ひさおゆ女)1784-1844*61歳* 伊勢の歌人:父門、
伊勢飯野郡射和の豪商竹川政信の妻、「菅子日記」「浪のもくつ」「竹川菅子歌のひかえ」著

I2305 寿賀子(すがこ・山田やまだ)　？－　？　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[立ち寄れば桐の一葉も散らぬまに木蔭は秋の風ぞ吹きける](大江戸倭歌;夏647)

I2396 **須賀子**(すがこ・原はら、旧姓名;長谷川友恵)1832-67*36*　信濃伊那郡の歌人;松尾多勢子門、
国学;平田銕胤門
菅子(すがこ・小曾根)　→　*紅子*(もみこ・小曾根/片野、歌人)　Ｅ４４９５
須賀室(すがしつ)　→　*祐以*(すけもち・赤松/福田、国学者/歌)　Ｈ２３１２
清園(すがぞの・高橋正澄)→　*残夢*(ざんむ・高橋、歌人)　２０５７
菅園(すがぞの/すげぞの・高階)→　*貞房*(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者)Ｊ２０６０

B2363 **菅根**(すがね・藤原ふじわら、字;右生、良尚男)856-908*53*　母;菅野高年女、廷臣;文章博士/式部大輔、
侍従/蔵人頭、901菅原道真に連座し太宰少弐に左遷/908(延喜8)参議/従四上、
贈従三位中納言、漢学者;醍醐天皇に2度[史記]進講(侍読)、
904(延喜4)-[日本紀]講筵に招聘・竟宴和歌詠、延喜式の撰に参加、
醍醐天皇更衣淑姫(兼明親王の母)の父、
詩歌人;寛平御時后宮歌合・別本和漢兼作集・雑言奉和入、古今集212、
[秋風に声を帆にあげてくる舟は天あまの門と渡る雁にぞありける](古今;秋212/后歌合)

F2385 **菅根**(すがね:名・青木あおき、青木朝恒の妻)?-?　1782存　江戸の歌人:賀茂真淵門、もと吉原の遊女、
1782(天明2)「蘆垣」著

F2386 **清根**(すがね・菅原すがわら/山本)1789-1862*74歳*　京の社僧/神官;北野社預職、国学者;本居大平門、
歌;香川景樹門、連歌を能くす、「義猫之記」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
[常磐なす松に花咲く藤かづら来る春ごとに見れどあかぬかも]、
(八十浦;771長歌[藤]の反歌)、
[少女等が　うなげる玉の　白玉の　玉のみすまる　穴玉の　緒をよわみかも　玉の緒の
絶えぬるごとく　絶えぬるわが恋](八十浦;871)、
[清根(;名)の号]　随正/松円坊/松園坊しょうえんぼう/松園

I2397 **菅根**(すがね・原きはら、)　?－1868?　備前岡山藩筆頭家老伊木家家臣;忠澄(三猿斎)に出仕、
国学・歌;業合大枝おおえ(1792-1851)門

I2366 **清野**(すがの・鈴木すずき、名;須賀)?-?　安房館山の生/国学・歌:加藤千蔭(1735-1808)門、
江戸住/唐津藩老女職
菅野(すがの・松田)　→　*直子*(なおこ・松田まつだ、歌人)　Ｏ３２８４
寿加宮(寿賀宮すかのみや・一橋在子)→　*在子*(ますこ・一橋、治済の妻)Ｉ４０９９
菅乃屋(すがのや/すげのや、屋号)→　*篤胤*(あつたね・平田、国学)　１０２２
菅の舎(すがのや/すげのや)　→　*春夫*(はるお・佐々木、商人/国学)　Ｇ３６０５
菅の舎(すがのや/すげのや)　→　*直槌*(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人)　Ｎ３２５０
菅廼舎(すがのや/すげのや)　→　*知周*(ともちか・高橋、国学/歌)　Ｐ３１８０
菅廼舎(すがのや/すげのや)　→　*清雄*(きよお・水野みずの、国学者)　Ｏ１６６２
菅廼舎(すがのや/すげのや)　→　*義村*(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌)Ｎ４７６４
清の舎(すがのや)　→　*左倉太夫*(さくらだゆう、矢野/藤原、神職)Ｈ２０３２
須賀室(すがのや)　→　*御杖*(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌)４１２３
須賀の屋(すがのや)　→　*誠則*(のぶのり・沼崎ぬまざき/串部、神職/歌)Ｈ３５８１

F2387 **菅彦**(すがひこ・森本もりもと、別名;常昭、本姓;紀)?-1847　紀州名草郡の国学者;本居宣長門、
日前宮の社家国造家の家臣/社司、汎近ひろちかの父、
1828「みたまのふゆ」著、歌;大平「八十浦の玉」中;長歌1首入、
[菅彦(;名)の通称]　主税ちから/安藝

J2307 **菅彦**(すがひこ・広沢ひろさわ、別名;重賢しげかた、)?-1863　信濃伊那郡の歌人;福住清風(1778-1848)門、
[菅彦(;名)の通称/号]通称;久米吉、号;秀悦/昭尊

B2365 **菅麿**(すがまろ・木島きじま)　?－1836　歌人・賀茂真淵門、信州松代主真田幸専に出仕、
文化1804-18頃藩内に歌道を振興/のち致仕;諸国を歌行脚/江戸に没、
1809(文化6)「松のもも枝」著、「木積集」「篠屋集」「木島菅麿歌集」著、
[菅麿(;名)の通称/号]通称;舎人、号;篠廼舎しののや、法号;泊翁晴山居士

L2309 **菅満**(すがまろ・杉浦すぎうら、国満男)1745-1811*67*　遠江浜松諏訪神社神職;1766家督継嗣;大祝職、
国学・歌・神道;父門、弓術・雅楽を嗜む、「引馬亭歌集」著(散佚)、息子葛満かつらまろが家督嗣、
のち養子の杉浦[松平]比隈満(ひくまろ/1813-65)が家督嗣、

門人;服部時隣・小池利和・中村正邦・鈴木義直・中井直恕・山崎久麿・高林旦厚など、
[菅満(;名)の初名/通称]初名;比隈満、通称;増丸/大学(代々の称)/摂津守/因幡守
F2388 菅麻呂(すがまろ・大井おおい/本姓;源、通称;求馬、安麻呂男)?-? 江末期駿河府中(静岡)の神職;
奈吾屋神社・浅間神社の宮司、国学;本居豊穎・平田鉄胤門、「大井菅麻呂日記」、
「五十鈴日記」「伊勢参宮日記」「大井家日記」「蝗除祈祷留記」著
菅麿(すがまろ・栗田) → *眞菅*(ますげ・ますが・栗田くりた、国学者) Ｉ４０９８
菅麻呂(菅麿すがまろ・長谷川)→ *菅緒*(菅雄すがお・長谷川、医/国学/歌)Ｂ２３６２
醒麿(すがまろ・物部/鈴木)→*醒麿*(さめまろ/すがまろ・鈴木/物部、藩士/歌)Ｏ２０７３
F2389 須賀美(すがみ;号・坂内ばんない、名;清真/幼名;左近)1837-1914*78* 北会津荒井村の神職、
代々荒井村熊野神社祠官、漢学;1849(13歳)梅宮常昌門/1853藩校日新館入学、
吉田神道を修学;藩主に講義、維新後;若松県立学校国典教授/福島伊佐須美者権禰宜、
岐阜水無神社宮司等歴任、会津藩内に吉田流神道を広める、「神社年序録」著
F2390 清義(すがよし・高橋たかはし、義長男)1772-1838*67* 出雲の国学者:1805千家俊信門、神学修行の旅;
近畿山陰を行脚;源氏物語など講ず、管絃・書を嗜む、出雲楯縫郡美談村の美談神社神職、
「万葉註釈」「源氏物語解釈」「万葉地名筌」「三躰詩抄」「和漢朗詠集註抄」「窓呉竹」著、
1814「淤能碁呂島考」著
[清義(;名)の通称/号]通称;百枝/石見守、号;梅園、
F2343 菅賢(すがよし・古屋ふるや/旧姓;久保、)1818-1906*89* 和歌山海部郡関戸の生、古屋藤左衛門の養子、
和歌山藩士、歌;加納諸平門/国学;本居内遠門、藩国学所教官、
紀伊日高吉田村八幡神社祠官;国学歌道指導、妻;あや子(元芸妓/歌人;加納諸平門人)、
「のちのしるへ」著、
[菅賢の通称/号]通称;藤之助/作左衛門、号;真白廼舎ましろのや/美香之舎
L2342 清流(すがる・出川いずかわ)1808- 1857*50* 出雲八束郡来待村の里正、
国学・歌人;出雲国造千家尊孫たかひこ門、武田道年の父
I2315 清流(すがる・小川おがわ)1820 - 1892*73* 陸奥会津藩士、国学;野矢常方・沢田名垂門、
のち高田伊佐須美神社祠官、亮(伝八郎/白虎隊)の父
[清流(;名)の別名/通称/号]別名;直余之、通称;勇/伝吉、号;紫蘇園
為軽(すがる・竹杖、狂歌)→ *中良*(ちゅうりょう・森山、蘭学/読本作者)２８１９
菅六郎(すがろくろう・図師)→ *舟堂*(しゅうどう・図師ずし/門川、絵師) Ｏ２１９９
菅原朝臣(すがわらのあそん、古今集) → *道真*(みちざね・菅原) ４１０５
菅原右大臣(すがわらのうだいじん、後撰集) → *道真*(みちざね・菅原) ４１０５
菅原智洞(すがわらのちどう) → *智洞*(ちどう;法諱、本願寺派僧/唱導本)Ｅ２８９３
菅原磐樹(すがわらばんじゅ) →*千種庵*(三世ちぐさあん、磐樹、商家/狂歌師)Ｄ２８０３
素観(すかん・上人) → *素観*(そかん・上人、歌人) Ｄ２５４２
H2383 杉江(すぎえ;女房名・白川少将家)?-? 江中期;白川少将(神祇伯)家に女房として出仕、
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[稲葉より吹く風そよと音づれて賤がまがきの秋は来ぬらし](霞関;秋368/田家新秋)
杉枝検校(すぎえだけんぎょう)→ *眞一*(佐奈一さないち・杉枝/斉藤、幕府鍼医)Ｋ２０６２
杉里(すぎさと・鈴木) → *信善*(のぶよし・三輪/鈴木、藩士/歌人) Ｄ３５９７
I2323 椙司(すぎじ・岳おか/本姓;源、旧姓;谷)1837-1917*81* 京の吉田(谷)家の生、1854(18歳)丘家の養子、
近江蒲生郡八幡町比牟礼八幡宮神官;丘石見後裔、国学;平田銕胤・福羽美静・西川吉輔門、
1885西川重威らと比牟礼社を設立;歌道に尽力;[鴉のうみ]入、
[椙司(;名)の別名/通称]別名;義純、通称;伊佐美いさみ/勇
F2391 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、名;弘致/弘毅、嘉伝次長男)1837-64自刃*28歳* 長門藩士;地方組足軽、
1858松下村塾に入門、吉田松陰入獄中に尊攘活動に奔走;投獄、釈放後1858士雇に昇格、
高杉晋作を助け奇兵隊創設に尽力、1864禁門(蛤御門)変で敗北重傷;自刃、
「揚屋詩稿」「浜忠太郎入江九一書簡」「投獄日記」「伝信録」著、「入江子遠遺稿」、
[杉蔵(;通称)の字/別通称/号]字;子遠、別通称;万吉/喜一/九一、号;松白、
変名;河島小太郎
杉園(すぎぞの・中西) → *久受*(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) Ｂ３７３８

杉谷(すぎたに→さんこく・伊沢)→予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育)　Ｖ２６４２
杉千代(すぎちよ・檜垣)　→　*常晨*(つねあき/つねとき・檜垣ひがき、神職)　Ｂ２９４８
杉福(すぎとみ・北)　→　*栄親*(ひでちか・北きた、武将/軍記作者)　Ｄ３７１８
杉廼金戸(すぎのかねと)　→　*宣隆*(のぶたか・草鹿砥くさかと、儒/国学)　Ｂ３５７４
杉岸(すぎのきし・伊南)　→　*芳通*(よしみち・伊南いなみ、軍学者)　Ｈ４７３６
杉の本(すぎのもと)　→　*志道*(しどう・山口、国学者/神代学)　Ｖ２１２
須気廼屋(すきのや)　→　*秀久*(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌)　Ｊ３７９１
杉廼舎(すぎのや)　→　*裁之*(たつゆき・永井/長井、国学)　Ｇ２６２８
杉廼舎(すぎのや)　→　*高老*(たかとし・伊能いのう/大神、国学/歌)Ｖ２６５５
杉廼舎(すぎのや)　→　*栄哉*(ひでちか・太田おおた/源、庄屋/国学)Ｉ３７９１
杉廼舎(すぎのや)　→　*吉福*(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学)Ｍ４７８０
杉廼舎(すぎのや)　→　*経年*(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人)　Ｇ２９５０
杉の舎(すぎのや)　→　*田守*(たもり・河村かわむら、国学者)　Ｓ２６９５
杉の舎(すぎのや)　→　*眞壽*(まほぎ・藤井ふじい、神職/国学)　Ｓ４０２６
杉の屋(すぎのや)　→　*重忠*(しげただ・鴨かも/田窪、神職/歌人)　Ｎ２１８６
杉乃舎(杉廼舎すぎのや)　→　*季茲*(すえしげ・久保くぼ/源、幕医/国典)　Ｂ２３１９
椙乃屋(すぎのや)　→　*篤興*(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者)Ｈ１００６

B2364 **透原好酒**(すきはらのよきさけ)　？－　？　狂歌;1787「狂歌才蔵集」入、
[むら雲もはなれきつたる水の曲見上げてほむる月の丸一](才蔵集;五秋217)、
(詞書;太神楽見月/雲が月と離れきると抜群の水芸を掛る/丸一は満月と江戸神楽の紋)
好町(すきまち・恋川)　→　*真顔*(まがお・鹿都部しかつべ)　４００１
好屋翁(すきやのおきな)　→　*真顔*(まがお・鹿都部、狂歌)　４００１

B2366 **榲邨**(すぎむら/おっそん/おんそん・小杉こすぎ、明眞男)1834-1910*77* 阿波徳島国学者:池辺眞榛・本居内遠門、
漢学;寺島学問所で修学/歌人;父門、徳島藩士西尾氏に従い江戸に出る、
村田春野・小中村清矩と親交、1863勤王を主唱;藩内に動揺を与え幽閉、1868赦免、
1869長久館国典教授/新政府に出仕、文部省で古事類苑編纂参加、宮内省御歌所参候、
歌集「いけの玉藻」編、1865「延喜神名式標目索引」、「幽閉日詠」著、
[榲邨(;名)の別名/通称/号]別名;眞瓶/明発、通称;五郎、号;杉園/老杉園主人

B2367 **杉山丹後掾**(すぎやまたんごのじょう)?-　?　浄瑠璃太夫:1616江戸に下る、江戸操浄瑠璃開祖

B2368 **杉山肥前掾**(すぎやまひぜんのじょう、丹後掾男、伊之助)?-?　浄瑠璃太夫、1661肥前掾清政、肥前節の祖
数奇老人(すきろうじん)　→　*定保*(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学)Ｑ２０９２

J2330 **直夫**(すぐお・室むろ、初名;広義/通称;内膳)?-?　紀伊和歌山藩士;御手筒頭格、国学者

B2369 **少彦名**(須久奈比古奈すくなひこな、少御神すくなみかみ)?-?　大国主命と協力し国造りに尽力、
知恵ある小さ子神;最後は粟の茎の弾力で常世に飛び去る、
万葉集には[神代から]の意味で大汝おおなむちと並立して用いる、
万葉巻三・355(志都岩屋)、六9638(名児山)、七1247(妹背山9、十八4106)に出てくる

B2370 **宿奈麻呂**(すくなまろ・大伴宿禰おおとものすくね、安麻呂3男)?-?　旅人たびと・多主の弟、廷臣;708従五下、
715左衛士督/719備後守;按察使として安藝周防を管す/724従四位下、右大弁、
田村の里に住;娘に田村大嬢/後妻に異母妹坂上郎女さかのうえのいらつめと結婚;、
その娘に坂上大嬢(大伴家持の妻)・二嬢、
万葉二・三期歌人;巻四532/533、129題/586題/759左注入、
[うちひさす宮に行く児こをまかなしみ留むれば苦し遣やればすべなし](万葉;532)
宿奈麻呂女(すくなまろのむすめ・大伴)→*田村大嬢*(たむらのおおいらつめ)２６５２
後妻の坂上郎女との間の娘、
→　*坂上大嬢*(さかのうえのおおいらつめ、家持妻)　２０１０
→　*坂上二嬢*(さかのうえのおといらつめ)　Ｂ２０２８

B2371 **宿奈麻呂**(すくなまろ・野氏やし;小野か?)?-?　平安期廷臣;730.1.13大令史、
万葉三期歌人;833(:730年旅人の大宰府での梅花宴に参加)、
[年のはに春の来たらばかくしこそ梅をかざして楽しく飲まめ](万;833/年のはは毎年)
小野臣おののおみ淑奈麻呂すくなまろ[733頃出雲目いづものさかん]と同一か?

B2372 **宿奈麻呂**(少麻呂すくなまろ・巨勢朝臣こせのあそみ)?-? 奈良期廷臣;728外従五下、
729(天平元)長屋王変の際の窮門使に参加:舎人親王・新田部皇子・藤原武智麻呂らを審問、
従五下少納言、万葉四期歌人;八1645、
[我が宿の冬木ふゆきの上に降る雪を梅の花かとうち見つるかも](万葉;1645)

B2373 **宿奈麻呂**(すくなまろ・藤原朝臣ふじわらのあそみ、別名;良継、式家宇合うまかい2男)709-778 *70* 奈良期廷臣、
740(天平12)兄広嗣の謀反に連座し伊豆に配流/742赦免;大宰少判事/746従五下上総守、
752相模守/755相模の防人部領使として防人歌提出/民部少輔/右中弁/上野守/大宰帥、
764恵美押勝を追討/766従三位/770参議;良継よしつぐと改名、777内大臣/従二位、
没後;従一位追贈/正一位太政大臣を追贈、
万葉集に歌はない:4330左注/4491(:妻石川女郎の歌)

直成(すぐなり・柳) → *柳直成*(やなぎのすぐなり、狂歌) Ｅ４５４５
宿禰(すくね・狛) → *諸成*(もろしげ・狛こま/野田、楽人/国学) Ｈ４４２９
宿禰(すくね・六人部) → *是香*(よしか・六人部むとべ、国学/神道/歌)４７０４
宿禰(すくね・生源寺) → *業雅*(なりまさ・祝部ほうりべ/生源寺、神職/歌)Ｉ３２１９
宿禰(すくね・生源寺) → *希璵*(まれとも・生源寺しょうげんじ/祝部、神職/歌)Ｑ４０２０

B2374 **俊**(すぐる・源みなもと;嵯峨流、唱男)?-947? 母;橘善基女、平安前期廷臣;従四上/蔵人/左中弁、
近江守、歌人;921醍醐御時内裏菊合参加/後撰672、息女;師輔男忠君ただきみの妻・源満仲妻、
[久しくも恋わたるかな住の江の岸に年ふる待つならなくに](後撰集;恋672)、
(本歌;久しくもなりにけるかな住の江の松は苦しきものにぞありける;古今778読人不知)

スグル御前(すぐるごぜん) → *頼仁親王*(よりひとしんのう・冷泉宮、流罪) Ｊ４７５７

F2392 **典侍**(すけ、藤原師家もろいえ[?-1058]女)?-? 平安期女官/歌人、通称;典侍の君/輔の御すけのご、
956坊城右大臣師輔歌合・972女四宮規子内親王歌合・1093郁芳門院根合参加、
[常よりもはれせぬ年の五月雨にあまの河原も水やまされる](郁芳根合;三番右12)

F2393 **佐**(すけ・右大臣家うだいじんけの)?- ? 平安後期;右大臣藤原経宗[1119-89]家の女房、
歌人;1170住吉社歌合(判者;俊成)/72広田社歌合(判者;俊成)/91若宮社歌合参加、
[都にも思ひやすらむ草枕うちしぐれたる夜半の寝覚を](住吉歌合;旅宿時雨一番右52)

典侍(すけ・大夫) → *大夫典侍*(だいふのすけ、源顕仲女) Ｃ２６１５
典侍(すけ・藤とう) → *灌子*(かんし・藤原、藤典侍) Ｄ１５８１
典侍(すけ・権大納言) → *権大納言典侍*(ごんだいなごんのすけ) Ｅ１９７５
典侍(すけ・前典侍、掌侍)→ *前典侍*(さきのすけ) Ｇ２０４７
典侍(すけ・宣旨) → *宣旨典侍*(せんじのすけ) Ｆ２４８１
典侍(すけ・中務) → *中務典侍*(なかつかさのすけ) Ｅ３２３４
典侍(すけ・民部卿) → *民部卿典侍*(みんぶきょうのすけ) Ｇ４１９１
典侍(すけ・因子いんし) → *民部卿典侍*(みんぶきょうのすけ) Ｇ４１９１
典侍(すけ・光子) → *典侍光子*(すけのみつこ、按察、歌人) Ｇ２３８７
典侍(すけ・侍従) → *典侍*(ないしのすけ・侍従) ３２５１
典侍(すけ) → *あきらけい子*(あきらけいこ・藤原、宰相女)Ｃ１０８８
輔(すけ・浜村、歌伎作家)→ *駒人*(こまんど・駅亭、人情本作家) Ｆ１９６７
輔(すけ・嵯峨) → *朝来*(ちょうらい・嵯峨さが、儒者/詩) Ｋ２８０８
輔相(すけあう・藤原) → *輔相*(すけみ・藤原) Ｄ２３０４

B2375 **輔昭**(すけあき/すけあきら・菅原すがわら、文時男)?-? 982存 平安前期廷臣;紀伝道に修学/従五下大内記、
982(天元5)出家、詩歌人、974冷泉院詩宴の序者、975一条大納言(藤原為光)家歌合参加、
977三条左大臣(藤原頼忠)殿前栽歌合参加、
藤原公任撰[前さきの十五番歌合]入集、類聚句題抄入集、詩;本朝文粋1首入、
勅撰4首;拾遺(689/1059/1060)新古今(909)、
[露ばかり頼めしほどの過ぎゆけば消えぬばかりの心地こそすれ](拾遺;恋689)、
(かつて契りある女遣る歌)

F2394 **資顕**(すけあき・家名;吉田よしだ/本姓;藤原、春宮亮藤原俊顕男)?-1391 中御門家の支流、南北期廷臣、
1376従三位/右兵衛佐、連歌作者:菟玖波集3句入;420/927/1100、
[松一木秋の風吹く浅茅原](菟玖波;五秋420/前句;月には里の名残こそあれ)

F2395 **祐詮**(すけあき・藤田ふじた)　？－　？　江前期元禄1688-1704頃岩代会津藩士、
「会津孝子伝」著、森もり雪翁せつおうの弟、
[祐詮(;名)の号]　幽仙/祐仙
F2396 **扶明**(すけあき・三刀谷みとや、通称;伴蔵、孝和男)?-? 江前期紀伊和歌山藩士;5百石、
藩主徳川頼宣に出仕;番頭を務める、「三刀谷田辺記」著
F2397 **資顕**(すけあき・白川、資顕王、雅富男/本姓源)1731-8555 母;白川雅冬女/兄雅辰嗣;1759神祇伯、
「神祇道秘巻」「御即位褰帳けんちょう/とばりあげ女王日記」「明和度大嘗会識」著、資延の父
I2393 **祐享**(すけあき・長野ながの、)1793-185260　京の廷臣;図書寮官人、国学、長野祐良すけよしの裔、
[祐享(;名)の通称]図書少允/左衛門少尉/図書大允/対馬守
F2398 **亮章**(すけあき・上田うえだ)　？－　？　江後期嘉永1848-54頃三河田原藩士;
藩主一族の三宅友信に近侍、洋学者;武術・数学測量術に長ず、
ｵﾗﾝﾀﾞ砲術書「鈴林必携」訳(実は三宅友信訳?)、「春洞遺言」著
[亮章(;名)の字/通称/号]字;彰甫、通称;弥一兵衛、号;芳春
三宅友信　→　*友信*(とものぶ・三宅、蘭学者)　Ｑ３１２２
允亮(すけあき・惟宗・令宗)→　*允亮*(ただすけ・惟宗これむね/令宗よしむね、明法家)Ｆ２６１６
介明(すけあき・宮地)　→　*春樹*(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学)　Ｇ３６２４
資明(すけあき・日野/柳原)→　*資明*(すけあきら・柳原/日野、廷臣/歌人)Ｂ２３７６
資顕(すけあき・長沢)　→　*資祐*(すけやす・長沢ながさわ、幕臣/高家)　Ｈ２３２７
資章(すけあき・本間)　→　*棗軒*(そうけん・本間ほんま、医者)　Ｈ２５０９
資章(すけあき・瀬山)　→　*命助*(めいすけ・瀬山せやま、藩士)　４３２２
祐明(すけあき・中臣)　→　*祐明*(すけあきら・中臣/千鳥)　Ｂ２３７７
祐章(すけあき・河津)　→　*長夫*(ながお・河津わかづ、儒者/歌人)　Ｌ３２７５
輔章(輔明すけあき・松本)→　*辰輔*(たつすけ・松本、藩士/系譜)　Ｒ２６６３
資顕王(すけあきのおおきみ)　→　*資顕*(すけあき・白川、神祇伯)　Ｆ２３９７
B2376 **資明**(すけあきら・すけあき・柳原やなぎわら/初姓;日野、日野俊光男/本姓藤原)1297-135357　柳原家の祖、
母;亀山院女房三位局(藤原寛子)、日野資名・資朝の弟、宗光・忠光の父、
廷臣;1330参議/32権中納言/33後醍醐天皇還幸で解任/37北朝で権中納言に再任、
1344正二位/45権大納言/46致仕、のち按察使;光明・崇光院の別当、
歌人;1336住吉社法楽和歌/39春日社頭公武和歌/46・50仙洞歌会などに出詠、貞和百歌入、
1346風雅集竟宴・50為世十三忌詠法華経和歌参加/続現葉・松花・臨永・藤葉集入、菟2句入、
勅撰16首;続千載(1175)風雅(4首657/760/1071/1749)新千(4首)新拾(2首)新続古(3首)、
[我が袖にうらわの波はかくれどもとひもこぬ夜の浜の名ぞうき](続千;恋1175)、
[あさ日山まだかげくらきあけぼのに霧のした行く宇治の柴舟](風雅;秋657)、
[資明(;名)の通称/法号]通称;日野大納言、法号;髙源院
B2377 **祐明**(すけあきら・中臣なかとみ/家名;千鳥、初名;祐盛、祐重男)1144-122986 平安鎌倉期の神職;
1193春日神社若宮神主、1214正五下、歌人、祐隆の兄/祐茂しげ(祐定)の父、
「春日若宮神主祐明記」著、[楢葉集]6首入、
[寿永元(1182)年春日若宮社歌合に、
あまくだるみかげうつりしかがみかとみゆるみかさの山の端の月](楢葉;神祇508)
F2399 **祐明**(すけあきら・久須美くすみ/本姓;藤原、祐光すけてる男)1769-185284 母;江坂正恭女、越後三島郡の生、
旗本・幕臣;1797御勘定役/関東郡代附留役/1840佐渡奉行/小普請奉行/43大坂町奉行、
勘定奉行、妻;田中時房女、祐雋すけとしの父、「巷談雑録」/1840-42「佐渡日記」著、
書簡集「浪花の雁」「浪花の雁報牘」著、
[祐明(;名)の通称]六郎左衛門/隼之助/丈助/権兵衛
翼章(すけあきら・井上/梯)→*素良*(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学)Ｊ４４１４
輔昭(すけあきら・菅原)　→　*輔昭*(すけあき/すけあきら・菅原、廷臣/詩歌)　Ｂ２３７５
典侍明子(すけあきらけいこ)→　*あきらけい子*(典侍、歌人)　Ｃ１０８８
B2378 **祐敦**(すけあつ・鴨かも、祐実男)?-　？　鎌倉期神職;正四下/河合社禰宜/1288貴布社祝、
歌人、続千載集1605、
[契らずようき面影おもかげを残し置きて忘らるる身の形見なれとは](続千;恋1605)

G2300 **祐篤**(すけあつ・賀茂かも)　？－　？ 1556存　戦国期賀茂社神官、1556(弘治2)「賀茂斎院記」著
I2329 **祐篤**(すけあつ・河津かわづ/本姓;松井、九郎左衛門男)1653-1750長寿*98*　筑前福岡の生、
1668(16歳)長崎遊学;中国人と交流/10余年後に京で修学/黄檗宗参禅;
即非如一・木庵性瑫門;印可許可、詩人、医者を志す/江戸で戸田家侍医として出仕、
ところが子供2人(祐之・祐章)が早世;
養嗣子祐之(1711-42/32歳没/娘婿が加藤宇万伎)及び息子長夫ながお(祐章/1719-47/29歳)、
長夫の養子祐世(伊藤郡翁男)が家督嗣、
[祐篤(;名)の字] 正伯
G2301 **助丁**(すけあつ・坂牛/阪牛さこうし)?- ?　陸奥(陸中)南部藩士;藩命で藩内の地誌編纂;
梅内祐訓・三輪秀福らと共編、歌人;黒川盛隆門、1806(文化3)「旧蹟遺聞」編、
[助丁(;名)の通称/法号]通称;丙午、法号;道生斎哲心師本居士
B2379 **資有**(すけあり・藤原ふじわら、基綱男)?-? 1265存　鎌倉期廷臣;正五下皇后宮権大進、歌:新続古895、
[旅衣たちおくれじとしたふまにたむけの月も影ぞいざよふ](新続古今集;離別895)、
(文永二年1265七月白河殿にて七百首歌に詠歌586/餞別欲夜といふ事)
須渓(すけい・秋元)　→　*澹園*(たんえん・秋元/秋本/、儒者/詩文)Ｈ２６９５
須渓(すけい・元/秋元/中西)→ *淡淵*(たんえん・中西/秋元/福尾、儒者)Ｈ２６９３
B2390 **祐家**(すけいえ・藤原ふじわら、通称;小野中納言、権大納言長家男)1036-88*53* 母;源高雅女従三位懿子、
廷臣;1053従三位/64参議/68正二位/80中納言、
歌人;1049(永昌6/14歳)内裏歌合参加/51内裏歌合参加/56皇后宮寛子春秋歌合参加、
勅撰3首;千載(119)新千載(621)新拾遺(587)、
[九重に咲けるを見れば藤の花こきむらさきの雲ぞたちける]、
(千載;春119/永昌六年内裏歌合詠/紫雲は瑞雲)
G2302 **祐舎**(すけいえ・中臣なかとみ/家名;今西、祐定男)1644-93*50* 江前期神職;春日社神官/1658神宮預、
1663「春日神社記」著
G2303 **祐磯**(すけいそ・中臣なかとみ/家名;辰巳、祐恩の長男)1507-83?*77?*(or1588存説)　室町期神職;
1529春日若宮社権預/73春日社正預/77従三位、1560-75「春日社司祐磯記」著
G2304 **助一郎**(すけいちろう・寺崎てらさき、助一郎男)?-1864?　幕臣;1861長崎奉行支配調役、源太郎の父、
「長崎往来」編
輔一郎(すけいちろう・伊藤)→　*千弘*(ちひろ・伊藤、国学)　Ｆ２８２７
助一郎(すけいちろう・備後屋;変名)→*晋作*(しんさく・高杉、藩士/勤王家)Ｅ２２３１
介一郎(すけいちろう・三輪)→　*伴蔭*(ともかげ・三輪みわ、国学/神職/歌)　Ｗ３１５５
B2391 **資氏**(すけうじ・源、本名不詳:後亀山天皇か?)?-? 1375南朝「五百番内裏歌合」右方筆頭入
G2305 **資氏**(すけうじ・白川しらかわ、資氏王、資益すけます男/本姓;源)1452-1504*53* 1484神祇伯/従三位/90辞任、
嫡子雅業まさなり若年のため叔父忠富ただとみが任伯、1474「伯家行事伝」著
G2306 **資氏**(すけうじ・福原ふくはら、伊達村好2男)1777-1841*65* 仙台藩士/福原家継嗣;仙台藩高城邑主;千石、
1813奉行;役料3千石/24加増2百石、歌、「北村季文福原資氏御文」著、
[資氏(;名)の別名/通称]別名;氏資?、通称;縫殿
L2325 **祐氏**(すけうじ・有馬ありま、)1824-70*47*　筑後久留米藩士;家老脇、国学者、祐氏すけゆきの父
資氏王(すけうじのおおきみ)　→　*資氏*(すけうじ・白川、神祇伯)　Ｇ２３０５
J2352 **祐内**(すけうち・中臣なかとみ/家名;千鳥、)?-?　鎌倉南北期神職;春日社司、歌人;藤葉とうよう集入、
[しられじな忍ぶのおくの摺衣みだれてふかき思ひ有りとも](藤葉;恋392)
助内(すけうち・松居)　→　*宗員*(むねかず・松居まつい、藩士/歌人)　Ｅ４２２５
G2307 **祐殖**(すけえ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐親3男)1275-1352*78* 鎌倉南北期神職;祐春甥、
1316春日社権預/1340春日社正預/1342春日若宮社神主兼任、掃部頭、
暦応1338-1342頃「春日社造替記」著、歌人;1345?小倉実教[藤葉とうよう集]3首入、
勅撰5首;続千載(1768)風雅(2138)新千載(1906)新拾(1416)新続古(291)、
[さやかなる名をばとどめてきよみ方かたぶく月に関守ぞなき](続千載;雑1768)
[さらしえぬ色かとぞみる五月雨ににごりて落つる布引の滝](藤葉;夏136)
資枝(すけえだ・日野)　→　*資枝*(すけき・日野、歌人)　Ｃ２３０３
介右衛門(すけえもんう・興野)→*成信*(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人)　Ｌ３２５１

助右衛門(すけえもん・吉田)→ *豊武*(とよたけ・吉田よしだ、弓道家/歌)　Ｘ３１０５
助右衛門(介右衛門/介衛門すけえもん・大江)→*松隣*(しょうりん・大江、儒者)Ｌ２２９７
助右衛門(すけえもん・富森)→ *春帆*(しゅんぱん・富森とみのもり正因、俳人/討入)Ｋ２１３９
助右衛門(すけえもん・庵原)→ *朝弘*(ともひろ・庵原/廬原いおはら/いはら、家老/歌)Ｑ３１４３
助右衛門(4世すけえもん・美濃屋)→ *両以*(りょうい・中島なかじま、豪商)　Ｇ４９１５
助右衛門(すけえもん・清野)→ *信興*(のぶおき・清野きよの、藩士/和算家)　Ｂ３５０２
助右衛門(すけえもん・星野)→ *実宣*(さねのぶ・星野、藩士/和算/測量)Ｌ２０２０
助右衛門(すけえもん・福田)→ *太室*(たいしつ・福田ふくだ/ふくた、儒者)　Ｋ２６１３
助右衛門(すけえもん・福田)→ *少室*(しょうしつ・福田、太室男/儒者)　Ｊ２２４４
助右衛門(すけえもん・熊沢)→ *蕃山*(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学)　３６４２
助右衛門(すけえもん・林) → *自弘*(じこう・林はやし、藩士/和算家)　Ｔ２１４０
助右衛門(すけえもん・大谷)→ *紫陌*(しはく・大谷、俳人)　Ｖ２１４５
助右衛門(すけえもん・堺屋/寺村)→ *百池*(ひゃくち・寺村、商家/俳人)　Ｅ３７６６
助右衛門(すけえもん・山崎)→ *焉馬*(2世えんば・烏亭、狂歌/戯作)　Ｂ１３３４
助右衛門(すけえもん・益田)→ *鶴楼*(確楼かくろう・益田、儒/詩人)　Ｅ１５８４
助右衛門(すけえもん・桜木)→ *閭斎*(ぎんさい・桜木、儒者/垂加神道)　Ｑ１６９８
助右衛門(すけえもん・早川)→ *種徳*(たねのり・早川、藩士/兵学者)　Ｒ２６９５
助右衛門(すけえもん・吉田)→ *蔵伎*(くらき・菊屋、此道、戯作/狂歌)　Ｂ１７７４
助右衛門(すけえもん・吉田)→ *豊辰*(とよとき・吉田よしだ/新居、藩家老/神職)Ｗ３１９４
助右衛門(すけえもん・鈴木)→ *忠義*(ただよし・鈴木、藩士/和算家)　Ｒ２６３８
助右衛門(すけえもん・庵原)→ *朝成*(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者)Ｐ３１５５
助右衛門(すけえもん・庵原)→ *朝光*(ともみつ・庵原いおはら/いはら、家老/歌)Ｕ３１１５
助右衛門(すけえもん・伊地知)→*重張*(しげはる・伊地知いぢち、藩士/記録)Ｓ２１２５
助右衛門(すけえもん・奥村)→ *栄実*(てるざね・奥村おくむら、藩士/和漢学)Ｃ３０７４
助右衛門(すけえもん・奥村)→ *栄通*(てるみち・奥村、藩士/文筆)　Ｃ３０９６
助右衛門(すけえもん・奥村)→ *尚寛*(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌)Ｃ３２０２
助右衛門(すけえもん・中川)→ *千尋*(ちひろ・中川なかがわ、藩士/国学)　Ｎ２８１４
助右衛門(すけえもん・牧) → *義制*(よしまさ・牧まき/堀、幕臣/歌人)　Ｈ４７１６
助右衛門(すけえもん・牧) → *義道*(よしみち・牧まき、義制男/幕臣)　Ｈ４７４７
助右衛門(すけえもん・丸屋)→ *義章*(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学)Ｃ４７０６
助右衛門(すけえもん・児島屋)→*方隣*(みちちか・植田うえだ、商家/国学者)Ｉ４１１８
助右衛門(すけえもん・木村)→ *政信*(まさのぶ・木村きむら、神道/国学)　Ｐ４０１９
助右衛門(すけえもん・武田)→ *千穎*(ちかい・武田たけだ/三好、藩士/歌)Ｍ２８８１
助右衛門(すけえもん・内藤)→ *経成*(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王)Ｆ２９９７
助右衛門(すけえもん・山上)→ *雪山*(せつざん・山上やまがみ/松下、藩士/国学)Ｏ２４５６

B2392 **佐壮**(すけお・丸子部まろこべ)？ －　？　755防人/常陸国久慈郡、万葉廿4368、
[久慈川は幸さけくあり待て潮船に眞梶しじ貫き我わは帰り来む](万葉;4368)

I2358 **亮雄**(すけお・塩沢しおざわ、旧姓;竹村)1753-1829*77*　信濃伊那郡島田村の庄屋、
歌人;桃沢夢宅門/国学;服部菅雄・森広主門、妻;知久ふさ(歌人)
[亮雄(;名)の字/通称/号]字;惇卿、通称;留兵衛るへえ/秀之助、号;閑斎/竜渓/珉山

G2309 **祐雄**(すけお・伊東/伊藤いとう、別名;祐明)1815-58*44* 伊予松山藩士、松山神伝流水泳の宗家、歌人、
「神伝遺法大略」「正体三段九意游方」著、
[祐雄(;名)の通称/号]通称;登/九郎右衛門/太郎左衛門、号;竜翼

G2310 **資雄**(すけお・樺山かばやま)1801- 1878*78歳*　薩摩藩士、松原神社祠官、国学・歌;1833香川景樹門、
1853「笠狭考」、「山陵遺考」「樺山資雄家集」著、
[資雄(;名)の通称] 武吉/武左衛門
新政府官僚の樺山資雄(1839-99)とは別人

I2356 **祐雄**(すけお・笹木ささき、)1814- 1882*69*　陸奥津軽郡金木村八幡宮の神主、
国学;平田鉄胤門、祐行すけゆきの父、
[祐雄(;名)の通称/号]通称;淡路/栄、号;玉郷

L2323 佑矣(すけお・浅田あさだ、通称;達二)?-1854　　筑後久留米藩士/歌人;橘守部門
G2311 祐雄(すけお・高橋たかはし、秀雄の長男)1822?-1918長寿97or93 岩代福島藩士;
1843藩主に随い江戸出府、儒;安積艮斎門/諸国遊学/詩;梁川星巌門、
1857三河重原代官;10年勤務;名代官と称される、1867帰郷/藩校講学所の師範;父を継承、
1866「芻蕘迂言」著、「高橋忍南肉筆書帖」書、
[祐雄(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;末雄、字;子吉、通称;新三郎/古三郎、号;忍南
助雄(すけお・下郷)　→　*鍋盛*(かせい・下郷しもさと、商家/俳人)　Ｍ１５６２
祐雄(すけお・鴨)　→　*祐雄*(すけたけ・鴨かも、神職)　Ｇ２３０８
祐雄(すけお・真鍋)　→　*祐雄*(ゆうゆう;名・真鍋まなべ、藩士)　Ｄ４６９１
亮雄(すけお・田原)　→　*亮昌*(すけまさ・田原たわら、神職/歌人)　Ｉ２３７３
資雄(すけお・太田)　→　*資雄*(すけかつ・太田おおた、武将/歌人)　Ｂ２３９３
輔相(すけおう・藤原)　→　*輔相*(すけみ/すけまさ・藤原、歌人)　Ｄ２３０４
G2313 資置(すけおき・太田おおた)　?-　?　　江戸前期丹波篠山藩士、
藩主松平信庸の命で領内寺社旧跡を奈良由繹と共に調査、1687「篠山領地誌」著
G2312 資興(すけおき・日野西ひのにし/本姓;藤原、石井行康2男)1722-5635 日野西資敬or資教の養子、
江中期廷臣;日野西家を継嗣;1745豊尚から資興に改名/侍従・蔵人・春宮大進など歴任、
1750正四下/越前介、賀茂奉行を務める、法号;志道院、著多数;1740「新嘗祭私記草」、
1740「伊勢例幣参向私記」「石清水放生会参向私記艸」/48「賀茂祭記」、「日野西資興日記」等
H2390 資興(すけおき・那須なす/本姓;藤原、本庄[松平]宗秀4男)?-1870　旗本那須資礼すけひろの養嗣子、
1860家督継嗣;交代寄合、妻;津軽順朝女、資穀(?-1935)・飛佐子(柳沢光邦妻)の父、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[涼しさに扇忘れてながむれば秋思ほゆる月の影かな](大江戸倭歌;夏529/夏月涼)、
[資興(;名)の通称]　豊太郎・与一(;父の通称継嗣)
2309 輔臣(すけおみ/すけおむ・藤原ふじわら)?-　?　　平安前期廷臣/歌人、後撰集1149、
[かづき出いでし沖の藻屑を忘れずはそこのみるめを我に刈らせよ](後撰;1149)、
(かづくは潜く/藻屑は沓を掛る/底と其処[あなた]を掛る/海松布と相見る意を掛る)、
(南殿の五節で沓をなくした童女に沓を貸してやったのち返す時よこした歌への返歌)
[童女の贈歌;1148立ち騒ぐ浪間を分けてかづきてし沖の藻屑を何時か忘れん]
尊卑分脈に該当者がないので誤記として2説あり;
①輔仁(すけひと・藤原、玄上男、春宮少進、刑部大判事)説[勅撰作者部類説]　Ｃ２３８７
②扶幹(すけもと・藤原、村椙男)の誤記説(片桐説)もある　Ｄ２３１３
B2394 祐臣(すけおみ・中臣なかとみ/家名;新薬師[初姓]/千鳥[後姓]、中臣祐春の長男)1275-134268 神職;
1313春日社若宮神主/正五下/木工助、歌人;二条為定・九条隆博門、範憲・宗円と交流、
1314-25「春日神主祐臣記」著/家集「自葉和歌集」、五十首・百首歌詠多数/1259千首歌を詠、
勅撰9首;玉(2453)続千(1092/17841894)続後拾(724)風雅(2143)新千(2075)新続古(2首)、
[和歌浦に跡つけながら浜千鳥名にあらはれぬねをのみぞ鳴く](玉葉;雑2453)、
この歌が有名となり因って子孫の家名を[千鳥]と呼ぶ、祐任すけとうの父
I2369 祐臣(すけおみ・曾我そが、通称;辰右衛門)1810-7869　日向都城藩士;勘定方、国学者、
のち早鈴神社社司
B2395 すけおむ(すけおん・宮道みやじ)?-　?　　平安前期官人;保明親王[903-23]の帯刀、
歌:904-923頃「帯刀陣歌合」入、
[秋の月このしたなべてあかければこのもかのものかげだにもせず]
(帯刀陣歌合;秋月右10)
G2314 祐父(すけおや・中臣なかとみ/家名;東地井、祐園の長男)1514-9986 戦国期神職;
1524従五下/神祇権少副/1550春日社神宮預/88春日社正預/91正四下、
「春日社司祐父記」/1553「春日社正遷宮雑具用途并古物支配記」著、祐範の父
B2397 資蔭(資陰すけかげ/資熙すけひろ・田向たむけ/庭田/本姓;源、大納言庭田にわた重資男)?-1392 南北期廷臣、
左中将、1383従三位・非参議、経有の兄弟、経兼(旧名経良)の父、歌人、
1370-76頃「百番歌合」参加、菊葉きくよう集6首入、
[朝嵐の吹きしく音にならしばのかげにもためぬ山の薄雪](百番歌合六七番左/淺雪)、

(楢柴[楢の小枝]と馴るの掛詞/資熙名)、
[月はましてかすめる影にうつりあふ花の上だに打曇りつつ]、
(菊葉集;春181/伏見殿六十番歌合;花間月、資蔭名)
G2315 **輔景**(すけかげ・長尾ながお/本姓;平)?-? 室町中期越後の武家/守護上杉房定・房能の家臣、
1489-1504頃奉書署名、三河守、1490頃出家、連歌;越後訪問の兼載・宗祇・万里集九と交流、
新菟玖波集2句入、
[輔景(;名)の法名/通称]法名;存胤ぞんいん、通称;三河入道/高枕斎存胤
2329 **助員**(すけかず・比企ひき/本姓藤原、法名;明円)?-? 鎌倉期北条氏の被官/出家、早歌そうか(;歌謡)作者、
作曲;1319「別紙追加曲;琵琶曲」「玉林苑;山王威徳/余波なごり」作曲、
明空(月江)編「異説秘抄」の[元服]の作詞作曲、
1322「撰要両曲巻せんようりょうきょくのまき」月江(明空)と共編/後半12首を編)
J2341 **右一**(すけかず・吉田よしだ、通称;右一郎/号;友松)1829-1920長寿*92* 周防山口の萩藩士、
歌人;近藤芳樹門、維新後;山口県庁出仕
G2316 **資風**(すけかぜ・白石しらいし、卯兵衛男)1812-80*69* 母;艶子つやこ、長門下関赤間の廻船問屋(富商);
父を継嗣/大年寄、国学者;鈴木重胤門、勤王派:多くの志士のため家財を傾ける;
自邸で高杉の奇兵隊結成等、奇兵隊「桜山歌集」序刊、
「白石正一郎日記」/歌集「松のおち葉」著、
[資風(;名)の別名/通称/号]別名;資方、通称;正一郎しょういちろう/駒吉/熊之助、
号;橘園/橘円、屋号;小倉屋
B2398 **相方**(すけかた/まさかた・源みなもと、左大臣源重信男)?-? 998後没 母;藤原朝忠女、平安前中期廷臣;
蔵人/伊賀守/播磨守/備後守/従四上(正四下?)/権左中弁、
歌人;新撰朗詠集・後葉集・続詞花集・和漢兼作集入、
勅撰2首;拾遺(1328)後拾遺(1106)、金葉集三奏本105、
[契あれば屍かばねなれども逢ひぬるを我をば誰か訪とはんとすらん](拾遺;哀傷1328)、
(忠蓮が僧坊に描いた[死人を泣きながら弔う法師]の絵を見て/自分の死後の不安を詠)
B2399 **資賢**(すけかた・源みなもと;宇多流、法名;円空、源有賢男)1113-88*76歳* 母;高階為家女、廷臣、
後白河院の寵臣;1161従三位/二条天皇親政派に疎まれ1162信濃に配流/1165復位、
1176正二位/79権大納言;平清盛のため後白河法皇近臣39人の1として解官;丹波に移住、
1180赦免;帰京/81還任、82出家、藤家と並ぶ郢曲家の棟梁;後白河院の師、笛・和琴の名手、
綾小路の祖、蹴鞠も嗜む、歌人;1182家集「入道大納言資賢卿集」、月詣集・万代集入集、
勅撰5首;千載(189/1267)新勅(50/665)続後撰(867)、
[をちかへり濡るとも来きなけ時鳥いま幾日いくかかは五月雨の空](千載;夏189)、
(をちかへりは元の場所・状態に戻り繰返す意/梅雨明けも間近い)
C2300 **祐賢**(すけかた・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐茂男)1219-1282*64* 神職;1256春日社若宮神主/78正五上、
1282若宮神主を息子の子祐に譲渡;没、「春日若宮神主祐賢記」「春日社御八講記」著、
1262「春日若宮本地事并大明神御垂迹事」73「春日社社家日記」著、歌人、
勅撰4首;続拾遺(1428)新後撰(1013)玉葉(2777)続千載(327)、
[繰返し三笠の杜にひくしめのながき恵みをなほ祈るかな](続拾遺;神祇1428)
I2383 **資方**(すけかた・土田つちだ、)1660-1740*81* 近江彦根の儒者;沢村維顕(琴所)門、
詩歌を嗜む、歌:[彦根歌人伝・寿]入
[資方(;名)の通称/号]通称;友右衛門、号;雪舎ゆきのや
H2380 **資方**(すけかた・野々口ののぐち)? - ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[雨音は名こその滝か今日の月](手鑑/嵯峨大覚寺の離宮嵯峨院の滝殿にあった滝;
藤原公任の[名こそ流れてなほ聞えけれ]の歌のにて名付けた)
G2317 **祐賢**(すけかた・伊東いとう、祐豊男)1666-1708*43* 幕臣;志摩守/従五下/父の遺跡継嗣;小普請、
1684小姓、93辞職/寄合:采地5千石、1668(寛文8)-1707(宝永4)「伊東志摩守日記」著、
[祐賢(;名)の幼名/法号]幼名;松亀、法号;宗献
G2318 **資方**(すけかた・三室戸みむろど/本姓;藤原、梅小路うめがこうじ共方ともかた2男)1710-64*55* 三室戸資順の養子、
廷臣;1718家督継嗣/34従四上/49民部大輔、1718-37「資方朝臣記」、「拝賀兼日催条々」著、
[資方(;名)の別名/法号]初名;共英、法号;寛性院

G2319 **亮方**(すけかた・南みなみ)　？－　？　江後期越後長岡寺島の和算家;佐藤解記門、
1846「算法円理三台」編、
[亮方(;名)の通称/号]通称;五兵衛、号;貞斎
L2335 **祐像**(すけかた・伊藤いとう、金右衛門2男)1806-77*72*　母;きん、信濃伊那郡中村の農家の生、
父・兄没/江戸に出て床屋を営む;妻(とめ)との間に1839(天保10)長女美知誕生、
この頃から幕府の密偵となる;1840梅田村明神社神主井上正鉄まさかねの祓修行を偵察、
諜報活動を見抜かれ逆に教諭されて入信;寺社奉行取締を察知し道統温存を企画、
皆伝を得て要人かなめの名をもらう;白川家より神拝免許をて信州飯田に帰郷;教導、
正鉄は捕縛;のち三宅島遠島、祐像は備前岡山に伝道;信者を中心に門中の形成、
1856(安政3)岡山藩の取締/白川家に接近し門人達を白川家門下に置き各地に教導、
1872新政府教部省より教導職に補任;73野沢鉄教かねのりらと禊教教団結成が公認される、
[なき人のかたみの色をみるごとに身をも惜しまじ名をも惜しまじ]、
[祐像(;名)の通称]通称;要人
G2320 **佑賢**(すけかた・渋川しぶかわ、景佑2男)1828-57*30*　天文・暦算家;1845兄敬直が臼杵藩主へお預け、
惣領の許可を受け1847幕府天文方見習/57天文方、1857-60「万国普通暦」、「星学須知」、
「霊憲候簿」著、
[佑賢(;名)の幼名/通称]幼名;孫太郎、通称;敬典/膳司/助左衛門
L2328 **祐賢**(すけかた・伊東いとう、)1836-1902*67*　伊勢津藩士/藩校有造館の句読師、
維新後;三重県会議員/初代津市長/衆議院議員、私学励精館創立、
[祐賢(;名)の初名/字/通称/号]初名;謹衛きんもり、字;輔徳、通称;元太郎、号;松濠
祐賢(すけかた;法名・観世)→　*之重*(ゆきしげ・5世観世大夫)　４６０７
資方(すけかた・白石)　→　*資風*(すけかぜ・白石正一郎、国学/勤王)Ｇ２３１６
B2393 **資雄**(すけかつ・太田おおた/本姓;源、資忠男)?-1479戦死　戦国期武将/太田道灌の甥でその養子、
歌人;1474江戸城での道灌主催「武州江戸歌合」に父資忠と参加(6月17日/判者;心敬)、
1479(文明11)臼井城の戦で父と討死、
[きほひきぬ塩風はやみ雲かけて急ぐ小船跡の夕立](江戸歌合;六番右12)
C2301 **資勝**(すけかつ・日野ひの/本姓;藤原、一字名;貝、輝資男)1577-1639*63*　母;津守国繁女、
廷臣;1599参議、1614権大納言/19正二位/30武家伝奏、
1617「日光山薬師堂開眼供養参向記」、「資勝卿記」著、
歌人;「三首懐紙」「日野資勝和歌」「日野資勝禁裏月次和歌」著、連歌;1619「山何百韻」参加、
[資勝(;名)の法名/法号]法名;涼源院、法号;日峯院、光慶の父
H2379 **助勝**(すけかつ)　？－　？　江前期俳人、1670(寛文10)宗房(芭蕉)・正朝と三吟、
[君も臣もさぞな三肌みはだをあわせ衣ぎぬ](三吟発句;身肌を三肌とす/肌と袷を掛る)
資徳(すけかつ・日野)　→　*資徳*(すけのり・日野ひの、商家/神職)　Ｊ２３０２
G2321 **助廉**(すけかど・藤原ふじわら)　？－　？　鎌倉期廷臣/連歌作者;菟玖波集2句入、
[一筆の偽いつはりげなる玉章たまづさに](菟玖;恋943/前句;ひきかへしてはなほうかりけり)
助兼(すけかね・助頼男、筑前守、内舎人、左衛門尉)誤記説あり
G2322 **資廉**(すけかど・柳原やなぎわら、資行男/本姓藤原)1644-1712*69*　母;園基音女、廷臣;
1673参議/81権大納言、1708従一位/武家伝奏、1701浅野長矩の幕府接待役の時の勅使、
「職原抄私記」「資廉日記」「元日節会部類」「関東下向道中日記」「近代年中行事」著、
「歴代相顕抄」「四卿聯句」著、資堯たかの父
輔門(すけかど・鳥山)　→　*香軒*(こうけん・鳥山とりやま、詩人)　Ｇ１９２６
C2302 **資兼**(すけかね・二条にじょう/家名;平松、二条資親男/本姓;藤原)1314-87　廷臣;1340参議/41従三位、
1350権中納言/59正二位、1321日記「資兼卿記」
G2324 **祐金**(すけかね・中臣なかとみ/家名;辰市、祐次男)1510-86*77*　戦国期神職;1536春日社加任預、
神祇権大副/1577正四下/83春日社正預、「春日社司祐金記」著
G2323 **佐兼王**(すけかねおう/すけかぬ-、元良もとよし親王[890-943]男)?-?　平安前期;陽成天皇の孫、従五上、
歌人、972女四宮規子内親王歌合参加(順集入)、
[そよと鳴る秋の荻をぎだになかりせば何につけてか風を聞かまし](四宮歌合;大系本20)
C2303 **資枝**(すけき・日野ひの/本姓;藤原、一字名;久、烏丸光栄男)1737-1801*65*　1742日野資時の養嗣子、

廷臣;1763参議/85権大納言/93従一位、歌学:冷泉為村・兄烏丸光胤・有栖川宮職仁親王門、
実父光栄や兄光胤(卜山)も歌人、為村没後宮廷歌壇の中心、法号;後瑞巌院、資矩すけつねの父、
「歌合目録」完成、「和歌聞書」、「詠歌一体抄」「古今秀歌大略抄」「日野資枝百首」外著多数、
[志賀の浦やむかふ越路の峯越えてさざ波遠くかへる雁がね](日野資枝百首;湖帰雁)

I2307 **祐城**(すけき・河津かわず/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、河津祐邦すけくに(1821-73)の一族?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山の端に雲をさまりて秋の夜の月は檜原の奥までぞすむ](大江戸倭歌;秋837)
助吉(輔吉すけきち・殿村)→ *篠斎*(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) Ｊ２２０４
助吉(すけきち・永井) → *青崖*(青厓せいがい・永井、藩士/蘭学者)Ｈ２４７６

C2305 **佐清**(すけきよ、姓;佐伯?) ? - ? 平安中期廷臣;六位/左近衛番長(舎人の長)、
歌人、拾遺集1325(;この歌は宝物集二に作者を佐伯清正とする)、
[皆人の命を露にたとふるは草むらごとに置けばなりけり](拾遺;二十哀傷1325)、
(病死者多数出た年亡骸を野や草藪に打ち捨てられているのを見て詠む)、
拾遺集503の佐伯清忠と同一か? → *清忠*(きよただ・佐伯さえき、左近衛番長)Ｄ１６２９

C2308 **資清**(すけきよ・白川、資清王、業顕男/本姓源)1289-1330*42* 1317神祇伯、18資宗王流資通に譲伯、
のち息子資英王・業清王が各々一流を立て伯家は三流に分流、1317日記「資清王記」

C2307 **祐清**(すけきよ・佐々井ささい)? - ? 江前中期;語学者、
1708「仮名遣拾芥しゅうがい」(仮名遣拾芥抄)著(;仮名遣説明書・42項目を立て140の歌で説明)

G2325 **祐清**(すけきよ・伊藤いとう)1683- 1749*67* 江中期;陸中南部藩士、南部信恩・利幹に出仕、
新田奉行/諸士系図武器古筆取調用掛を歴任、「祐清私記」「宝翰類聚」「南部諸士由緒」編、
[祐清(;名)の通称]嘉兵衛/嘉治右衛門/嘉右衛門

G2326 **祐清**(すけきよ・宇佐美うさみ、矩祐男/本姓;藤原)1759-1819*61* 廷臣;1797正六下/1809帯刀、
1810左衛門少尉、「御所作太刀根元記」著

I2338 **資清**(すけきよ・北郷きたごう、)1762-1831*70* 日向都城の薩摩藩士;都城の老臣、国学者、
[資清(;名)の字/通称/号]字;伯熙、通称;新太郎、号;無刀斎

I2399 **資清**(すけきよ・伴ばん、旧姓;指吸)1820-80*61* 和泉堺の出身/近江蒲生郡八幡町の商家の養子、
歌人;[鳰のうみ]入、庄右衛門家5代目(伴本家4代目)に伴蒿蹊(国学者/歌人)、
[資清(;名)の通称]芳之助/庄右衛門(代々の称)、屋号;扇屋
資清(すけきよ・太田) → *道真*(どうしん・太田、武将/城主/連歌、道灌父)Ｆ３１６２
資潔(すけきよ・北郷) → *資知*(すけとも・北郷きたごう、藩士/国学) Ｉ２３３９
祐清(すけきよ・伊東) → *義祐*(よしすけ・伊東いとう、戦国武将) Ｄ４７７７
祐清(すけきよ・狩野) → *英信*(てるのぶ・狩野、幕府絵師) Ｃ３０８３
資清王(すけきよのおおきみ) → *資清*(すけきよ・白川、神祇伯/日記) Ｃ２３０８

C2309 **佐国**(すけくに・大江おおえ、字;江生、通直男)?-? 1086存 朝綱の曾孫、平安後期漢学者;紀伝道に修学、
対策に及第/大外記/従五上/掃部頭、惟宗孝言・大江匡房と万葉集に次点(万葉訓点)、
後拾遺集の編纂に助力、「後拾遺集目録」「古今集目録」「後選集目録」著、「拾遺抄目録」著?
「恵心僧都伝」/1083「加茂社桜会縁起」著、詩;続文粋・本朝無題詩入集、発心集に逸話

C2310 **弼邦**(すけくに・大蔵おおくら) ? - 980 平安前期廷臣;大学寮に修学/965掃部権少允、
967少外記/969大外記/従五下/阿波介/971大外記再任/977藤原兼道の家司/正五下、
本朝文粋;藤原衆海もろうみの落書に入

G2327 **資邦**(すけくに・白川しらかわ、資邦王、資光男/本姓源)1233-98*66* 母藤原信実女/1291神祇伯/従二位、
父以来資宗流と訴訟;両流交替で任伯、「資邦王訴状」著

C2311 **資国**(すけくに・藤原ふじわら;良門流、善理男)?-? 平安中後期廷臣;正五下/1046伊賀守、皇后宮大進、
大鏡作者説あり、義貞・永相・国高・国仲の父

G2328 **祐国**(すけくに・中臣なかとみ/家名;今西、祐庭男)1535-99*65* 戦国安桃期神職;1561春日社権預、
1578従四下/99春日社正預;まもなく没、1570-98「春日社司祐国記」著

G2329 **祐邦**(すけくに・久須美/久住くすみ/本姓;藤原)?-1782? 幕臣;御先手与力/御勘定吟味方改役並、
「北越紀行」著、祐光すけてるの父、
[祐邦(;名)の通称]政五郎/六郎左衛門

H2395 **祐邦**(すけくに・河津かわず/本姓;藤原)1821-73*53歳* 遠祖は伊豆国河津荘の地頭、工藤祐経の末裔、

旗本/幕臣;1850(嘉永3)家督嗣;小普請/面火之番/1851徒目付/54箱館奉行支配役;150俵、
蝦夷地開拓・五稜郭築造に参加/1854箱館奉行支配組頭/御目見/58布衣許可、
1863新徴組支配;1000石/外国奉行;横浜鎖港のため池田長発と共にフランス公使と折衝、
遣欧使節団副使として渡仏;鎖港断念;パリ約定調印し帰国;正使池田とともに免職、
赦免;1866(慶応2)歩兵頭並/関東郡代/124代目長作奉行;着任当時から諸藩の浪人横行、
1868鳥羽伏見の幕軍敗北を聞き英国船で長崎脱出し江戸に帰る、外国事務総裁に就任、
若年寄;江戸に没、娘婿の河津祐之(1849-94)は大津事件の際の刑事局長、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さやけさの隈くまかとみるもあはれなり月を横切るかりの一つら]、
(大江戸倭歌;秋928/月前雁)、
[祐邦(;名)の通称/号]通称;三郎太郎/伊豆守、号;竜門/汲古堂主人

I2364 **佐邦**(すけくに・杉原すぎはら/本姓;多羅尾、通称;豊蔵)1828-89*75* 近江信楽代官多羅尾家の家臣、
国学者;本居内遠門

祐国(すけくに・伊東) → *義祐*(よしすけ・伊東いとう、戦国武将) Ｄ４７７７
資邦王(すけくにのおおきみ) → *資邦*(すけくに・白川しらかわ、神祇伯) Ｇ２３２７
助九郎(すけくろう・長門屋)→ *蘭陵*(らんりょう・長門屋、俳人) Ｄ４８３９
助九郎(すけくろう・川口) → *緑野*(りょくや・川口かわぐち、医/藩儒) Ｊ４９８１
助九郎(すけくろう・明石) → *正貞*(まささだ・明石あかし、和学者) Ｎ４００７
助九郎(すけくろう・原) → *昌義*(まさよし・原はら、国学者) Ｒ４０９５
助九郎(介九郎すけくろう・興野)→*成信*(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) Ｌ３２５１

C2312 **資子**(すけこ・庭田にわた/本姓;源、正二位庭田重資[1305-89]女)?-? 崇光院家女房/歌人;
1367新玉津島社歌合/1370-76頃百番歌合/70-71仙洞歌合参加、
1400[菊葉和歌集]5首入(崇光院三位名)、
[和歌の浦や雲と波とのすゑ遠み霞も八重の春のあけぼの](新玉津;浦霞四番右8)
[資子(;名)の通称]通称(女房名);崇光院従三位すこういんのじゅさんみ

娍子(せいし・すけこ・藤原) → *娍子*(せいし・藤原、済時女/三条天皇皇后) Ｐ２４０４
資子(すけこ、日野資名女)→ *竹向*(たけむき、西園寺実俊母、日記) ２６２２
助五(すけご・船津) → *則之*(のりゆき・船津ふなづ、里正/国学) Ｊ３５９２

J2342 **菅子**(すげこ・芳野よしの、芳野金陵[儒者]長女)1837-1915*79* 母;つな(1810-1902)江戸日本橋の生、
幼時より学問;父門/歌人;間宮八十子やそこ門、1857(安政4)越前福井藩江戸藩邸の奥女中、
1859祐筆/64(元治元)若年寄;八十瀬を名乗る/66(慶応2)大奥の筆頭の年寄となる、
1863(文久3)参勤交代制の緩和で藩主正室勇姫に従い福井城下に到着、
歌;福井城下で橘曙覧門、1867(慶応3)福井藩主松平茂昭との間に信次郎(泰荘)を出産、
1871(明治4)暇を出され飯野吉兵衛と結婚;1女のぶ出産;離婚/生家に帰る、井上文雄門、
1876父・弟の経営する漢学塾[逢原堂](のちに私立逢原学校)の分校[裁縫学校]開設、
その裁縫学校(日本橋本石町)で33年間女子教育に尽力、1915(大正4)没、
晩年娘のぶ(小出伊勢治妻)方に居住;[小出菅子]と称されることもある、
「常磐廼古事」著/没後;「芳野菅子歌集」刊、

祐命(すけこと・伊東いとう) → *祐命*(すけのぶ・伊東/藤原、歌人) Ｃ２３１３
資子内親王(すけこないしんのう)→ *資子内親王*(ししないしんのう、歌人) Ｄ２１８５

C2314 **助五郎**(すけごろう・初世市山いちやま、屋号;松屋)1692-1747*56* 歌舞伎役者/作者、初世市川団十郎門下、
初め江戸若衆方/1708上京:榊山小四郎門/立役、1713改姓:市山助五郎、
和実・所作事の名手、脚本にも携わる;1732「傾城妻恋桜」45「女武者浮洲合戦」著、
[初世市山助五郎の別通称/号]別通称;市川喜世太郎(初称)/榊山助五郎、俳号;之山

C2315 **助五郎**(すけごろう・中村なかむら)1711-1763*53* 江中期歌舞伎立役者、「江戸鹿子男道成寺」の舞踊有名

助五郎(すけごろう・津田) → *宗及*(そうきゅう/-ぎゅう・津田、政商/茶人) Ｂ２５０２
助五郎(すけごろう・渡辺) → *長昌*(ながまさ・渡辺、兵法家) Ｆ３２７６
助五郎(すけごろう・渡辺) → *守由*(もりよし・渡辺、藩士/地誌家) Ｇ４４８４
助五郎(すけごろう・関) → *重嶷*(しげたか・関せき、藩家老/地歴) Ｒ２１２０
助五郎(すけごろう・磯田) → *正隆*(まさたか・磯田いそだ、歌人) Ｌ４０５７

助五郎(すけごろう・甲良)　→　*宗賀*(むねよし・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠)Ｃ４２８４
助五郎(助吾郎すけごろう・近藤)→ *清春*(きよはる・近藤、絵師/赤本)　Ｈ１６５２
助五郎(すけごろう・戸部)　→　*愿山*(げんざん・戸部とべ、藩士/儒者)　Ｅ１８８８
助五郎(すけごろう・小沢)　→　*近房*(ちかふさ・小沢おざわ、歌人)　Ｎ２８１２
助五郎(すけごろう・田中)　→　*重世*(しげよ・田中たなか、国学者)　Ｔ２１０８
助五郎(すけごろう・南)　→　*寛定*(ひろさだ・南みなみ、藩士/和算家)　Ｈ３７７８
佐五郎(すけごろう・藤田)　→　*百城*(ひゃくじょう・藤田、医者/詩人)　Ｅ３７５８
佐五郎(すけごろう・越石)　→　*明寛*(あきひろ・越石こしいし/藤原、藩士/歌)Ｈ１０５８

C2316 **助左衛門**(すけざえもん・石橋いしばし、名;栄春、助次右衛門男)12757-183*81* 石橋家7代;阿蘭陀通詞、1765稽古通詞/80父を継承;小通詞末席/87小通詞並/91大通詞、外国との外交通訳、ヅーフやシーボルトと親交/シーボルトの講習会の通詞、1797致仕後も出島に出頭、通詞の取締・若輩の指導に当たる、「万国和解」「遠西砲術摘要」「火筒放発国字解」訳、1809「夷酋問答」編、「ポスシキーテレイコンスト国字解」訳、外訳書・編書多数、[助左衛門(;通称)の別通称]助十郎(初称)/助次右衛門(晩年)

助左衛門(すけざえもん・伊藤)→ *信徳*(しんとく・伊藤いとう、商家/俳人)　２２４２
助左衛門(すけざえもん・赤上)→　*高明*(たかあき・赤上あかがみ、文筆家)　Ｃ２６４８
助左衛門(すけざえもん・小森/伊良子)→*道牛*(どうぎゅう・伊良子、外科医)Ｃ３１７２
助左衛門(すけざえもん・鈴木)→　*康永*(やすなが・鈴木すずき、藩士/歌人)　Ｆ４５９７
助左衛門(すけざえもん・吉田)→　*豊綱*(とよつな・吉田、弓術家)　Ｒ３１２９
助左衛門(すけざえもん・吉田)→　*豊辰*(とよとき・吉田よしだ/新居、藩家老/神職)Ｗ３１９４
助左衛門(すけざえもん・吉田)→　*豊文*(とよぶみ・吉田、豊辰男/藩士/国学)Ｗ３１９５
助左衛門(すけざえもん・渡辺)→　*長昌*(ながまさ・渡辺、兵法家)　Ｆ３２７６
助左衛門(すけざえもん・森)→　*長見*(ながみ・森もり、藩士/国学者)　Ｆ３２８４
助左衛門(すけざえもん・熊谷)→　*直好*(なおよし・熊谷くまがい、歌人)　３２０４
助左衛門(すけざえもん・原)→　*元慶*(もとよし・原はら、藩士/儒/詩人)　Ｌ４４０８
助左衛門(すけざえもん・仁井田)→ *道貫*(みちつら・仁井田、農業/藩士)　Ｂ４１９０
助左衛門(すけざえもん・三好屋)→　*倚松*(いしょう・三好、俳人)　Ｆ１１６６
助左衛門(すけざえもん・森田/橘屋)→　*豊香*(とよか・森田もりた、歌人)　Ｒ３１０７
助左衛門(すけざえもん・草川)→　*宇橋*(うきょう・草川くさかわ、俳人)　Ｂ１２２６
助左衛門(すけざえもん・倉鹿野)→*義文*(よしふみ・倉鹿野くらかの、与力/歌)Ｇ４７８３
助左衛門(すけざえもん・安井/渋川)→ *春海*(しゅんかい・渋川/保井、天文家)Ｊ２１３２
助左衛門(すけざえもん・高橋/渋川)→ *景佑*(かげすけ・渋川しぶかわ、天文暦算家)Ｋ１５９２
助左衛門(すけざえもん・牧)→　*墨僊*(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師)　Ｄ３９６１
助左衛門(すけざえもん・関)→　*沢雉*((たくち・関せき、名主/剣術/俳人)　Ｏ２６１１
助左衛門(すけざえもん・渋川)→*佑賢*(すけかた・渋川しぶかわ、天文暦算家)　Ｇ２３２０
助左衛門(すけざえもん・市橋)→　*豊年雪丸*(ほうねんのゆきまろ、藩士/狂歌)Ｃ３９４４
助左衛門(すけざえもん・飯淵)→　*櫟堂*(れきどう・飯淵いいぶち、藩士/詩人)５１８２
助左衛門(すけざえもん・岡野)→　*中立*(なかたつ・岡野おかの、歌人)　Ｌ３２４６
助左衛門(すけざえもん・鍋屋)→　*為英*(ためひで・渡辺わたなべ、商家/国学)２７４５
助左衛門(すけざえもん・後藤)→　*葛名*(くずな・後藤ごとう、国学/歌人)　Ｅ１７１６
助左衛門(すけざえもん・天野)→　*重国*(しげくに・天野あまの、歌人)　Ｎ２１２０
祐左衛門(すけざえもん・大野)→　*祐之*(ひろゆき・大野おおの、和算家)　Ｈ３７６５
佑左衛門(すけざえもん・渡辺)→ *友水*(ゆうすい・渡辺、役人/砲術/俳人)Ｃ４６８２
佑左衛門(すけざえもん・近藤)→ *正卿*(まさつぐ・近藤こんどう/加藤、神職/歌)Ｐ４０７５
介左衛門(すけざえもん・中村)→*親匡*(ちかまさ・中村なかむら/藤原、藩士/歌)Ｎ２８１７
助作(すけさく・片桐)　→　*且元*(かつもと・片桐、部将)　Ｃ１５５５
助作(すけさく・宮崎)　→　*泰之*(やすゆき・宮崎みやざき、幕臣/和学者)Ｇ４５８４
助作(すけさく・円城寺)　→ *嵐窓*(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人)Ｃ４８８７
助作(すけさく・菅)　→　*忠澄*(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌)Ｖ２６４０

C2317 **資定**(すけさだ・柳原やなぎわら、量光かずみつ男/本姓;藤原)1495-1578*84*　廷臣;1528参議/29権大納言、

1556従一位、1528以降屢々因幡に下向、故実家/歌;中御門宣継・三条西実隆門、
1526「蔵人奏慶記」、28和漢聯句、1538「日野資定鞠の記」、「資定卿記」「資定卿改元定記」、
「和歌会席作法」「神宮記」「妻をいためる和歌序」外記録多数、法名;紹寂、淳光あつみつの養父
資定(すけさだ・源)　→　*師房*(もろふさ・源みなもと、右大臣/詩歌人)Ｈ４４８６
資定(すけさだ・藤原)　→　*伊成*(これしげ・これなり、鎌倉期歌人)　Ｅ１９２３
祐定(すけさだ・中臣)　→　*祐茂*(すけしげ・中臣/千鳥、神職/歌人)　Ｃ２３２１
祐貞(すけさだ・川合)　→　*清逸*(きよはや・川合かわい、国学者)　Ｔ１６９５
H2382 **資郷**(すけさと・上野うえの/本姓;伴)1713-92*80歳*　江戸幕臣;御天守番之頭、資善の父、
歌;1798刊広通「霞関集」入(息子資善と入集)、
[咲きそひし日数を経ても白菊のかをりぞ深き庭の秋風](霞関;秋537)、
[資郷(;名)の通称]　孫太郎/左兵衛/左大夫
資郷(しきょう・上野)　→　*資郷*(すけさと・上野うえの/伴、幕臣/歌人)Ｈ２３８２
C2318 **資実**(すけざね・日野ひの/本姓;藤原、初名;家実いえざね、兼光男)1162-1223*62*　母;源家時女、詩歌人、
廷臣;1201参議/左大弁/04権中納言/10正二位/11大宰権帥/天皇の侍読、1220出家、
1195民部卿経房家歌合/1200若宮歌合/05元久詩歌合(左詩)/13内裏詩歌合(左詩)参加、
土御門・順徳天皇の大嘗会和歌出詠、殷富門院大輔百首入、住吉社で歌合催(隆信集入)、
「資実長兼両卿百番詩合」/日記「都玉記」、「わりこもまりの記」著、家光の父、
勅撰9首;新古今(756/1790)続後撰(102)続古(1672/1912)続拾(286/759)新後撰・続後拾、
[来こしかたをさながら夢になしつれば覚むるうつゝのなきぞ悲しき](新古今;1790)
[資実(;名)の法名/号]法名;知寂、号;月蓮房/日野後師、法諱;円静?
円清と同一説;祐宝[伝灯広録]説;藤原通憲(信西)男で父の件で遁世し醍醐寺勝賢の室入
G2330 **輔実**(すけざね・九条くじょう/本姓;藤原、通称;後洞院のちのとういん、兼晴長男)1669-1729*61*　母;九条道房女、
廷臣;1676従三位/93内大臣/1704右大臣/1708左大臣/11従一位/12摂政;氏長者/16関白、
画を嗜む、1710「即位式」/15(承徳5)「公宴御会始」、「御元服之記」外記録多数、尚実の父
H2388 **助実**(助籍すけざね・本多ほんだ、本多助受すけつぐ3男)1819-1877*59*　父の養子飯田藩主本多助賢の養嗣、
1836従五下伊勢守;58(安政5)信濃飯山藩主7代襲封/1864(元治元)奏者番/相模守、
1867隠居;長男助成が嗣/68助成早世;8男助寵すけたかが継嗣/69助寵病死;再勤務;
飯山藩知事/1871廃藩置県で免職/再隠居、正室;諏訪忠恕女の倭子、助成・助寵らの父、
1858蜂屋光世[大江戸倭歌集]入、
[百鳥の明け方つぐる声聞きて月と花とのあはれをぞしる](大江戸倭歌;春189)
[助実(;名)の通称/号]通称;伊勢守/相模守、号;竹僊/恒山(;隠居号)
祐実(すけざね・伊藤)　→　*石台*(せきだい・伊藤いとう、藩儒)　Ｋ２４３６
助三郎(すけさぶろう・坂内/北川)→　*親懿*(ちかよし・北川、儒/神道/歌)Ｃ２８２１
助三郎(すけさぶろう・伊達)→　*村胤*(むらたね・伊達だて、藩士)　４２１９
助三郎(すけさぶろう・伊達)→　*村倫*(むらのり・伊達だて、領主/歌人)　Ｄ４２１８
助三郎(すけさぶろう・春日)→　*昌預*(まさやす・春日かすが/山本/加藤、町役/歌)Ｐ４０６９
助三郎(すけさぶろう・菊池)→　*高洲*(こうしゅう・菊池/菊地/加藤、儒者)Ｂ１９８８
助三郎(すけさぶろう・橋爪)→　*盛道*(もりみち・橋爪はしづめ、藩士/儒者)　Ｇ４４６０
介三郎(助三郎すけさぶろう・佐々)→*十竹斎*(じっちくさい・佐々さっさ、漢学/史編纂)Ｆ２１０８
介三郎(すけさぶろう・曲江)→　*梅賓*(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、儒/詩歌)Ｂ３６９７
介三郎(すけさぶろう・鯰江)→　*貞寛*(さだひろ・鯰江なまずえ/平、藩士/歌)　Ｐ２００２
介三郎(すけさぶろう・木村)→　*八甲*(はっこう・木村きむら、藩士/医/儒)　Ｆ３６２１
助次右衛門(すけじえもん・石橋)→*助左衛門*(すけざえもん・石橋いしばし、通詞)Ｃ２３１６
C2319 **資成**(すけしげ・橘たちばな、義通男、通称;大和入道)?-?　1086存　平安後期廷臣;従五上大和守/遠江守、
1086(応徳3)出家、為義の孫/為仲の同母弟、歌人;1053「頼資資成家歌合」催、後拾遺187、
[宵よひの間まはまどろみなましほとゝぎす明けて来き鳴くとかねて知りせば](後拾;夏187)
関白殿蔵人所歌合に参加?、同名の源資成(淳国あつくに男)との混同がある、
「四条宮下野集しもつけしゅう」の歌人「よししげ」と同一か?
C2320 **祐重**(すけしげ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐房3男)1122-1192*71*　平安後期神職;1156春日若宮神主、
1191(建久2)後鳥羽天皇行幸の賞で従四上、1182-86「春日社司祐重記」著、

「春日社神事日記」「春日祭歴年記」著、歌人、祐明すけあきら・祐隆の父、
[文治二(1186)年九月春日若宮歌合　名所月、
　よもすがら伊勢のはまをぎ風さえて月ぞすみけるあらきしまわに](楢葉;神祇508)

C2321 **祐茂**(すけしげ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐明すけあきら男)1199-1269*71* 鎌倉期神職;1226春日社若宮神主、1255従四上、1229-46「春日若宮神主祐定記」、「春日社神事日記」著、祐賢・祐親の父、歌人;「春日若宮神主祐茂百首詠草」「春日懐紙」著/1243-4「春日本万葉集」写、藤葉集入、勅撰5首;続後撰(873)続拾遺(1433)新後撰(849)玉葉(363)続千(882)、1237刊素俊撰[楢葉集]3首入(;祐定名)、
[のちの世と頼めもおかぬ別れぢにながらふべくもなき命かな](続後撰;恋873/別恋)、
[社頭の宿所にてやしろのつかさ月次の歌よみ侍りけるに寄寒草恋の心を、
　人ぞうき嵐はをぎのかれはまでなれにし秋のつゆをとふなり](楢葉;恋419)、
[祐茂(;名)の別名]初名;**祐定**/祐雄

C2322 **資茂**(すけしげ・すけもち・源みなもと、神祇伯資緒王男)1273-1327*55* 鎌倉期廷臣;1288源姓下賜/89神祇伯、1306従三位/20従二位、歌人・新千載956、
[神風や御裳濯河みもすそがはの玉柏たまがしはしづむみくづと成りやはてなん](新千載;神祇956)
[資茂(;名)の別名]　康家(初名)/資通王/資茂王

G2331 **助茂**(すけしげ・藤原ふじわら、左衛門尉藤原助久男)?-?　鎌倉期廷臣;右兵衛尉、連歌;菟玖波集3句入、
[憂き中やうつゝも夢になりぬらん](菟玖;恋842/前句;結ぶ契りのまことしらばや)

G2332 **祐栄**(すけしげ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐紀長男)1602-59*58* 江前期神職;1613春日社権預/16采女正、1645春日社若宮神主/57正五下、1659没後従四下追叙、祐俊の父、「春日社行幸記」補

C2323 **資茂**(すけしげ・日野ひの/本姓;藤原、弘資男)1650-87*38* 江前期廷臣;1674参議/77権中納言、1681従二位、賀茂伝奏を務める、1687病で致仕;没、歌人、「日野資茂詠草」「日野資茂百首」、1665-87「資茂卿記」82「資茂卿懺法講伝奏記」、「香合蜀山拝謁の記」外著多、「文翰雑編」入、
[資茂(;名)の法名/法号]法名;知覚、法号;浄心院、養子;弟の輝光

助成(すけしげ)	→	*助成*(すけなり、歌人)	Ｃ２３６８
助成(すけしげ)	→	*助成*(すけなり・斎藤、武士)	Ｇ２３７８
助成(すけしげ・本多)	→	*助成*(すけなり・本多ほんだ、藩主/詩歌)	Ｊ２３２２
資茂王(すけしげおう)	→	*資茂*(すけしげ・すけもち・源、神祇伯/歌人)	Ｃ２３２２
助七(すけしち・樺山)	→	*忠助*(ただすけ・樺山かばやま、武将/歌人)	Ｐ２６６５
助七(すけしち・大地)	→	*昌業*(まさなり・大地おおち、藩士/詩人)	Ｆ４０４４
助七(すけしち・木村)	→	*政信*(まさのぶ・木村きむら、神道/国学)	Ｐ４０１９
助七(すけしち・木村)	→	*好賢*(よしかた・木村きむら、神道/歌人)	Ｍ４７４０
助七(すけしち・木村)	→	*政信*(まさのぶ・木村きむら、神道/国学)	Ｐ４０１９
助七(すけしち・福崎)	→	*季連*(すえつら・福崎ふくざき、藩士/歌人)	Ｊ２３１１
助七郎(すけしちろう・功刀)	→	*君章*(くんしょう・功刀くのぎ、藩士/詩人)	Ｂ１７８８
助七郎(すけしちろう・高木)	→	*忠風*(ただかぜ・高木たかぎ、藩士/歌)	Ｘ２６９９

G2333 **助十郎**(すけじゅうろう・石橋いしばし、助左衛門男)?-1830　石橋家8代;代々助十郎を名乗る・阿蘭陀通詞、1797稽古通詞/小通詞末席・並・並筆頭・助/1823小通詞/26父を継承;大通詞、1814江戸通詞見習として江戸下向;御用阿蘭陀反訳認方;ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件係通詞を務める、「阿片始末」訳

助十郎(すけじゅうろう・久留島/毛利)	→	*高慶*(たかやす・毛利、藩主/歌)	Ｎ２６５３
助十郎(すけじゅうろう・坂内/北川)	→	*親懿*(ちかよし・北川、儒/神道/歌)	Ｃ２８２１
助十郎(すけじゅうろう・檜垣/足代)	→	*弘氏*(ひろうじ・足代/度会、神職/俳人)	Ｆ３７５６
助十郎(すけじゅうろう・永井)	→	*正次*(まさつぐ・永井ながい、幕臣/和学)	Ｒ４０２２
助十郎(すけじゅうろう・田村)	→	*誠顕*(のぶあき・田村たむら、藩主/歌人)	Ｉ３５８９
助十郎(すけじゅうろう・渋谷)	→	*知礼*(ともひろ・渋谷しぶや、和算家)	Ｑ３１４６
助十郎(すけじゅうろう・石橋)	→	*助左衛門*(すけざえもん・石橋いしばし、通詞)	Ｃ２３１６
助十郎(すけじゅうろう・石橋)	→	*政方*(まさかた・石橋いしばし、通事/英語)	Ｆ４０４３
助十郎(すけじゅうろう・道家)	→	*大門*(ひろかど・道家どうけ/遠藤/津田、藩士/神職)	Ｋ３７２９
助十郎(すけじゅうろう・丹羽)	→	*義于*(よしゆき・丹羽にわ、国学/歌人)	Ｏ４７２９

祐代(すけしろ・西川)　→　*祐代*(すけよ・西川にしかわ、花月亭/絵師)　Ｄ２３６４
助四郎(すけしろう・鵜沼)　→　*北涯*(ほくがい・鵜沼うぬま、儒者/詩人)　Ｃ３９９６
助四郎(すけしろう・安東)　→　*省庵*(せいあん・安東、藩儒)　２４０２
助四郎(すけしろう・益戸)　→　*滄洲*(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩)　Ｈ２５７７
助四郎(すけしろう・三居)　→　*満礼*(みつのり・三居みい、藩士/歌人)　Ｋ４１６７
助四郎(すけしろう・安東)　→　*節庵*(せつあん・安東あんどう/多賀、藩儒)　Ｅ２４０２
助四郎(すけしろう・大内/鵜沼)→　*国靖*(くにやす・鵜沼うぬま、藩家老/詩人)Ｄ１７３０
助次郎(すけじろう・林)　→　*鳳池*(ほうち・林はやし、儒者)　Ｃ３９２６
助次郎(すけじろう・板倉)　→　*璜渓*(こうけい・板倉いたくら、儒者)　Ｅ１９９７
助次郎(すけじろう・橋爪)　→　*盛道*(もりみち・橋爪はしづめ、藩士/儒者)　Ｇ４４６０
助次郎(助二郎すけじろう・万屋)→　*十千亭*(じっせんてい、本草家)　Ｆ２１０４
助次郎(すけじろう・藤田)　→　*秀斎*(しゅうさい・藤田ふじた、和算/測量家)Ｘ２１３５
助次郎(すけじろう・小本)　→　*政常*(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学)Ｏ４０２２
助次郎(すけじろう・曾我)　→　*常昌*(つねまさ・曾我そが、里正/国学/歌)　Ｆ２９８７
輔次郎(夫次郎すけじろう・佐々木)→　*義国*(よしくに・佐々木、砲術家)Ｄ４７２１
典侍親子朝臣(すけしんあそん)→　*親子*(しんし・北畠、歌人)　Ｅ２２３６

C2325 **資季**(すけすえ・二条にじょう/家名;平松/本姓;藤原、資家男)1207-89*83*　母;藤原光長女?、廷臣;
左近中将/1238従三位参議、50正二位/59権大納言/68後嵯峨上皇落飾時に出家、
1239「延応元年記」59「正元記」62「亀山天皇八幡行幸記」68「後嵯峨院落飾記」著、
1285「弘安礼節」、「荒涼記」「御譲位部類記」著、徒然草135段;源具氏との問答に負けた逸話、
歌人;1232名所月歌合/46春日若宮社歌合/48宝治百首/51影供歌合参加、楢葉集入、
勅撰37首;新勅(4首199/258/917/1000)続後撰(4首)続古(5首)続拾(7首)新後撰(5首)以下、
[足引きの山下風のいつのまにおとふきかへて秋は来ぬらん](新勅;秋199/はつ秋)、
[資季(;名)の法名]了心、信覚?、　資高の養父

C2326 **亮澄**(すけずみ・石津いしづ)1779-1840*62*　摂津曾根崎の国学者;本居大平門/歌;尾崎雅嘉門、
大坂唐物町中橋で歌学を教授、「新呉竹集」「徒然草新釈」著、1809「掌中仮名字例」編、
1815秦良「和歌新呉竹集」校訂/16真淵「源氏物語新釈」校訂刊/18「年代便覧」著、
1818「中古和歌贈答集部類」19「新撰はし書ぶり」編/26「女訓玉文庫」37「駅といふ題にて」著、
「万葉集類聚抄」「万葉類葉集」「袖中夫木集考」著、外編著多数、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(恋1640)、
[あなうれし　あなたぬし　うちなびく　春たちくれば　うるはしき　衣きよさひ　千年ほき
酒ゑらぎして　かしこきや　君が御代ほき　ほきことすらく](八十浦;678/春の初の歌)
[亮澄(;名)の通称/号]通称;并輔/並輔/平助、号;富草屋/富草舎/米居
聴雨軒(読本作者)と同一?　→　*聴雨軒主人*(ちょううけんしゅじん)　Ｈ２８２８
助蔵(すけぞう・中山/中城)→　*直守*(なおもり・中城なかじょう、国学/歌)　Ｃ３２７５
助三(すけぞう・久永)　→　*松陵*(しょうりょう・久永ひさなが、藩士/儒者)Ｂ２２９８
助三(すけぞう・野呂)　→　*直貞*(なおさだ・野呂、国学者)　Ｂ３２２０
佐蔵(すけぞう・佐竹)　→　*蓬平*(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師)　Ｃ３９４９
佐蔵(すけぞう・市岡)　→　*智寛*(ともひろ・市岡、役所手代/博物学)Ｑ３１４４
祐蔵(すけぞう・長和)　→　*千尋*(ちひろ・長和ながわ/高橋、国学者)　Ｎ２８２３
輔造(寿家造すけぞう・下平)→*益栄*(ますなが・下平しもひら/大原、国学者)Ｑ４０１８
菅園(すげぞの・高階)　→　*貞房*(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者)Ｊ２０６０

C2327 **祐挙**(すけたか・平たいら、保衡男)?-?　1003存　平安中期廷臣;越中守/従五下(従四下?)/駿河守、
越中守、藤原道長の家司?、権記・御道関白記入、
歌人;1003左大臣道長歌合参加、玄々集2首入、勅撰3首;拾遺7/595/詞花213、金葉Ⅲ213、
[春立ちて朝あしたの原の雪見ればまだふる年の心地こそすれ](拾遺;春7/玄々集89)

G2334 **祐隆**(すけたか・清原きよはら、定康男)1080-1143*64*　平安後期廷臣;大蔵少輔/音博士/大外記/正後下、
歌;金葉解(橋本公夏筆本拾遺)28/35、
[三輪の山すぎがてに鳴け時鳥尋ぬるけふのしるしと思はん](金葉解;28/郭公を詠む)

C2329 **資隆**(すけたか・藤原ふじわら、初名;季隆、法名;寂慧、重兼男)?-? 1185存 母;高階基実女、
平安後期廷臣;1161少納言/78肥後守/79従四下、80頃出家;法名寂慧、歌人;歌林苑衆、
資定(八条院判官代)・知資(正五下民部少輔)・覚隆(仁和寺僧)・隆寛(権律師/法然門)の父、
1160太皇太后宮大進清輔家歌合/66重家家歌合/70実国家歌合/72広田社歌合参加、
1178別雷社歌合/79右大臣家歌合参加、家集「禅林瘀葉ぜんりんおよう集」、「簾中抄」著、
続詞花集3首・雲葉集入、
勅撰6首;千載(449/1234)新古今(567)玉葉(2681)風雅(1939)新続古今(1165)、
[霜枯れの籬まがきのうちの雪見れば菊よりのちの花もありけり](千載;冬449/雪の花)

J2353 **祐隆**(すけたか・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐重男)?-? 平安鎌倉期の春日神社神職/神宮預、
祐明(すけあきら・1144-1229/若宮神主)の弟、歌人;1237刊[楢葉集]3首入、
[春日山花のさかりになりにけり雲まにみゆるあけの玉がき](楢葉;春57)

C2328 **資高**(すけたか・二条にじょう/本姓;藤原/家名;平松、初名;資行、資氏男)1265-1304*40* 母;平成俊女、
祖父資季の養子、鎌倉期廷臣;1291参議;従三位/1296権中納言/1300(正安2)正二位、
資藤の兄弟/資親の父、とはずがたり入、勅撰2首;新後撰969/玉葉999、
[偽のことのはぞとて頼まずはうき身に契る人やなからん](新後撰;恋969)

C2330 **資尭**(すけたか・柳原やなぎわら、初名;資義、資廉男/本姓藤原)1692-1716早世*25* 柳原資基の養嗣、
廷臣;1705家督、08東宮権大進/14蔵人/左少弁/正五上、妻;権大納言中山篤親女、
「石清水放生会参向部類」編/1706-16「資尭卿記」、「資尭卿記」「近代御教書寄書」著、
歌;1709-1716「柳原資尭月次詠草」、1716(正徳6)没、法号;嶺光院、養子;冷泉光綱

G2335 **資敬**(すけたか・日野西ひのにし/本姓;藤原、初名;兼栄、国豊2男)1695-1736 兄国賢の継嗣、江中期廷臣、
蔵人/神宮弁/右大弁/1728東宮学士兼任/34参議/従三位、垂加神道修学:正親町広通門、
1711-35「日野西資敬日記」/1724「石清水放生会記」「伊勢例幣発遣当日日記」、
1735「和歌御会申沙汰私記」、「春日祭参向座右書」「賀茂祭記」外著多数、法号;常善院

G2336 **相崇**(すけたか・秦はた) 1718 - 1781*64* 江中期神職;山城松男社神主/1770従三位、
「松尾七社命」著

C2331 **輔尭**(すけたか・鳥山とりやま) ? - ? 江後期漢学者/詩人、
1782「白石先生詩範」校(跋文執筆)

G2337 **祐喬**(すけたか・長野ながの、通称;彦兵衛)?-? 江後期薩摩藩士;御徒目付、
歌;川畑篤実門、1825-49「随手抄」著、「公宴和歌抜書」編

I2311 **輔崇**(すけたか・宇野うの、)1803- 1885*83* 肥後熊本藩士;奉行、国学者、
[輔崇(;名)の初名/通称/号]初名;素熊、通称;茂輔/市郎右衛門、号;一葦

G2338 **資敬**(すけたか・白川、資敬王、冷泉為起男/雅寿養嗣)1822-1851*30* 母;梅渓行通女/1835神祇伯、
神号;斎勝命いかちおのみこと、「資敬王記」「即位褒帳けんちょう/とばりあげ女王日記」、資訓すけのりの父

L2311 **祐敬**(すけたか・すけよし?・牧野まきの)?- ? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[浮き沈みある世ながらも水の上にねぶる鷗のやすげなるかな](大江戸倭歌;雑1789)

祐登(すけたか・新井) → *白蛾*(はくが・新井あらい、儒者) Ｃ３６８３
祐孝(すけたか・工藤) → *野松*(やしょう・工藤くどう、藩士/俳人) ４５７０
祐兵(すけたか・伊東) → *祐兵*(すけたけ/すけたか・伊東いとう、武将/藩主) Ｉ２３４７
資敬王(すけたかのおおきみ) → *資敬*(すけたか・白川、神祇伯/記録) Ｇ２３３８
助高屋高助(すけたかやたかすけ、歌舞伎役者、幕末まで3代)
初世 → *宗十郎*(そうじゅうろう・初世沢村) ２５１０
２世 → *高助*(2世たかすけ・助高屋) Ｃ２６９１
３世 → *宗十郎*(そうじゅうろう・五世沢村) Ｂ２５９１

G2308 **祐雄**(すけたけ・鴨かも/梨本、祐康男)?-? 1546存 戦国期神職;1509従五下/39禰宜/宮内大輔、
1546従二位、1507「鴨御祖大神宮年中神事役次第」著

I2347 **祐兵**(すけたけ/すけたか・伊東いとう、義祐3男)1559-1600*42* 日向飫肥の武将/のち飫肥藩初代藩主、
母;河崎祐長女、1568(永禄11)飫肥城に入城;島津氏と戦う、父の伊東家結束策により、
1776(天正4)伊東義益(祐兵の異母兄)女の虎(**松寿院**/義祐の孫)と結婚、

1577家臣の謀反と島津氏の侵攻で父義祐が佐土原を脱出;父や一族と同行;豊後に退却、
豊後の大友宗麟は日向で島津と交戦師敗北、父義祐・妻阿虎などと伊予の河野家に移住、
尾張伊東家の紹介で織田家に仕官;与力として秀吉の付属/本能寺変後秀吉家臣団に入、
1582(天正10)山崎戦で活躍;[くりから竜の槍]と河内500石を領地とす、
1587(天正15)秀吉の九州平定軍の先導役で功績;旧領復権/1588飫肥3万6千石の領主、
朝鮮出兵;1599(慶長4)豊臣姓を下賜/1600関ヶ原戦で西軍に参加;病気で出陣せず、
密かに長男祐慶を領国に派遣し軍備増強;家康と通じ西軍の高橋元種の宮崎城を占領、
東軍として家康から所領を安堵;その後大坂で病没;祐慶(1589-1636)が家督嗣
正室　→　*松寿院*(しょうじゅいん、伊東、藩主室/藩政参加)Ｕ２２８２

I2374 **資建**(すけたけ・武笠たけがさ、通称;魚平)1608-61*54* 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入

G2339 **資武**(すけたけ・太田おおた/本姓;源、資愛すけよし男)1761-1784*24* 幕臣;1777将軍家治に出仕、
従五下、大和守/1780采女正/父(老中)に先立ち早世、「太田三楽由緒」著
[資武(;名)の通称/法号]通称;伴之助/新六郎、法号;徳浄院

祐雄(すけたけ・真鍋)　→　*祐雄*(ゆうゆう;名・真鍋まなべ、藩士)　Ｄ４６９１

C2332 **佐忠**(すけただ・藤原ふじわら、連茂男)?-973　平安中期廷臣;因幡守/摂津守/大宰大弐を歴任、
勘解由長官/従四上、歌人;966(康保3)内裏前栽合参加、玄々集入、拾遺集248・袋草入、
[むれゐたる鴨の青羽も見えぬまで庭しろたへに雪ふりにけり](玄々集;106)、
[我一人越こしの山地に来こしかども雪降りにける跡を見るかな](拾遺;冬248)、
(詞書;屏風の絵に越の白山しらやま描きて侍りける所に)、
(越の山地は加賀越前境の白山の山路/降りと古りを掛る、流布本拾遺抄は藤原輔尹作)
輔尹とは別人　→　*輔尹*(すけただ・藤原、興方男、拾遺歌人)Ｃ２３３５

C2333 **資忠**(すけただ・菅原すがわら、雅規男)936?-989*54?* 母;安部春女、平安前期廷臣;文章博士/大内記、
大学頭/和泉守・周防守歴任、従四下、孝標(更級日記作者の父)の父、
詩歌人;粟田左府尚詩会詩・類聚句題抄入、金葉Ⅲ(三奏本345)、
[とまりゐて待つべき身こそ老いにけれあはれ別れは人のためかは](金葉Ⅲ;345)、
(陸奥守橘則光下向の折の餞別歌)

C2335 **輔尹**(すけただ・藤原ふじわら、藤原興方or貞方男)?-1021?　藤原懐忠・同正家の養子、平安中期廷臣;
文章得業生/984大学助/左少弁、993蔵人/藤原道兼の家人、従四下大和守/伊賀守/木工頭、
のち藤原道長の家人、歌人;家集「輔尹集」、1001東三条院詮子四十賀屏風歌に詠、
1003御堂左大臣道長七番歌合/1018頼通大饗屏風歌参加、詩人;本朝麗藻2首入、江談抄入、
新撰朗詠集・別本和漢兼作集・和漢兼作集・後葉集・玄々集・万代集入、栄華物語入、
勅撰6首;後拾遺(16)詞花(175/304)新古(475/528/913)、
[むらさきもあけもみどりうれしきは春のはじめにきたるなりけり](後拾遺;春16)、
(頼通大饗屏風歌に臨時客を眺める歌/紫;上達部・朱;五位・緑;六位蔵人/着と来を掛る)、
流布本拾遺抄の輔尹作の歌は拾遺集248佐忠の作→　*佐忠*(すけただ・藤原)Ｃ２３３２

C2334 **資忠**(すけただ・藤原ふじわら、初名;資房/信忠、中納言藤原資信男;実父は忠房?)?-?　平安後期廷臣、
従五下/1158木工頭、右大臣九条兼実家の家司、歌人;1175右大臣兼実家歌合参加、
1178右大臣家百首/1179右大臣家歌合参加、万代集入、勅撰2首;千載539/新続古1046、
[旅寝する庵いほりを過ぐるむら時雨名残までこそ袖は濡れけれ](千載;羇旅539)、
(摂政右大臣兼実家歌合の詠)、
忠通家歌合(1118)参加の信忠と同一?　→　*信忠*(のぶただ、平安後期歌人)Ｂ３５７９

C2336 **資忠**(すけただ・白川しらかわ/本姓;源、資忠王、顕邦男)1372-1440*69* 1394神祇伯/1402従三位、
1428正二位;出家、「資忠王記」「西宮社参記」著

C2337 **資忠**(すけただ・太田おおた/本姓;源、資清[道真]男)?-1479戦死　戦国期武将、道灌の弟、資雄すけかつの父、
歌人;1474道灌「武州江戸歌合」資雄と参加、1479(文明11)臼井城の戦で資雄と討死、
[夏の日を余所にみ山のから衣袂涼しき滝の音かな](江戸歌合;十五番左29)

G2340 **祐尹**(すけただ・西川にしかわ、祐信すけのぶ長男)1706-62*57* 京絵師:父門、多くの絵本出版、西園寺家出仕、
儒・医修学、1752-3「絵本鏡百首」53「絵本響の滝」54「絵本硯の海」/57「絵本常磐謎」画外多
[祐尹(;名)の幼名/通称/号]幼名;大助/伊織、通称;祐蔵/主税ちから、
号;得祐斎/文生堂、法号;徳本院、祐肖すけのりの兄

G2341 **資董**(すけただ・烏丸からすまる/本姓;藤原、光祖男)1772-1814*43* 江後期廷臣;1804(文化元)参議、
従三位/左大弁/1813権大納言/14正二位、養嗣子;光政、法号;清浄院蘭渓宗薫、
1798「太元後七日両法申沙汰雑誌」99「叡元三会参向雑誌」「例幣発遣資董朝臣申沙汰記」著、
I2334 **相宰**(すけただ・木下きのした、勝茂3男)1800-66事故死*67* 肥前長崎八幡町の乙名おとな(名主);1817継嗣、
1829乙名を兄の子に譲り医を業とす;医門名を得生堂と称す;種痘術の普及に尽力、
絵師;石崎融思門/南画;清人の江稼圃・張秋穀門、さらに清人陳逸舟・徐雨亭門、西洋画法、
画僧鉄翁祖門と親交/鉄翁・三浦梧門と長崎三大家と称される、国学・歌人;中島広足門、
書・篆刻・琵琶の演奏と制作・煎茶など多芸、田能村竹田・頼山陽・広瀬淡窓と交流、
白磁染付の亀山焼の発展に尽力;絵付担当、長崎円山花月楼清譚会の世話役;日中交流、
1866(慶応2)江戸に遊び横浜から長崎行の英国船黒龍号に乗船;玄界灘で海難事故で没、
姉の小蘭・甥の秋塘も絵師、門人;河村雨谷・津田南竹・池島邨泉・長井雲坪など
1828「霧島山に登るの記」著、30「秋景山水図」62「花鳥図」64「桃花源図」65「蓮塘図」画など
[相宰(;名)の字/通称/号]字;公宰、通称;弥四郎/志賀之助、藤原相宰(;歌号)
号;物々子/**逸雲**いつうん/如螺山人/養竹山房(;室号)/荷香深処(;室号)
H2387 **資尹**(すけただ・遠山とおやま) ? - ? 江後期旗本/幕臣、従五下/隠岐守、
禁裏付から1866(慶応2)10月より第37代京都西町奉行に就任/67解任/寄合/兵部少輔、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[網引する声もはるかに成りにけり霞みや深き春の海原](大江戸倭歌;春68)
J2325 **佐忠**(すけただ・真木まき、保臣[1813-64]2男)1835-1901*67* 筑後久留米の神職/国学・歌;父門、
1852(嘉永5)藩政刷新推進の父が失脚し蟄居謹慎;佐忠が家督継嗣;水天宮祠官、
1864(元治元)禁門変で父自刃;父らの遺体は宝山寺塔前に埋葬;[残念さん]と称される、
参詣者多数のため幕府は登山禁止;屍を宝山寺下の竹林に転埋葬、
1868久留米藩主の命で佐忠が父らの遺体を竹林から天王山の割腹地へ改葬;
山崎に17烈士の墓を建立、久留米水天宮内に真木神社が建立される
[佐忠(;名)の別名/通称]別名;道文(;初名)/文臣、通称;時次郎/主馬
資忠(すけただ・石塚) → *資梁*(すけやな・石塚いしづか、神職/歌人) Ｌ２３４０
輔忠(すけただ・広幡) → *前豊*(さきとよ・近衛/広幡/源、内大臣/画)Ｇ２０３９
資忠王(すけただのおおきみ) → *資忠*(すけただ・白川、神祇伯) Ｃ２３３６
資達(すけたつ・太田) → *竹城*(ちくじょう・太田、藩士/書) Ｄ２８２２
G2342 **資胤**(すけたね・中御門なかみかど/本姓;藤原、庭田重保男)1569-1624*56* 母;広橋兼秀女、
中御門宣教の養子、廷臣;1597(慶長2)参議/98従三位/99権中納言/1612権大納言、
151617正二位、尚良の父、1585-86「中御門宣光記」/1599「豊国社給神位叙位次第」著、
[資胤(;名)の別名/法名]初名;宣光のぶみつ/宣泰、法名;乗蓮
G2343 **祐胤**(すけたね・伊藤いとう、道益[春軒]男)1737-1802*66* 因幡鳥取の医者;父門;1749(13歳)家督継嗣、
鳥取藩医:外科医療に長ず、経学;河田東岡・安藤箕山門;箕山門の四天王の1、1795儒官、
1799病で辞職、「中庸私記」著、
[祐胤(;名)の通称/号]通称;伯元/夕顔/石巌/千里、号;幽篁軒世父
J2337 **資胤**(すけたね・山本やまもと、)1826-1904*79* 伊勢桑名の庄屋、国学者/歌;黒沢翁満門、
国学;富樫広蔭門、維新後;神官、
[資胤(;名)の通称/号]通称;市十郎/逸作、号;大圃老人
祐殖(すけたね・中臣) → *祐殖*(すけえ・中臣/千鳥、神職/歌) Ｇ２３０７
H2385 **輔民**(すけたみ・福島ふくしま、別名;長民/輔世/号;藤原福雄さきお)?-? 江中期医者;歌人、
1833本居大平「八十浦の玉」入、
[あづさ弓春さり来ぬとをちかたの野辺の霞の棚引きにけり]、
(八十浦;上9/1758[宝暦8]真淵家宴、148長歌)
祐民(すけたみ・河村) → *正和*(まさかず・河村かわむら、医者/国学) Ｐ４００８
G2344 **資為**(すけため・安部あべ) ? - ? 南北期廷臣/官人;院庁官/主典代散位、
1354-5「仙洞御文書目録」著
C2339 **祐為**(すけため・鴨かも/梨木、法号;源光院)1740-1801*62* 鴨祐之の孫、江中期神職;下賀茂神社祠官、
正四下/上総介、歌人;冷泉為村門、生涯に十万首を詠、画;土佐家入門、1780「一日千首」、

1781「奏紫式部影前和歌」86「侍大神宮広前詠百首和歌」著/画:1796「職人尽発句」画、
「花月三十六首和歌色紙形」「かひの雫」「鴨祐為詠百首和歌」「西行上人手向歌」著、
「藻芥集」「祐為歌訓」「和歌秘宝抄」「大和路紀行」著

佐為(すけため/さい・橘) → *佐為王*(さいのおおきみ) Ｂ２００１
助大夫(すけだゆう・都筑) → *唯重*(ただしげ・都筑つづき/金丸、藩士/布教)Ｐ２６５７
助大夫(すけだゆう・河北) → *詮茂*(のりしげ・河北かわきた、師職/国学) Ｉ３５００
助太夫(すけだゆう・鈴木) → *康永*(やすなが・鈴木すずき、藩士/歌人) Ｆ４５９７
助太夫(すけだゆう・竹田) → *春庵*(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒) Ｊ２１１８
助太夫(すけだゆう・竹田) → *梅廬*(ばいろ・竹田/高畠、藩儒) Ｃ３６３７
助太夫(すけだゆう・榎村) → *長之*(ながゆき・榎村えのむら、村[町]役) Ｇ３２２６
助太夫(すけだゆう・渡辺) → *政香*(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) Ｂ４０６４
助太夫(すけだゆう・山崎) → *顕経*(あきつね・山崎やまざき、藩士/歌人) Ｉ１０６６
助太夫(すけだゆう・窪田) → *清音*(きよね・窪田くぼた、幕臣/武道家) Ｑ１６０９
助太夫(すけだゆう・渋川) → *常躬*(つねちか・渋川しぶかわ、藩士/国学) Ｆ２９８０
助太夫(すけだゆう・河北) → *藤茂*(ふじしげ・河北かわきた/度会、師職/国学)Ｉ３８０８

G2345 **資善**(すけたる・勘解由小路かでのこうじ、近光男/本姓;藤原)1778-1848*71* 母;座田維則女、廷臣;
1809従三位/42権大納言/44正二位、漢学/経史/詩文に長ず;1847学習院学頭として勤労;
1847権大納言、1830「使東紀略」38「勧修寺宮灌頂備忘」40「命性備考」、47「日本三皇記」編、
「資善詩文集」「資善卿記」「字類」、「周鑑」「殿上位階次第」編、法号;昭徳院、光宙みつおきの養父

助太郎(すけたろう・樺山) → *玄佐*(げんさ・樺山、武将/歌人) Ｂ１８８１
助太郎(すけたろう・窪田) → *清音*(きよね・窪田くぼた、幕臣/武道家) Ｑ１６０９
助太郎(すけたろう・後藤) → *夷臣*(ひなおみ・後藤ごとう、別名;、国学者)Ｅ３７２７
助太郎(すけたろう・内山) → *青藍*(せいらん・内山うちやま、儒者) Ｊ２４７２
助太郎(すけたろう・樺山) → *忠陽*(ただあき・樺山かばやま、藩士/歌人) Ｗ２６５７
助太郎(すけたろう・深田) → *香実*(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学)Ｂ１９２５
助太郎(すけたろう・摩島) → *松南*(しょうなん・摩島まじま/源、儒者/詩) Ｂ２２０４
助太郎(すけたろう・町田) → *久成*(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧)Ｌ３７０１

2308 **輔親**(すけちか・すけむつ・大中臣おおなかとみ、能宣男/母;藤原清兼女)954-1038*85* 神職/廷臣;986文章生、
988勘解由判官/皇太后宮少進/1001伊勢神宮祭主;38年間/神祇権大副/正三位神祇伯、
1034従三位/36正三位、歌人;家集「祭主輔親集」、1003藤原道長家歌合;左方筆頭歌人、
1031斎宮(嫄子せんし女王)の伊勢大神宮託宣を受ける(斎王託宣事件;後拾遺1161返歌入)、
1035頼通家賀陽院水閣歌合;判者、三条・後一条・後朱雀3代大嘗会和歌詠進、玄々集入、
勅撰31首;拾遺(1076)後拾(13首89/462以下)新古(317/748/1407)新勅(184)続後撰以下、
後葉集・続詞花集2首・御裳濯集4首入、輔長・宣理の兄弟、伊勢大輔・輔隆・輔経の父、
[あしひきの山郭公ほととぎす里馴れてたそがれ時に名のりすらしも]、
(拾遺;雑春1076/玄々;105)、
[麗景殿女御(荘子女王?)大盤所より女房の藤花を山吹にさしてたまはされたりければ、
ふた心ありける人のをる花はひとついろにもさかずぞ有りける](続詞花;春87)、
[輔親(;名)の字/号]字;中槐、号;四条/岩出、神号;大中臣朝臣輔親命神霊

女 → *伊勢大輔*(いせのたいふ、歌人) １１１４
→ *輔親女*(すけちかのむすめ、重尹妻) Ｃ２３４２

C2340 **祐親**(すけちか・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐茂5男)1240-1322*83* 鎌倉期神職;1279春日社神宮預、
1307春日社正預/摂津権頭/1314後宇多法皇・永福門院御幸の賞で従四上/16退隠、
1298「春日社遷宮記」、祐賢の弟/祐殖の父、歌人;藤葉とうよう集2首入、
勅撰6首;新後撰(1540)玉葉(1913)続千載(1259/1676/2125)新千載(948)、
[たらちねの親の見し世の秋ならば月にも袖はしぼらざらまし](新後撰;雑1540)

J2356 **資親**(すけちか・二条にじょう/本姓藤原、権中納言資高男)1293-1346*54* 母;曾祖父資季女、
鎌倉南北期廷臣;侍従/左中将/蔵人頭/正四下、1311(延慶3)参議/従三位/加賀権守、
1313正三位;15辞任、19従二位/20本座/30(元徳2/38歳)正二位権中納言;辞任、
1346(貞和2)赤痢で没、資定の兄/資兼(正二位中納言)の父、

歌;1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、
[世々をへて思ひ乱れしわが心もとのまことに返るうれしさ](詠法華経歌;30/普賢経)
G2347 **資親**(すけちか・長沢ながさわ、権大納言外山光顕2男)1681-1750*70* 幕府に招聘され長沢家を興す、
1699幕臣;寄合に列す/壱岐守;1707千4百石/1709高家/29高家肝煎、資祐すけやすの父、
幕命で屢々禁裏・日光に赴き儀式典礼を司る、従四上/左少将、「衣文聞書」著、
[資親(;名)の別名/通称/法名]初名;博宣、通称;茂丸/要人、法名;日明
G2348 **資周**(すけちか・阪さか) ? - ? 江中期連歌作者;通故と交流、「橘園集」
C2341 **相近**(すけちか・二川ふたがわ、相直男)1767-1836*70* 福岡藩士/料理方/書道方;二川流書道を創始、
詩;亀井南冥門/歌;田尻梅翁門、音曲;筑前今様を創作/詞章を創作、大隈言道の師、
「松蔭歌集」「松蔭草蘆録」「聴雨録藁」「二川相近自筆歌集」「古学音符」「山樵唱譜」著、
[相近(;名)の字/通称/号]字;幸進、通称;幸之進、号;松蔭/篁里こうり/嬰風えいふう
鶴子(1796-1869)・滝子(滝たき/玉篠/絵師/1805-65)の父、
鶴原友古(鶴子の婿/1793-1864)・野村相遠すけとお(滝子の婿/1817-58)の養父
G2349 **祐親**(すけちか・蒔田まきた、祐信男)1835-? 江後期廷臣/官人;代々図書寮勤務/1856従六上、
丹波介/図書少允、「図書寮調進之留」著
J2320 **資愛**(すけちか・古久保ふるくぼ、通称;市蔵、直之男)1835-91*57* 紀伊日高郡の国学者、
常徳つねのりの弟/実行さねゆきの叔父
相親(すけちか・今中) → *大学*(だいがく・今中、藩士/日記) Ｊ２６４８
祐挙(すけちか・平) → *祐挙*(すけたか・平たいら、廷臣/歌人) Ｃ２３２７
C2342 **輔親女**(すけちかのむすめ・大中臣)?- ? 藤原重尹の妻、素意(そい;?-1094、歌人)の母、
伊勢大輔の姉妹
輔親女(すけちかのむすめ・大中臣)→ *伊勢大輔*(いせのたいふ、1008?-?、高階成順妻/歌) １１１４
佐世(すけつぎ・藤原) → *佐世*(すけよ・藤原、廷臣/漢学/詩人) ２３１３
J2300 **資次**(すけつぐ・伴ばん、通称;只計/号;吸江軒)?-1690 近江蒲生郡八幡の商家、歌人、
歌・俳諧;北村季吟(1624-1705)門
C2324 **輔嗣**(すけつぐ・九条くじょう/本姓;藤原、二条治孝2男)1784-1807早世*24* 権大納言九条輔家の養嗣子、
1794従三位/1800権大納言/03正二位/05左近大将を兼任、法号;清浄観院
1805「左近衛大将御拝賀次第」著
I2387 **資韶**(すけつぐ・那須なす、敬富[耕助]男)?-1814? 備前児島郡八浜村の商家;牛窓屋/回船海運業、
国学者・歌人;香川景樹門、家督は養子野田敬永(又太郎)が嗣、
[資韶(;名)の通称] 寿之助
L2343 **祐続**(すけつぐ・磯部いそべ)1799-1834*36* 常陸茨城郡の神職/国学者
助次(すけつぐ・宮地) → *水渓*(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) ２３４３
C2343 **資綱**(すけつな・源みなもと、顕基男)1020-82*63* 母;藤原実成女、平安中後期廷臣;1051参議、
1070正二位/80中納言、1082出家、詩歌人;1049(永承4)内裏歌合参加、侍臣詩合参加、
秋風・和漢兼作集入、勅撰6首;後拾遺(335/358/523)新勅(371)続古今(340)新続古(786)、
[唐衣ながき夜よすがら打つ声に我さへ寝ねでもあかしつるかな]、
(後拾遺;秋335/永承四年内裏歌合に擣衣を詠む)
G2350 **祐維**(すけつな・中臣なかとみ/家名;今西、祐沢[祐風]2男)1474-1536*63* 戦国期神職;1496春日社権預、
1529春日社正預/1534従四上、「春日社司祐維記」著
G2351 **祐綱**(すけつな・伊東いとう、法号;道順)?-? 江戸前期伊豆田方郡の郷土史家、「伊豆志」編
C2344 **佐経**(すけつね・大江おおえ/伴?、為国男)?-1060 母:卜部為親女、平安後期廷臣;右衛門大夫、
検非違使大夫/従五下左衛門尉、
歌人・後拾遺239(;七月七日庚申に詠む)、
[いとゞしく露けかるらん織女たなばたの寝ぬ夜よに逢へるあまの羽衣](後拾;秋239)
C2345 **資経**(すけつね・吉田よしだ/本姓;藤原、定経男)1181-1251*71* 母;平親範女、祖父藤原経房の養子、
1199父定経が出家;家督継嗣/鎌倉期廷臣:1222参議/左大弁28正三位、1234出家、
信濃守・三河守歴任、1198「建久九年五節記」、「自暦御記」著、「平家物語」作者に擬す、
1298.5.15「万葉抄」写、
[資経(;名)の通称/法名]通称;吉田大弐、法名;乗願

C2347 **資常**(すけつね・太田おおた)　? -　?　武家/歌:1474道灌「武州江戸歌合」(心敬判)入、
[見るまゝに日かげかたより遠島やかゝりもはてぬ夕立の雲]
G2352 **相常**(すけつね・田原たわら)　? -　?　江中期大阪の書肆;屋号田原屋、
順慶町のち心斎橋筋塩町さらに車町で営業、
1772「播磨めぐりの記」79「琴曲糸の錦」86「琴曲鶴の声」著、
[相常(;名)の通称/号]通称;平兵衛、号;抱玉/抱玉軒/垂枝すいし
G2353 **資矩**(すけつね・すけのり・日野ひの/本姓;藤原、資枝すけき男)1756-1830*75*　江後期廷臣;1778参議/従三位、
1799権大納言/1820従一位、27出家、歌人:1796-1803「日野資矩集」、「日野資矩詠草」、
「詠草集」「百首和歌集成」「歌書雑記」編、「資矩卿記」「延喜翼」「随筆雑々」外著多数、
[資矩(;名)の法名/法号]法名;祐寂、法号;大巌院、資愛すけなるの父
C2348 **資連**(すけつら・布施ふせ/本姓;三善、信連男)?-?　南北期室町幕臣;従五下/弾正忠、
1344-76室町幕府奉行人;評定衆、歌人:1364-65頃「一万首作者」参加/67新玉津社歌合参加、
勅撰4首;新千載(759)新拾遺(1564)新後拾(1430)新続古今(1784)、
[思ひ立つ吉備の中山遠くとも細谷河のおとづれはせよ](新千載;離別759)
[資連(;名)の法名/通称]法名;昌椿、通称;弾正大夫入道
C2349 **助連**(すけつら・藤原ふじわら;則光流、助国男)?-?　鎌倉期廷臣/官人;滝口/右馬允、
歌人;1217「建保五年順徳内裏歌合」/17「四十番歌合」参加、
[春雨にまどの梅が枝え散りにけり色さへにほふ軒の玉水](四十番歌合;六番左11)
J2345 **輔貫**(すけつら・世継よつぎ、)　?-?　江前期;歌人、
1682河瀬菅雄[麓の塵]28首入、
[出づる日の光を見せて武士の心やはらぐ春は来にけり](麓の塵;春14)
[源綱通君身まかり給ひける時よめる、
君まさでむなしき床といたづらに月や涙の玉みがくらん]、
(麓の塵;哀傷562/源綱通;徳島藩主蜂須賀綱通つなみち[1656-78/23歳]/歌人)
G2354 **祐光**(すけてる・久須美くすみ/本姓;藤原、祐邦2男)1747-1816*70*　旗本/幕臣;1782家督継嗣、
勘定奉行吟味方改役並/支配勘定/勘定吟味方改役/1800(寛政12)川船奉行/16辞職、
「一言談」「一言はなし」「祐光雑記」/1808「妙薬集」著、祐明の父、
[祐光(;名)の通称]隼之助/佐左衛門/六郎左衛門
C2350 **祐任**(すけとう・中臣なかとみ/家名;千鳥、初名;祐堪、祐臣長男)1294-1358*65*　鎌倉南北期神職、
1343春日社若宮神主/正五下、歌人:風雅集(1969)、1345刊[藤葉集]入、
[おのづから苔の下にもみるやとて心をとめし花を折りつる](風雅;雑1969)、
(祖父中臣祐春[1245-1324]の墓に桜を折りて立つる)、
[いかにせんうらみてもなほつれなさのもとのままなる人の心を](藤葉;恋587)
C2351 **資任**(すけとう・烏丸からすまる/本姓;藤原、豊光男)1417-82*66*　室町戦国期廷臣、
1443自邸烏丸殿が将軍足利義政の御所、義政に近侍;発言力高まる、従姉は日野重子、
1444参議/正四上、権中納言/52権大納言/58従一位/59准大臣、59義政は室町殿に移る、
今参局(御今)・有馬持家と共に一時幕政に深く関与;3人[ま]が付き[三魔]と称さる、
1467出家落飾、応仁乱を避け三河伊良湖御厨に住;82(文明14)同地に没、
歌人;1450仙洞歌合参加/月次御会和歌参加、新続古今集1186(石清水社奉納歌)、
[貴船川みそぎに袖はくちぬとも波のしらゆふなほやかけまし](新続古;恋1186)
[資任(;名)の号/通称]号;西誉さいよ(;落飾後)、通称;儀同三司入道、法号;蓮光院宗覚
J2319 **相遠**(すけとお・二川ふたがわ、野村貞貫男)1817-58*42*　筑前福岡藩士二川相近(書・詩歌・音曲)の婿養子、
妻;二川瀧子(1805-65/玉篠ぎょくじょう/絵師)、歌人;養父門、幸之進(二川家代々の称)の父、
[相遠(;名)の初名/通称]初名;鉄太郎、通称;幸之進(養父の称)、
義母(父貞貫さだつらの後妻);望東尼ぼうとうに(1806-67),
妻;　→　*瀧子*(たきこ・二川ふたがわ、名;瀧/玉篠、絵師)Ｚ２６３６
G2355 **佐時**(すけとき・藤原ふじわら、敦忠[906-943]男)?-?　母;仲平女明子、平安前期廷臣;左衛門尉、
正五下/左少弁、921京極御息所褒子歌合/962内裏歌合参、助信(中将/管絃名手)の異母弟、
[五月雨に鳴きわたらむほととぎす待つ宵すぎばいつか惜しまむ](内裏歌合;13)
C2352 **輔時**(すけとき・紀き、時文[?-996?]男/貫之の孫)?-?　平安中期廷臣;六位、歌人:拾遺集388、

[かゞり火の所さだめず見えつるは流れつゝのみたけばなりけり]、
(拾遺;物名388/題;つゝみのたけ;鼓の岳or筒の御岳/鵜飼の篝火の光景?)
C2353 **資時**(すけとき・源みなもと;宇多流、資賢男)?-? 母;賀茂保文女、平安後期鎌倉期廷臣;右近少将、
右馬頭/正四下、25歳で出家、後白河院[1127-1192]近習;後白河法皇今様の皆伝者、
郢曲;極奥秘、笛・箏・和琴・馬術・蹴鞠に通ず、「郢曲相承次第」(1330?刊)入、通家の同母弟、
[資時(;名)の法名/号]法名;阿寂/正仏、号;上馬入道
G2357 **祐時**(すけとき・中臣なかとみ/家名;辰市、祐有男)1368-1445*78* 南北期室町期神職;1384春日社権預、
1430春日社正預/従三位/35春日社若宮神主を兼任、「祐時卿御記」著
G2358 **祐辰**(すけとき・中臣なかとみ/家名;今西、祐沢[祐風]長男)1461-1529*69* 戦国期神職;1482春日社権預、
1525春日社正預/28従四上、1497「春日社司祐辰記」著
C2354 **資時**(すけとき・日野ひの/本姓;藤原、豊岡弘昌男)1690-1742*53* 江中期廷臣;1718日野永資の養子、
1722(享保7)参議/25権大納言/42従一位、詩画・歌を嗜む;「日野資時詠草」、「資時卿記」、
1738「元文三年大嘗会和歌」「大嘗会和歌詠進日記」外著多数、
[資時(;名)の号/法号]号;楚蘭、法号瑞光院
資時(すけとき・北条) → *眞昭*(しんしょう;法諱、鎌倉幕臣/歌人) Ｅ２２５３
G2356 **資時妻**(すけときのつま・姓不詳)?- ? 平安後期歌人;1058丹後守藤原公基歌合参加(夫は監物)、
[ははそやまおぼつなしや秋霧のもみぢのにしきたちしかくせば](公基歌合;八番左/霧)
C2355 **祐俊**(すけとし・平たいら、師範男)?- ? 平安後期廷臣;従五下伊豆守/漢学/歌人、
1083前右衛門佐さきのうえもんのすけ源経仲家歌合参加、祐挙すけたかの曾孫、光俊の父
G2359 **助俊**(すけとし、姓;不詳) ? - ? 平安後期廷臣;木工助/歌人、
1127刊「金葉集」654(連歌/三奏本Ⅲ646)、
[土つちくれしてや造りそめけん](金葉;連歌654)、
(詞書;瓦屋を見て/前句;かはらやの板葺いたぶきにても見ゆるかな;読人不知)
瓦屋が板で屋根を葺いている/材料の土塊つちくれという榑くれで作り始めたからか)
G2360 **祐俊**(すけとし・鴨かも、祐頼男)?- ? 1254存 鎌倉期神職;正四上/下賀茂神社禰宜、
1254(建長6)「鴨社御幸記」
C2356 **資俊**(すけとし・太山みやま) ? - ? 武家;大和守/歌;1474太田道灌「武州江戸歌合」参加、
[頼みこし山のはさへにかきくもり沖の船路の夕立の空](江戸歌合;六番左10/海上夕立)
G2361 **祐俊**(すけとし・中臣なかとみ/家名;新、中臣[千鳥]祐栄すけしげ2男)1628-97*70* 中臣(家名;新)祐為の養子、
江前期神職;1656春日社権預/80春日社正預/82従三位/88(元禄元)正三位、
1688遷宮時の神人争論のため1690解官、「春日大社宮祭記」「春日山木枯槁御神楽之記」著
G2362 **祐等**(すけとし・伊東いとう) ? - ? 江中期陸前仙台の兵法家、
北条流兵法;瀬戸良嗣(1797没)門;微妙止善巻の秘伝を受、鹿又次高門;唯授一人伝を受、
「北条流鵜越切紙口伝」「兵法雄鑑伝系之巻」著、
[祐等(;名)の通称/号]通称;又四郎、号;道感斎
G2363 **介壽**(すけとし・山地やまじ、介景すけかげ2男)1768-1813*46* 土佐藩士;3代にわたり京の伏見藩邸留守居役、
国学者;1793本居宣長門、上田秋成・伴蒿蹊と親交/尊王を信奉;藩の怒り買い土佐帰国;
以後読書三昧、武藤致和の「南路志」編纂に助力、「介寿筆叢」編、「雑抄」著、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含め4首入、
[ますらをの手結坂路のあさぼらけ塩けにかすむ遠の国原](八十浦;489/土佐手結山)
[介寿(;名)の別名/通称/号]初名;祐利すけとし、通称;克助/覚蔵、号;芳吹
G2364 **助賢**(すけとし・本多ほんだ/本姓;藤原、大垣藩主戸田氏教2男)1791-1858*68* 江後期美濃大垣藩主;
信濃飯山藩主本多助受の養子;1806襲封/従四位豊後守/修理大夫、奏者番/1832若年寄、
飯山領内の飢饉による一揆を鎮圧/1847善光寺地震被害の復興に尽力、
歌;幕臣遠山長嶺ながみね門、「万の言の葉」著、
[助賢(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;悦吉/初名;助利すけとし、通称;彦三郎/修理大夫、
法号;天佑院、養子;助実
G2365 **祐儁**(すけとし・久須美くすみ/本姓;藤原、祐明男)1796-1864*69* 旗本・幕臣;大坂西町奉行/簾奉行、
講武所奉行並、詩文に長ず、養蘭家として有名、
「在阪漫録」「雑羹会話」「佐渡日記」「浪華日記」「日光山行記」「昼乃行燈」「近郊遊記」著、

1830「養難養説」52「刀要録」56「浪花の風」著、
[祐雋(;名)の字/通称/号]字;珽美、通称;権兵衛/六郎左衛門/佐渡守、 号;蘭林/無不香園
J2303 **相命**(すけとし・東ひがし/本姓;秦、相村男)1800-72*72* 山城葛野郡松尾神社神主、和学、1831従三位、
1868正三位、相愛(1831生/松尾社正祝)の父、
[相命(;名)の通称] 伊勢守
L2336 **祐敏**(すけとし・伊藤いとう、通称;惣兵衛)1807-65*59* 周防大島郡久賀村の庄屋、国学/歌人
I2318 **亮年**(すけとし・小野おの、旧姓;原、通称;七郎平)1814-64*51* 備後葦田郡の国学者;平田鉄胤門
J2304 **祐利**(すけとし・久田ひさだ、通称;卯兵衛/卯平号;藍堂)?-? 江後期三河吉田の紺屋業;阿波屋、
歌人;岩上いわがみ登波子とわこ(1780-1862)門、歌;[類題三河歌集]入
助俊(すけとし) → *助成*(すけなり、歌人) Ｃ２３６８
資敏(すけとし・日野) → *永資*(ながすけ・日野ひの、廷臣/歌人) Ｄ３２９３
祐敏(すけとし・吉川) → *春朝*(春潮しゅんちょう・吉川、商家/俳人)Ｋ２１２６
祐年(すけとし・北田) → *堪忍舎二字守*(かんにんしゃにじもり、狂歌) Ｒ１５５９
G2366 **祐富**(すけとみ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐深2男)1399-1439*41* 兄祐光の養子、室町期神職;
1413(応永20)春日社若宮神主/34事に触れ解官、1417「春日社造替記」著
C2357 **資朝**(すけとも・日野ひの/本姓;藤原、俊光男)1290-1332殺害*43* 廷臣;宋学者;宮廷の賢才、
文章博士/花園天皇の蔵人/1318花園院の院司として出仕/21後醍醐天皇の側近;
父俊光はその変身を非難義絶/兄資名は持明院系出仕、1321参議/23従三位/権中納言、
日野俊基と共に天皇による討幕計画に参画、1324謀議が露顕(正中の変);佐渡に配流、
1331天皇の討幕計画が再度失敗(元弘の変)、
1332後醍醐天皇の隠岐配流決定後に配所の佐渡で処刑殺害される、
(増鏡;[久米のさら山]逸話入)、徒然草152・153・154段;直情径行で個性的な逸話入、
茶人/歌;1315京極為兼[詠法華経和歌]に父兄資名と参加、1318「資朝卿記」著
[あるをあるなきをなきともわかれぬやおろかなる身の迷ひなるらん](法華経歌;57)、
新葉集の京極贈左大臣と同一?
→ *京極贈左大臣*(きょうごくぞうさだいじん、歌人)Ｎ１６７７
G2367 **資友**(すけとも・伴ばん) ? - ? 江前期福岡藩士/砲術家;正教門;鳥居流砲術修得、
のち自得流の祖となる大野吉規に砲術を伝授、「火箭放玉巻」伝、
[資友(;名)の通称] 嘉右衛門/加右衛門
J2335 **祐類**(すけとも・山地やまじ、祐順すけまさ男)1724-96*73* 江戸の生/父に随い但馬出石郡住;出石藩士?、
和学者/歌人;父(武者小路実陰門)門、
[祐類(;名)の通称/号]通称;庄左衛門(父の称)、 号;洞水
G2368 **祐相**(すけとも・伊東いとう、祐民長男)1812-74*63* 母;浅野斉賢の妹、日向飫肥藩主;1814(３歳)襲封、
修理大夫/左京大夫、藩校振徳堂創設;安井滄洲・息軒を教授に登用、殖産・軍制改革、
詩歌・書画を嗜む、1869藩知事;隠居、1837「飫肥侯読家乗」著/41「女蘭集」編、
正室;水野忠邦女/継室;三浦義次養方叔母など多数、祐帰(長男)の父
[祐相(;名)の字/通称/号]幼名;彦松、 字;寵卿/竜卿、 通称;修理/修理大夫/左京大夫、
号;李門/白寵はくろう
I2339 **資知**(すけとも・北郷きたごう、)1835-1909*75* 日向都城の薩摩藩士;都城領主島津久本に出仕、
国学者/歌人、
[資知(;名)の別名/通称/号]別名;資潔、 通称;十郎/清兵衛、 号;寿骨山人
C2358 **資名**(すけな・日野ひの/本姓;藤原北家真夏流、俊光2男)1287-1338*52* 母;藤原公寛女の寛子、
日野家18代当主、廷臣;文章博士、蔵人頭/左大弁/造東大寺長官/1315(正和4)正四上・参議
1316従三位/17右衛門督/権中納言、18検非違使別当;辞職/正三位/20本座/21従二位、
1326(嘉暦元)関東に馳下、30正二位治部卿/31按察使;
鎌倉幕府が大覚寺党後醍醐天皇を廃し持明院光厳天皇擁立、三種神器伝授に関与:
光厳天皇の寵愛;1332(元弘2)権大納言;天皇の乳父として近侍、後伏見院の執権、
1333(正慶2)足利尊氏の寝返り;六波羅攻めに探題陥落;
北条仲時らと光厳天皇・後伏見・花園上皇を奉じ京を脱出、逃走中追手の野伏に阻止;

1335近江番場の蓮華寺で出家(法名;常寂理寂)/仲時は自刃、尊氏は後醍醐天皇と離反、
尊氏は光厳上皇側近の資名に接近/資名は上皇院宣を備後鞆津の尊氏に送る、
1338(延元3/暦応3)没、時光(日野家19代)・氏光・名子(西園寺公宗室)の父、
1329「資名卿記」著、歌人;1315京極為兼[詠法華経和歌]父と参加、続現葉・臨詠・松花集入、
勅撰9首;続千(1306/1705)続後拾(643)風(1352)新千(325/1068)新拾(1461)新後拾(2首)、
[とはれつるいつのならひのあり顔に今宵ふけぬとまた歎くらん](続千載;恋1306)
資名の兄弟姉妹;資朝・柳原資明・伏見院中納言典侍・後伏見院中納言典侍
資名男(すけなのおとこ)→ *時光*(ときみつ・日野19代、権大納言/歌人)Ｋ３１０８
資名女(すけなのむすめ)→ *竹向*(たけむき、資子/名子/西園寺実俊母、歌)２６２２
→ *宣子*(せんし・日野、歌人) Ｆ２４６３

G2369 **祐字**(すけな・中臣なかとみ/家名;千鳥ちどり、中臣[今西]祐舎2男)1678-1715*38* 中臣[千鳥]祐頼の養子、
江前中期神職;1697春日社若宮神主/1700式部権少輔/11正四下、祐益の父、
1700「古事記聞書」著

C2359 **資直**(すけなお・富小路とみのこうじ/本姓;藤原、俊通男)?-1535 戦国期廷臣;1526従三位、
三条西実隆・公条父子に重用される、歌人:詠草・歌合の判・蹴鞠・古典書写・医の活動、
地方に旅をす/十市遠忠・岩山道堅と交流、実隆「雪玉集」入、1515(永正12)「両吟三十首」、
「資直三十一首」「資直也足和歌」「資直越前紀行」、1533(天文2)「春日社法楽百首」外著多数、
[資直(;名)の号] 雀軽子、

B2302 **相直**(すけなお・平賀ひらが) ? - ? 江前期安藝広島の俳人/貞門系、
1664重頼「佐夜中山集」入、67湖春「続山井」/74安静「如意宝珠」/79宗臣「詞林金玉集」入
介直(すけなお・宮地) → *静軒*(せいけん・宮地みやじ、藩儒者) Ｂ２４２３
祐直(すけなお・乾) → *荘嶽*(そうがく・乾いぬい、藩士/詩人) Ｇ２５６１
祐直(すけなお・不破) → *守直*(もりなお・不破ふわ、藩士/和漢学) Ｌ４４１７

C2360 **資仲**(すけなか・藤原ふじわら、資平男)1021-87*67* 母;藤原知章女、平安中後期廷臣;1068参議、
1069正三位/71権中納言/72正二位/80大宰府権帥;84出家、資房(日記「春記」筆写)の弟、
故実家;実資相伝の小野宮流有職故実を継承、出家;入道帥にゅうどうのそち(通称)、
妻;源経頼女(;前典侍さきのすけ)・家女房、
顕実・顕仲・仲通・静明・慶源・静経・行仲・相豪・静命・藤原兼実室の父、「青陽抄」「節会抄」著、
詩歌人;1049(永承4)内裏歌合/51内裏根合・侍臣詩合/56殿上詩合参加、
後冷泉期詩歌壇で活躍、私撰集「資仲後拾遺」編(散佚)、中右記部類紙背漢詩集2首入、
別本和漢兼作集・和漢兼作集・続詞花集・万代集・秋風集入、出羽弁いでわのべんと応酬:栄花入、
勅撰4首;後拾遺(1049)金葉(261・461)新古今(1896)、
[岩代の尾上の風に年ふれど松のみどりはかはらざりけり](後拾;049/永承四内裏歌合)

G2370 **亮仲**(すけなか・山口やまぐち/本姓;安倍、亮昌男)1667-1701*35* 母;祇園社家東梅坊女、廷臣/官人、
1677右少史/87正六上・中務少丞/1688(元禄元)左少史、「伊勢内外宮神宝式并神宝図」著
佐中(すけなか・中西) → *弘佐*(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) Ｇ３７１１
佐中(すけなか・泉) → *家胤*(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) Ｊ１１９２
佐仲(すけなか・神門) → *全瓦*(せんが・神門ごうと、藩士/俳人) Ｌ２４８４

C2362 **資長**(すけなが・日野ひの/本姓;藤原、実光男)1119-95*77* 母;高階重仲女、廷臣;1137対策/56右少弁、
1155五位蔵人/60蔵人頭・参議/左大弁/65従三位権中納言/79致仕;正二位民部卿、
1181念願の出家;法名如寂にょじゃく(1184-5「高野山往生伝」著の如寂か)、
1167「資長卿記」、歌人:続古今729、兼光・覚玄・行命・長宗・寛長・長遍・建春門院女房の父、
[神垣に見そめし松も老いにけり思ひ知らるる年のほどかな](続古今;神祇729)、
(以前見た住吉の小松がのちに参詣し老い木になったのを見て詠む)、
[資長(;名)の法名/別称]法名;如寂にょじゃく、別称;日野民部卿/日野入道/末代の幸人、
→ *如寂*(にょじゃく、真言僧/「高野山往生伝」著)Ｆ３３９４

G2371 **祐永**(すけなが・中臣なかとみ/家名;辰市、祐家長男)1266-1338*73* 鎌倉南北期神職;1291春日社権預、
1322春日社正預/36正四下?、「春日社私記」著

G2372 **祐長**(すけなが・中臣なかとみ/家名;東地井・辰市、大中臣[中東]時広2男)1592-1656*65* 春日神主家の生、
1598中臣[東地井]祐範(1542-1623)の猶子、神職;1601春日社権預/04左馬助、

1620中臣[辰市]祐員が大坂陣で戦死;辰市家(中臣家の本家)を相続、1652正五上、
1613「春日末社遷宮其外諸事記」、「慶長二十年(1615)以来檀那之記」著、祐範より古今伝授、
「慶安年中御造営員替並日次等記」著、「春日社中臣祐範記」補塡、辰市祐言(1624-57)の父

G2373 **輔長**(すけなが・甘露寺かんろじ、方長男/本姓;藤原)1675-1694早世*20* 母;本多康将女、
廷臣;1688蔵人頭、従四下右大弁/1692正四上、「輔長朝臣記」著

G2374 **資長**(すけなが・伴ばん、通称;九兵衛)?-? 加賀金沢藩士伴三郎兵衛の養子、江中期金沢藩士、
1704遺知3百石を相続、「加越能刀鍛冶銘尽」著

D2338 **資長**(すけなが・太田おおた) ? - ? 歌:中院通茂門、
1716「渓雲問答」(;通茂述/松井幸隆筆記)に師通茂からの聞書入

L2320 **亮長**(すけなが・赤尾あかお/西山/本姓;平)1740-1812*73* 京の林丘寺宮家の家司/左衛門権少尉、
歌;閑院宮美仁門、可官よしたかの父

G2375 **輔長**(すけなが・谷田たにだ、谷田茂兵衛保暠男)1748-1825*78* 近江蒲生郡日野の絵師;高田敬徳門、
絵師法眼高田敬輔けいほの孫、和漢学;石橋元東門、1801「敬輔画譜」編/03敬輔「竹隠画譜」編、
「蓮如上人御遺跡図会」(没後1855刊)/「蒲生旧跡考」「徴古画伝」著、
[輔長(;名)の字/通称/号]字;伯脩、通称;進平、号;止斎、

G2376 **亮長**(すけなが・代島だいじま・初姓;富田、通称;久兵衛)1779-1863*85* 武蔵大幡村の和算家・小野栄重門、
関流七伝を受/測量術に長ず、代島に改姓、
奈良・玉井・大麻生の用水図を作成;武蔵忍藩主に献上、1796「算用法伝」1804「算用帳」著

J2326 **相永**(すけなが・松尾まつお、通称;但馬/号;留雲)1828-77*50* 京の廷臣;非蔵人、歌人、
1858(安政5)同志の非蔵人50名余と条約調印反対建議/尊攘運動;63(文久3)参朝停止処分、
1867(慶応3)赦免/岩倉邸で政変準備、68参与;小松宮彰仁あきひと親王の会津攻撃に随従、
のち宮内省出仕

資長(すけなが・太田道灌)→ *持資*(もちすけ・太田、武将/歌人) ４４０７
資脩(すけなが・神じん/みわ) → *性威*(しょうい;号、神資脩、幕臣/歌人) Ｑ２２８３
亮長(すけなが・小西/紀) → *長左衛門*(ちょうざえもん・小西、本草家) Ｉ２８４２
祐長(すけなが・平野) → *繁十郎*(しげじゅうろう・平野ひらの、唐通事) Ｒ２１０６
祐長(すけなが・清水) → *春道*(しゅんどう・清水しみず、藩の医者) Ｌ２１６１

C2365 **祐夏**(すけなつ・鴨かも、祐雄男)?- ? 1325存 鎌倉期神職;河合社権祝/貴布禰社禰宜、
歌人;1322(元亨2)定為(一条法印)より古今集の説を授与、1325月並歌会[飛月集]参加、
続現葉・藤葉集(2首)入集、二条為世・頓阿と交流、「続鴨翼愚集」入、
勅撰5首;続千載(1615)続後拾(1017)新千載(689/1188)新拾遺(1019)、
[命こそうきにつれなき我ならめ恨みによわる心ともがな](続千載;恋1615/恨恋)、
[さゆる夜はしたやすからぬ通路もこほりにたゆる池の水鳥](藤葉;冬3440)

G2377 **助夏**(すけなつ・藤原ふじわら、左衛門尉藤原助高男)?-? 鎌倉期廷臣;内舎人うどねり随身/兵衛尉、
祖父助良(文応元1260出家;法名浄基)、連歌作者:菟玖波集3句入、
[あま人は浪に砧をうちそへて](菟玖;秋440/前句;浦の秋こそ夕なりけり)

C2366 **祐夏**(すけなつ・中臣なかとみ) ? - ? 鎌倉南北期神職;春日社祠官?/五位、
歌人;1346成立「風雅集」(1548)、
[嵐吹くたかねの空は雲晴れて麓をめぐる秋の村雨](風雅;雑1548/秋雨)

資名女(すけなのむすめ・日野)→ *竹向*(たけむき、西園寺実俊母、日記) ２６２２
→ *宣子*(せんし・日野、歌人) Ｆ２４６３

J2308 **助侑**(すけなみ・広田ひろた/本姓;度会、橋村正身4男)1760-1803*44* 伊勢度会郡の神職;外宮権禰宜、
養嗣子;宇治清魚(荒木田久老男)、和漢学修学、
[助侑(;名)の初名/通称]初名;正舒、通称;弁之丞/越後/刀禰/内膳

C2367 **資業**(すけなり・藤原ふじわら・家名;日野、有国男)988-1070*83* 母;橘仲遠女の徳子(一条院の乳母)、
廷臣;1003文章得業生/17文章博士/後一条天皇の侍読/45従三位/式部大輔/51出家;
日野山庄に隠居、法界寺薬師堂を建立/法界寺文庫を創設、能因の知友;パトロン的存在、
詩歌人;後冷泉天皇の大嘗会和歌の作者、1035賀陽院水閣(関白頼通)歌合の中心的役割、
1049(永承四)内裏歌合/50祐子内親王家歌合参加、自家歌合を主催、能因[玄々集]2首入、
後葉集・続詞花集・万代集・和漢兼作集・本朝文集入集、江談抄に逸話、

勅撰7首;後拾遺(4首453/458/459/531)詞花(329)新古今(749)玉葉(2314)、
[君が代は白玉しらたま椿八千代ともなにか数へむかぎりなければ](後拾;賀453)、
(永承四年内裏歌合/白に知らずを掛る/君の齢は椿の八千代より長寿)、
[資業(;名)の通称/法名]通称;日野三位、法名;素舜、広業の弟/家経・経衡の叔父

G2378 **助成**(すけなり・斎藤さいとう/本姓;藤原、通称;越前守)?-? 鎌倉後期伏見院北面武士;日野家に出仕?、
故実家;1295斎藤家で装束についての審議の主催者か?、1295「布衣記」編

C2369 **祐業**(すけなり・木脇きのわき、祐長男)1817-99*83* 薩摩沖永良部(父の任地)の生/1818(2歳)父病死、
母;父の島妻の米松、1824(8歳)鹿児島の木脇本家で養育/30鹿児島城茶坊主として出仕、
池坊花道;松山隆阿彌門;のち師範/甲冑製作;法元六左衛門門/絵師;税所篤之門、
1843江戸詰;藩命で甲冑製作法修得/有職故実;栗原信充門、1847帰藩;武具製造、67郡奉行、
以後奄美代官など地方官歴任、1871新政府の博覧会御用/75陶器会社の次長、
1881青江秀ひいず「薩隅煙草録」挿画/83白野夏雲「麑海魚譜」挿画、
1885名越なごや時行(時敏)「南島雑話」の写本制作、98記録「萬留」著、妻;木脇祐国女かな、
[祐業(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;金時、初名;祐尚、
通称;啓四郎/仁平次/藤淵/啓阿彌、号;桃蹊

J2322 **助成**(すけなり/-しげ・本多ほんだ、助実長男)1846-68早世*23* 父;信濃飯山藩7代藩主、1861従五下伊勢守、
1866第2次長州征伐に父代行で大坂へ出陣/1867(慶応3)父隠居:信濃飯山藩8代主、
1868新政府から謹慎命令;1万5千両献納;赦免、城下に会津から古屋佐久左衛門が進入、
新政府との戦闘で城下戦火(飯山戦争)、没(毒殺説);死亡隠し隠居届;実弟助寵が家督嗣、
国学・歌;井上文雄門、詩文・書画を能くす、柔術・馬術・槍術に長ず、
[助成(;名)の字/通称/号]字;徳卿、通称;乙次郎/右馬允/豊後守、号;笠山

資生(すけなり・裏松/勘解由小路)→*資生*(すけより/すけなり・勘解由小路/藤原、廷臣/歌)Ｄ２３２８
資成(すけなり→すけしげ・橘)→ *資成*(すけしげ・橘、廷臣/歌人) Ｃ２３１９
資成(すけなり・本間) → *道偉*(どうい・本間ほんま、藩医/俳人) Ｂ３１００
祐茂(すけなり・中臣) → *祐茂*(すけしげ・中臣なかとみ/千鳥、神職/歌)Ｃ２３２１

C2370 **資愛**(すけなる・日野ひの/本姓;藤原、資矩すけつね男)1780-1846*67* 廷臣;1810参議/45准大臣/従一位、
漢学;皆川淇園門/詩・歌に長ず、頼山陽・梁川星巌と交流、徳大寺実堅と武家伝奏、
「資愛卿記」「日野資愛詩草」「日野資愛詠草」「日野資愛卿書翰」著、
「日野資愛卿歴朝要記批評」「読式翼」「選叙攷」外著多、
[隅田川めぐみの波のかゝらずは名にのみ聞きていつか渡らん]、
(季文[墨水遊覧記];伝奏後の幕府接待)、
[資愛(;名)の字/通称/法号]字;子博、通称;南洞公、法号;南巌院、養子;資宗

G2379 **祐根**(すけね・伊東/伊藤いとう/本姓;藤原、初姓;弓削)1762-1834*73* 伊予大洲藩士の家の生、
松山藩士伊東祐之の養嗣子;伊予松山藩に出仕、成川眞棹門・神伝流水練に精通、歌人、
「正体三段九意游方」著、裕明(歌人)の父、石井義郷の歌の師、歌;[松城要集]に2首、
[祐根(;名)の別名/通称/号]別名;登、通称;十蔵/庄右衛門、号;合歓舎

亮阿闍梨(すけのあじゃり) → *顕昭*(けんしょう、藤原、天台僧/歌人) １８１８
典侍因子(すけのいんし) → *民部卿典侍*(みんぶきょうのすけ、定家女/歌人)Ｇ４１９１
典侍の君(すけのきみ) → *典侍*(すけ、藤原師家女/歌人) Ｆ２３９２
亮公(すけのきみ) → *顕昭*(けんしょう、藤原、天台僧/歌人) １８１８
輔の御(すけのご) → *典侍*(すけ、藤原師家女/歌人) Ｆ２３９２
典侍光子(すけのこうし) → *典侍光子*(すけのみつこ、歌人) Ｇ２３８７
弼宰相(すけのさいしょう) → *有国*(ありくに・藤原、漢学/詩人) Ｂ１０６６
助之丞(すけのじょう・河合/藤林)→*宗源*(そうげん・藤林ふじばやし、家老/茶人)Ｈ２５１５
助之丞(すけのじょう・榎並)→ *隆璉*(たかてる・榎並、国学歌学) Ｄ２６０９
助之丞(すけのじょう・関) → *当義*(まさよし・関せき、藩家老/財政再建)Ｉ４０５６
助之丞(すけのじょう・福王)→ *信近*(のぶちか・福王ふくおう、幕臣/記録) Ｂ３５９８
助之丞(すけのじょう・多賀たが)→ *一蝶*(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師) Ｃ１１０８
助之丞(すけのじょう・関) → *重嶷*(しげたか・関せき、藩家老/地歴) Ｒ２１２０
助之丞(すけのじょう・鵜飼/岩瀬)→ *京山*(きょうざん・山東さんとう、戯作者)１６３３

助之丞(すけのじょう・戸部)→　*徳之進*(とくのしん・戸部とべ/野見、藩儒)　Ｌ３１２８
助之丞(すけのじょう・湯本)→　*武彦*(たけひこ・湯本ゆもと、藩士/儒者)　２７２３
介之丞(すけのじょう・安積)→　*希斎*(きさい・安積あさか、藩士/儒者)　Ｉ１６５０
介之丞(すけのじょう・村沢)→　*徳風*(のりかぜ・村澤むらさわ/桜井、藩士/歌)Ｇ３５７４

G2380 **助之進**(すけのしん・下村しもむら、名;知利)?-1827　仙台武芸者;真極流左中使拳・影山流運力に長ず、「影山流居合伝書」、門弟多数、養嗣子;元利(仙台藩士)
助之進(すけのしん・多賀たが)→　*一蝶*(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師)　Ｃ１１０８
助之進(すけのしん・窪田)→　*成信*(しげのぶ・狩野、肥後狩野家絵師)　Ｒ２１９４
助之進(すけのしん・横井)→　*時庸*(ときもち・横井/井、藩士/地誌)　Ｋ３１１４
助之進(すけのしん・渡辺)→　*守由*(もりよし・渡辺わたなべ、藩士/地誌家)Ｇ４４８４
助之進(すけのしん・安東)→　*仕学斎*(しがくさい・安東、儒者)　Ｂ２１３３
助之進(すけのしん・井上)→　*利恭*(としやす・井上いのうえ、幕臣/日記)　Ｎ３１９９
助之進(すけのしん・今井)→　*鏡洲*(きょうしゅう、今井いまい、儒者/詩人)　Ｎ１６９２
助之進(すけのしん・本田/白尾)→　*国柱*(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学)Ｄ１７０９
助之進(すけのしん・米川)→　*玄察*(げんさつ;号・米川よねかわ、香道家)　Ｊ１８１６
助之進(すけのしん・八羽)→　*光謙*(みつかた・八羽はつば/荒木田、神職)　Ｋ４１０９
助之進(すけのしん・広瀬)→　*将虎*(まさとら・広瀬ひろせ/源、藩士、歌人)Ｓ４０１８
助之進(すけのしん・酒井)→　*忠昌*(ただはる・酒井さかい、浪人?/文筆家)Ｑ２６５２
助之進(すけのしん・加藤)→　*兄彦*(えひこ・加賀かが/加藤、藩士/神職)Ｕ１３０６
典侍親子(すけのしんし)→　*親子*(しんし/ちかこ・北畠/源、歌人)　Ｅ２２３６
助之允(すけのすけ・中瀬)→　*柯庭*(かてい・中瀬なかせ/松下、藩士/儒者/書)Ｓ１５５９
典侍局(すけのつぼね)→　*績子*(いさこ・中山なかやま、女房/日記)　Ｆ１１４９
介内侍(すけのないし)→　*保衡女*(やすひらのむすめ・平、和泉式部母)　Ｃ４５８４
典侍二位(すけのにい)→　*儀子*(ぎし・嘉楽門院/典侍/南朝歌人)Ｂ１６１６

C2373 **助信**(すけのぶ・藤原ふじわら、権中納言敦忠あつただ[906-943]男)?-966　母;源みなもと等ひとし女、祖父;時平、平安前期廷臣;従四下右近少将/備中守/内蔵頭/右中将、管絃の名手、相如すけゆきの父、詩歌人;959内裏詩合参加、960内裏歌合;方人/962内裏歌合参加、万代集入、新続古今910、[君ひとりをしむ思ひにくらぶれば八十氏人の手向なにぞも](新続古今;離別910/返歌)、(冷泉院の贈歌;我にあらぬ人の手向くる幣なれど祈りぞそふるとくかへれとて)、(助信が備中に下る折に承香殿じょうきょうでんより扇・ぬさ等を賜うた由を聞き冷泉院が詠歌)

G2381 **資信**(すけのぶ・藤原ふじわら、①懐尹男or②永相男?)?-?　平安後期廷臣;陽明門院に出仕か?、歌人、陽明門院禎子(後朱雀天皇皇后/1094没)への哀傷歌;金葉集622、[さだめなき世をうき雲ぞあはれなるたのみし君がけぶりと思へば](金葉集;巻十622)、①懐尹(かねただ/正五下越前守)男とすれば;母は大中臣輔親女、従四下/右馬頭、②永相(ながすけ/従五下大蔵大輔)男とすれば;従五下

C2371 **資宣**(すけのぶ・日野ひの/本姓;藤原、家光2男)1224-92*69*　母;藤原忠綱女、鎌倉期廷臣;文章博士、蔵人頭/左大弁/1271参議/従三位/74権中納言/83正二位、1292(正応5)出家;没、日記「仁部記」(1256-1279)著、1259「御即位記」著、俊光・資宣女の父、詩歌人;1276「現存三十六人詩歌」編、1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、1268内裏歌合参加/弘安百首入、1264-88文永正応度大嘗会和歌に参加、勅撰15首;続拾遺(631/744/1069)新後撰(304/447/733/1402)玉葉(2540)続千(1940)以下、[降りはつる木の葉の後の夕時雨まがふ方なく濡るる袖かな](続拾遺;雑秋631)、[資宣(;名)の通称/法名]通称;後民部卿のちのみんぶきょう、法名;空寂

C2372 **祐信**(すけのぶ・鴨かも/賀茂、祐房男)1586-1667*82*　桃山江前期神職;1607河合社禰宜、1616民部大輔/36上北面/42河合社神主/66従三位、1628「鴨社司祐信記」著、「続鴨翼愚集」入

J2350 **助宣**(すけのぶ・斎藤さいとう、)? -　?　江前期;上方の歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、[秋風もなほみなみよりきの国のむろの早わせまづ戦そよぎつつ]、(林葉累塵;秋391/田家早秋といふ心)

C2304 **祐信**(すけのぶ・中泉なかいずみ、恭祐男)1665-1738*74* 加賀金沢藩儒、1703藩主前田綱紀に出仕、
1705藩儒の父の致仕により家禄継嗣、1725「万姓統譜明人続纂」編、
「横山長隆公碑銘并長知公伝」著、今枝直温[なおはる/1673-1712]の師、
[祐信(;名)の通称]　一学

C2374 **祐信**(すけのぶ・西川にしかわ、郷士西川祐春4男)1671-1750*80* 京生/絵師;狩野永納門、
西園寺致季の家人、友人の八文字自笑に協力:1699頃より挿絵を描く、雛形本出版、
のち絵本絵師に転向、肉筆美人画/古典絵本も制作、息子;祐尹すけただ・祐肖すけのり、
門人;西川祐代すけよ・祐為ら、
1719「艶色玉簾」23「百人女郎品定」33「風流色著」31「絵本常盤草」39「絵本勇者鑑」、
1739「絵本徒然草」44「絵本武者考鑑」45「絵本若草山」47「代継草」49「絵本小倉山」外画多数、
[祐信(;名)の幼名/通称/号]幼名;庄七郎、通称;宇右衛門/右京/西翁、
号;自得斎/自得叟/丹青/文華堂

G2384 **資延**(すけのぶ・白川しらかわ/本姓;源、資延王、資顕すけあき男)1770-1824*55* 廷臣;1781神祇伯/97従三位、
1819養嗣子雅寿王に譲伯/24正二位、1791-96「大殿祭下知之事」94「触穢中日次」、
1816「神祇伯家学則」、「資延王記」「内侍所御修理日次記」「年中御盃次第」、「名題抄」編

I2378 **祐誠**(すけのぶ・千鳥ちどり/本姓;中臣、通称;筑後守)1782-1851*70*　大和添上郡の春日若宮神社社司、
歌人;冷泉家入門、従三位、祐道の父

I2343 **祐修**(すけのぶ・桐山きりやま、旧姓;野村)1817-90*74*　飛騨吉城郡の国学者、
[祐修(;名)の通称/号]通称;源兵衛、号;知足庵/如松

I2370 **祐申**(すけのぶ・曾我そが、旧姓;岡本)1825-81*57*　美濃苗木藩士、国学;平田銕胤門、
1864(元治元)元方兼目付;10石2人扶持、1868大参事青山直道の下苗木藩の仮学校所設置、
祐申は教授世話方に就任、1869(明治2)学校主事;議長兼文学教授/少参事;
同年藩校[日新館]落成、
[祐申(;名)の通称/号]通称;多賀八、号;勉斎

G2385 **祐信**(すけのぶ・森もり、鼎男)1829-1865刑死*37歳* 近江膳所藩士;兄祐之(毅斎)没;家督嗣;物頭役、
儒学;篠崎小竹・藤沢東畡門/長沼流兵学;土浦藩大久保家入門、江戸昌平黌に修学、
越後流兵式・天山流砲術を修学、帰藩;藩校遵義堂教官・軍事教官兼任、
元治1864-65頃藩主命で京摂間を周旋・長防豊筑を視察、長州征伐で投獄;死刑に処される、
兵学;1863「**敝屣**しょうし論」著、
[祐信(;名)の字/通称/号]字;子順、通称;喜右衛門、号;梅渓、

C2313 **祐命**(すけのぶ/すけこと・伊東/伊藤いとう/本姓;藤原)1834-89*56歳*　美作鶴田藩士
国学者/歌;瀬戸久敬・前田夏蔭・加藤千浪門、宮内省御歌所寄人;首座、井上文雄と交流、
1856文雄「摘英集」入、遺稿「柳の一葉いちよう」著(没後刊)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[花とのみよそめに見てもやむべきをわけてくやしき嶺の白雲](大江戸倭歌;春235)、
[吹くからに声立てつべくなりにけり心のまつも風やとふらむ](現存百人一首;55)、
[祐命(;名)の通称/号]通称;健三郎/平馬/三郎、号;柳園

I2377 **祐順**(すけのぶ・千鳥ちどり/本姓;中臣、祐道男)1847-1929*83* 大和添上郡の春日若宮神社神主;父継嗣、
国学;平田あ銕胤門、妻;葉満(吉川信義2女)、祐敬・祐倫・祐満・祐信・紀子・益子の父、
[祐順(;名)の通称]捨丸/近江守

祐信(すけのぶ・中臣)　→　*祐宣*(すけのり・中臣なかとみ/東地井、神職)Ｇ２３９１
祐信(すけのぶ・谷川)　→　*竜山*(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占)　Ｅ４９２０
祐信(すけのぶ・河津)　→　*直入*(なおいり・河津かかわづ、藩士/歌人)　Ｌ３２７６
資信(すけのぶ・藤原、金葉662)　→　*資陰*(すけかげ・藤原、小野宮)　Ｂ２３９６

C2375 **資宣女**(すけのぶのむすめ・日野ひの/本姓;藤原)?-?　鎌倉期歌人、日野資宣[1224-92]の女、
花山院師藤もろふじ(師継男/1266生/正二位権大納言/1312出家;法名;法覚のち顕信)の室、
勅撰4首;新後撰(1146)玉葉(2153)続千載(466)続後拾遺(904)、
[めぐり逢ふうき身に春はかはれども花にはかかる色も見えけり](新後撰;恋1146/返歌)、
(入道前太政大臣西園寺実兼[1249-1322]の贈歌;
久しく訪れなかった女に花のすずを桜の枝につけて、

めぐりあふ月日を空に数へても花にぞかかる命長さは;恋1145)
介ノ法印(すけのほういん)　→　*頼宝*(らいほう;法諱、真言学僧)　４８９５
介法橋(すけのほうきょう)　→　*慶忍*(けいにん;道号、鎌倉期絵師)　Ｇ１８５１
典侍坊門局(すけのぼうもんのつぼね)→　*典侍光子*(すけのみつこ、藤原範光女/歌人)Ｇ２３８７
菅舎(すげのや・和田)　→　*春長*(はるなが・和田わだ、医者/国学/歌)　Ｋ３６９８
菅乃屋(すげのや/すがのや;屋号)→　*篤胤*(あつたね・平田、神道/国学者)　１０２２
菅の舎(すげのや/すがのや)　→　*春夫*(はるお・佐々木、商人/国学)　Ｇ３６０５
菅の舎(すげのや/すがのや)　→　*直槌*(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人)　Ｎ３２５０
菅之舎(すげのや)　→　*辰光*(ときみつ・菊池きくち、国学/歌人)　Ｕ３１９７
菅之舎(すげのや)　→　*眞澄*(ますみ・友田ともだ、神職/歌人)　Ｒ４０１０
菅廼舎(すげのや/すがのや)　→　*知周*(ともちか・高橋、藩士/薙刀/歌)　Ｐ３１８０
菅廼舎(すげのや/すがのや)　→　*清雄*(きよお・水野みずの、国学者)　Ｏ１６６２
菅廼舎(すげのや/すがのや)　→　*義村*(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌)Ｎ４７６４
菅廼舎(すげのや)　→　*安信*(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌)Ｅ４５８９

G2387 **典侍光子**(すけのみつこ、名;光子、通称;按察/典侍坊門局、藤原範光[1207出家]女)?-? 鎌倉中期歌人、女官;典侍ないしのすけ、太政大臣九条良平室の従二位兼子・順徳天皇乳母の従三位憲子の姉妹、新後撰集2首(1318/1504)、
[みやこ人思ひおこせよ苔ふかき松の戸ぼその秋のあはれを](新後撰;十七雑1318)

C2376 **相規**(すけのり・源みなもと:光孝流、清平男)?-?　平安前期廷臣/漢学;菅家廊下に修学、民部大丞、山城守/970摂津守/従五上、詩人;959内裏詩合参加、961or964小野好古の大宰府天満宮詩宴に序者/河原院の詩宴の序者;含英私集抜萃に入、和漢朗詠集・類聚句題抄・香薬字抄・江談抄・本朝文粋に詩入、977頼忠歌合参加

C2377 **資教**(すけのり・日野ひの/本姓;藤原、時光2男)1356-1428*73* 南北室町期廷臣;蔵人頭、1378正四下参議/81従三位・権中納言/83従二位/91正二位/92権大納言;1403辞任、1405従一位;出家、法名;性光、1425准大臣(儀同三司)、足利義満の側近、詩歌;後円融・後小松天皇歌壇の構成員、歌会催、永和百首詠進/永徳度大嘗会和歌参加、勅撰7首;新後拾遺(329/883/1135/1338)新続古今(132/1109/1378)、
[ねにたてて秋にかはらぬ妻恋をなれぬるものと鹿や鳴くらん](新後拾;秋329/百首歌)

G2388 **祐憲**(すけのり・中臣なかとみ/家名;井戸、祐恵長男)1374-1457*84* 室町期神職;1403春日社権禰宜、1424解官/32還補/45春日社正預/従四上/56氏人の訴えにより解官、「春日社臨時御神楽之記」/1428(応永34)「春日社御造営記」著

C2378 **助則**(すけのり・和田わだ)　?-　?　1476「太平記評判私要理尽無極抄」評、大運院陽翁(日応)編「太平記評判秘伝理尽鈔」の類似本

G2389 **助乗**(すけのり・曾我そが/本姓;平、元助男)?-?　戦国安桃期武将、足利義晴・義輝・義昭に出仕、のち豊臣秀吉の右筆、筆札の故実に精通、曾我流の書札礼の祖、1595細川幽斎の推挙で男尚祐と共に秀吉に足利家古来の式を言上、上野介/兵庫頭、晩年は領地の近江土山に閑居;入道し松軒と号す、「書礼袖宝聞書」/1600(慶長15)「曾我兵庫頭八十五箇条品々不好事」著、
[助乗(;名)の通称/号]通称;平助/又次郎、号;松軒

C2381 **祐範**(すけのり・中臣なかとみ/家名;東地井、祐父長男)1542-1623*82* 戦国江前期神職;1562宮内権大副、1583春日社加任預/1599春日社正預/1611従三位、猶子;祐長、連歌;紹巴門、1564中臣祐根(春日社若宮神主)催「何人百韻」に紹巴らと一座、1590「独吟千句」、1597「千句第二」/99「何木百韻」1613玄仲等と「何木百韻」14楊玄仲祐範三吟「何木百韻」等、歌;興福寺喜多院空実より古今伝授、日本紀伝授の始祖、1605「春日正預祐範記」著、「祐範記」「索餅下行事」外著多数、日記「春日社中臣祐範記」(養子祐長が補塡)

G2390 **祐紀**(すけのり・中臣なかとみ/家名;千鳥、初名;祐尚、祐根長男)1582-1645*64* 安桃江戸前期神職;1588春日社若宮神主/1612正五下、1626「春日服忌」著、祐栄の父

G2391 **祐宣**(すけのり・中臣なかとみ/家名;東地井、中臣[新]祐俊長男)1650-97*48* 中臣[東地井]祐言の養子、江前期神職;1676春日社次預/1696正四下、「春日祭旧例」編、初名;祐信

G2392 **祐則**(すけのり・伊東/伊藤いとう、通称;八右衛門)?-? 江中期享保1716-36頃陸奥津軽藩士;中小姓、

1731「津軽一統志」編
G2393 **資模**(すけのり・平岡ひらおか、、資明2男)1698-1786*89* 平岡資頼の養子/1720家督嗣/幕臣;22新番、
金奉行/西丸納戸役/1879留守居/80老衰のため致仕、
1784「天明五年遠忌録」著、「御九族記」編(孫の資辰が献上)、
[資模(;名)の通称] 万次郎/仁右衛門、法号;道寿
B2302 **祐肖**(すけのり/すけゆき・西川にしかわ、祐信すけのぶ[1671-1750]3男)?-? 祐尹すけただ[1706-62]の弟、
江中期京の絵師;父or兄門、「綟謎竜田山」画、
[祐肖(;名)の幼名/通称]幼名;三之丞、通称;城介
C2380 **資規**(すけのり・伴ばん・医者高橋正男)?-1810 近江坂田郡日撫村の学者/京住;
同郷の伴蒿蹊の養子;その国学を継承/歌人、1799蒿蹊「閑田耕筆」校訂、
1801「和歌題字要解」著、1806「歌辞要解」補、「万葉句解」「題文解」著、
[資規(;名)の通称/法号]通称;直樹/直枝なおき、法号;延誉量寿長山居士
I2385 **典則**(すけのり・所ところ/本姓;源、)1755-1827*73* 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・続寿]入、
[典則(;名)の通称/号]通称;藤七、号;藤仙
G2394 **祐憲**(すけのり・杉本すぎもと/本姓;平、祐光男)1774-1840*67* 仁和寺大夫/相模介/従六位、
儒;福井敬斎門/詩:六如(慈周)・村瀬栲亭門、歌;冷泉家入門/有栖川宮の就く、
「平祐憲上書」/1839「袖珍京羽二重」著、
[祐憲(;名)の字/通称/号]字;子粛/粛、通称;主税ちから、号;懶庵らんあん
G2395 **輔徳**(すけのり・新井あらい/初姓;不破ふわ、新井晋平の養子)1795-1867*73* 加賀藩士/昌平黌に修学、
1839藩助教、39儒者解任/41助教加入/43助教本役再任、家伝は易学、
1850「広易学必読」校/「隷伝」編、1854「四書改点略」、不破由左衛門の弟、
[輔徳(;名)の字/通称/号]字;直、通称;周蔵、号;思斎
G2396 **祐訓**(すけのり・梅内うめない/うめうち)1802-69*68* 陸中南部藩士、藩主南部利敬の命で領内の古蹟調査、
国学者;黒川盛隆門/歌・篆刻を嗜む、1806「旧蹟遺文」編/22「聞老遺事」、「蕗園主人随筆」、
「梅内祐訓自筆紀行」著、
[祐訓(;名)の通称/号]通称;藤六、号;蕗園/解香/文松窓/学亦漢、法号;梅叟解香居士
I2332 **資訓**(すけのり・神崎かんざき/旧姓;荘野、)1838-1905*68* 讃岐高松藩士、国学;藩士中村尚輔門、
荘野秋平の弟、妻;福家かつ子
G2397 **資訓**(すけのり・白川しらかわ/本姓;源、資訓王、資敬男)1841-1906*66* 京白川伯家最期の当主、神道、
1851神祇伯、1864従三位/68王号返上/1900従二位、東京住、
「資訓王記」/1856「御神拝次第」著
J2316 **祐功**(すけのり・福永ふくなが、)1844-1908*65* 大隅姶良郡の国学者・歌人;八田知紀門、
西南戦争では西郷軍六番大隊一番小隊半隊長として参加、
[祐功(;名)の通称/号]通称;十郎、号;玉葩ぎょくは
J2302 **資徳**(すけのり/すけかつ・日野ひの、)1848-1909*62* 越後新潟の商家、和漢学修学/1874白山神社祠官、
国学・神道;小池内広門/歌;浅見安景門/桂園派風の歌人、「新潟方言考」著、
[資徳(;名)の通称/号]通称;徳三郎、号;瓊之舎たまのや/海籟皐民

佐範(すけのり・衣笠) → *景延*(かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌)Ｕ１５５１
祐則(すけのり・井上) → *長秋*(ながあき・井上いのうえ/藤原、神職/判事)Ｌ３２０４
資矩(すけのり・伴) → *香竹*(こうちく・伴、国学/歌) Ｂ１９６９
資矩(すけのり・日野) → *資矩*(すけつね・日野/藤原、大納言/歌) Ｇ２３５３
輔徳(すけのり・伊東) → *祐賢*(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) Ｌ２３２８
資訓王(すけのりのおおきみ) → *資訓*(すけのり・白川、神祇伯) Ｇ２３９７
助八(すけはち・木屋) → *我峰*(がほう・木屋、俳人) Ｄ１５２２
祐八(すけはち・早崎) → *益裕*(ますひろ・早崎はやさき/仙石、藩士/国学)Ｒ４０８７
助八郎(すけはちろう・高屋)→ *定明*(さだあき・高屋たかや、国学者) Ｑ２０８８

J2349 **資早**(すけはや・太田おおた、) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]29首入、
[あまを舟はつせの山の初ざくらさけどもいまだみるめすくなし]、
(林葉累塵;春150/海人小舟は初[泊つ]にかかる枕詞)

C2382 **祐春**(すけはる・中臣なかとみ/家名;千鳥、新薬師、初名;祐治、祐賢長男)1245-1324*80* 母;尼御前?、
鎌倉期神職;1282春日社若宮神主、修理権亮/1302正四上、歌人:藤原為家・為氏門、
能書家;万葉集を書写(祐春切)、1286「春日行幸記」86-87「春日社造替記」87「春日遷宮記」、
1282-1313「春日若宮神主祐春記」外多、1294(永仁2)自邸で「探題千首」主催(自葉和歌集)、
勅撰14首;新後撰(465/1183/1257)玉葉(1893/2121)続千(5首)続後拾(2首)風(2137)新千、
[枯れ行くも草葉にかぎる冬ならば人めばかりはなほやまたまし](新後撰;冬465)

C2383 **祐治**(すけはる・鴨かも、河合社禰宜鴨祐国男)?-? 鎌倉期正応応長1288-1312頃の神職、権禰宜、
1311正五下/のち従四上、歌人;1292厳島社頭和歌参加、続千載集1263、
[つらしとて恨みもはてず小夜衣かへせば人ぞ夢に見えける](続千載;恋1263)

L2329 **祐春**(すけはる・伊東いとう、祐久3男)1635-1706*72* 江戸幕府旗本:日向国飫肥藩分家、
江戸幕府表向御礼衆交代寄合の伊東氏の祖/1657兄祐由より那珂郡の内3千石を分地、
飫肥城下に居住;1663私領地の視察を許可される;以後;伊東氏の慣例/1700隠居、
妻;土岐頼泰(縫殿助)女、祐崇・祐連の父、家督を祐連が継嗣、
[祐春(;名)の初名/通称/号]初名;大助、 通称;主殿

L2330 **祐春**(すけはる・伊東いとう/のち相良)?-1751?*65* 伊予松山藩士、歌人;園大納言家入門、大坂住、
剃髪し**相良桃阿**を名乗る、京・大坂・松山に歌の門弟多数、
[祐春(;名)の初名/通称/号]初名;登、 通称;八十郎/弁之助/権之助、 号;桃阿(・相良)

G2398 **祐春**(すけはる・西川にしかわ;号、姓;紀)?-? 江後期京の絵師、1836-61「太平記図絵」画、
1857「都の賑」画/57「大日本行程大絵図」「日本全国交通版画絵巻」補塡、
1866「京みやげ東山之部」画
菅彦(すげひこ→すがひこ・広沢)→ *菅彦*(すがひこ・広沢ひろさわ重賢、歌人) Ｊ２３０７

G2399 **祐久**(すけひさ・中臣なかとみ/家名;新、祐岩すけかた長男)1547-1601*55* 安桃期神職;1573従五上、
1586(天正14)春日社権預、1574「春日祭遂行記」著

L2338 **祐寿**(すけひさ・池野いけの、)1794-1860*67* 陸奥(陸中)盛岡の商家;木津屋主人、
南部藩御用商人、歌人;冷泉為則・野宮定祥さだなが・岩倉具集ともあい門、
「きさらき日記」「祐寿歌集」著、
[祐寿(;名)の通称] 藤兵衛/金之助

P2343 **佐久**(すけひさ・松原まつばら、家老佐藤佐興すけおき2男)1835-1910*76* 出羽由利郡の矢島藩生駒家の家老、
有職家/伊勢流故実;藤川貞門、画;相沢石湖門、1867(慶応3)公用人;京で国事に奔走、
1869大参事/各地の判事歴任、「鎧話」著、久之の父、
[佐久(;名)の通称/号]通称;彦一郎、 号;貫一斎
祐尚(すけひさ・木脇) → *祐業*(すけなり・木脇きのわき、藩士/絵師) Ｃ２３６９

C2384 **資栄**(すけひで・源みなもと、顕資男)?-1317 鎌倉期廷臣;蔵人頭/1312参議/従三位、
歌人;新千載1198、
[いたづらに身さへ流るる涙河あふ瀬やなほも頼みなるらん](新千載;恋1198)、
(後醍醐院のみこの宮の時侍ふ人々題詠;不逢恋)

C2385 **助秀**(すけひで・松岡まつおか、真人)?- ? 江前期神職;熱田大神宮御馬頭人、
俳諧;1637「熱田万句」勧進

L2331 **祐栄**(すけひで・伊東いとう、号;節翁、重良男)1662-1745*84* 陸奥(陸前)仙台藩士;700石、桃生郡根古住、
江戸番頭、祐寿の父、歌人、「伊東節翁古談」著(伊達安房伊達數馬諫爭記)

L2315 **資秀**(すけひで・樹下じゅげ、通称;近江守)?-? 江後期;近江滋賀郡日吉大社の社家の人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年を経て変らぬ色の松が枝やつきせぬ御代の恵みならまし](大江戸倭歌;雑2046)
助秀(じょしゅう・吉益) → *半笑斎*(はんしょうさい・吉益よします/畠山、医者)Ｉ３６０１
祐英(すけひで・佐藤) → *晩得*(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) Ｉ３６４４

C2387 **輔仁**(すけひと・or輔文すけふん・すけふさ・すけとも・すけむと・藤原ふじわら、玄上男)?-? 平安前期廷臣;春宮少進、
刑部大判事/五位、歌人;後撰集607(;藤原輔文名)、
[阿武隈の霧とはなしに終夜よもすがら立ち渡りつゝ世をもふるかな](後撰;恋607)、
(女の曹司[女房の部屋]に夜々立寄り物など言ってのち贈る)
藤原輔臣(玄上男、後撰1149)と同一説あり→ *輔臣*(すけおみ-おむ・藤原)２３０９

藤原芙幹(村椙男)説あり(片桐説)→　*芙幹*(すけもと・藤原、後撰47)　　Ｄ２３１３
C2386 **輔仁**(すけひと・深根ふかね/深江/本姓;蜂田薬師・源、姓かばね;宿禰)?-? 平安前期医者;
先祖は呉の遺民で百済を経て渡来;一族は代々和泉大鳥郡蜂田郷の薬師医、
宗継(医博士/針博士)の孫、典薬頭菅原行貞門/左衛門医師/権医博士/大医博士、
醍醐・朱雀天皇の侍医、918「掌中要方」著/延喜901-23頃「本草和名」撰/921「養生秘抄」著
輔仁(すけひと・坂尾)　　→　*宗吾*(そうご・坂尾/阪尾/日向、藩士/武術家)Ｈ２５２８
C2388 **輔仁親王**(すけひとしんのう、名;輔仁、後三条天皇第3皇子)1073-1119*47* 母;源基平女の女御基子、
1075(承保2)親王宣下/1086白河天皇が後三条天皇遺詔に反し我が息子堀河天皇に譲位、
輔仁親王は無視されたため仁和寺花園に籠居/1113親王護持僧仁寛が鳥羽天皇暗殺計画、
露見したため親王は1115(永久3)まで閉門謹慎、19病により出家、「三宮御記」著、詩歌人、
詩;「本朝無題詩」入、歌:1155-6寂超「後葉集」入(延久第三親王名;巻頭)、
続詞花集2首入(三宮名)、
勅撰17首;金葉(9首134/140/162/207/296/302/518/532/627)、
千載(5首177/309/646/1103/1185)新古(70)続後拾(1048)新千(351)、
女房歌人に甲斐・越後(三宮家)・大進らがいる、
[あさましや見しふるさとの菖蒲草あやめぐさわが知らぬまに生おひにけるかな](金葉;夏134)、
(かつての住居の中の院では見なかった菖蒲が今咲いてることを知り読む/故郷の荒廃)、
[輔仁親王の通称]　三宮/延久第三親王えんきゅうだいさんのみこ
C2389 **典仁親王**(すけひとしんのう、幼称;壽宮/名;典仁、直仁親王男)1733-94*62* 閑院宮2代、
桜町天皇の猶子、1743親王宣下/44大宰帥/80一品、光格天皇の父、詩歌;職仁親王門、
桜町天皇より古今伝授を受、1761「薦供和歌」70「有馬六景」90「新造内裏御障子和歌」、
「寛政新造内裏清涼殿大和絵障子歌」「寛政入内御屏風和歌」「今出川詠和歌」外歌多数、
[典仁親王の通称/諡号]通称;閑院宮、諡号;自在王院/追贈;慶光天皇
輔仁親王家甲斐(すけひとしんのうけのかい)→ *甲斐* ⑥(かい・輔仁親王家女房、歌人)Ｅ１５３０
輔仁親王家大進(すけひとしんのうけのだいじん)→ *大進*(だいじん・輔仁親王家/三宮、歌人)Ｂ２６６７
C2390 **資平**(すけひら・藤原ふじわら、藤原懐平2男)986-1067*82* 平安期/母;源保光女、右大臣藤原実資の養子、
廷臣;左近中将/蔵人頭/1017参議/38正二位/65大納言/皇太后宮大夫;実資を助け活躍、
1024「薬師堂供養記」著、歌;1050麗景殿女御歌合参加、詩;三十五文集入、資房・資仲の父
C2391 **資平**(すけひら・源みなもと、顕平長男)1223-84*62*　　鎌倉期廷臣;左兵衛督/1259蔵人頭/宮内卿、
1261(弘長元)参議/従三位/63正三位/69従二位/71(文永8)権中納言;辞任/76正二位、
1280(弘安3)按察使、82(弘安5)12月興福寺の直訴で越前に配流/83;3月帰京/按察使還任、
1284(弘安7)出家;没、顕資・親教の父、歌人:家集「資平集」、「藤原為家に答ふる文」著、
1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、65亀山五首歌合・白河殿七百首参加、
勅撰21首;続後撰(307)続古(133/431/510)続拾(6首47以下)新後撰(1447)、
玉葉(984/1490)続千(1630)新千(510)新拾(1226)新続古(5首1066以下)、
[秋くればちぢに思ひの長き夜を月に恨みて鹿もなくなり](続後撰;秋307)
C2392 **資衡**(すけひら・柳原やなぎわら、忠光男/本姓;藤原)1364-1409?*46?*　母;祝部成国女、南北室町期廷臣;
1388参議/90従三位/1403権大納言/04正二位;出家(法名;清寂)、歌:1381内裏歌会講師、
内裏七夕御会・観月歌会の講師、1386仙洞歌会参加/1407内裏九十番歌合(清寂名)参加、
永和百首・1381室町亭行幸和歌集など入集、新後拾遺集718、町資藤の兄、
[一夜をもちぎりになして七夕のうときもなかとうらみやはする](新後拾;雑秋718)
L2332 **祐平**(すけひら・伊東いとう、) ? - 1745　　伊予松山藩士;1721禄18人扶持/27大小姓、
歌人、1739致仕
C2393 **輔平**(すけひら・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、閑院宮直仁親王3男)1739-1813*75* 桜町天皇の猶子、
初め一条兼香の養子/鷹司基輝の嗣子;1743鷹司家を相続、1745鷹司殿に移住/46従三位、
1763従一位/78左大臣/87関白/氏長者、1791関白辞職/97出家、
関白在職中に典仁親王(光格天皇の父)への太上天皇宣下による尊号事件の発端をつくる、
「光格天皇踐祚記」、1779「踐祚次第」80「即位式」、「白馬節会次第」著、
歌:「百首和歌稿」/1771「鷹司家別業高楼新築祝和歌」著、
[輔平(;名)の幼名/法名/法号]幼名;淳宮、法名;理延、法号;後心空華院

H2300 **祐平**(すけひら・高木たかぎ、通称;平右衛門)?-?　　江後期加賀金沢藩士/服忌学:湯浅祇庸門、
1849「服忌日数類表」著
資衡(すけひら・久川/大江)→ *玄圃*(げんぽ・大江おおえ、漢学/詩/書家) Ｄ１８０２
助平(すけひら・坪内)　　→ *清禰*(きよよし・坪内つぼうち、藩士/国学)　Ｕ１６７９
C2394 **輔弘**(すけひろ・大中臣おおなかとみ、輔宣男/母;大江公資女)1027-?1103後没*77歳以上* 伊勢神職;
従五上神祇権大副、治部丞、歌;1056頭中将顕房歌合参加、
1103(康和5)豊受大神宮への放火・落書の罪で佐渡に配流、以後の消息不明、御裳濯集入、
勅撰4首;後拾遺(170/212/744)金葉(544)、輔長・俊輔らの兄弟/2男1女の父、
[八重繁るむぐらの門かどのいぶせさに鎖ささずや何をたゝく水鶏ぞ](後拾;夏170)、
女　　→ *輔弘女*(すけひろのむすめ・大中臣おおなかとみ、歌人)Ｃ２３９６
C2395 **資広**(すけひろ・町まち/本姓;藤原/柳原、町資藤男)1390-1469*80* 母;平詮定女、室町期廷臣;蔵人頭、
1419参議・右大弁/38権大納言/56従一位、歌人:1412仙洞三席御会参加/一条兼良邸に出入、
1443前摂政一条兼良家歌合/44兼良の[源氏物語講釈]を聴聞 (康富記入)、
1446文安詩歌合参加、伯耆に没、広光の父、新続古今集1741、
[秋の田のかりそめながら結ぶ庵いほになれていく夜のさを鹿の声](新続古;雑1741)
[資広(;名)の初名/通称/法号]初名;藤光、 通称;日野町、 法号;情寂
C2338 **資熙**(すけひろ・中御門なかみかど/本姓;藤原、一字名;平、宣順男)1635-1707*73* 母;阿野実顕女、
廷臣;1658参議/72権大納言/73正二位、霊元上皇の側近;廷内で権勢/東山天皇の嫌忌;
1699罷免、1706赦免、1672-73「中御門資熙卿記」、「治暦大饗記」「院司新補次第」著
I2350 **祐恕**(すけひろ・後藤ごとう、)1766-　?　　出羽久保田(秋田)藩士;小姓組、国学者、祐道の一族
C2346 **祐熙**(すけひろ・鴨かも/梨本、祐為男)1770-1822*53* 江後期神職;下賀茂権禰宜/1822従三位、
歌人;「愚詠草稿」1796「日読詠草」1819「大嘗会夜詠百首和歌」著
C2361 **輔熙**(すけひろ・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、政通男)1807-78*72* 母;徳川治紀女の清子、廷臣;1818従三位、
1849従一/57右大臣、日米通称条約勅許申請と将軍継嗣問題で幕府と対立;1859辞職;落飾、
1862宥免;還俗/国事御用掛/1863関白/氏長者、攘夷の朝議が一変し辞職、
長州加担嫌疑で参朝停止/1868議定/制度事務局督/神祇官知事/留守長官歴任、72隠居、
「鷹司輔熙千首和歌」「春懐旧和歌」「練歩相伝折紙草」「鷹司輔熙勅答案」著多数、
[輔熙(;名)の幼名/号/法名]幼名;敬君、号;括嚢/幽山、 法名;随楽
C2364 **資礼**(すけひろ・那須なす/本姓;藤原、佐竹義方男)1795-1861*67* 実祖父;久保田藩主佐竹義明、
1809幕臣(旗本)那須資明の養子、1811家督継嗣;千石、江戸本所石原住、幕府寄合、
妻は養父資明の女、歌:千種有功門、1860隠居、1843「日光山東遊記」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[姿こそ枝にかくれて見えねども花に声ある春のうぐひす](大江戸倭歌;春95/花間鶯)、
[筏士のくだす年木のはや瀬川はやくも年の暮れてゆくかな](現存百人一首 ; 97)、
[資礼(;名)の初名/字/通称/号]初名;義貫、字;寿英、通称;鉄五郎/豊太郎/与一、
号;萋々せいせい/萋々斎/松風庵/聴松庵
I2300 **資礼**(すけひろ・町野まちの、通称;十太郎)?-?　　江後期;歌人、幕臣?
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[河風に声打ち添ふる糸竹はまだきに秋のしらべとぞ聞く]、
(大江戸倭歌;夏660/六月半ば源利龢・源光世らと隅田川に詩歌管弦の友を集へて涼む)
資広(すけひろ・尾藤びとう、武人/歌人)→ *如雄*(にょゆう、法師)　　Ｇ３３１１
資寛(すけひろ・太田)　　→ *資寧*(すけやす・太田おおた、旗本/幕臣/歌)Ｈ２３８９
資熙(すけひろ・庭田/源) → *資蔭*(すけかげ・田向たむけ/庭田/源、廷臣/歌)Ｂ２３９７
C2396 **輔弘女**(すけひろのむすめ、大中臣おおなかとみ)?-?　　平安後期歌人、父輔弘[1027-?]も歌人、金葉487、
[あぢきなく過ぐる月日ぞ恨めしきあひ見し程をへだつと思へば](金葉集:八恋487)
資深(すけふか・川田)　　→ *雄琴*(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学)Ｂ４６２６
C2397 **資房**(すけふさ・藤原ふじわら、小野宮、資平の長男)1007-57*51* 母;藤原知章女、平安中期廷臣;資仲の兄、
左近中将/蔵人頭/1042参議/44従三位/45東宮権大夫/51正三位、
有職故実家;小野宮流の嫡家、音楽・詩文に長ず、日記「春記:野房記」著、
中右記部類紙背漢詩集入

C2368 **祐房**(すけふさ・中臣なかとみ/家名;千鳥、中臣[辰市]近助2男)1078-1152*75* 千鳥家の祖、平安後期神職、
1107春日社権預/27春日社神宮預兼任/34正預/35春日社若宮神主(初代)兼任/47正五上、
「春日若宮神主祐房記」著
I2301 **佐房**(すけふさ・江口えぐち) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山深み青葉まじりの遅桜折りてかざさん春のかたみに](大江戸倭歌;夏390/残花)
資房(すけふさ;初名・藤原)→ *資忠*(すけただ;後名・藤原、廷臣/歌人)Ｃ２３３４
資房(すけふさ・太田、「信長記」)→ *牛一*(ぎゅういち・太田) Ｂ１６９０
佐総(すけふさ・小山) → *親頼*(ちかより・小山こやま、神職/歌人) Ｍ２８５２
C2398 **資藤**(すけふじ・町まち/本姓;藤原/柳原、柳原忠光男)1366-1409*44* 母;祝部成国女、柳原資衡の弟、
1392参議/1406権大納言/08正二位、資広の父、歌人;1407内裏九十番・08北山殿歌会参加、
新続古今集2首(1785・2008)ａ、
[いとどなほ下にやかよふ池水のにほの浮巣もかつこほりつつ](新続古;雑1785/冬歌)
[資藤(;名)の通称/法号]通称;日野町、法号;承康
典侍藤原直子朝臣(すけふじわらのなおいこあそん)→ *直子*(なおいこ・藤原、歌)３２７０
C2399 **資文**(すけふみ・小野おの) ? - ? 江戸中後期歌人、古田広計ひろかず(1785-1830頃)の師
I2324 **輔文**(すけふみ・岡田おかだ、)1823-1901*79* 備前岡山藩国老池田近江の家臣、
歌人;藤原忠朝・岡直廬門
L2326 **祐文**(すけぶみ・井上いのうえ、通称;益人)1830-1906*77* 薩摩揖宿郡穎娃村の枚聞神社6代宮司、
国学;[故学人姓名録二編]に入
資文(すけぶみ・川田) → *資始*(すけもと・川田かわだ、藩士/国学者) Ｉ２３２７
輔文(すけふん/-ふみ・藤原、後撰607歌人)→ *輔仁*(すけひと・藤原、歌人)Ｃ２３８７
助平(すけへい・中村) → *正也*(まさや・中村なかむら、藩陪臣/歌人) Ｒ４０１７
助兵衛(すけへえ・立石) → *正賀*(まさよし・立石たていし、武将/歴史) Ｉ４０４４
助兵衛(すけへえ・村松/佐々木)→ *喜庵*(きあん・佐々木、郷土史家) Ｊ１６５１
助兵衛(すけへえ・松本) → *高通*(たかみち・松本まつもと、文筆家) Ｎ２６２７
2312 **輔正**(すけまさ・菅原すがわら、通称;北野宰相/北野三位、在躬男)925-1009*85* 母;菅原景行女、
平安期廷臣、紀伝道に修学/950(天暦4)文章得業生/955対策及第/960叙爵,
961式部少輔/侍従、966権右少弁/大学頭・東宮学士・970文章博士を兼任、
978左中弁/981大宰大弐、991式部大輔/992従三位/996参議、氏長者、
1003正三位(没後;正二位追贈)、円融天皇侍読/大宰府赴任中に安楽寺内に多宝塔建立、
先祖道真の顕彰に尽力、
詩人、藤原道兼のため「粟田山荘障子詩」撰、本朝文粋・本朝麗草・粟田左府尚歯会詩入
2311 **佐理**(すけまさ/さり・藤原ふじわら、敦敏あつとし男)944-998*55* 母;藤原元名女、
祖父摂政太政大臣実頼の養子、947父没後;祖父に養育される/廷臣;978参議、
讃岐などの国守・勘解由長官・兵部卿兼任、991参議辞職/大宰大弐として赴任/992正三位、
995宇佐八幡神人と乱闘;996召還、998赦免;朝参を許可、能書家:三蹟の1(行成・道風と)、
「海陽泉帖」「佐理卿真跡和歌」書、歌;962(応和2)内裏歌合参加、「参議藤原佐理消息」あり、
[五月雨にふりいでて鳴けと思へどもあすのためとや音ねを残すらん](内裏歌合;11)
(応和二年五月四日庚申夜;題;時鳥を待つ/侍従佐理)
娘も能書家 → *佐理女*(すけまさのむすめ・藤原) Ｄ２３０３
D2300 **助理**(すけまさ・源みなもと;光孝流、参議源正明男)?-? 平安期廷臣;内匠助(or頭)/従五下、弾正大弼、
為理の父、歌人:972「女四宮歌合」(規子内親王家)参加、
[秋風になびく夕べのしのすすきほのかに招くたちとまりなむ](女四宮歌合;薄2)
C2379 **祐正**(すけまさ・賀茂かも) ? - ? 1184存 平安後期神職;1184正四位下、賀茂神社権祝、
1184「賀茂神宮奥秘記」著
D2301 **資雅**(すけまさ・源みなもと/家名;白川、資忠王[白川資忠]男)?-? 室町期廷臣;四位/左近中将、
歌人;1412広橋家月次始歌合参加、新続古今1681、
[袖せばきかとりの浦のあま衣宿るほどなく月ぞあけ行く](新続古;雑1681/浦夏月)
J2334 **祐順**(すけまさ・山地やまじ、通称;庄左衛門)1684-1743*60* 信濃上田の和学者/歌人;武者小路実陰門、

但馬出石藩士、祐類すけともの父
I2395 **扶正**(すけまさ・林はやし、通称;藤蔵、市之助通弘男)1689-1760*72*　肥後熊本藩士;物頭列/禄150石、
皇典有職に精通
I2379 **祐雅**(すけまさ・千鳥ちどり/本姓;中臣、祐益の長男)1735-90*56*　大和添上郡の春日若宮神社神主、
歌;冷泉為泰門、従三位
[祐雅(;名)の通称]上総介/大炊頭おおいのかみ
I2367 **祐昌**(すけまさ・瀬川せがわ、通称;立庵)?-1790　陸奥盛岡の医者、国学/歌人
G2346 **祐真**(すけまさ・間山まやま、土門実常2男)1763-1825*63*　陸奥弘前藩士間山祐休の養子;弘前藩士、
中小姓/使番/歌人;藩命で上京;国学・歌;日野資枝門/雅楽も修得、
帰藩;藩校稽古館記伝学頭/国学・歌の指導、「歌文集」「津軽郡中古碑図考」「京都紀行」著、
[祐真(;名)の通称]甚五郎、鉄五郎の父
G2383 **助弼**(すけまさ・曾我そが/本姓;平、祐諸男)1766-1837*72*　幕臣;1784家督嗣/豊後守/西丸書院番頭、
西丸目付/京都町奉行/勘定奉行、1835不祥事により罷免;蟄居、
1817「安徳帝壇浦御入水無事」著、
[助弼(;名)の別名/通称]別名;祐求すけまさ/助求すけまさ/祐弼すけまさ、通称;銕次郎/七兵衛
G2386 **昌応**(すけまさ・滝たき、通称;嘉平次)?-?　江後期寛政1789-1801頃安藝広島藩士、
地誌・文筆家、1794「安藝国隠戸瀬戸論」95「安藝国郡名齟齬記」1800「安藝国郡名齟齬論」著、
「滝氏紀文」「長門島考」著、「正則家記拾」編
I2352 **祐壮**(すけまさ・後藤ごとう、)1805-1872*68*　出羽久保田(秋田)藩士;藩校明徳館国学教授、
後藤祐恕すけひろの一族、
[祐壮(;名)の字/通称/号]字;子昭、通称;甚之助/忠七/忠兵衛、号;松処/二翠園
I2373 **亮昌**(すけまさ・田原たわら、)1814-1867*54*　武蔵荏原郡の三峰神社神職、歌;小林おばやし歌城門、
[亮昌(;名)の字/通称/号]字;亮雄、通称;藤三、号;茅生ぼうせい
J2344 **資政**(すけまさ・渡辺わたなべ、冬一男)1814-92*79*　大坂の国学者・神道;六人部是香門、
漢学:大塩平八郎門/武道;島男也門、1830家督嗣;大坂の坐摩いかすり神社社司、
1845坐摩神社に寄寓の佐久良(飯島)東雄あずまお門;国学を修学、勤王派、歌人、
「道明寺天満宮奉納和歌新題三十六首」入、
敏雄(1847-1928/坐摩神社社司/阿部野神社宮司)の父、
[資政(;名)の通称/号]通称;近江守、号;梅崖ばいがい/鏡廼舎/階守
J2321 **輔政**(すけまさ・堀家ほりけ、徳政のりまさ長男)1816-89*74*　母;喜智子(幾知子/旧姓佐伯/緒方洪庵の姉)、
1823(文政6/８歳)父没;養祖父広政と母に養育、1831(天保2)広政没;家督を嗣;
備中賀陽郡の吉備津神社社家/藤井(大藤)高起の兄、国学・歌;藤井高尚門、
妻;登与とよ(守安畏郷女)、作政・賀陽好謙の父、
[輔政(;名)の幼名/通称]幼名;作之丞、通称;右兵衛(養祖父の称)/栢太郎はくたろう
D2302 **輔政**(すけまさ・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、輔熙すけひろ長男)1849-67*夭逝19歳*　母;一条忠良女の崇子、
廷臣;1858従三位/63権大納言/64国事御用掛;禁門変後長州加担の嫌疑;免職、のち赦免、
1866従二位/67山陵使長官、歌:「鷹司輔政詠歌留」/1864-67「鷹司輔政記」外著多数
[輔政(;名)の幼名/法号]幼名;迪君、法号;敬寛信院

介正(すけまさ・宮地)	→	*静軒*(せいけん・宮地みやじ、藩儒者)	Ｂ２４２３
輔尹(すけまさ・藤原)	→	*輔尹*(すけただ・藤原、歌人)	２３２７
輔相(すけまさ・藤原)	→	*輔相*(すけみ・藤原、藤六、歌人)	Ｄ２３０４
甫政(すけまさ・有元/大岡)	→	*春川*(しゅんせん・大岡/藤原/有元、絵師)	Ｐ２１２０
祐雅(すけまさ・飛鳥井)	→	*雅世*(まさよ・飛鳥井、歌人)	４０２３
祐昌(すけまさ・那波)	→	*南陽*(なんよう・那波なば、儒者)	３２４２

D2303 **佐理女**(すけまさのむすめ・藤原ふじわら)?-?　平安中期書家;父門、藤原懐平の室、
1056「皇后宮春秋歌合」右方清書
H2301 **資益**(すけます・白川しらかわ/本姓;源、資益王、雅業長男)1417-84*68*　廷臣;1448神祇伯/従三位、
1468正二位、忠富王の兄/資氏王の父、「資益王記」/1445「西宮社参記」著
I2380 **祐益**(すけます・千鳥ちどり/本姓;中臣、祐宇すけな2男)1712-72*61*　大和添上郡の春日若宮神社神主、
歌;冷泉為村門、従三位、祐雅の父、

[祐益(;名)の通称]修理大夫
H2302 **佐倍**(すけます・小林こばやし、通称;市祐いちすけ)?-1851 越中富山藩士;藩主前田利保の加義役、
歌人:「網廼綱手あみのつなで」共編(前田利保著/浅野光武・山嵜茂樹・伊林禮初ひろもと共編)
H2303 **祐松**(すけまつ・中臣なかとみ/家名;新、祐仲長男)1430-99*70* 室町戦国期神職;1461春日社権預、
1488従四上、「春日若宮神主祐松記」「春日社臨時御神楽記」著
D2304 **輔相**(すけみ・すけまさ・藤原ふじわら、通称;藤六、弘経男)?-? 956前没 平安前期延喜天暦901-50頃廷臣;
六位無官、基経(835-891)・高子(こうし:842-910)の甥、源順(911-983)・藤原有忠と親交、
歌人:物名歌に長ず、家集「藤六集」、「六十六国国名和歌」著、宇治拾遺に逸話、
勅撰38首;拾遺(37首356/357/373/374/375/376/377以下;物名の半数)新拾遺(1049)、
[旅の寝いは屋や無き床とこにも寝られけり草の枕に露は置けども]、
(拾遺;物名356/いはやなぎ[石柳];キツネヤナギのこと)
D2305 **祐躬**(すけみ・鴨かも、祐冬男)?- ? 鎌倉期神職;貴布社祝禰宜/弥祝、
歌人;1325「飛月集」参加、
[いとはやもけさきにけらし初雁のはつかに声の空に聞こゆる](飛月集;詠三首和歌19)
[忘れてもしばしやすらへ春の雁かへるならひの有るよなりとも](同;続歌三十首143)
H2304 **祐躬**(すけみ・岡本おかもと、通称;小兵衛)1755-1816*62* 常陸水戸藩士/1791進仕、
1802「水府武術伝系」著
祐見(すけみ) → *輔相*(すけみ・藤原、歌人) Ｄ２３０４
D2306 **輔道**(すけみち・大中臣おおなかとみ)?- ? 平安前期廷臣;9ct肥後守、
頼基(884?-958)の父、能宣(921-991)の祖父
J2359 **如道**(すけみち・ゆきみち・藤原、皇后宮亮秀定男)?-? 平安前期廷臣;蔵人/左京亮/右少弁/廷尉/正五下、
898(昌泰元)宇多法皇宮滝御幸に右衛門権佐として随従;
源善よしの歌題;[八咫烏かしらに置きてしののかみ句の末に置き旅の歌詠め]に歌献上;
源昇のぼる(848-918)・在原友于(843-910)は歌詠めず白紙を置く逸話(扶桑略記・袋草紙)
D2307 **資通**(すけみち・源みなもと、済政男)1005-60*56歳* 母:源頼光女、平安中後期廷臣;1044参議、
1050大宰大弐/57従二位、1060出家、源家音曲の家;管絃・神楽・催馬楽の源流を継承、
郢曲・琵琶・琴・笛・蹴鞠に長ず;特に琵琶の名手;源経信の琵琶の師、師賢の父、
詩人;中右記部類紙背漢詩集;3首入、歌人;1050-54頃「太宰大弐資通卿家歌合」主催、
伊勢大輔・孝標女・相模・藤原経衡と交流、更級日記に作者と春秋論、
勅撰5首;後拾遺(223/375)詞花(142)千載(486)新勅撰(1375)、後葉・続詞花・万代集入、
続古事談・続教訓抄・文机談に逸話、
[何をかは明くるしるしと思ふべき昼にかはらぬ夏の夜の月](後拾遺;夏223)、
(夜明けとまがう夏夜の月明かり)
I2351 **祐道**(すけみち・後藤ごとう、)1603-1664*62* 出羽久保田(秋田)藩士;能代奉行、国学者、
「後藤祐光日記」著
[祐道(;名)の通称]正五郎/七右衛門
H2305 **祐猷**(すけみち・小林こばやし) ? - ? 江後期美濃郡上藩士:1848大番与力、
兵学:藩士山脇正準門、1848「武器茵図」編
I2381 **祐道**(すけみち・千鳥ちどり/本姓;中臣、祐誠すけのぶ男)1815-68*54* 大和添上郡の春日若宮神社神主、
歌人;冷泉家入門、祐順すけのぶの父
[祐道(;名)の通称] 伊予守
輔通(すけみち・久我) → *惟通*(これみち・久我こが、廷臣/日記) Ｏ１９８６
祐道(すけみち・伊東) → *奚疑*(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学) Ｆ１８４２
祐道(すけみち) → *素兄*(そけい・菜庵、俳人) Ｄ２５６３
資通王(すけみちおう) → *資茂*(すけしげ・すけもち・源、神祇伯/歌人) Ｃ２３２２
H2306 **資光**(すけみつ・藤原ふじわら/日野、有信男)?-1132 廷臣;正五下大学頭/中宮大進/式部少輔、
1119「資光朝臣記」著、詩人:「中右記部類紙背漢詩集」入/続文粋入、歌人;和漢兼作集;歌入
H2307 **資光**(すけみつ・白川しらかわ/本姓;源、業資なりすけ男)?-1268 母;藤原基輔女、廷臣;正四下/侍従、
父没後幼少のため叔父資宗が神祇伯を継承;資宗が我が子資基に譲渡;
資光は資宗親子と伯職をめぐり朝廷に訴訟;息子資邦すけくにの代で決着、

1241「伯家褰帳けんちょう/とばりあげ女王例言上状」著
D2308 **祐光**(すけみつ・鴨かも、河合社禰宜鴨祐棟男)?-? 1325存 鎌倉期神職;禰宜/従四下、
歌人;1325月次歌会「飛月集」出詠、続現葉集入、続現葉集入、勅撰2首;風雅2124/新千2123、
[君がため三くにうつりてきよき川のながれにすめるかものみづがき](風雅:神祇2124)
H2308 **祐光**(すけみつ・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐深長男)1386-1413早世*28* 室町期神職;
1403春日社若宮神主、1407・27「春日社御造替日記」著
H2309 **祐弥**(すけみつ・中臣なかとみ/家名;東地井、初名;祐億、祐雄2男)1435-1508*74* 室町戦国期神職、
1466春日社加任預/1501従四下/02春日社正預/治部少輔、1507「春日社司祐弥記」著
祐光(すけみつ・久須美) → *祐光*(すけてる・久須美) Ｇ２３５４
輔親(すけむつ・大中臣) → *輔親*(すけちか・すけむつ・大中臣み、神職/歌) ２３０８
扶幹(すけむと・藤原) → *扶幹*(すけもと・藤原、廷臣/歌人) Ｄ２３１３
D2309 **輔宗**(すけむね・大中臣おおなかとみ)?- ? 平安後期神職;神祇大副、輔弘(1028-1103)の父
D2310 **資宗**(すけむね・藤原ふじわら;北家実頼流、資房男)?-? 母;源経相女、平安後期廷臣;正四下右馬頭、
摂津守/近衛少将/1087出家、歌人;1051内裏根合に宿侍として参加、玄玉集入集、
勅撰2首;新古今554(;後冷泉院の殿上人達が大井河で紅葉浮水の心を詠む)・続後撰98、
[筏師いかだしよ待て言問はん水上みなかみはいかばかり吹く山の嵐ぞ](新古;冬554)
D2311 **資宗**(資統すけむね・日野ひの/本姓;藤原、広橋胤定男)1815-79*65* 日野資愛すけなる養嗣子/廷臣;
1852参議権/従三位/62正二位/63大納言、1864禁門変に長州に便宜;参朝停止/他行禁止、
1867武家伝奏/68致仕、「日野資宗詠草」/1867「日野資宗公武御用日記」外著多数
D2312 **資宗**(すけむね・太田おおた、重正男/本姓;源)1600-80*81* 母;都筑季綱女、1610父遺領継嗣;5百石、
駿府の徳川家康臣/1612秀忠に近仕;8百石/小姓組頭/書院番頭/1633六人衆の1、
1635下野山川藩主;1万石、従五下摂津守/采女正/備中守、1638三河西尾城主;3万5千石、
幕府奏番奉行、1641-43「寛永諸家系図伝:372巻」編:家光に上程、1671致仕、
1636「武州江戸歌合」補訂、1641-43「寛永諸家系図序・同伝示諭・同清和源氏条例」編、
[資宗(;名)の別名/通称/号/法号]初名;康資、 通称;新六郎/新太郎(;系図纂要入)、
号;道顕(;致仕後)、法号;瑞華院
H2386 **祐膺**(すけむね・伊東いとう/本姓;藤原、通称;兵庫助、祐溥男)?-? 江後期幕臣;寄合、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、鑑之助の父、
[のどけさはいづくも同じ春ながら我が宿のみと思ひけるかな](大江戸倭歌;元日筆試)
[逢はでかく世にすみがまの夕けぶりなびかぬ先に立つ浮名かな](同;恋1526/寄煙恋)
[この秋は衣を縫はん妻もなし虫はつづりをさせと鳴けども]、
(同;雑2012/妻のみまかりける秋にむしの声をききて)
亮致(すけむね・平尾) → *魯仙*(魯僊ろせん・平尾ひらお、絵師/国学)Ｃ５２０５
H2310 **祐邑**(すけむら・鴨かも、祐永男)?- ? 江戸前期神職;1677従五位下、「鴨祐邑誓文」著
J2354 **輔以**(すけもち・大中臣おおなかとみ、)?- ? 平安後期;神職?/歌人;1165清輔[続詞花集]入、
[人を待つあらましごとにめもさめてききあかしつる五月雨の空](続詞花;779/雨中待客)
H2311 **資望**(すけもち・勘解由小路かでのこうじ/本姓;藤原、烏丸光栄男)1735-59早世*25* 勘解由小路音資の養子、
廷臣;1755左中弁/56従四上/1758正親町三条公積らの垂加神道事件に連座;職停止;蟄居、
1749「勘解由小路資望記」、50「百官歴名地下次第」著、法号;実心院
H2391 **資施**(すけもち・日野ひの、畠山義紀2男)1767-1818*52歳* 高家旗本日野資直の養子;資直女の婿、
1792(寛政4)家督継嗣;1530石/1802(享和3)高家就任;従五下/侍従/伊予守、
1807高家辞任、息子;資盈(早世)/孫;資邦(家督嗣)、根岸鎮衛「耳袋」巻九に人魂体験談入、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[浦風の雲吹き払ふ跡とめて海づら清き夏の夜の月](大江戸倭歌;542浦夏月)、
[資施(;名)の通称]多吉郎/玄蕃/侍従/伊予守(予州)
H2312 **祐以**(すけもち/すけゆき・赤松あかまつ、福田美楯みたて2男)1825-1911*87* 京の生、
豊後松平家の京御用達赤松家養子、幼時より歌に親しむ、
国学者;父福田美楯より富士谷御杖の学問を継承、東本願寺和歌師範、
父美楯没後;須賀社中の歌会を運営、京北辺門最後の人、晩年伏見住、
井上千祥の師、「北辺語法脚頭挿咩耶須」校/「北辺語法脚結立居図」校、

[祐以(;名)の通称/号]通称;大学/熊次郎、号;須賀室
祐茂(すけもち・中臣)　→　*祐茂*(すけしげ・中臣)　Ｃ２３２０
祐望(すけもち・森)　→　*省斎*(せいさい・森もり、神職/儒者)　Ｇ２４９０
助茂(すけもち・藤原)　→　*助茂*(すけしげ・藤原ふじわら、廷臣/連歌)　Ｇ２３３１
資茂(すけもち・源)　→　*資茂*(すけしげ・すけもち・源、神祇伯/歌人)　Ｃ２３２２

D2313 **扶幹**(すけもと・すけむと・藤原ふじわら、村椙男)864?-938*75?* 母;榎井嶋長女、平安前期廷臣;左中弁、923参議、933従三位/937大納言・按察使/関白太政大臣藤原忠平の近臣、
歌:後撰集47、
[植ゑし時花見むとしも思はぬに咲き散る見ればよはひ老いにけり](後撰;春47)、
(年老いて梅花植えて翌年の春の詠)、
藤原輔仁(玄上男)と同一説あり→　*輔仁*(すけひと・藤原、後撰607)　Ｃ２３８７
藤原輔臣(玄上男)と同一説あり→　*輔臣*(すけおみ-おむ・藤原、後撰1149)２３０９

D2314 **祐根**(すけもと・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐資長男)1526-88*63*　戦国安桃期神職;1548春日若宮神主、1573従四上、連歌;1564自宅で紹巴らを迎え「何人百韻」興行、1571興福寺喜多院千句参加、「春日若宮旧記」校訂

H2313 **輔幹**(すけもと・岡田おかだ)1775- 1831*57*　越前大野藩士/儒者;松村九山門、
国学;1829田中大秀門、詩歌に長ず、1813「深山木」、「静山文抄」「国文草」「大学纂註」、「近のしるべ」「書経蔡氏集註私解」「岫雲斎詩集」「倭音説」「静山先生律詩集」著、
[輔幹(;名)の別名/通称/号]別名;寛/幹/正弼、通称;八郎左衛門、号;寛翁/静山
法号;静山院

H2314 **資元**(すけもと・石塚いしづか/本姓;大中臣、河端親義男)1778-1850*73* 越前敦賀気比神宮宮司家の生、1791石塚元美の養子;家督継嗣/気比神宮権宮司/従五下/安藝守、1845致仕;風雅を楽しむ、歌;賀茂季鷹門、本居大平・平田篤胤・足代弘訓と交流、敦賀郡社寺秘蔵の古文書を謄写、「歌道の枝折」「紫陽花園随筆」「紫陽花の散残」「国語解」「敦賀志稿」著、
[資元(;通称)の幼名/名/号]幼名;辰蔵、名;厳満、号;紫陽花園

H2315 **資始**(すけもと・太田おおた、近江宮川藩主堀田正穀3男)1799-1867*68* 遠江掛川藩主太田資言の養嗣子、娘婿、1810(文化7)掛川藩主襲封;遺領5万石を継嗣、従五下備中守/1818奏者番、家斉の側近;1822寺社奉行;摂津守、28大坂城代;従四下/侍従/備後守、31京都所司代、1834(天保5)西丸老中、37(天保8)本丸老中;天保改革に反対;老中首座水野忠邦との確執、忠邦を幕閣たら追放せんと策謀;露見し1841老中から罷免;致仕隠居;道醇と号す、1858(安政5)大老井伊直弼により老中に再任;将軍継嗣問題等で直弼と対立;罷免謹慎、1863三度目度老中就任;1ヶ月弱で辞職、「人君たるの器量」と称さる(山田三川「想古録」)、「太田摂津守道醇上書」著、太田道灌350回忌追悼歌を募集、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[桜花なに花やかに匂ふらん春ともしらでありぬべき世に]、
(大江戸倭歌;雑2004/天保12[1841]春将軍家斉没後)
[資始(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;丈三郎、初名;正寛、通称;友三郎/多門、号;道醇

H2326 **資始**(すけもと・日野ひの/本姓;藤原)1821-70*50*　陸前仙台藩士;定供右筆/郡方横目奉行、頭立物書小納戸など歴任、歌人:保田光則門/狂歌;千柳亭綾彦[唐麿]門、1866藩命により藩内古来の諸家の詠歌収集;「宮城百人一首」編、「仙台年中行事狂歌」著
[資始(;名)の通称/号]通称;小五郎/大五郎、号;千里台天有

I2327 **資始**(すけもと・川田かわだ、資嘉男)1822-74*53*　備中浅口郡阿賀崎生、浅尾藩士/国学者、剛たけし(甕江おうこう)の兄、
[資始(;名)の別名/字/通称]別名;資之すけゆき/資文すけぶみ、字;子元、通称;佐平

L2333 **祐思**(すけもと・伊東いとう/真鍋)1825-96*72*　筑前福岡藩士/儒者/歌;大隈言道門、藩校修猷館教官、嘉摩郡大隅学校文学引立受持
[祐思(;名)の通称/号]通称;謙吉、号;信天翁

資基(すけもと・藤原)　→　*忠隆*(ただたか・藤原、歌人)　Ｆ２６２０
資基(すけもと・藤原)　→　*蓮禅*(れんぜん・釈/筑前入道、詩歌人)　Ｂ５１２５
資幹(すけもと・外山)　→　*光実*(みつざね・外山とやま/藤原/烏丸、廷臣/歌)Ｄ４１５０

資原(すけもと・股野)　　→　*順軒*(じゅんけん・股野またの、藩士/儒者)　Ｊ２１４８
輔元(すけもと・橘)　　→　*良恵*(りょうえ;法諱・厳賢、融通念仏僧)Ｇ４９４２
D2315 **資盛**(すけもり・平たいら、重盛2男)1161-1185入水*25*　母;少輔掌侍(二条院内侍)、武将/廷臣、
1166越前守/81右近衛権中将/83蔵人頭/従三位、1183一門と都落/85壇ノ浦で敗戦;入水、
基家の女婿/維盛の異母弟、風雅を嗜む;建礼門院右京大夫と恋愛、歌人:資盛家歌合主催、
月詣集入、勅撰5首;新勅(167)玉葉(1566/1758/2344)風雅(1081)、
[五月雨の日をふるままにひまぞなきあしのしのやののきの玉水](新勅撰;夏167)
[資盛(;名)の通称]新三位中将/持明院三位中将
D2316 **祐守**(すけもり・鴨かも、祐夏男)?-　?　鎌倉期神職;従五下/歌人、
1325月次歌会「飛月集」出詠、新千載1801、
[山めぐる時雨よやよや言問はんうき身世にふる道はいかにと](新千;雑1801)
[よさむなるとこよ離れて旅衣誰にかりがね空にきぬらん](飛月集;詠三首;26)
祐盛(すけもり・源)　　→　*祐盛*(ゆうじょう・ゆうせい・叡山阿闍梨、歌人)Ｃ４６４４
祐盛(すけもり・中臣)　　→　*祐明*(すけあきら・中臣なかとみ/千鳥、神職)　Ｂ２３７７
D2317 **資保**(すけやす・賀茂かも/大池、保久男)?-?　平安期神職;神主/歌人、1182重保「月詣つきもうで和歌集」入、
[待ちしより心づくしのほととぎすしばしとどめよもじの関守](月詣;羈旅244)、
重久の兄、資久・能久・資親・久時・季久の父
D2318 **資康**(すけやす・裏松うらまつ・日野ひの/本姓;藤原、裏松[日野]時光男)1348-90*43*　南北期廷臣;蔵人頭、
左大弁/正四上/1378参議;従三位権中納言/80按察使兼任/81正三位/従二位/82院執権、
1383左衛門督兼任/検非違使別当/84正二位/86権大納言/90従一位、詩歌人、
歌人;宮中歌会/仙洞歌会の屢々出詠、永和百首・1381室町亭行幸和歌集参加、
勅撰;新後拾(5首256/529/980/1218/1236)、
[結ぶ手のあかぬしずくも影見えていしゐの水に飛ぶ螢かな](新後拾;三夏256)
[資康(:名)の号]烏丸一位/眞浄院
H2317 **資祐**(すけやす・長沢ながさわ、初名;資顕、資親男)1715-76*62*　幕臣;1729表高家/47従五下侍従/土佐守、
1748高家/1750父の遺跡継嗣/67高家肝煎、幕命で使者として禁裏・日光に赴く、従四上、
「烏丸雑文書」著、資倍の養父、
[資祐(;名)の通称/法名]通称;滋丸/要人、法名;日桂
H2389 **資寧**(すけやす・太田おおた、資倍男)?-1858　旗本;遠江掛川藩主家の分家、1805家督嗣;5千石、
1807中奥小姓/12(文化9)従五下・内蔵頭/隠岐守、22(文政5)小普請支配/28日光奉行、
1836(天保7)小姓番頭/37御留守番頭;将軍家定の側近/1854(嘉永7)菊之間縁頬詰/55隠居、
妻;松平乗友女、息女;お加久(妙華院1803-26/将軍家慶の側室)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[此の頃は鳥の音またでほのぼのと花に明行く逢坂あふさかの山](大江戸倭歌;284関路花)、
[資寧(;名)の別名/通称/法名]初名;資寛すけひろ、通称;彦十郎/内蔵頭/隠岐守、
号;道蘊どううん
J2301 **資養**(すけやす・伴ばん、通称;勇吉/知一郎)1818-89*72*　近江蒲生郡の商家/国学者、
歌;[鳰のうみ]入
D2319 **祐梁**(すけやな・伊東/本姓;藤原ふじわら、祐待ち男)?-1572　戦国期武将;相模守/1559肥前飫肥城攻略、
1517宗碩に注釈書「源氏男女なんにょ装束抄」を依頼
L2340 **資梁**(すけやな・石塚いしづか、資元2男)1818-83*66*　越前敦賀の神職;気比宮神社副祝、
神道・国学;父資元門、歌人;香川景樹門、和漢の学に通ず、気比神社社格昇進の建白、
[資梁(;名)の初名/通称]初名;資忠、通称;忠千代丸/主税/宗爾
H2318 **祐用**(すけゆ・中臣なかとみ/家名;辰市、祐言2男)1655-1720*66*　江前中期神職;1679春日社権預,
1686淡路守、1690神人諍論のため解官/1715還補/19従三位、
1700「古事記聞書」1706-09「中臣祐用記」、「春日祭上卿御参向之記」著
D2320 **相如**(すけゆき/しょうじょ・高岳たかおか/修姓;高)?-?　963　廷臣;大学寮紀伝道修学/文章得業生;詩人、
963三善道統宅の善秀才宅詩合出詠/969藤原在衡催の粟田山荘尚詩会に垣下で出詠、
984大外記、992飛弾守;藤原伊周に餞送の宴、勧学会の結衆、公任撰「和漢朗詠集」5首入、
類聚句題抄・和漢兼作集入集、本朝文粋入、歌;「藤原相如集」、拾遺集400、

[相如(;名)の字]字;高俊、頼言よりのぶの父、藤原公任の師
[樵蘇往反す 杖朱買臣の衣を穿つ　隠逸優遊す履くつ葛稚仙の薬を踏む](和漢朗詠;311)
(朱買臣[?-BC109]の衣は錦繡/葛稚仙[川]の薬は金丹を練った仙薬)
[いさりせし海人の教へしいづくぞやしまめぐるとてありといひしは](拾遺;物名400、
そやしまめ;もやしのことか/島巡りすると言ってそこに居たと漁師が言ったのは、
都の人が配流の人を訪ねるという設定?)

2310 **相如**(すけゆき・藤原ふじわら、助信[相信]男)?-995　母;藤原俊連女、敦忠の孫/時平の曾孫、
平安前中期廷臣;正五下出雲守、藤原道兼の家司、歌人:公任の師;江談抄、家集「相如集」、
清原元輔・大中臣能宣と交流、後十五番歌合・玄々集・麗花集入集、栄花物語に逸話、
勅撰7首;詞花(233/394)新勅撰(1164)続後拾(513/544)風雅(1380)新千載(1227)、
[君を我が思ふ心は大原やいつしかとのみすみやかれつゝ](詞花;恋233)、
(人静まりて来てと言う女の許に待ちかねすぐに行くと逢ってくれないので詠む)、
(大原は炭焼きの地;多しを掛る/すみやかは早急にと炭焼を掛る;大原の縁語)
娘も歌人　→　*相如女*(すけゆきのむすめ・藤原、後拾遺歌人)Ｈ２３２６

H2319 **資行**(すけゆき・柳原やなぎわら、茂光男/本姓藤原)1620-79*60*　廷臣;1647参議/57権大納言/61正二位、
贈従一位、法号;享徳院、1664「資行詩歌文集」、「柳原資行詩文集」「引睡堂文集」、
「文章要法」「文法要義」「詩文作方之覚」「詩源」「賀茂下上社日次記」、「賀茂下上随見記」編

H2320 **祐之**(すけゆき・中臣なかとみ/家名;千鳥、祐忠長男)1650-78早世*29*　江前期神職;1667春日社若宮神主、
「春日祭旧例」「春日祭辨参向旧例」著

D2321 **祐之**(すけゆき・鴨かも/梨本、祐永男)1660-1724*65*　江前中期神職;下賀茂社神主/禰宜/1716従三位、
1723正三位、神道;山崎闇斎門/垂加神道修学/葵祭の再興に尽力/国学;国史編修、歌人、
1692「日本逸史」(:日本後紀復元)/1703「祐之地震道記」20「於喜奈艸」23「大八洲記」著、
「祐之卿歌集」「桂斎集」「神代余波」「神代余談」「賀茂御祖皇太神宮祭事記」外著多数、
[祐之(;名)の通称/号]通称;上総介/三位、号;桂斎、諡号;善受院

H2321 **祐行**(すけゆき・伊藤いとう、通称;兵左衛門)?-?　江前中期元禄宝永1688-1711頃尾張の和算家、
和算;島田尚政or宮城清行門、1704「算法指南」「算法図説」著

I2328 **祐之**(すけゆき・河津かわづ、旧姓;船橋)1711-42*32*　江戸の医者河津祐篤(渥美戸田家の侍医)の養子、
医者;大垣新田しんでん藩主渥美侯戸田家奥医師/歌人;冷泉為久門、弟;河津長夫ながお(祐章)、
女婿は宇万伎(妻没後に幕臣加藤家の養子)、明治の官僚河津祐之(1849-94)とは別人、
[祐之(;名)の字/通称/号]字;吉甫、通称;舎人、号;啜松斎せっしょうさい/湯谷子とうこくし

I2365 **祐之**(すけゆき・杉本すぎもと、字;子順、)1723-82*60*　京の和学者

H2322 **祐之**(すけゆき・戸田とだ、通称;要人、高猶長男)1724-79*56*　幕臣:1744家督嗣;御書院番に列す、
1747致仕、
本草家;1779「庶物類纂図翼」(本草綱目所載の品目の解説書)を著作;幕府に献上

L2334 **祐之**(すけゆき・伊東いとう/旧姓;牛島)1732-96*65*　伊予松山藩士伊東祐平の養子/家督嗣、
松山藩士;大小姓、歌人、祐根すけねの養父、
[祐之(;名)の通称]　通称;彦兵衛/栄之丞/寅之丞/庄右衛門

D2353 **輔之**(すけゆき・船山ふなやま/本姓;藤原)1738-1804*67*　仙台藩士/和算・天文;戸板保佑門/山路主住門、
1780天文方;江戸詰、1795「絵本工夫之錦」1801「絵本工夫之錦評」著、
[輔之の通称/号]通称;喜左衛門/喜一、号;国賢、法号;国賢院

H2323 **祐之**(すけゆき・佐藤さとう)1796-　1866*71*　陸前栗原郡の和算家１河東田直正門、
経学/兵書/天文/数学を研究、陸中一関藩主田村家に出仕、讒言により牡鹿郡江の島配流、
赦免後栗原に帰郷;子弟教育、1816「容術集成」24「昊天図説詳解」32「天象一覧図」、
「天文雑記」「天文精義」「天学鄙言」「昊天地動合観」著、
[祐之(;名)の字/通称/号]字;子順、通称;大作、号;金華

I2368 **輔之**(すけゆき・丹羽にわ、字;子振、通称;啓二/嘉七、盤桓ばんかん[勗つとむ]男)1799-1872*74*　尾張藩士、
国学者;父門/明倫堂教授

I2354 **祐之**(すけゆき・佐伯さえき)1803-　1878*76*　周防佐波郡の国学者;本居大平門、
[祐之(;名)の通称]　政之進/守雄

I2398 **祐之**(すけゆき・原はら、)　1811　-　1852*42*　周防岩国の国学者/歌人、

[祐之(;名)の字/通称]字;吉甫よしすけ、通称;次郎左衛門
H2324 祐之(すけゆき・河合かわい)1813- 1861*49* 河合半兵衛祐明の養嗣;1834遺跡嗣;金沢藩士、
3百石/御馬廻/郡奉行/改作奉行、1848馬廻番頭/改作奉行再任;免職/1年後復職;
1856先手物頭/57勝手方/持筒頭、1846-47頃「河合録」、「河合覚書」「諸郡村名帳」著、
[祐之(;名)の通称] 余所吉よそえきち/内匠たくみ/清左衛門/十郎左衛門
D2322 祐之(すけゆき・久松ひさまつ) ? - 1848or56 幕臣;大御番、江戸築地小田原町住、
国学・歌人:小林歌城門、「いさゝむら竹」「近世事物考」「詞佐喜久佐」「清友雑録」著、
1847「大隅地理拾遺集」著/51刊「江戸年中行事」編、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)・井上文雄「摘英集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[つばなぬく妹がたもとの梅がさね月に匂ひて野は暮れにけり]、
(大江戸倭歌;春177/野春月)、
[風渡る空に夕日の影見えて松原づたひゆく時雨かな](現存百人一首;95)、
[祐之(;名)の通称/号]通称;五十之助いそのすけ/磯之助、号;翠翁すいおう/幽篁庵
B2301 資之(すけゆき・樺山かばやま) ? - ? 江後期;薩摩鹿児島の生/薩摩藩士;1852江戸詰、
水戸藩藤田東湖・戸田蓬軒と交流、幕府警戒のもと長州藩桂小五郎・久坂玄瑞と連携、
水長薩土四藩提携の礎を築く、「樺山資之家紀並日誌」著、変名;三円さんえん瀬吉郎
D2323 資之(すけゆき・松波まつなみ、岡田集介2男)1830-1906*77* 安藝広島の人/官人;京の徳大寺家に出仕、
廷臣松波光万の養子;家督嗣、1855従六下/遠江守、歌人;幼少時に香川景樹門、景樹の猶子、
景樹の嗣子景恒没後に東塢塾を継承;主宰、維新後;皇太后宮舎人/御歌所に出仕、
致仕後;横浜妙香寺住/諸所漫遊、吉田利和と交流、家集「花仙堂歌集」「花仙堂歌集拾遺」、
「点取百首」「百首分題詠」著、松浦辰男・山内芳秋の師、
[資之(;名)の通称/号]通称;大学大允だいがくのだいじょう/直三郎、号;**遊山**/随処/花仙堂、
H2325 助之(すけゆき・鋤柄すきがら、通称;猪之助)?-? 江後期江戸の歌人、
家集「鋤柄助之集」、「ちまたのたづき」著/1860(安政7)刊「現存百人一首」編、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[旅人の袖にさはわらでなりにけり霜踏む野辺の薄高がや](大江戸倭歌;冬1135野寒草)
[軒に吹く松の嵐をかたしきて夢むすぶまで住みなれにけり](同;雑1738/山家夢)
L2337 祐之(すけゆき・伊藤いとう/旧姓;広沢)1835-67獄死*33* 丹波氷上郡の剣道家/歌人、
上京;大野応之助門/江戸で千葉周作・桃井春蔵門、水戸弘道館の剣術師範役、
平野国臣と但馬生野に義兵を挙げ出石藩に捕縛;1867(慶応3)京六角の獄中に没
[祐之(;名)の幼名/通称]幼名;卯之助、通称;竜太郎
I2357 祐行(すけゆき・笹木ささき、祐雄すけお長男)1842-1912*71* 陸奥津軽郡金木村に神職の家、
国学者;平田鉄胤・長利仲聴門、
[祐行(;名)の初名/通称/号]初名;千影、通称;健作、号;山根垢人

介行(すけゆき・宮地)	→	*静軒*(せいけん・宮地みやじ、藩儒者)	B2423
祐之(すけゆき・村上)	→	*影面*(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者)	B1597
祐之(すけゆき・吉川)	→	*五明*(ごめい・吉川/那波、商家/俳人)	D1993
祐之(すけゆき)以外は	→	*祐之*(ひろゆき)	
祐以(すけゆき・赤松)	→	*祐以*(すけもち/すけゆき・赤松あかまつ、国学/歌)	H2312
祐肖(すけゆき・西川)	→	*祐肖*(すけのり/すけゆき・西川にしかわ、絵師)	B2302
相如(すけゆき・山崎)	→	*北華*(ほっか・山崎/平、医/俳人/戯作)	E3948
資之(すけゆき・川田)	→	*資始*(すけもと・川田かわだ、藩士/国学者)	I2327

H2326 相如女(すけゆきのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安中期歌人、栄花物語[見果てぬ夢]に父を悼む記事、
①藤原頼政の室(隆資の母)or②源兼澄の室(命婦乳母)、後拾遺565(相如集入)、
[夢見ずと歎きし人を程もなくまた我が夢に見ぬぞ悲しき](後拾;哀傷565)、
(左注;道兼の没後に父相如が宿直の時;
[夢ならで又も逢ふべき君ならば寝られぬいをも歎かざらまし]と詠み程なく没す)
2313 佐世(すけよ・すけつぎ・藤原ふじわら、菅雄男)847-897(or898)*51or52* 廷臣/漢学者;菅原是善門、文章得業、
971渤海国使接待を務む/873対策及第/877従五下/879陽成天皇の都講/大学頭/式部少輔、
藤原基経の家司/宇多天皇即位直後基経の関白辞退の表に対する勅答を草す;

中に[阿衡]の語があり阿衡の紛議が起る/891基経没後に陸奥守に左遷、従四下右大弁、
帰京途次没、妻;菅原道真女、詩人、「日本見聞録」「現在書目医家」「日本国見在書目録」著
D2324 **祐世**(すけよ・鴨かも、祐幸男)?-　?　鎌倉期神職;従四下(or従五下)神官、
歌人;新後撰764、
[色かへぬみむろのさか木年をへて同じときはに世を祈るかな](新後撰;神祇764)
D2325 **祐世**(すけよ・中臣なかとみ/家名;今西、中臣[千鳥]祐賢2男)1253-1339 鎌倉期神職、祐春の弟、
今西家の祖、1294春日社権預/1337春日社正預/従五下、歌人、
勅撰4首;新後撰(1439)玉葉(2135)続千載(1237)新千載(986)、
[世をうしとなに歎きけんそむかれぬ心ぞ身をば思はざりける](新後撰;雑1439)
I2333 **祐世**(すけよ・神田かんだ/本姓;源、)1688-1748*61*　河内茨木郡の生/廷臣(官吏);大舎人;京住、
歌人;烏丸光栄門/宮川松堅門、地誌;関祖衡・並河誠所編[日本輿地通誌]河内志の校閲、
1722松堅[和謌五十人一首]入(妻の曾野そのと共に)・内海顕糺[同追加](7首)入、
[花ならば手毎に折りて家づとに須摩の浦半うらわの秋の夜の月]、
(和謌五十人一首;21/名所月)、
[風吹けば行方もしらず散る花にあかぬ心をたぐへてぞやる](同追加/惜花)、
[祐世(;名)の通称/号]通称;完斎、号;如水
D2364 **祐代**(すけよ・西川にしかわ;号)?-　?　江中期絵師:西川祐信門/祐信女説あり、
絵本型の軽口本を創案・京の菊屋喜兵衛版で連作、1760「絵本軽口恵方謎」画、
1760「絵本軽口笑顔草」61「絵本長柄川」「絵本初音森」/62「絵本御代春」87「絵本千代鏡」画、
「絵本御伽種」「新軽口初商」「新軽口恵方宝」画、
[西川祐代(;号)の別号]　武村祐代/花月亭
D2365 **輔世**(すけよ・小槻おづき/壬生、小槻正路男)1811-79*69* 小槻以寧しげやすの養子/廷臣;
1844左大史・主殿頭/掃部頭/1855正四下、「官務輔世記」「輔世宿禰記」著、
1833-43「儀式日記」40「天保御凶事記」42「賀茂臨時祭記」66「孝明天皇御凶事記」外記録多
L2312 **助予**(すけよ・すけまさ?/すけやす?・曾我そが)?-?　江後期;幕臣;百人組頭、若狭守、
1857(安政4)小性組番頭に昇進、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[水清き流れに映る山吹の色なる蝶てふもあまた飛びかふ](大江戸倭歌;雑1791)
輔世(すけよ・福島)　→　*輔民*(すけたみ・福島ふくしま、医者/歌人)　Ｈ２３８５
輔世(すけよ・平瀬)　→　*徹斎*(てっさい・平瀬、18ct書肆)　Ｃ３０３０
D2366 **資能**(すけよし・武者小路むしゃのこうじ/本姓;藤原、権中納言教光男)?-?　南北期廷臣;右兵衛佐、
従五上、1379日野宮内権大輔(;右大将家拝賀随員の1)、連歌;1356成立「菟玖波集」1句入、
[浦遠き山には月のまつ出て](菟玖波;五秋403/前句;松あるかたは秋風ぞ吹く)
D2367 **祐称**(すけよし・中臣なかとみ/家名;新、祐嗣長男)?-1546　戦国期神職;1508春日社権預/44正四上、
1493(明応2)「臨時御神楽記」著
D2368 **祐恩**(すけよし/ゆうおん・中臣なかとみ/家名;辰巳、祐遠2男)1488-1561*74* 戦国期神職;1499春日社権預、
1548春日社正預/53従三位/55正三位、1517-61(永正14-永禄4)「春日社司祐恩記」著、
祐磯の父
D2369 **助良**(すけよし・江戸えど/本姓;平、通称;伊勢守)?-? 室町期武家;堀越公方(足利政知)に出仕?、
連歌作者;新撰菟玖波集1句入
2314 **資慶**(すけよし・烏丸からすまる/本姓;藤原、光賢男)1622-69*48* 母;細川忠興女、江前期廷臣;1647参議、
正四上/1658権大納言/61正二位、62辞任、歌学;祖父烏丸光広門;1638(17歳)祖父・父が没、
後水尾院歌壇で詠歌研鑽、1638後鳥羽院四百年忌御会/59後水尾院点取和歌御会参加、
臨済禅に帰依;1661洛西太秦に法雲院建立/64後水尾院より古今伝授を受、
1665(寛文5)法雲院関係の2人の僧を伴い亡母遺髪奉納のため高野山参詣;「三行記」著、
後西歌壇で活躍、家集「秀葉和歌集」(曾孫光栄編)、「一人三臣和歌」「高野山路之記」著、
「続耳底記」「烏丸資慶詠草」「烏丸三世錦」「烏丸資慶卿口伝」「烏丸光広卿行状」著、
「樗僊漫抄」著/「烏丸光広家集」編/「烏丸資慶卿教訓」「和歌口伝集」「和歌詠方」外編著多数、
[たえせずよまれの契はあだなりと名にこそたてれ天の川浪]、
(後鳥羽院忌;53/七夕、年に一度のはかない契りといえど永遠に続く固い契りだ、

☆あだなりと名にこそたてれ桜花年にまれなる人も待ちけり;古今:春/読人不知)、
[たらちめの昔をしれば子を思ふ野辺のきゞすのなくねかなしき]、
(三行記;冒頭歌/]在りし日の母の慈愛の想い出)、
[資慶(;名)の別名/法号]別名;縁光、法号;天通院仙岩素芳大居士

I2322 **資良**(すけよし・太田おおた、浜松藩初代藩主太田資宗3男)1653-1727*75* 2代藩主太田資次の弟、
江戸の幕臣(旗本);兄より俵米3千石・新田2千石を分知、1672寄合、従五下、隠岐守、
1678所領が遠江豊田・長上・周智郡5千石に替智、1683(天和3)定火消/90小姓番頭、
1693(元禄6)御書院番頭/97御側/99(元禄12)所領信濃伊那郡5千石に替地;松島知行所、
1715(正徳5)大番頭、1722辞職/26致仕、27江戸に没、
歌人、正室;三宅康勝女/太田資興・資生・資賢の父、
[資良(;名)の通称]通称;式部/隠岐守、法名;日性

D2370 **祐良**(すけよし・小林こばやし、長右衛門祐賢男)1661-1732*72* 祖父祐継以後神谷改め小林を称す、
幕臣;代々台所方・膳部を掌る、1694遺跡継嗣/1707台所頭、
1714火元取締り不行届により譴責、1725鶴の庖丁式・29白鳥調理の式を務める、31致仕、
「鯉の切方書」著、
[祐良(;名)の通称/号]通称;貞右衛門(;孫祐雄・曾孫祐遂も継承)、致仕後号;寛休、
法号;日法

J2323 **助芳**(すけよし・本多ほんだ、遠州城東郡4560石の旗本本多助久2男)1663-1725*63* 江戸生/1669父没;
兄利重(4500石)より3百石分与、1688(元禄元)叔父出羽村山藩主本多利長の養子;
1692(元禄5)叔父没;93家督嗣;出羽村山藩2代藩主;利久と改名、99越後糸魚川藩に移封、
1702(元禄14)従五下若狭守/1717(享保2)1万石加増;信濃飯山藩に移封;助芳と改名、
千曲川の水害などで財政窮乏;1724政治工作;3万5千石、1725(享保10)没;3男康明が嗣、
正室;伊与(桂光院)/継室;小笠原長重養女、康明・助有・彦次郎・豊次郎などの父、和学、
[助芳(;名)の別名/通称]別名;利久、通称;卯之助/新左衛門/靱負/若狭守

I2394 **祐良**(すけよし・長野ながの/本姓;藤原、旧姓;蒔田)1692-1768*77* 京の廷臣;図書寮官人、
歌人;冷泉家入門、
[祐良(;名)の通称/号]通称;玄蕃/図書大允/対馬守、号;道林

H2381 **資善**(すけよし・上野うえの/本姓;伴、通称;四郎三郎、資郷すけさと[1713-92]男)1744-? 江戸幕臣;
小十人組頭/大番/御納戸御番、歌人、1798刊石野広通「霞関集」入、
[生ひたちて咲きそひけらし故郷のおもかげしたふやどのなでしこ]、
(霞関;夏296/京二条城赴任中に瞿麦の花と幼な子の様子などの故郷からの便への返歌)
[さぬる夜の夢の浮橋渡す間まや闇のうつゝのと絶え成るらん](同初撰本;夢/大伴名)

D2371 **祐良**(すけよし・後藤ごとう、通称;正五郎)?-? 江中期宝暦明和1751-72頃羽後秋田の文筆家、
1752-64「後藤祐良日記抄」著

D2372 **資愛**(すけよし・太田おおた/本姓;源、遠州掛川藩主太田資俊2男)1745-1805*61* 1758兄早世により嗣、
1763襲封;5万余石、備後守/備中守、1781若年寄/89京都所司代;従四下侍従;禁裏と関係、
1793老中;1801病で辞職、1770「八朔御礼並御祝儀献上有之節当番之留上帳一件」著、
[資愛(;名)の通称/法号]通称;多門、法号;大隆院

D2373 **祐祥**(すけよし・伊藤いとう、祐処男)1774-1829*56* 母;平井松斎2女、出羽秋田藩士;
佐竹義敦・義和に出仕、国学准監事/評定奉行/郡奉行/公子侍読を歴任、
家塾敬勝館を開設;子弟教育、「万年先生案文」著
[祐祥(;名)の通称/号]通称;兵衛/直記、号;万年

D2326 **祐義**(すけよし・長治ながはる)1770-1843*74* 江後期播磨赤穂郡の庄屋/国学・荒木田久老門、
歌人;賀茂季鷹門、1831季鷹「雲錦翁家集」序:刊行、永富定群さだむらの師、
[祐義(;名)の通称/号]通称;理兵衛/玄蔵、号;楓樹園/有明山人/無為室

D2374 **祐吉**(すけよし・師田もろた) ? - ? 江後期加賀の寺子屋の師匠?/文筆家、
1833「小丸山神明宮記」著、「椿原天満宮記」編、
[祐吉(;通称)の号] 助斎/白華樵人

D2375 **相嘉**(すけよし・茜部あかなべ/本姓;藤原、伊藤、藤井六郎治豊泰長男)1795-1866*72* 母;中島快阿弥女、
美濃厚見郡茜部村の出身、藩士伊藤庄平祐寿の養子、尾張藩士;1822小普請組/24小姓格、

1851茜部に改姓、53清洲代官に抜擢、国学者;鈴木朖あきら門、本居宣長に私淑、
植松茂岳/阿部伯孝と交流、勤王思想;金鉄党の首唱、1863隠居;家督を息小五郎に譲渡、
1841「槿桔論」59「古事記伝追継考附録」著、「防禦一巻」「古事記補遺」「日本紀補遺」、
「雅言集」「七道説」「蕣園雑記」「和名抄国郡類字集」「類聚地名抄」「和語類聚抄」著、
「延喜式物名類聚」(山科元幹と共著)、「五畿七道説」「古今人名訓」「国史神階抄」外著多数、
[相嘉(;名)の幼名/通称/号]幼名;鎌太郎、通称;平太/平十郎/三十郎/伊藤五、致仕後;介、
号;蕣園しゅんえん

H2392 佑良(すけよし・太田おおた) ? - 1861 江後期;武蔵荏原郡深沢村の農業、国学・歌;本間游清門、
1850(嘉永3)9月10-12日瀬田村名主長崎長十郎重行の別邸占勝亭に江戸文人らを招待;
江田忠房の紀行日記「瀬田之記」に入;のち佑良も「江西三十八勝詩歌」編(岡嶋林斎画)、
歌[瀬田黄稲](瀬田之記;玉川八景入)、
[玉くしげ二子のわたり明けぬやと見しや鵜舟の篝かがりなりけり](二子渡舟;瀬田之記)、
[佑良(;名)の字/通称]字;子徳、通称;三左衛門/左一良さいちろう

I2303 祐義(すけよし・牧野まきの、錠之助)?-? 江後期;歌人、藩士or幕臣?
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[人ならば共に渡らん枕がの古河こがのわたりに鳴くほととぎす](大江戸倭歌;夏478)
(古河の渡;万葉十四3555まくらがの許我こがの渡りのから梶の音高しもな寝なへ児故に、
下総[現茨城県]猿島郡渡瀬川と思川の合流点西側の渡/奥州街道の宿駅)

D2376 祐休(すけよし・伊東いとう) ? - ? 江戸後期陸前仙台藩士;歌人、
1861藩主伊達慶邦の命で「仙台百人一首」編

資義(すけよし・柳原) → *資尭*(すけたか・柳原やなぎわら、廷臣/歌人) C２３３０
資芳(すけよし・伴ばん) → *蒿蹊*(こうけい・伴、国学/歌人) １９０８
助嘉(すけよし・熊坂) → *蘭斎*(らんさい・熊坂くまさか、医者/蘭学/画) C４８２１
祐義(すけよし・伊藤) → *鹿里*(ろくり・伊藤いとう、儒者/巷説) B５２１７
祐善(すけよし・佐伯) → *稜威雄*(いずお・佐伯さえき、神職/尊攘) K１１２６
勘美(すけよし・松平) → *八十郎*(やそろう・松平まつだいら/源、幕臣/歌) E４５９５

D2327 資頼(すけより・葉室はむろ/本姓;藤原/家名;押小路・二条、葉室宗方男)1194-1255*62* 母;藤原光長女、
祖父葉室宗頼の養子、廷臣;1232参議・従三位/35権中納言/38正二位/39按察使、
1240大宰権帥/44中納言、「後中記」(1230-42)著

D2328 資生(すけより/すけなり・勘解由小路かでのこうじ/本姓;藤原、裏松恭光男)1827-93*67* 母;藤波寛忠女、
母方従兄勘解由小路光宙みつおきの養嗣子/廷臣;1851中務少輔/68従四下左中弁/宮内省出仕、
歌、1852-65「資生歌集」、63「剪紙留」編/65「山門勧学会参向雑記」66「官物帳拝領物献物」編

相職女(すけよりのむすめ・源)→ *御形宣旨*(みあれのせんじ、歌人) ４１５０
助六(すけろく・水谷) → *豊文*(とよぶみ・水谷みずたに、本草学) R３１５７
助六(すけろく・山根) → *道恭*(みちたか・山根やまね、庄屋/国学/歌) K４１９０
佐六(すけろく・長瀬/福住)→ *清風*(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J２４５３
介六(すけろく・太田) → *道雄*(みちお・太田/大田おおた、歌人) B４１２５
助六郎(すけろくろう・奥村)→ *忠順*(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人) W２６３５

2398 崇賢門院(すけんもんいん/すうー、名;仲子なかこ、法印通清女)1339-1427*89* 南北室町期女官;典侍、
儀同三司勘解由小路広橋兼綱の猶子、後光厳天皇の典侍/妃;後円融天皇の母、
従三位准三宮、1383院号宣下、
歌人:「崇賢門院御百首」著、1375永徳百首出詠/1407(応永14)内裏九十番歌合参加、
勅撰8首;新後拾遺(121/322/911/1141/1170)新続古今(1207/1355/1999)、
[大井河桜をつれて越す波にせくとも見えぬ水のしがらみ](;新後拾;春121)、
[崇賢門院(;女院号)の通称] 梅町殿

崇光院(すこういん) → *崇光天皇*(すこうてんのう、歌人) D２３２９
崇光院従三位(すこういんのじゅさんみ)→*資子*(すけこ・庭田/源、女房/歌人) C２３１２

J2350 崇光院三条(すこういんのさんじょう)?- ? 南北期;崇光院の女房/歌人、1400菊葉集2首入、
[思ひあまる心の色のみゆるならば袖は千しほに染めぞまさらん](菊葉;恋1079)

D2330 崇光院二条(すこういんのにじょう)?- ? 南北期;7崇光院の女房/歌人、

1370-76百番歌合/仙洞歌合参加/1400菊葉集:30余首入(今出川二条名26首)、
[暮れていにし秋はかれふの草にみえて冬の来にける道しばの霜]、
(百番歌合;路霜五十九番右8/左は崇光院従三位)

D2331 崇光院冷泉(すこういんのれいぜい)?- ? 南北期崇光院の女房/歌人、1400菊葉集;4首入、
[庭遠き松よりあまる秋風をことしもうくる軒の下荻](菊葉;秋479/六十番歌合)

D2329 崇光天皇(すこうてんのう、名;益仁/興仁、光厳天皇第1皇子)1334-98*65* 母;三条公秀女陽明門院秀子、
養母;花園天皇皇女徽安門院寿子、1348践祚/北朝第3代天皇:1351観応の擾乱で廃位、
太上天皇の尊号を受/大和賀名生に移されるがのち伏見殿に隠棲/1492出家、
歌人;1370-71(応安3-4)頃「仙洞歌合」主催/「百番歌合」参加、菊葉集入(崇光院御製名)、
1378(永和4)「不知記」、「崇光院御百首」「崇光院御文類」「崇光院宸記」著、
「代々琵琶秘曲御伝受事」著、
家の女房;崇光院三位資子/崇光院二条/崇光院冷泉/崇光院三条など、
勅撰18首;新千載(193/310/955/1400/2110)新拾(9首91/155/195以下)新続古(4首)、
[時過ぎて青葉にまじる遅桜春は梢にとまるなりけり](新千;夏193/院御製名)、
[崇光天皇の通称/追号/法名]通称;伏見殿、追号;崇光院、法名;勝円心
周滑平(すこつへい) →*亀文*(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作)Ｇ１６２１
2315 朱雀天皇(すざくてんのう、名;寛明ゆたあきら、醍醐天皇第11皇子)923-952*30* 930(8歳歳)即位61代天皇、
母;中宮穏子(藤原基経女)、在位(930-946)中に平将門・藤原純友乱あり、
女御;熙子女王(きしにょおう、保明親王女)、子は昌子内親王(冷泉天皇皇后)のみ、
歌:家集「朱雀院御集」、勅撰9首;後撰(6)拾遺(1323)新古(1248/1583)玉(2347)以下
[松に来る人しなければ春の野の若菜も何もかひなかりけり](後撰;春6)、
(左大臣藤原実頼が正月子の日に支障あり欠席し近習に贈歌を託す/その返歌)、
[くれ竹のわが世は異ことに成りぬとも音ねはたえせずも泣かるべきかな](拾遺;哀傷1323、
病重く死の直前に昌子内親王の三歳の幼きを見ての詠/あの世から絶えず泣く)
朱雀院兵部卿親王(すざくいんひょうぶのきょうのみこ、後撰入)→ *敦固親王*(あつもとしんのう)Ｂ１０４２
朱雀民部卿(すざくのみんぶきょう)→ *俊明*(としあき/としあきら・源、廷臣/歌) ３１４４
D2333 須佐之男命(素戔嗚尊すさのおのみこと)?-? 神話;伊弉諾・伊弉冉尊の子、記紀歌謡詠者、
凶暴で天岩屋戸事件を起し高天原より追放/出雲で八岐大蛇を斬り天叢雲剣を得る、
その剣を天照大神に献上、櫛名田比売(紀;奇稲田姫)を娶り須賀宮での歌;
[八雲立つ出雲八重垣妻ごみ(紀;ごめ)に八重垣作るその八重垣を](和歌の初とされる)、
新羅に渡り船材を持帰り植林の道を教える
素寂(すじゃく) → *素寂*(そじゃく、歌人、源孝行?) Ｄ２５７９
→ *孝行*(たかゆき・源、歌人) Ｄ２６９８
豆洲(ずしゅう・村瀬) → *立斎*(りっさい・村瀬むらせ、医者/詩) Ｂ４９９４
誦習庵(ずしゅうあん) → *美穂*(よしほ・八木やぎ、国学者/和漢学) ４７２７
須守霊社(すしゅれいしゃ) → *白玉*(はくぎょく・風水軒、正親町公通、神道/狂歌)３６０８
D2378 図書(ずしょ・藤塚ふじつか/本姓;源、名;知機/知和、知明の長男)?-1781溺死 陸前塩竈神社禰宜の家、
神職、陸中うう西磐井郡五串滝を遊覧中に溺死(19-22歳)、知周・君敬・知能ともよしの兄、
「桂洲遺稿」、
[図書(;通称)の字/別通称/号]字;白機、別通称;大之進、号;桂洲
F2323 図書(ずしょ:通称・古川ふるかわ、名;暢往、如恒男)1749-89*41* 対馬府中藩家老;1767家督、
儒;満山雷夏門、田沼意次から下賜金獲得/1785藩主の急死を弟に偽装し宗家断絶を回避、
農政;植樹奨励、藩主参勤随従中江戸で客死、「御笑草」著
図書(ずしょ・木原/平賀)→ *中南*(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者)Ｇ２８７８
図書(ずしょ・藤堂) → *高堅*(たかかた・藤堂、藩主/歌人) Ｌ２６７３
図書(ずしょ・黒沢) → *長尚*(ながひさ・黒沢、藩士/地誌) Ｆ３２４５
図書(ずしょ・前田) → *貞直*(さだなお・前田、藩家老/記録) Ｊ２０００
図書(ずしょ・松平) → *頼章*(頼候よりあき・松平まつだいら、藩士/書)Ｐ４７１７
図書(ずしょ・渋川) → *春水*(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文暦算家)Ｌ２１１６

図書（ずしょ・河崎）　→　*延貞*（のぶさだ・河崎、神職/医者）　Ｂ３５４５
図書（ずしょ・檜垣）　→　*貞晋*（さだしげ・檜垣/度会、神職）　Ｂ２０２９
図書（ずしょ・菅沼）　→　*正範*（まさのり・菅沼すがぬま、幕臣/国学）　Ｑ４０３４
図書（ずしょ・保井）　→　*昔尹*（ひさただ・保井/渋川、幕臣/天文家）Ｂ３７２８
図書（ずしょ・蜷川）　→　*式胤*（のりたね・蜷川にながわ、和算/考古学）Ｆ３５０２
図書（ずしょ・香川/宮庄）→　*親輔*（ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌）Ｂ２８０３
図書（ずしょ・曾禰/柳）　→　*淇園*（きえん・柳沢、藩士/詩/絵師）　１６０３
図書（ずしょ・橋村）　→　*正長*（まさなが・橋村はしむら/度会、神職/歌）Ｒ４０７０
図書（ずしょ・榊原）　→　*政祐*（まさすけ・榊原さかきばら/源、藩主）　Ｃ４０９１
図書（ずしょ・佐々木）　→　*利綱*（としつな・佐々木、医者/詩歌人）　Ｍ３１８９
図書（ずしょ・佐々木）　→　*徳綱*（のりつな・佐々木、医者/詩歌）　Ｆ３５１５
図書（ずしょ・荒木田）　→　*久守*（ひさもり・荒木田、神職/国学）　Ｃ３７０７
図書（ずしょ・黒瀬）　→　*可弘*（よしひろ・黒瀬/度会/岡田、神職）Ｇ４７６３
図書（ずしょ・本多）　→　*政恒*（まさつね・本多ほんだ、藩家老/記録）Ｅ４００８
図書（ずしょ・横山）　→　*政孝*（まさたか・横山よこやま、藩士/詩人）　Ｄ４０２４
図書（ずしょ・稲葉）　→　*正諶*（まさのぶ・稲葉いなば、藩主/記録）　Ｆ４０７２
図書（ずしょ・鈴木）　→　*星海*（せいかい・鈴木、天文/易学家）　Ｈ２４６９
図書（ずしょ・山崎）　→　*蘭洲*（蘭州らんしゅう・山崎やまざき、藩医）　Ｃ４８５８
図書（ずしょ・堀）　→　*利正*（としまさ・堀ほり、幕臣）　Ｎ３１７０
図書（ずしょ・天野）　→　*政徳*（まさのり・天野/藤原、幕臣/歌人）Ｇ４０１２
図書（ずしょ・中田）　→　*憲信*（のりのぶ・中田、国学者）　Ｆ３５４１
図書（ずしょ・立花）　→　*鑑寿*（あきひさ・立花たちばな、藩主/歌人）　１０８０
図書（ずしょ・毛利）　→　*壺邱*（こきゅう・毛利/滕、儒/詩文）　Ｆ１９５３
図書（ずしょ・萩原）　→　*桐園*（とうえん・萩原はぎわら、俳人）　Ｂ３１４７
図書（ずしょ・木村）　→　*芥舟*（かいしゅう・木村きむら、幕臣/日記）　Ｉ１５７２
図書（ずしょ・山科）　→　*元幹*（もとみき・山科やましな/源、医者/歌）Ｅ４４３５
図書（ずしょ・宇津木）　→　*昆岳*（崑岳こんがく・宇津木、藩士/儒者）Ｇ１９５７
図書（ずしょ・須賀）　→　*亮斎*（りょうさい・須賀すが、藩儒）　Ｈ４９６０
図書（ずしょ・前田）　→　*貞事*（さだわざ・前田、藩家老/記録）　Ｋ２０４０
図書（ずしょ・前田）　→　*貞一*（さだかず・前田、藩家老/記録）　Ｈ２０９３
図書（ずしょ・前田）　→　*貞発*（さだなり・前田、藩士/系図）　Ｊ２０１１
図書（ずしょ・久保田）　→　*豪秀*（たけひで・久保田、藩士/兵法家）Ｏ２６６６
図書（ずしょ・塩川）　→　*文麟*（ぶんりん・塩川、絵師）　Ｇ３８７９
図書（ずしょ・小出）　→　*正胤*（まさたね・小出こいで、藩士/歌人）　Ｐ４０５８
図書（ずしょ・田村）　→　*顕行*（あきくに・田村たむら、国学/神道）　Ｈ１０８７
図書（ずしょ・田村）　→　*清眞*（きよざね・田村、顕行男/国学者）　Ｕ１６５９
図書（ずしょ・鎌田）　→　*正純*（まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記）　Ｄ４００８
図書（ずしょ・赤井）　→　*直綏*（なおやす・赤井あかい、幕臣）　Ｋ３２７７
図書（ずしょ・阿部）　→　*隆延*（たかのぶ・阿部あべ、神職/国学）　Ｖ２６０３
図書（ずしょ・朝山）　→　*嘉基*（よしもと・朝山あさやま/勝部、神職）Ｌ４７２３
図書（ずしょ・佐草）　→　*文清*（ふみきよ・佐草さぐさ、神職/国学）　Ｉ３８２８
図書（ずしょ・服部）　→　*正名*（まさな・服部はっとり、家老/歌人）　Ｒ４０８０
図書（ずしょ・児玉）　→　*尚房*（なおふさ・児玉こだま/中川、国学者）Ｍ３２１３
図書（ずしょ・山本）　→　*清樹*（きよしげ・山本やまもと、歌人）　Ｖ２６５８
図書（ずしょ・加藤）　→　*里路*（さとみち・加藤かとう、藩士/神職/歌）Ｏ２０２４
図書（ずしょ・中田）　→　*憲信*（のりのぶ・中田なかた、神職/国学/司法）Ｆ３５４１
図書（ずしょ・町田）　→　*久成*（ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧）Ｌ３７０１
図書（ずしょ・安田）　→　*吉苗*（よしなえ・安田やすだ/藤本、国学者）Ｐ４７７８
図書頭（ずしょのかみ・成島）→　*東岳*（とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌）Ｃ３１２０
図書頭（ずしょのかみ・黒田）→　*継高*（つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能）　Ｆ２９６６

図書頭(ずしょのかみ・平山)→　*敬忠*(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道)Ｏ４７８０
図書之助(ずしょのすけ・林)→　*鶯渓*(おうけい・林はやし、幕府儒官)　　Ｃ１４３７
図書大允(ずしょのだいいん・長野)→*祐良*(すけよし・長野ながの/藤原/蒔田、官人/歌)Ｉ２３９４
図書大允(ずしょのだいいん・長野)→*祐享*(すけあき・長野ながの、廷臣/国学)　Ｉ２３９３
D2334 **崇神天皇**(すじんてんのう、名;御間城入彦五十瓊殖みまきいりびこいにえ、開化天皇2皇子)?-?　記紀伝承;第10代、
4ct:「イリ」の名を持つ文献初代の大和王統;御肇国天皇はつくにしらすすめらみこと
J2338 **篤門**(すずかど・横田よこた、定堅[1762-1823]男)?-1860　信濃伊那郡の国学/歌人;森広主・市岡猛彦門、
常富(1806-82)の父、
[篤門(;名)の通称]喜左衛門
D2379 **鈴川散人**(すずかわさんじん、本名不詳)?-?　　伊勢神宮神職、1730「神路記」「神路翁かみじおう/記」著
薄庵光門(すすきあんこうもん)→　*光門*(こうもん・薄庵、狂歌)　　Ｌ１９３４
D2377 **鱸広口**(すずきのひろくち)　？－　？　　狂歌;1787「才蔵集」入;
[乗る人も駒もいさみて入相の鐘に散りゆく馬場の紅葉葉]、
(新古今;能因;山里の春の夕暮来て見れば入相の鐘に花ぞ散りける)
D2332 **漑**(すすぐ・源、多まさる[831-888]男/仁明天皇孫)?-?　平安前期廷臣/美作・伯耆権守/従五下、
898亭子院女郎花合参加の「すすく」と同一?(萩原朴の説)、
[秋霧にゆくへやまどふ女郎花はかなく野辺にひとりほのめく](女郎花合32:すすく)
2336 **浣**(すすぐ・源、勤[828-881]男/嵯峨天皇孫)?-?　平安前期廷臣/右馬頭/従四上、
歌人凝こごるの兄弟、921醍醐御時内裏菊合参加の「すすく」と同一?、
[霜がれにをしみはじむる菊の花ちるまつまでにちらずもあらなん](醍醐菊合;すすく)
D2335 **涼**(すずし/すずしき、源みなもと範頼女)?-?　　母;式部卿敦貞親王家の女房、平安後期女房歌人、
三条前太政大臣藤原教通家に出仕、1058丹後守公基朝臣歌合に参加、後拾遺集282、
[鹿の音ねに秋を知るかな高砂の尾上の松はみどりなれども](後拾遺;秋282/公基歌合)
[涼(;通称)の別称]　源少納言/若乳母、　薄(すすき;前中宮女房)の母
鈴繁(すずしげ、文泉舎)　→　*文泉舎唐丸*(ぶんせんしゃからまる・小泉、狂歌)Ｇ３８００
鈴亭主人(すずていしゅじん)　→　*谷峨*(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/歌謡作者)Ｃ１９３５
鈴留森近(すずどめのもりちか;狂名)→　*琴魚*(きんぎょ・櫟亭、読本作者)　　Ｄ１６９２
D2380 **壽々成**(すずなり・愛敬亭あいぎょうてい、窓月)?-?　　江後期江戸茶番師:愛染連、
1852翠柳亭梅鶯・東雅園蝶喜催主の愛染連中口上茶番集「茶番頓智論」の上巻の序(紫軒と)、
[長貞の通称]　通称;靱負
鈴之丞(すずのじょう・笠因)→　*直麿*(なおまろ・笠因かさより、神職/国学)　Ｋ３２１７
鈴之助(すずのすけ・村井)　→　*長貞*(ながさだ・村井むらい、藩士/日記)　Ｄ３２７１
凝烟舎(すすのや)　→　*泰足*(安足やすたり・村田、藩士/国学)　Ｂ４５９６
鈴屋(すずのや;号)　→　*宣長*(のりなが・本居、国学)　３５２４
篤舎(すずのや)　→　*是香*(よしか・六人部むとべ、国/神道/歌)　４７０４
壽々坊(すずぼう)　→　*湖十*(初世こじゅう・深川、俳人)　１９３１
I2335 **春秋満**(鈴満すずまろ・木村きむら/本姓;平、)1794-1831*38*　薩摩鹿児島藩士、国学;平田篤胤門、
[春秋満(;名)の通称]　休右衛門
鈴麿(すずまろ・兼清)　→　*蔭正*(かげまさ・兼清かねきよ、国学者)　Ｌ１５３２
I2325 **達**(すすむ・加藤かとう、通称;順造/玄順)?-?　　石見津和野藩士;医者、
国学・歌;大国隆正(1792-1871)・平田銕胤(1799-1880)門、
維新時;同志と共に尊攘運動に奔走、
J2328 **行**(すすむ・宮沢みやざわ、)1814 － 1871*58*　　越前大野郡の国学者;田中大秀門、
[行(;名)の字/通称/号]字;公文、通称;貞助/由左衛門、号;独慎庵/譲翁
D2337 **益**(すすむ・早崎はやざき、早崎楠之進男)1820-82*63*　土佐高知藩士;戊辰戦争に従軍、
下野壬生城での太客の責任を負い辞職;帰国謹慎/幡多郡渭南間崎に追放、
のち赦免;高知で書画骨董商を営む、国学者・歌人、鹿持雅澄・萩原広道・石川依平と交流、
雅澄「土佐日記地理弁」考修、家集「謫居歌集」、短冊の蒐集;「千世のしからみ」著、
[益(;名)の通称/号]通称;鶴馬/兵吾、号;蟹屋
L2319 **晋**(すすむ・安陪あべ、)　？－　？　　江後期嘉永1848-54頃;因幡鳥取藩医、

[晋(;名)の字/号]字;良亭、号;巽軒/待春楼
D2381 晋(すすむ・平沼ひらぬま、名;延賢、保信男)1832-1914*83* 美作津山藩士;父継嗣、学問;大村桐陽門、江戸在勤中に書;中村潭香門、詩・書に長ず、小豆島代官/小姓/藩校助教/小納戸を歴任、1872(明治5)旧藩主松平慶倫の家扶となり上京、「平沼家日記」著、
[晋(;通称)の別通称/号]別通称;晋太郎、号;裕斎/介堂
I2349 進(すすむ・小山こやま、旧姓;山本)1836-1908*73* 信濃松本の国学者;平田鉄胤・権田直助門、諏訪神社宮司、維新後;大教正、
[進(;名)の別名/通称/号]別名;重陽、通称;忠太郎、号;似風
晋(すすむ・城) → *長洲*(ちょうしゅう・城じょう、医者/詩人) Ｉ２８７５
晋(すすむ・瀬谷せや) → *桐斎*(とうさい・瀬谷、儒者) Ｅ３１２３
晋(すすむ・三浦) → *梅園*(ばいえん・三浦みうら、医者/哲学/詩) ３６０２
晋(すすむ・船越) → *錦海*(きんかい・船越ふなこし、医者) Ｈ１６２３
晋(すすむ・宇田川) → *玄随*(げんずい・宇田川/宇、蘭医) Ｃ１８４１
晋(すすむ・山内) → *香雪*(こうせつ・山内やまうち、藩士/書家) Ｋ１９１６
晋(進すすむ・沼) → *古濂*(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者) Ｐ１９０３
晋(すすむ・村岡/池田) → *霧渓*(むけい・池田/村岡、医者;痘科) ４２４７
晋(すすむ・福井) → *棣園*(ていえん・福井ふくい、朝廷御医) ３０３６
晋(すすむ・小田/吉村) → *秋陽*(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) Ｅ２１１２
晋(すすむ・前田) → *孝錫*(たかてる・前田まえだ、藩士/家老) Ｍ２６３５
晋(すすむ・一瀬) → *序庵*(じょあん・一瀬いちのせ、医者;古医方) Ｇ２２４４
晋(すすむ・藤間/泉) → *全斎*(ぜんさい・泉いずみ/藤間、儒者/詩) Ｆ２４４３
晋(すすむ・金子) → *竹香*(ちくこう・金子かねこ、儒者) Ｃ２８９８
晋(すすむ・平井/山田) → *常典*(つねのり/つねすけ・山田/源、国学/歌) Ｄ２９２０
進(すすむ・宮南) → *耕斎*(こうさい・宮南みやなみ、書家) Ｉ１９８８
進(すすむ・高野) → *眞斎*(しんさい・高野たかの/広部、藩儒/詩) Ｅ２２１９
進(すすむ・浜田) → *康次*(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武) Ｇ４５４４
進(すすむ・稲垣) → *琴成*(琴也ことなり・稲垣いながき、神職/歌) Ｑ１９３４
雀酒盛(すずめのさかもり) → *酒盛*(さかもり・雀すずめの、狂歌) Ｂ２０３２
雀の宿主(すずめのやどぬし) → *是空*(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) Ｋ２４５６
須静堂(すせいどう、須静主人)→ *海屋*(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) １５９１
D2339 須勢理毘売命(すせりひめのみこと、須佐之男命の女)?-? 記紀歌謡:大国主命(八千矛の神)の后(正妻)、八千矛と唱和(神語かむがたり・古事記のみ)
頭陀(ずだ;号) → *如海*(にょかい;法諱・性寂、真言僧) Ｆ３３８５
頭陀楽雲水(ずだらくうんすい)→ *雲水*(うんすい・頭陀楽、滑稽本) Ｂ１２８５
スチアゴ(;洗礼名) → *弁斎*(べんさい・人見ひとみ、武芸者) Ｂ２７２２
図中(ずちゅう・矢西) → *図中*(なりなか・矢西やにし、商家/歌人) Ｐ３２１１
土鼈庵(すっぽんあん/どべつあん)→ *鬼武*(おにたけ・感和亭、戯作者) １４２３
ステ(捨) → *捨女*(すてじょ・田でん、妙融/貞閑尼、俳人) ２３１６
捨吉(すてきち・大沼) → *枕山*(ちんざん・大沼おおぬま、詩人) Ｋ２８７６
捨吉(すてきち・荘原/冷泉)→ *古風*(ひさかぜ・冷泉/荘原、医者/国学) ３７９２
I2353 捨子(すてこ・近藤こんどう、)1816-1890*75* 伊勢亀山の生、国学者;富樫広蔭門、亀山藩家老近藤幸殖(ゆきたね/さちたね)の妻、幸養さちひさ・幸止さちもとの母
捨五郎(すてごろう・佐渡/阿波加)→ *脩造*(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者) Ｘ２１８８
捨五郎(すてごろう・須藤/小野)→*栄重*(よししげ・小野おの/須藤、和算家) Ｄ４７６１
捨左衛門(すてざえもん・田中)→ *保祐*(保佑やすすけ・田中たなか、歌人) Ｂ４５７４
捨三郎(すてさぶろう・尾崎)→ *三良*(さぶろう・尾崎おざき/若林、勤王家) Ｌ２０５１
2316 捨女(すてじょ・田でん、田季繁すえしげ女)1634-98*65* 丹波柏原かいばらの豪族の家;父は庄屋・代官を務める、継母の連れ子又左衛門季成すえなりと結婚;5男1女の母、夫と共に歌・俳諧;北村季吟・湖春門、俳諧;宮川松堅門、1674(41歳)夫の没後剃髪/号;妙融、上京;1685(52歳)盤珪に参禅;貞閑名、播州網干に不徹庵を結び隠棲/没、自筆句集「捨女句集」、「貞閑尼公詠吟」「貞閑尼百首歌」著、

1666重徳「独吟集」/67湖春「続山の井」/82「風黒「高名集」入/1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
六歳時の句;[雪の朝二の字二の字の下駄の跡](続近世畸人伝入)、
[梅が香は思ふ貴様きさまの袂たもとかな](独吟集;発句/女哥仙;7/袂より匂う練香[梅が香])
[来る秋のきりぎは見する一葉ひとはかな](続山の井;桐の木と切り際[境目]を掛る/立秋)
[捨女(:通称)の名/別通称/号/法号]名;ステ、別通称;すて女、号;不徹庵、
法号;妙融/貞閑尼

I2304 **捨女**(すてじょ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕涼み涼しき風はたをやめが招く扇のそれよりや吹く](大江戸倭歌;夏623/扇)

D2382 **捨介**(すてすけ・末吉すえよし、行輔男)1816-69*54* 父は肥前島原藩総筆者役、肥前高来郡堂崎村の生、
島原藩士、儒者;福岡の亀井昭陽門/亀井塾の塾頭に抜擢、帰郷後天草・島原に家塾を開設、
堂崎に学問塾天口舎(雲陽塾)を開設、門下生;木村銕耕・出田英吉など、安井息軒と交流、
「国語註解」「論語註解」「尚書折義」著、
[捨介(:通称)の号] 雲陽/鳳洲

捨三(すてぞう・神内) → *謙*(けん・神内じんない、医者/詩文) Ｈ１８５１
捨蔵(すてぞう・芥川) → *帰山*(きざん・芥川あくたがわ、儒者) Ｋ１６７０
捨蔵(すてぞう・佐藤) → *一斎*(いっさい・佐藤、儒者) １１２２
捨蔵(すてぞう・加藤かとう) → *正之*(まさゆき・加藤かとう、商家/尊王) Ｉ４０３７
捨千代(すてちよ・岡本) → *氏足*(うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家)Ｅ１２６２

D2340 **陶鉄房**(すてつぼう、本名不詳)?- ? 洒落本1770茶釜散人「蕩子筌枉解とうしせんおうかい」序、
編者は薬鑵子、作者・序者・編者は同一人の異名か?

D2383 **捨魚**(すてな・至清堂しせいどう、姓;守川もりかわ、狂歌師面成砂楽斎男)?-1868? 江戸下谷芋坂下住、
手跡指南の業、父が大田南畝(四方赤良)・朱楽菅江と親交;狂歌に親しむ/鈍々亭和樽門?、
独立して判者、石川雅望(六樹園)と交流;五側の客員、狂歌集の版下も多数書く、
1815「狂歌水滸伝画像集」24「水魚大会狂歌集」編、「狂歌歓娯集」編/40「狂歌続歓娯集」編、
1843「武隈菴追福狂歌」著/46「狂歌作者評判記吉書始」51「狂歌鶯花集」54「狂歌連環集」編、
「狂歌玄武集」「狂歌三愛集」「狂歌新撰六々画像集」編、「狂歌作者部類」著、外編著多数、
[至清堂捨魚(;号)の名/通称/別号]名;道樹、通称;重助、別号;北栄子/三愛舎

捨女(すてにょ) → *捨女*(すてじょ・田でん、妙融/貞閑尼、俳人)２３１６

D2384 **捨八郎**(すてはちろう;通称) ? - ? 江戸期大阪の日蓮宗興門派に帰依、
「破愚邪立正論」「興門流教義談」著

捨丸(すてまる・千鳥) → *祐順*(すけのぶ・千鳥ちどり、神職/国学) Ｉ２３７７

D2385 **捨若**(すてわか・磯貝いそがい、俳号;舟也)?-? 江前期元禄1688-1704頃遠江掛川の浮世草子作者、
1689「好色法のともづな」「新吉原常々草」「小夜衣」/91「日本鹿子」著

崇道天皇(すどうてんのう;追号)→ *早良親王*(さわらしんのう、配流/怨霊) Ｌ２０７１
崇道尽敬皇帝(すうどうじんけいこうてい;追号)→ *舎人親王*(とねりしんのう、日本書紀編纂)３１５４
崇徳院(すとくいん) → *崇徳天皇*(すとくてんのう、保元乱/歌人) Ｄ２３４１
崇徳院安芸(すとくいんのあき)→ *安芸*(あき・崇徳院、女房/歌人) １０５８
崇徳院后聖子(すとくいんのきさいせいし)→ *皇嘉門院*(こうかもんいん) １９８８
崇徳院兵衛佐(すとくいんのひょうえのすけ)→*兵衛佐*(ひょうえのすけ、女房/歌人)Ｆ３７０８

D2341 **崇徳天皇**(すとくてんのう、名;顕仁あきひと、鳥羽天皇第1皇子/実父は白河院)1119-64*46* 母;公実女璋子、
在位1123-41;鳥羽法皇の意向で弟近衛天皇(母;美福門院得子)に1141譲位、
出生の秘密が遠因で鳥羽法皇と不和、外戚が加わり待賢門院璋子派と美福門院派の対立、
1156法皇没直後保元乱を起すが同母弟の後白河天皇軍に敗北/56讃岐白峰に配流;
1164(長寛2)配所に没、菟玖波1句入、
歌人;1150久安百首主催、「詞花集」を選進せしむ、「田舎髄脳」「御夢想記」著、
後葉集12首入/続詞花集19首(新院名)/雲葉集入、
勅撰81首;詞花(7首8/50/126/229以下)千載(23首25/41/46以下)新古(7首71/131以下)、
新勅(3首)続後撰(3首)続古(6首)続拾(1152)新後撰(141)玉葉(7首)以下
[瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞ思ふ](詞花;229/後葉;552)、

(久安百首76;「ゆきなやみ岩にせかるる谷川のわれても末にあはむとぞ思ふ」)、
[崇徳天皇の通称/諡号]通称;新院(;譲位後)/讃岐院(;配流後)、諡号;崇徳院(;1177贈)
子曇(すどん;法諱) → *子曇*(しどん/すどん;法諱・西澗;道号、渡来臨済僧)Ｆ２１３５
質(すなお・伊形) → *霊雨*(れいう・伊形いがた、儒者/詩人) ５１１１
樸(すなお・古賀) → *精里*(せいり・古賀こが/劉、幕府儒官) ２４１５
愿(すなほ・栗山) → *潛鋒*(せんぽう・栗山/長沢、儒者/修史事業)２４３７

I2319 **砂守**(すなもり・小保内おぼない、河内3男)1778-1843*66* 陸奥二戸郡福岡町の生/呑香稲荷神社神主、
少壮期江戸に出奔;商家の小僧として働き読書/狂歌制作、帰郷;神職/教育者、
[砂守(;名)の通称/号]通称;万司、号;金剛舎/無作軒
強右衛門(すねえもん・鳥居)→ *勝商*(かつあき・鳥居とりい、戦国期武人) Ｔ１５４４
巣内式部(すのうちしきぶ) → *式部*(しきぶ・巣内、勤王派歌人) Ｑ２１０９
須原屋嘉助(すはらやかすけ)→ *嘉助*(かすけ・須原屋/舟木嘉、書肆/詩)Ｆ１５９１
須原屋茂兵衛(初世すはらやもへい)→ *茂兵衛*(もへえ・北畠、書肆) Ｅ４４９０
４世 → *恪斎*(かくさい・北圃きたばたけ/北畠、書肆) Ｊ１５８２
７世 → *茂兵衛*(もへえ・北畠茂広、書肆) Ｅ４４９３

I2371 **寿平次**(すへじ・田谷たや、)1848-1908*61* 紀伊田辺の国学者・歌;熊代繁里門
[寿平次(;名)の通称/号]通称;平次、号;梅窓

D2386 **都由**(すべよし・森重もりしげ)1759-1816*58* 周防末武の砲術家;周防三田尻の村上蔵人門;
三島流舟法・天山流砲術を修学、諸国遊歴;安盛流・中島流・遠国流・禁伝流砲術を修得、
合武;山本良弐門;橋爪廻新斎流伝法を修学/甲越諸流を加え一流;合武三島流を興す、
1803幕臣;西丸御書院番与力/蝦夷地火術取調御用として3度蝦夷地赴任、
江戸佃島沖実演の合武三島流の相図狼煙火矢は名物となる、
1795「合武三島流舟戦要法」編、「守重靫負説話」著
[都由(;名)の字/通称/号]字;仲美、通称;武平/靫負ゆげい、号;烏山/独立軒

I2359 **須磨**(すま・塩谷しおたに、旧姓;山梨)1735-1808*74* 駿河庵原郡の生/駿河府中の医者塩谷定興の妻、
山梨志賀子の姉/国学/歌人;芝山持豊門(夫と同門)/歌;日野資枝門、

I2346 **須摩子**(須磨子すまこ・黒山くろやま、旧姓;土師)?-1882 筑前遠賀郡芦屋町の神官黒山吉雄と結婚、
国学・歌;伊藤常足(1774-1858)門(;夫と同門)、
「厳嶋日記」著(1859[安政6]4人で筑前芦屋を出ての山陽路の旅)
須磨山(すまさん) → *黒露*(こくろ・山口やまぐち、俳人) Ｃ１９４０

D2342 **須摩女**(すまじょ) ? - ? 加賀小松の俳人、
1786兎路「姫ひめの式」に六吟歌仙入
須磨女(すまじょ・塩谷) → *須磨*(すま・塩谷しおたに/山梨、歌人) Ｉ２３５９
須摩板琴(すまばんきん) → *貞晨*(さだとき・山本/大江、商家/地誌) Ｉ２０７９

L2322 **寿弓**(すみ・秋山あきやま、塩谷平次左衛門女)1794-1830*37* 近江彦根藩士秋山久勝の妻、
歌人(;1844野津基明編「彦根歌人伝」入)
すみ(5世団十郎の女)→ *梅旭子*(うめのあさひご、茶屋女将、狂歌) １２９２
住(すみ・大蔵) → *住女*(すみじょ・大蔵半右衛門おおくらの妻/歌人)Ｈ２３８４

J2318 **邑顕**(すみあき・藤木ふじき、)1791-1864*74* 山城愛宕郡の国学者、
[邑顕(;名)の通称] 右京之進/讃岐守

I2386 **純昭**(すみあき・鳥山とりやま、通称;喜左衛門)1805-63*59* 紀伊田辺藩士、国学・歌;熊代繁里門、
田所啓ひらくを養子とする

2317 **澄明**(すみあきら・大江おおえ、字;江太、朝綱男)?-950 平安前期廷臣;紀伝道に修学/対策に及第、
文章得業/大膳亮/民部少輔/従五下兵部少丞、詩人;、文粋2篇、扶桑集入
統秋(すみあき/「むねあき」が正しい)→*統秋*(むねあき・豊原、楽人・歌人) ３１１７

L2341 **純章**(すみあや・石原いしはら、)1830-1903*74* 近江犬上郡の医者/国学;青木千枝・長野義言門、
彦根藩医;彦根百石町に住/歌人;[鳰のうみ]入

I2355 **角尾**(すみお・酒居さかい、)1735- 1787*53* 近江彦根藩士、国学/歌;沢村維明門、
歌;[彦根歌人伝・寿]入、
[角尾(;名)の通称/号]通称;左衛門、号;海林亭

I2309 澄士(すみお・入谷いりや、)1806- 1882*77*　讃岐高松藩士、国学者/歌人、俳諧/画にも通ず、
「桂舎歌集績麻環」「塩の江日記」「花の歌百首」「しみの不留春」著、
[澄士(;名) の通称/号]通称;修蔵/小平/主水/武右衛門、号;桂舎/待月
I2345 澄雄(すみお・倉田くらた、号;蒼翁)1843-1910*68*　河内茨田郡の津島部神社社司、
医;木元巌・井上春洋(不鳴)・速水東門、
純夫(すみお・並木)　→　*信粋*(のぶきよ・並木なみき、商家/国学/歌) Ｊ３５４３
須美翁(すみおう・朝日影屋)→*春宣*(はるのぶ・小谷部おやべ/沢藤、国学) Ｊ３６８２
I2376 純香(すみか・谷山たにやま、) ? - 1801　薩摩鹿児島藩士、歌;日野資枝すけき(1737-1801)門、
[純香(;名)の通称/号]通称;平八/角太夫、号;桃源亭
D2343 澄景(すみかげ・大江おおえ、朝綱男)?-?　平安中期廷臣;951-9蔵人/河内守/969右衛門佐、
右馬頭/従四上、通理・佐理の父、
本朝文粋;951源順の「禁制す闘入らんじふの事」に澄景の後撰集編纂和歌所への意見入
L2321 澄景(すみかげ・赤塚あかつか、通称;左京進)1837-1905*69*　出雲出雲郡杵築の出雲大社上官/中教正、
国学/歌;千家尊孫・千家尊澄・中村守手門、
1851-53富永芳久「出雲国名所歌集」入
D2387 澄方(すみかた・秋央亭しゅうおうてい、本名;真山)1780-1853*74* 信濃佐久郡望月の狂歌師:鹿都部真顔門、
1822真顔から都講免状を受;佐久狂歌壇の重鎮、「秋央亭歌集」著、
[澄方(;名)の字/通称/号]字;唯良、通称;嘉左衛門、号;秋央亭/三五夜/自白
D2388 純固(すみかた・久野くの、昌純男)1815-73*59*　代々和歌山藩家老/伊勢田丸城主、丹波守、
1823(文政6)家督嗣/海防の研究;洋式大砲を鋳造/弾薬・弾丸製造、砲台・砲術練習場設置
勤王派;鳥羽伏見戦に奔走/和漢学;加納諸平・斎藤拙堂門、詩歌・俳諧を嗜む、
1841「紀府歳旦」60「大和詩藻」61「花供養」編、
[純固(;名)の字/通称/号]字;正卿、通称;健之丞/織部/金五郎、
号;古松丘/颯凉窓さつりょうそう/双芝園/白水/白咏/白瑛/玉城/文鶯
純門(すみかど・多羅尾)　→　*純門*(ひろかど・多羅尾たらお、代官/国学) Ｋ３７０８
墨金(すみかね・鑿鈂言のみちょうなごん、狂歌)→　*焉馬*(初世えんば・烏亭)　Ｂ１３３３
墨河(すみかわ/ぼくが)　→　*棟上高見*(むねあげのたかみ、狂歌)　Ｂ４２０２
D2389 澄清(すみきよ・橘たちばな、良基男)861-925*65*　平安前期廷臣;897叙爵/蔵人/伊予守/913参議、
左大弁/勘解由長官/921中納言/従三位、延喜式編纂に参加、甥藤原道明と道澄寺建立、
「延喜交替式」著、学生字;橘上きつじょう
D2357 純清(すみきよ・村むら、字;文澄、号;諾々斎/青渓)?-?　江中期文筆家、1763「奇事談」
I2340 淑子(すみこ・北島きたじま、名;善子、甘露寺国長女)1813-86*74*　出雲の国造北島全孝たけのりの後妻、
脩孝ながのり・内孝うちのりの母、歌人
H2393 澄子(すみこ・松浦まつうら、青山幸哉女)1843-1924*82*　肥前平戸藩主松浦詮あきらの妻、江戸・東京住、
歌人;橘東世子門、文筆家
敬子(すみこ/たかこ・近衛)　→　*天璋院*(てんしょういん、篤子、公武合体)　Ｂ３０７０
柔子内親王(すみこないしんのう)→　*柔子内親王*(じゅうしないしんのう、歌人) Ｈ２１６０
粛子内親王(すみこないしんのう)→　*粛子内親王*(しゅくしないしんおう、歌人)　Ｉ２１６１
I2389 住郷(すみさと・中川なかがわ、通称;靫負ゆげい/式部、早雲民部男)1724-? 阿波麻植郡の種穂神社祠官、
父早雲民部(のち中川に改姓)が1738(元文3)桜町天皇大嘗祭に麻楮を献上;
その功により1741種穂神社を大社忌部神社とし忌部神社を併祭;山崎村の数社を支配、
のち住郷(式部)は争論を怖れ忌部神社を焼払う、1801(寛政13)村民の請願で住郷は罷免、
元忌部神社神職村雲勝太夫の孫娘の婿が忌部神社を継嗣
澄三郎(すみさぶろう・小野田)→　*温道*(よしみち・小野田おのだ/岩瀬/藤原、神職/歌) Ｌ４７８４
純鎮(すみしげ・大村)　→　*純鎮*(すみやす・すみしげ・大村、藩主/和漢学) Ｄ２３９９
H2384 住女(すみじょ・大蔵おおくら) ? -　?　江中期歌人/大蔵半右衛門(風客)の妻、
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[みほとけに祈るも苦し恋ひしなん身はさきの世の契りたのめて](霞関;恋742/祈恋)
I2306 澄女(すみじょ)　? -　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[底清き石井の水に影見えて汲みすてがたき秋萩の花](大江戸倭歌;秋734/萩花映水)
清園(すみぞの) → *残夢*(ざんむ・高橋、国学/歌学) ２０５７
清園(すみぞの) → *正純*(まさずみ・高橋、残夢男/歌人) Ｄ４００７
D2390 **純孝**(すみたか・前田まえだ) ? - ? 前田孝博の養嗣/江後期金沢藩士;1784家督嗣、
定火消/小松城番/奏者番/1804(文化元)家老兼若年寄、1831致仕、「御家老覚書」著、
1817「梅窓院様百回忌御法事御代番被仰付候始終之留写」著、
[純孝(;名)の通称/号]通称;内記/兵部、号;睡鷗
住武(すみたけ・窪田) → *桐羽*(とうう・窪田くぼた、藩士/俳人) Ｂ３１１５
隅田舎(すみだのや:号) → *信好*(のぶよし・柏原、博物学/鳥類) Ｄ３５９９
D2391 **純尹**(すみただ・浅山あさやま/本姓;大村、浅山純徳男)1826-94*69* 肥前平戸藩士、儒;幼少時維新館修学、
歌;内野平助門、1836(11歳)父没;家督嗣、武術;野本応斎門;心形刀流を修得、
1846江戸詰時に国学;橘冬照門、茶道;川本甚佐衛門;江戸千家流の奥義を修得、
平戸藩主松浦曜・詮2代に出仕;近侍/小納戸/用人/奉行;幕末維新の激動期に藩政の中心、
刑法大判事兼藩政調掛・神学寮・元学寮を統督・権少参事・督祭・少参事を務める、
明治;東京で祭祀に関する典例を修学/住吉神社権宮司/壱岐住吉社宮司、大講義/少教正、
九十九国立銀行頭取、1860(安政7)「今様」著、神戸大汀と平戸神楽歌を作る、
1892歌集「須磨の月」著、
[純尹(;維新後の名)の別名/通称]初名;新治郎/雄次郎、通称;九郎左衛門
隅田亭(すみだてい) → *豪山*(ごうざん、俳人) Ｊ１９３９
D2392 **隅田舎主人**(すみだのやしゅじん、鶯屋半蔵?)?-? 江後期江戸の本草家;鶯飼育法/鳴方研究、
1845「春鳥談」著
澄胤(すみたね・古市) → *澄胤*(ちょういん;法諱・古市、法相僧/武将)Ｌ２８１１
角太夫(すみだゆう・谷山) → *純香*(すみか・谷山たにやま、藩士/歌人) Ｉ２３７６
澄太郎(すみたろう・小原) → *重哉*(しげや・小原おはら、藩士/司法) Ｎ２１６７
純庸(すみつね・大村) → *蘭台*(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) Ｃ４８９０
I2372 **純富**(すみとみ・田山たやま、通称;甚六郎)?-1861 信濃伊那郡阿島陣屋の知久家の家臣、歌人、
歌;遠山長嶺門/国学・歌;福住清風・岩崎長世門
2302 **純友**(すみとも・藤原ふじわら、良範男)?-941斬首 平安前期武将;伊予掾/従五下、海賊討伐を命ぜらる、
逆に936(承平6)瀬戸内海の海賊の棟梁となり朝廷に反抗;略奪・放火を行う、
941(天慶4)追討軍に敗死、平将門の反乱と共に律令国家崩壊の象徴
D2393 **澄仲**(すみなか・慈光寺じこうじ/本姓源、仲学男)1713-95*83* 兄房仲の養子、極薦蔵人/家業;神楽、
従二位、1728-50「澄仲卿記」「日次記」著
D2394 **純長**(すみなが・大村おおむら、幼名;権吉郎/権佐、幕臣伊丹勝長4男)1636-1706*71* 母;宇喜多家次女、
肥前大村藩主大村純信の養嗣子/1651大村藩主襲封、従五位因幡守、1670藩校集義館創設、
九州初の藩校/藩法の整備/キリシタン対策のため仏寺を興隆、1703「大村家記」著
D2395 **住夏**(すみなつ・足羽あすは、敬明もりあき男)?-? 江戸中期越前の足羽神社の祠官・従五位/摂津守、
国学者、1742「日本三代実録故事考」編、「日本逸史故事考」編
澄成(すみなり・美濃屋) → *恒成*(つねなり・瀬川/山川、戯作者) Ｃ２９９５
D2344 **清江娘子**(すみのえのおとめ、遊行女婦?)?-? 万葉二期歌人;巻一69:706年長皇子ながのみこに贈歌、
[草枕旅行く君と知らませば岸の埴生はにふにこにほはさましを]、
(万葉;69/埴生にこにほはすは赤土で衣を染める意か)
住吉すみのえの弟日娘(おとひおとめ)と同一?→ *弟日娘*(おとひおとめ[長皇子の歌中人物])Ｄ１４２８
住江屋治兵衛(すみのえやじへえ)→*葉流軒河丸*(ようりゅうけんかわまる、狂歌作者)Ｂ４７６３
墨浜の漁夫(すみはまのぎょふ)→ *曲山人*(きょくさんじん、人情本作者) １６４２
純秀(すみひで・深江) → *遠広*(とおひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) Ｗ３１２０
D2345 **廉仁王**(すみひとおう/れんにんおう、邦省親王[1375没]男)?-?早世 後二条天皇の孫、南北期歌人:
新拾遺集1134、
[幾夜まで待ちあかせとてうき人のなほいつはりの数つもるらん](新拾;恋1134/待恋)
D2396 **純熙**(すみひろ・大村おおむら、初名;利純、純昌8男)1830-82*53* 母;福田頼之の妹の仙、兄純顕の養嗣、
大村藩主;1847純顕の嗣として襲封;丹後守、早く海防・兵制・軍器に関心;英国式兵制採用、

1863長崎奉行/総奉行就任;64辞任、藩内を勤王に統一;戊辰戦争功績、維新後;大村藩知事、
のち東京住、兵学;犬追物・笠懸・流鏑馬の書を蒐集書写、1859「犬追物学集」、「歓露集」著、
[純熙(;名)の通称/号]通称;修理/丹後守、諡号;台山たいざん
澄房(すみふさ・藤原)　→　*隆房*(たかふさ・藤原、歌人)　Ｄ２６６６
D2397 **純昌**(すみまさ・すみよし・大村おおむら、純鎮すみやす長男)1786-1838*53* 肥前大村藩主;1803襲封、
上総介/丹後守、職の世襲を改め租税・灌漑・備荒などの藩政改革/文武奨励/長崎警備、
1836病により退隠、「良夜吟」編、
[純昌(;名)の字/通称/号]字;子言、通称;春之進、号;白鳥、諡号;恭公
X2193 **純正**(すみまさ・堀尾ほりお)　?-　?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[思ひ寝に見しおもかげは消え果てて吾が手枕はうつり香もなし]、
(大江戸倭歌;恋1509/独寝恋)
澄丸(すみまる・無尽亭2世)→　*無尽亭*(2世むじんてい・澄丸、狂歌師)　４２７４
澄丸(すみまる・玉兎園)　→　*青洋*(せいよう・桂、絵/狂歌師)　Ｊ２４６９
墨麿(すみまろ・有馬)　→　*誉純*(なすみ・有馬、藩主/文筆)　Ｇ３２６３
D2398 **澄元**(すみもと・細川ほそかわ/本姓;源、義春男)1489-1520*32* 戦国期武将;右京大夫、成之孫/晴元の父、
1503阿波守護家から細川京兆家に迎えられる;細川政元の養子、
同じく養子で九条政基男澄之との間で政元の後継をめぐり近臣間に紛争勃発、
澄之派が政元を暗殺;澄元は近江へ逃亡/一族の高国らが澄之一派を討伐後上京;家督嗣、
高国が管領就任;澄元は阿波に逃亡/1511京に攻め上るが失敗/1520再度上洛を試み失敗、
阿波勝瑞城に病没、「笠懸日記」伝、通称;六郎、法号;真乗院
I2310 **純素**(すみもと・宇加井うかい、)1813-1889*77*　遠江豊田郡掛塚の国学者;平田鉄胤門、
歌人;1860石川依平門、
[純素(;名)の通称]　文六/与一
D2399 **純鎮**(すみやす・すみしげ・大村おおむら、純保男)1759-1814*56*　母;植村家道の妹、肥前大村藩主/信濃守、
和漢学者;殊に国史典故に精通、1790講学所五教館を創設、講武所治振軒を設置;文武奨励、
1803退隠/1808息子純昌と共に兵制改革;長崎警備を固める、晩年;俳諧と兵書研究、
「九地問対」著、純昌の父、
[純鎮(;名)の字/通称/号]字;子藩、通称;新八郎、号;白圭/鴨州、諡号;敬公
純庸(すみやす・松崎)　→　*商山*(しょうざん・松崎まつざき、幕府儒官)　Ｊ２２２９
澄行(すみゆき・二階堂)　→　*藤到*(ふじゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌)　Ｉ３８５６
素明(すみょう、東)　→　*素明*(そめい・そみょう、東、歌人)　Ｅ２５３８
H2327 **純珍**(すみよし・有馬ありま、康純8男)1669-1738*70*　幕臣;従五下/1707寄合に列す/1714御使番、
1717(享保2)幕命で奥羽・松前を巡検、小普請組支配/甲府勤番/大目付/御留守居役、
1717「奥羽二州巡見日記」、「松前蝦夷記」著、
[純珍(;名)の幼名/通称/法号]幼名;百助、通称;内膳/出羽守、法号;義本
純昌(すみよし・大村)　→　*純昌*(すみまさ・大村、藩主/藩政改革)　Ｄ２３９７
住吉殿(すみよしのどの)　→　*後村上天皇*(ごむらかみてんのう、南朝/歌人)Ｄ１９９１
菫庵石文(2代すみれあんいしぶみ)→*老平*(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家)Ｖ３１７７
菫園(すみれえん)　→　*世平*(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌)　２９８２
L2313 **すむ女**(すよじょ・井岡いおか)?-　?　江後期;歌人、幕臣蜂屋光世家出仕の人?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かみや川よにながれずは水ぐきの深き心をなににとどめん](大江戸倭歌;雑1821/紙)、
[思ふ事なぎさに遊ぶしらたづはしらずいくらの千代かへぬらん](同;雑2040)
I2320 **寿免**(すめ・大谷おおたに、神保忠右衛女)1787-1854*68* 江戸の生/父は小笠原流礼儀師範、
上野高崎の大谷雅雄の妻、歌人;石川雅望門/書画に長ず
すめ(・渡辺)　→　*智恵内子*(ちえのないし、狂歌、元木網女)　２８０２
須臾庵(すゆあん/しゅゆあん)　→　*祇丞*(ぎじょう・三上みかみ、札差/俳人)　Ｂ１６２７
H2396 **すよ子**(すよこ・生駒いこま、生駒親章ちかあきら[1773-1817]女)?-? 江後期旗本家の生、歌人、
1813丹羽親貫邁[1790-1836]と結婚;婿養子となり生駒家を継嗣;親孝ちかたかと改名、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、

［山ざくらあたら盛りと思ふにぞ捨てしうきよの人もまたるる］、
（大江戸倭歌；春；271/閑居花、夫没後の歌か）
J2309 **壽良女**（すらじょ・不破ふわ、）1805-1873*69*　美濃不破郡の国学・歌人；富樫広蔭［1793-1873］門
D2347 **修理**（すり）　？－　？　平安前期女房/歌人、大和物語入；元良親王らと交流、
勅撰2首；拾遺（1134）新勅撰（735）、
［いかでなほ網代の氷魚に事問はむ何によりたか我を訪とはぬと］（拾遺；雑秋1134）、
（蔵人所の男が氷魚の使を理由に訪れないことへの詰問/大和89段；男は右馬守）
父に関する諸説；①内匠允藤原直行女（天福本大和物語勘物）or真行の妹（勅撰作者部類）
②修理大夫藤原忠文女（大和物語の人々）
寿流（する、寿流姫）　→　*義隆室*（よしたかのしつ・佐竹さたけ、歌人．書）Ｎ４７０７
D2348 **駿河**（するが・上毛野君かみつけのきみ）?-?　755上野国防人部領使大目おおさかん、万葉12首進歌：巻廿左注
D2358 **駿河**（するが）　？－　？　平安前期宮廷の女房/歌人、源巨城おおきと交遊、
後撰集（2首509・1308）、
［まどろまぬ壁にも人を見つるかなまさしからなん春の夜の夢］（後撰；九恋509）、
（訪れなくなった源巨城を内裏の壁の穴から覗き見て遣す歌/まどろまぬ壁は白昼夢）
D2359 **駿河**（するが・祐子内親王家・一宮、源忠重or藤原忠重女）?-?　平安後期女房歌人、
後朱雀天皇皇女祐子内親王（一宮）［1038-1106］家に出仕（小弁・紀伊らと）、
1061祐子内親王家名所歌合参加、後拾遺86（一宮駿河名）、
［思ひやる心ばかりは桜花たづぬる人におくれやはする］（後拾遺；春86、
後冷泉天皇時に上の人々が花見のあと高倉一宮祐子内親王家に参ったのを聞き詠、
花見に同道出来なかったからの花見に寄せる心）
駿河（するが・前田）　→　*孝友*（たかとも・前田まえだ、藩士/記録）　Ｍ２６４６
駿河（するが・新納）　→　*久仰*（ひさのり・新納にいろ、藩家老）　Ｂ３７７７
駿河（するが・堤）　→　*弘業*（ひろなり・堤つつみ/荒木田、神職）　Ｇ３７７０
駿河（するが・尾崎）　→　*良福*（よしとみ・尾崎おざき、神職/歌人）　Ｌ４７８７
駿河（するが・緒方）　→　*公俊*（きみとし・緒方おがた/内田/大神、神職/国学）Ｔ１６７３
駿河（するが・宮川）　→　*経連*（つねつら・宮川みやがわ/山部/草部、神職/国学）Ｇ２９５４
駿河大納言（するがだいなごん）→　*忠長*（ただなが・徳川、藩主/自刃）　Ｄ２６６３
D2349 **駿河采女**（するがのうねめ）　？－　？　奈良期以前駿河出身采女/万葉集二期507・1420、
［しきたへの枕ゆくくる涙にそ浮き寝をしける恋の繁きに］（万葉；507）、
（ゆくくるは漏れて流れる意）
駿河阿闍梨（するがのあじゃり）→　*日堅*（にちけん；法諱・覚隆、日蓮僧）　Ｂ３３５８
駿河守（するがのかみ・逸見）→　*昌経*（まさつね・逸見へんみ/瀬尾/源、武将/城主）Ｅ４００２
駿河守（するがのかみ・宇佐美）→*良勝*（よしかつ・宇佐美うさみ/藤原、兵学者）Ｃ４７８２
駿河守（するがのかみ・西城戸）→　*正義*（まさよし・西城戸にしきど/菅原、神職）Ｉ４０６２
駿河守（するがのかみ・横瀬）→　*貞隆*（さだたか・横瀬よこせ/源、幕臣/歌人）Ｎ２０２１
駿河守（するがのかみ・牧野）→　*忠辰*（ただとき・牧野まきの、藩主/国学）　Ｚ２６４９
駿河守（するがのかみ・堀田）→　*正朝*（まさとも・堀田ほった、藩主/茶道）　Ｓ４０４３
駿河守（するがのかみ・毛利）→　*高久*（たかひさ・毛利もうり/久留島、藩主）Ｚ２６９４
駿河守（するがのかみ・横瀬）→　*貞臣*（さだおみ・横瀬/源、幕臣/歌人）　Ｂ２０７４
駿河守（するがのかみ・浜島）→　*清章*（きよあき・浜島ろはまじま/高橋、廷臣）Ｖ１６０２
駿河守（するがのかみ・岡部）→　*長常*（ながつね・岡部おかべ、幕臣/奉行）　Ｅ３２５７
駿河守（するがのかみ・中坊）→　*広風*（ひろかぜ・中坊なかのぼう、幕臣/奉行）Ｉ３７４７
駿河守（するがのかみ・横瀬）→　*貞征*（さだゆき・横瀬よこせ/松平、旗本高家）Ｎ２０３９
駿河守（するがのかみ・矢部）→　*定令*（さだのり・矢部やべ/原田、幕臣/奉行/歌）Ｐ２０６３
駿河守（するがのかみ・矢部）→　*定謙*（さだかた・矢部、定令男/幕臣/奉行/歌）Ｐ２０６２
駿河守（するがのかみ・山本）→　*昌敷*（しげのぶ・山本/藤原、官人/歌/語学）Ｒ２１９７
駿河守（するがのかみ・波多野）→*春樹*（はるき・波多野はたの/黒山、神職/国学）Ｊ３６９４
駿河守（するがのかみ・栗山）→　*治保*（はるやす・栗山くりやま、神職/国学者）Ｋ３６１１
駿河守（するがのかみ・藤井）→　*重実*（しげさね・藤井ふじい、神職/国学）　Ｚ２１８４

駿河守(するがのかみ・山本)→　*重胤*(しげたね・山本やまもと/賀茂、国学者) a ２１０１
駿河五郎(するがのごろう)　→　*通時*(みちとき・北条/平、武将/歌人)　Ｂ４１９６
駿河律師(するがのりっし)　→　*慶尋*(きょうじん・けいじん;法諱、天台僧歌人)Ｃ１６６６

D2350 **駿河麻呂**(するがまろ・大伴宿禰、家持の又従兄、御行孫)?-776蝦夷没 743従五下/46越前守、
757橘奈良麿の変に連座、赦免され770出雲守/肥後守/陸奥按察使兼鎮守府将軍、
蝦夷討伐/776正四上参議、没後従三位追贈、妻:坂上二嬢さかのうえのおといらつめ;万葉に求婚歌、
万葉三期歌人11or12首;400/402/407/409/(411)/646/648/653－655/1438/1660、649左注、
[梅の花咲きて散りぬと人は言へど我あが標しめ結ひし枝ならめやも](万葉;三400)

D2351 **すは子**(すわこ)　?－　?　狂歌・1785「後万載集」1首/87「才蔵集」3首入:
[指おれはもはやすまひの前がしらけふどつこいと思ひたつ旅](才蔵集)

J2312 **すは子**(すわこ・福沢ふくざわ、旧姓;大溝)1803-66*64* 京生/信濃伊那郡上穂村の福沢憲治のりはるの妻、
福沢家は飢饉に米倉を開放する豪農、夫(1796-1847)は食料野草を研究する民政家、
夫(香川景樹門)と共に歌人、
諏訪子(すは子/すわこ・稲垣)→*妙智尼*(みょうちに;法号、扇折女/歌人)Ｇ４１５８
諏訪大進房(すわだいしんぼう)→　*円忠*(えんちゅう;法諱、神職/幕臣/歌)　Ｂ１３２２
諏訪の俳関(すわのはいかん)→　*素檗*(そばく・藤森、俳人/俳画)　Ｅ２５２５

H2328 **寸庵**(すんあん)　?－　?　近江水口の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
寸庵(すんあん・伊藤)　→　*固庵*(こあん・伊藤いとう、儒者)　Ｈ１９０４

D2352 **寸雲**(すんうん・赤松あかまつ、豊福与左衛門4男/本姓;赤松)1817-79*63* 美作津山儒者;本姓を名乗る、
稲垣研嶽門/昌平黌に修学;古賀侗庵・塩谷宕陰門、書;巻菱湖門、
陸前仙台藩に招聘;遠田郡湧谷邑主伊達家の儒臣、維新後帰郷;津山藩校・師範学校の教授、
詩文・画・碁を嗜む、
「皇国三字経」著、碁;「棋説」著、
[寸雲(;号)の名/字/通称]名;元、字;季吉、通称;元四郎
寸雲(すんうん・松永)　→　*昌易*(しょうえき・松永、尺五男/儒者)　Ｆ２２４５
寸雲軒(すんうんけん・松永)→　*昌易*(しょうえき・松永、尺五男/儒者)　Ｆ２２４５
俊恵(すんえ)　→　*俊恵*(しゅんえ/すんえ;法諱、僧/歌人)　２１５５
寸翁(すんおう・河合)　→　*道臣*(ひろおみ・河合、家老/殖産/詩歌)　Ｆ３７６１

D2355 **寸角**(すんかく)　?－　?　江前期俳人;1692不角「千代見草」入、
[数奇すかぬ気に転筋こむらがへりのする囲かこひ](千代見草/数奇ぬは茶道を好かないこと)、
(囲いは僧侶の囲い者[妾]/茶席の正座で足が痙攣)
寸胸子(すんきょうし)　→　*重俊*(じゅうしゅん・西村にしむら、俳人)　Ｈ２１６２
寸魚堂(すんぎょどう)　→　*実山*(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸)　Ｅ２１９１
寸計(すんけい・末吉)　→　*宗久*(そうきゅう・末吉すえよし、俳/連歌)　Ｇ２５７７

D2354 **寸虎**(すんこ;号)　?－　?　江前期伊勢菊川の俳人、
所有していた「さかづきにどろな落しそ飛燕」の芭蕉真蹟を七回忌に木曾塚に手向ける;
その際惟然・支考・団友らと歌仙を巻く;1701「すなつばめ」編(支考序/凉菟の版下筆・跋)

H2329 **寸斎**(すんさい・曾根そね/本姓;林、)1798-1852*55* 曾根正懋の養子;嗣子、肥前唐津藩士;
馬廻役/奥役/近習作事奉行、江戸桜田門外に住/書・篆刻;益田勤斎門、詩歌を嗜む、
硬玉に印を刻む技術に長ず、益田遇所らとともに浄碧居派に属す、風流洒脱の人物、
1841・49「古今印例」、「寸斎印譜」「寸斎万刀」「印紐図譜」「印林叢説」「古器紋譜」外著多数、
[寸斎(;号)の名/字/通称/別号]名;正醇/隼、字;翔卿、通称;定右衛門、別号;印禅居

H2337 **寸志**(すんし・阿部あべ)　?－　?　江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第八桃もみぢの発句入、
[紅葉もみぢするや紙の間まに間に銀杏いてふの葉](生玉万句;桃発句/銀杏の葉は防虫剤、
古今集;道真;此度は幣もとりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに)

D2362 **寸松**(すんしょう・三上みかみ、手枕庵)?-1778　江戸俳人・乾什門、乾什座点者、
1754竹翁「誹諧童の的」点句入

H2330 **寸昌**(すんしょう・柿崎かきざき、別号;柳下園/一雄房)?-1810 庄内藩士出身/酒田の俳人;四時庵信夫門、
初め前句付の点者/のち酒田の俳諧宗匠、1788「ゆふすゝすみ」編

寸松館(すんしょうかん)　→　*勝綱*(かつつな・奥野おくの、歌人/天文)　Ｕ１５０４
寸松斎(すんしょうさい)　→　*周竹*(初世しゅうちく・清水、医者/俳人)　Ｉ２１０７
寸松斎(すんしょうさい)　→　*正茂*(まさもち・蒲がま、国学/者)　Ｏ４０９７
寸松堂(すんしょうどう)　→　*知石*(ちせき・鈴鹿すずか、俳人)　Ｅ２８５２
寸松堂(すんしょうどう)　→　*荃石*(せんせき・鈴鹿、知石男/俳人)　Ｍ２４７６
寸松堂(3世すんしょうどう)　→　*林石*(りんせき・甲良、知石門俳人)　Ｋ４９５５
寸助(すんすけ・大板屋)　→　*蕉雨*(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人)　Ｆ２２３０
寸井(すんせい・酒井)　→　*忠恒*(ただつね・酒井さかい、藩主/茶人)　Ｐ２６８８

2321　**寸艸**(寸草すんそう・芥川あくたがわ/本姓;小野寺、名;**元風**もとかぜ、元正男)1676-1741*66* 幕臣;
1696父の遺跡継嗣、駿河小野薬師寺の別当/のち江戸小石川御薬園御花畑預、
歌人;中院通茂門、1728「諏訪浄光寺八景詩歌」入(暮荘烟雨;江戸諏訪台近景/詩は貞斎)
1739(元文4)「武陽飛鳥山十二景詩歌」主催;林信充の詩に歌を添え熊野社金輪寺に奉納、
1798刊石野広通「霞関集」入、
[今ははや山にやかへるほととぎす五月の末は稀になる声](霞関;夏256/郭公稀)、
[降る雨の小止をやむともなき夕暮は煙けぶりもしめる里の遠をちかた](八景歌;暮荘烟雨)、
[暮ゆけばわかぬ木だちの中里に奥深からぬ鐘響くなり]、
(飛鳥山十二景;中里晩鐘なかざとのばんしょう/奥深からぬ;すっきり/暗視野と明聴覚の対照)、
[寸艸(;号)の通称/別号]通称;頼母/小野寺弥一郎/弥市郎、別号;長春ちょうしゅん

2322　**寸草**(すんそう;号、通称;灰屋次郎右衛門)?-?　江後期文化1790-1818頃までの播磨姫路の俳人、
1799「うつせみ」編
駿台(すんだい/しゅんだい)　→　*鳩巣*(きゅうそう・室、儒者)　１６２８
駿台(すんだい/しゅんだい)　→　*鳩巣*(きゅうそう・室むろ、幕臣/儒者)　１６２８
駿台(すんだい/しゅんだい)　→　*図南*(となん・端山はやま、書家)　Ｏ３１６０
駿台(すんだい/しゅんだい・中川)→　*忠英*(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆)Ｆ２６３４

C2363　**寸知**(すんち・山庄さんしょう、藩士山庄盛浄3男)?-1699 越後新発田の絵師/藩には出仕しなかった、
歌/詩を嗜む、「新発田城由来」著、
[寸知(;名)の号]　偸間子/老鼠軒

D2355　**寸長**(すんちょう・片山かたやま/本姓;菅原、名;邦教)1713-61*49* 駿河小島藩士;江戸小石川藩邸に住、
俳人:足立来川門/のち美濃派に転向;廬玄坊里紅門、藩主松平昌信や藩士に俳諧を伝授、
其角支考去来許六の蕉門四大家流を創始、俳人周東の兄、恋川春町の師、
1744「俳諧袖かゞみ」著/49「誹諧十二景」編/49「誹諧飛鳥山」50「ちもと集」著、
「誹句季節考」「俳諧季寄掌中袖かゝみ」編、
[寸長(;号)の別号]　百化房/桃花仙/種杏庵、法号:華落院　、
寸長庵(すんちょうあん)　→　*正賢*(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌)Ｎ４００６
寸鉄居士(すんてつこじ)　→　*葦原*(いげん・児島強介、儒/詩歌)　１１４７

H2331　**寸馬**(すんば・勿一庵)　？-　？　京の俳人;島原社中、1768-72暁台「秋の日」6句入、
1773几董「あけ烏」1句入/安永九・十年(1780・81)初懐紙入集、
[駒牽こまひきに干瓢売かんぺうううりの馴染なじみかな](秋の日;秋八月騏六亭興行歌仙の発句)、
(駒牽は諸国[特に信州望月]から宮中に貢進される馬牽儀式の役人/干瓢は信州特産)、
(騏六の脇句;[月夜の門かどの杉葉尋ぬる]/杉葉は酒屋商標/馬牽行事夜は8月16日)
寸美丸(すんびまる・玉兎園)→*青洋*(せいよう、桂有彰、商家/絵師/狂歌)Ｊ２４６９

E2300　**寸風**(すんぷう・筒井つつい、別号;稲葉庵/百草園/梧条)1794-1870*77* 因幡鳥取の俳人:梅室門、
1824(文政7)「伊奈波山集」編
寸碧楼(すんぺきろう)　→　*小山*(しょうざん・奥野おくの、藩士/儒者)　Ｓ２２５５
寸碧楼(すんぺきろう)　→　*積*(つもる・宮原みやはら/荒武、藩士/歌人)Ｆ２９７７

D2363　**寸木**(すんぼく・木村きむら)1647- 1715*69*　江前中期讃岐金毘羅の酒造業/俳人、儒学に通ず、
儒者三宅石庵を招く;息子平十郎・平蔵に修学、高松の芳水と親交;1700共に京阪に遊ぶ、
1700「金毘羅会こんぴらえ」編(:才麿と歌仙)、1712「花の市」編、
[寸木(;号)の通称/別号]通称;平右衛門、別号;壁銭堂/一柳軒、屋号;羽屋
寸木子(すんぼくし)　→　*丈伯*(常伯じょうはく・苗村なむら、仮名草子)Ｂ２２２３

H2332 寸竜(すんりゅう・奥村おくむら、名;長則、喜平治[五遊]男)1786-1862*77* 信州埴科郡東条村の俳人;父門、
武術;力棒銃・居合に秀でる、奇石蒐集/古墳に興味、「竹のたけ」「千代の山ぶみ」著、
「身上記」「御祭礼写生」「竜宮城廻文」著、
[寸竜(;号)の通称/別号]通称;弥左衛門、別号;幽水亭
寸柳(すんりゅう・餅花庵、中村)→ *餅花庵寸柳*(もちばなあんすんりゅう、狂歌)Ｂ４４５５
寸竜(すんりゅう・新村)　→　*美英*(よしひで・新村にいむら、医者/歌人)　Ｏ４７３１